

1990-1995 雲仙普賢岳の火山災害
に関する文献目録

2010年9月

長崎大学工学部

高橋 和雄

1990-1995 雲仙普賢岳の火山災害
に関する文献目録

2010年9月

長崎大学工学部

高橋和雄

まえがき

雲仙普賢岳の噴火は平成2年(1990年)11月17日に開始し、平成7年(1995年)5月には停止状態にあると確認されています。平成3年5月15日から土石流の頻発、5月24日の火砕流の発生、6月3日の火砕流による人的被害の発生、6月7日からの警戒区域の設定と、災害が急テンポに拡大しました。この間地元の長崎県および島原市、深江町を始め、関係者が懸命に被災者対策に当たりました。私は平成3年3月に設置された雲仙岳火山緊急対策検討委員会および平成3年5月24日から活動を始めた「1991年雲仙における土石流の調査研究」(研究代表者 平野宗夫 九州大学工学部教授)のメンバーでしたが、直接お役に立てない状況が続きました。被災者の皆様や防災関係者に迷惑をかけないように災害の1次資料の収集から始めました。雑誌、専門誌、新聞、災害対策本部から発表されるプレス用の広報資料等を系統的に収集し始め、その作業が20年間にわたって続いています。

この間、文献目録をまとめて、何度も印刷製本して関係者に配布してきました。当初は、雲仙普賢岳の火山災害の調査研究の資料の提供、行政機関等の噴火災害の記録のとりまとめの資料に活用されました。災害継続中に災害の資料の廃棄、行政内部の組織の統廃合、担当者の異動によって、災害資料が逸散することを体験しました。災害資料の収集の重要性を感じて、収集作業を続けました。集めた資料をとにかく文献目録にまとめておけば、後で整理できるだろう、所在がわかっておれば、後でデータベース化や電子化は可能であろうと考えてきました。

収集した資料を今後どのようにして行くかも課題となっています。将来とも管理してくれるところがあれば、寄贈することを考えています。島原市役所では、噴火災害当初から平尾明氏が災害資料を文献以外にも収集・保存していますが、具体的な活用や将来的な保存方策はまだ決まっていないようです。1990-1995 雲仙普賢岳の噴火災害の教訓を伝承していくためにも、長期的な保存方策を関係者で検討していくことが必要と思っています。

文献目録の作成と並行して、噴火開始から現在に至るまでの火山活動、火山観測機関(雲仙岳測候所、九大観測所等)、防災機関(警察、消防、陸上自衛隊等)、島原市・深江町、長崎県・国の機関、都市施設(道路、鉄道、ライフライン、通信等)、住民・ボランティア・学校・商業、マスコミ、研究者等の対応を日誌形式で整理しています。平成8年までは「雲仙普賢岳の火山災害における各機関の対応の記録(1990年11月-1996年12月)、全199頁、長崎大学工学部社会開発工学科、1997.1」とその続報(1997年1月-2009年12月)にまとめています。時系列を入れた噴火災害対策の資料に活用できることを想定しています。

文献の収集や整理に当り、多くの方々から資料の提供を受けるとともに、科学研究費、長崎大学の教育研究学内特別経費、財団等の助成を受けたことを付記します。

連絡先 〒852-8521 長崎市文教町1-14

長崎大学工学部社会開発工学科

高橋和雄

TEL (095)819-2610 FAX (095)819-2627

E-mail takahasi@civil.nagasaki-u.ac.jp

目 次

| | |
|--|-----|
| まえがき | |
| 1. 報告書 | 1 |
| 2. 論文 | 24 |
| 3. 報告・その他 | 47 |
| 4. 講演 | 69 |
| 5. 単行本 | 113 |
| 6. 雑誌 | 118 |
| 7. 県政だより，広報しまばら，広報ふかえ，島原市災害復興・再建ニュース「ふっこう」，建設省雲仙復興だよりおよび復興ネットワーク | 122 |
| 8. ビデオ，CD，絵はがき | 169 |
| 9. 地図 | 170 |
| 10. パンフレット | 171 |
| 11. 新聞報道記事（製本） | 174 |

1. 報告書

- 1) 東海大学海洋学部(浜田政則,三沢良文,アイダン・オメール):島原市の地形・土質条件に関する考察－眉山崩壊のメカニズムの反復性－,全40頁,1991.6
- 2) 西日本新聞社:報道写真集,'91雲仙岳噴火,全80頁,1991.6
- 3) 建設省河川局砂防部砂防課・長崎県土木部砂防室:雲仙岳噴火による土石流・火砕流,速報,全22頁,1991.7
- 4) 島原商工会議所青年部:「わたしたちの島原が・・・危ない!」－雲仙・普賢岳噴火に関する商工業者アンケート集計結果－,全16頁,1991.7
- 5) 長崎新聞社:雲仙岳噴火写真・記録集 鳴動普賢岳,全160頁,1991.8
- 6) 島原・普賢岳災害調査団,国土問題研究会:長崎県島原・普賢岳災害調査緊急報告,全98頁,1991.9
 - 大屋錘吾:普賢岳災害の特徴と対策の方向
 - 野田弘・浅野勇:災害の発生経緯と被害者の現状
 - 大屋錘吾・中村八郎・浅野勇:これまでの災害対策の概要
 - 片寄俊秀:がんばれ雲仙温泉街
 - 中村八郎:防災科学の国際化と普賢岳災害
- 7) K T Nテレビ長崎:普賢岳が動いた,(株)テレビ長崎,全48頁,1991.10
- 8) 国土庁:雲仙岳噴火災害対策一覧,全31頁,1991.10
- 9) 長崎県災害対策本部・島原市災害対策本部:雲仙岳噴火災害被災者の皆さんへ,ガイドブック救済制度について,全81頁,1991.11
- 10) 民放労連テレビ長崎労働組合:「雲仙・普賢岳噴火災害報道」事故調査報告書－仲間の死を無駄にしないために,全56頁,1991.12
- 11) 毎日新聞大阪本社写真部石津勉遺作集を作る会:「ちょっと上がってくるワ」－毎日新聞カメラマン・石津勉遺作集－,全59頁,1991.12
- 12) 日本赤十字社長崎支部:被災地のみなさんへ－お便り集第一号－,全86頁,1991
- 13) 日本赤十字社長崎県支部長崎県青少年赤十字:被災地のお友達のみなさんへ,お便り集第二号,全72頁,1991
- 14) 高橋和雄:雲仙普賢岳の火山災害に関する文献目録(第1版),全16頁,1992.2
- 15) 島原南高歯科医師会:雲仙普賢岳における検視活動記録,全79頁,1992.2
- 16) 毎日新聞社:雲仙・普賢岳全記録,全162頁,1992.3
- 17) 長崎県立島原高等学校:楓たちの日々 雲仙岳噴火災害体験記録集,全113頁,1992.3
- 18) 長崎大学水産学部(研究代表者 飯塚昭二):雲仙・普賢岳火山活動による有明海水産業に及ぼす影響の調査研究,全67頁,1992.3
 - 西ノ首英之・藤田伸二:水無川河口沖の水温・流速の解析による火山活動の影響について, pp. 3-22
 - 宮原昭二郎:「火山灰の底質への堆積状況調査」及び「火山灰の海水中における

- 拡散状況調査」, pp. 23-37
- 松岡敷充：雲仙・普賢岳噴火以降に採取された島原沖の海底表層堆積物について, pp. 38-45
- 飯塚昭二：雲仙・普賢岳の噴火による浮遊粒子群が有明海の濁りに及ぼす影響, pp. 46-56
- 八木庸夫・片岡千賀之：雲仙・普賢岳の火山活動による漁業への影響, pp. 57-67
- 19) 深江町立大野木場小学校平成4年第45回卒業生：卒業文集「元気づみ」, 全135頁, 1992.3
- 20) 島原市医師会：「済衆」雲仙普賢岳災害特集号, 全90頁, 1992.3
- 21) 陸上自衛隊第16普通科連隊広報班：平成3年 雲仙岳災害派遣写真集 ふるさと, 全56頁, 1992.3
- 22) 島原市仏教会：たいへん 島原大変二百回忌記念誌, 全621頁, 1992.3
- 23) 平成3年度文部省科学研究費重点領域研究(I)災害時の避難・予警報システムの向上に関する研究(廣井 脩・吉井博明・山本康正・木村拓郎・中村 巧・松田美佐)：平成3年雲仙普賢岳における災害報告の伝達と住民の対応, 全145頁, 1992.3
- 24) 東京大学新聞研究所：1991年雲仙岳噴火調査資料, 全140頁, 1992.3
- 25) 平成3年度文部省科学研究費突発災害調査研究成果重点領域研究「自然災害」総合研究班(研究代表者 平野宗夫)：1991年雲仙における土石流の調査研究(研究成果報告書), 全111頁, 1992.3
- 平野宗夫：雲仙普賢岳土石流・火砕流災害の概要, pp. 3-8
- 平野宗夫・森山聡之・岩元 賢：土石流と発生限界降雨と発生予測, pp. 9-14
- 橋本晴行・宮島正悟・木藤賢一：雲仙普賢岳において発生した土石流の特性, pp. 15-27
- 下川悦郎・地頭 隆：雲仙普賢岳噴火に伴う土石流の発生と場の条件, pp. 28-39
- 諏訪 浩・清水 洋：雲仙普賢岳に発生した土石流と火砕流による地盤振動の特性, pp. 40-51
- 丸谷知巳：雲仙普賢岳周辺における細粒の火山噴出物の分布, pp. 52-59
- 中田節也：雲仙普賢岳1991年噴火に伴った火砕流について, pp. 60-71
- 羽田野袈裟義：雲仙の火砕流振動波形発生の特性について, pp. 72-81
- 高橋和雄・松野 進：雲仙普賢岳の噴火から火砕流発生までの防災対策と情報伝達, pp. 82-100
- 松永勝也・伊藤裕之・柳田多聞・武藤郁和・織田潤里：雲仙普賢岳の火山活動への関係機関と住民の対応について, pp. 101-110
- 26) 静岡県総務部地震対策課：雲仙普賢岳噴火調査報告書, 全133頁, 1992.3
- 27) 長崎県土木部・(財)国土開発技術研究センター：島原地域整備計画調査報告書, 全123頁, 1992.3
- 28) 国土庁委託調査・国際航業株式会社：平成3年度 火山災害に対応した防災地域づくりに関する調査(雲仙岳周辺地域にかかわる防災地域づくり)報告書, 全111頁, 1992.3

- 29) 平成3年度科学研究費補助金総合研究(A)(研究代表者 太田一也): 雲仙岳溶岩流出の予知に関する観測研究(研究成果報告書), 全156頁, 1992.3
- 松尾紉道・清水 洋・馬越孝道・太田一也: 雲仙火山1990-1992年噴火活動の概要 pp. 3-11
- 大学合同観測班地球物理班 地震, 微動観測グループ: 雲仙火山1990-1992年噴火における地震観測, pp. 12-20
- 須藤靖明・筒井智樹・迫 幹雄・増田秀晴・外 輝明・山田年広: 雲仙火山野岳における地震観測, pp. 21-28
- 大学合同観測班測地グループ: 雲仙岳の火山活動に伴う地盤変動, pp. 29-42
- 清水 洋・石原和弘・井口正人・植木貞人・小野博尉・宮町宏樹・山科健一郎: 雲仙火山山頂部における傾斜の多点共同観測, pp. 43-49
- 山科健一郎・井上義弘・清水 洋・松尾紉道: 雲仙火山の噴火と傾斜変動, pp. 50-59
- 植木貞人・清水 洋・石原和弘・宮町宏樹・須藤靖明・前川徳光・渡辺秀文・浜口博之: 雲仙火山地域における精密重力測定, pp. 60-72
- 鍵山恒臣・歌田久司・増谷文雄・山本哲也・村上英記・田中良和・増田秀晴・橋本武志・本蔵義守・三品正明・松尾紉道・清水 洋: 雲仙火山のMT観測とそれによって推定されるマグマの上昇過程, pp. 73-86
- 田中良和・大学合同観測班電磁気グループ: 雲仙火山噴火にともなう地磁気変化(1991年), pp. 87-98
- 平林順一・大場 武・吉田 稔・野上健治・内川 啓・小坂丈予・野津憲治・鍵山恒臣: 雲仙岳火山活動と地球化学的観測, pp. 99-111
- 中田節也・大学合同観測班地質グループ: 雲仙普賢岳1991-1992年噴火で生じた溶岩ドームの推移, pp. 112-123
- 中田節也・本村慶信・Chang-Hwa Chen・福岡孝昭: 雲仙普賢岳1991-92年噴火, 溶岩の鉱物学的特徴および微量元素・同位体的特徴, pp. 124-132
- 佐藤博明・藤井敏嗣・中田節也・大学合同観測班地質グループ: 雲仙普賢岳1991年噴火における溶岩の流出と火砕流の発生について, pp. 133-146
- 宇井忠英・隅田まり・大学合同観測班地質グループ: 雲仙普賢岳第6ドームからの火砕流発生, pp. 147-156
- 30) 平成3年度科学研究費補助金・重点領域研究(1)(船津 衛, 三上俊治, 野田 隆): 雲仙岳火山活動に伴う津波危険地域における警報伝達・避難対策(研究成果報告書), 全105頁, 1992.3
- 31) 島原商工会議所: 平成3年度雲仙普賢岳災害対応報告書, 全42頁, 1992.3
- 32) (財)自然公園美化管理財団(環境庁委託調査)・農林水産庁森林総合研究所九州支所: 雲仙・普賢岳噴火が雲仙天草国立公園雲仙地域の自然環境に与える影響の緊急調査報告, 全135頁, 1992.3
- 太田一也: 火山活動の状況と景観に与える影響調査, pp. 5-32

- 矢島邦康：仁田峠における火山ガスの観測， pp. 33-48
- 安岡善文・松本光朗・田内裕之・中村松三・上中作次郎：リモートセンシングによる森林帯の被害分布把握と人工林に対する影響調査， pp. 49-98
- 伊藤秀三・中西弘樹：植物・植生への影響調査， pp. 99-116
- 33) 平成3年度科学研究費補助金・総合研究(A)・研究成果報告書(研究代表者 入江功)：土砂流出による津波発生の予知に関する研究， 全100頁， 1992.3
- 34) 日本損害保険協会 防災事業室：火山災害と防災， 全27頁， 1992.4
- 35) 時事通信労働組合：雲仙・普賢岳報道， 全82頁， 1992.5
- 36) 島原市森岳婦人会：雲仙普賢岳噴火災害体験文集〔平成4年5月〕， 噴煙のはざままで—そのとき私は—， 全114頁， 1992.5
- 37) 深江町：1992深江町町制施行30周年記念誌， 深江， 全80頁， 1992.5
- 38) NHK放送文化研究所：災害放送・役割と期待—「雲仙・普賢岳災害と放送」調査(そのⅡ)報告—， 全22頁， 1992.5
- 39) 日本損害保険協会：1992防災シンポジウム島原「雲仙普賢岳噴火活動を考える」(テープ速記原稿録)， 全68頁， 1992.6
- 40) 長崎県立島原温泉病院：平成三年島原大変， 全314頁， 1992.6
- 41) 高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害における行政・都市システムの対応及び社会的影響に関する調査(1990年11月-1992年4月)， 全216頁， 1992.6
- 42) 雲仙火山災害長崎大学調査研究グループ(研究代表者 後藤恵之輔)：雲仙火山災害の調査研究， 全127頁， 1992.6
- 荒生公雄：雲仙岳周辺に大規模土石流を発生させた1991年6月30日の豪雨活動， pp. 11-29
- 近藤 寛・松岡敷充：雲仙・普賢岳1991年6月8， 11日の噴火による火山灰， 軽石， 火山礫の分布， pp. 30-39
- 後藤恵之輔・浜崎一弘・松岡明秀・三浦国春・持下輝雄・湯藤義文：雲仙・普賢岳災害の現地調査とリモートセンシング調査， pp. 40-61
- 棚橋由彦・松岡朋秀・後藤恵之輔：眉山の安定解析と危険度評価， pp. 62-75
- 野口正人・西田 渉・山田邦晴：火災流の流動予測シミュレーション， pp. 76-83
- 富樫宏由・平山康志・谷口祐治・松本慎市：寛政4年島原海湾津波の再現性水理模型実験， pp. 84-90
- 武政剛弘・池永敏彦：降灰分布と農業被害， pp. 91-97
- 松野 健・坂本大助：雲仙普賢岳の火山灰と海水の濁りと関係に関する予備的調査， pp. 98-101
- 高橋和雄・岡林隆敏・松野 進：雲仙普賢岳の火山災害における住民の避難対策と情報伝達の調査—噴火から火災流発生までの応急対策—， pp. 102-115
- 西原 純・斎藤 寛：普賢岳の火山活動に伴う小・中学校の児童・生徒数の変動と火山災害情報， pp. 116-119

- 長谷川 恒・宮入興一・竹本泰一郎・斎藤 寛：雲仙火山災害と地域住民の生活・保健， p.120
- 松岡數充：ピナツボ火山噴火がもたらした泥流堆積物（ラハール）による二次災害， pp.121-123
- 43) 島原市教育委員会：児童生徒体験作文集 災害を越えて－生命あかるく－， 全113頁， 1992.6
- 44) 新聞労連・毎日新聞労働組合：災害報道を考える＝雲仙火砕流災害から1年＝：全56頁， 1992.6
- 45) (財)雲仙岳災害対策基金：たくましく(復興への歩み)基金事業一覧， 全17頁， 1992.7
- 46) 建設省河川局砂防部砂防課・長崎県土木部砂防課：雲仙・普賢岳噴火と火山噴火対策砂防事業， 全30頁， 1992.7
- 47) 科学技術庁研究開発局：平成3年度科学技術振興調整費 雲仙岳マグマ活動に伴う諸現象に関する緊急研究研究成果報告書， 全76頁， 1992.7
- 48) 長崎総合科学大学地域科学研究所・雲仙青年観光会：火山・温泉型リゾートのあり方を考える(公開シンポジウムの記録)， 地域論叢， No.10， 長崎総合科学大学地域科学研究所紀要， 全63頁， 1992.7
- 49) 平成4年度国土庁委託調査 (財)都市防災研究所：初動期災害対策に関する調査報告書， 全93頁， 1992.7
- 50) 長崎新聞社：鳴動普賢岳 改訂版 雲仙岳噴火 写真・記録集， 全163頁， 1992.8
- 51) 深江町立深江中学校：3.6.3－火砕流の中で－， 全224頁， 1992.8
- 52) 日本赤十字社長崎県支部：日赤ながさき特集号， 普賢救援最前線， 全102頁， 1992.9
- 53) 平成3年度安中地区町内会連絡協議会役員会：そのとき何が－平成3年6月3日雲仙普賢岳大火砕流安中公民館の記録－， 全83頁， 1992.11
- 54) 長崎県立島原農業高等学校：噴火奮闘記この1年 あげぼの－ひょうたん畑の記録－， 全150頁， 1992.11
- 55) 長崎県島原市：広報しまばら， 雲仙・普賢岳噴火災害特集号， 全265頁， 1992.11
- 56) 長崎県・島原市・深江町：住宅移転対策のしおり， 全14頁， 1992.12
- 57) 廣井 脩・中森広道・川端信正・後藤嘉宏：火山噴火の予知と報道， 1986年伊豆大島噴火と1991年雲仙普賢岳噴火のケーススタディ， 全153頁， 1992.12
- 58) 長崎営林署・長崎県林務課：雲仙・普賢岳噴火災害対策と眉山の治山事業， 全21頁， 1992
- 59) 島原市：島原市復興基本構想(中間報告)， 全14頁， 1993.1
- 60) 内嶋善之助・高田順次・内島幸治：(1)火山と防災の総合ミュージアム・ゾーン構想， (2)森林公園ゾーン構想みらいフォーラム'93， 提言， pp.4-9,1993.1
- 61) 島原市：とり戻そう 木と緑の島原を， 島原市復興基本構想， 全43頁， 1993.2
- 62) 長崎県商工会連合会：平成4年度調査研究報告 小規模事業対策特別推進事業， 雲仙・普賢岳の噴火災害をのりこえて， 全31頁， 1993.2

- 63) 長崎県土木部砂防課：雲仙・普賢岳防災計画の基本構想について，全18頁，1993.2
- 64) 高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害に関する文献目録（第3版），全47頁，1993.2
- 65) 建設省長崎工事事務所：雲仙普賢岳災害一道路関係対策記録集一，全42頁，1993.2
 入江 功・信岡尚道：既往資料にみる1792年の大津波とその遡上に関する2,3の検討，pp.2-15
 富樫宏由・平山康志・谷口祐治・松本慎一：崩壊土砂と津波発生に関する水理模型実験，pp.16-46
 後藤智明：崩壊土砂と津波発生に関する数値計算，pp.47-66
 後藤智明：遠地津波の外洋伝播計算，pp.67-100
- 66) 平成4年度科学研究費補助金(重点領域研究(1))「活火山周辺域における農林災害発生機構に関する研究」(研究代表者 鈴木義則)(研究成果報告書)，全100頁，1993.2
 武政剛弘・池永敏彦・本多克雄：雲仙・普賢岳の降灰分布と農業被害，pp.40-45
 谷宏：MOS-1データによる雲仙普賢岳周辺の農林災害調査，pp.46-51
 山本晴彦・鈴木義則・岸田恭允・脇水健次・早川誠而：赤外放射温度計による樹木の燃焼程度の遠隔評価，pp.78-79
 鈴木義則・島津康一郎・山本晴彦・角 明夫：分光反射率による火山灰の葉面堆積量の推定，pp.84-88
 鈴木義則・江頭 仁・脇水健次・山本晴彦：葉温偏差による葉内水分の近接リモートセンシング，pp.89-90
 鈴木義則：桜島ならびに雲仙周辺地区における火山による農畜産物の被害状況(資料)，pp.97-100
- 67) 平成3・4年度文部省科学研究費重点領域研究「自然災害の予測と防災力」(研究代表者 廣井 脩)：災害時の避難・予警報システムの向上に関する研究(研究成果報告書)，全359頁，1993.3
 廣井脩・吉井博明・山本康正・木村拓郎・中村 功・松田美佐：平成3年雲仙岳噴火における災害情報の伝達，pp.38-91
 船津 衛・三上俊治・野田 隆：雲仙岳火山活動に伴う津波危険地域における警報伝達，避難対策，pp.142-169
- 68) 長崎県：復興をめざして－雲仙岳災害対策・復興の概要－，全24頁，1993.3
- 69) (財)雲仙岳災害対策基金：雲仙岳噴火災害被災者の皆様へ，たくましく，復興への歩み，基金事業助成実績，全24頁，1993.3
- 70) 深江町立大野木場小学校：かどわきの子ら－雲仙・普賢岳噴火災害体験文集－，全128頁，1993.3
- 71) 長崎県立島原高等学校：雲仙岳噴火災害対応記録，平成4年度，島高紀要第6号，全220頁，1993.3
 I. 学校の対応記録 pp.9-58
 II. 資料編 pp.59-128

III. 関係論文

- 寺井邦久：1990年-1992年雲仙噴火の記録 pp.130-161
- 松尾博臣：雲仙岳噴火災害下の島原 pp.162-203
- 久原巻二：雲仙岳噴火災害時の生徒指導 pp.204-213
- 教務部：雲仙岳噴火災害に関する調査 pp.214-219
- 72) 平成4年度科学研究費補助金. 重点領域研究(1)(研究代表者 谷口義信): 火山活動による火砕流および火山泥流災害発生規模の予測に関する研究(研究成果報告書), 全71頁, 1993.3
- 73) 島原市: 雲仙・普賢岳噴火災害 島原市復興計画概要版, 全22頁, 1993.3
- 74) 島原市: 雲仙・普賢岳噴火災害 島原市復興計画, 全226頁, 1993.3
- 75) 平成4年度文部省科学研究費重点領域研究(自然災害)災害時の避難・予警報システムの向上に関する研究(研究代表者 松永勝也): 雲仙・普賢岳の火山活動にともなう危機管理に関する調査研究(研究成果報告書), 全150頁, 1993.3
- 柳田多聞・松永勝也・北村文昭・武藤郁和・織田潤里・太田一也: 長期避難生活における住民の意識変化ならびに避難住民と非避難住民の意識差, pp.6-17
- 北村文昭・松永勝也・柳田多聞・武藤郁和・織田潤里・太田一也: 雲仙・普賢岳の火山活動による地域住民への影響—主として中学生を対象にして—, pp.18-25
- 避難住民に対する意識調査(I)(1991年8月26-28日), pp.27-55
- 避難住民に対する意識調査(II)(1992年1月5-7日), pp.56-72
- 南千本木, 北千本木地区からの避難住民の意識についての調査結果(1992年1月5-7日実施分), pp.73-84
- 避難住民に対するアンケート調査集計結果(1992年8月7-9日実施分), pp.85-101
- 避難住民および非避難住民に対するアンケート調査集計結果(1992年12月4-6日実施分), pp.102-111
- 普賢岳火山活動下の中学生に対する調査集計結果(1992年8月21日第2中学校, 9月17日第3中学校実施分), pp.112-134
- 普賢岳火山活動下の中学生に対する調査集計結果(同日第3中学校実施分, 地域別), pp.135-146
- 普賢岳火山活動下の学習環境に関する調査集計結果(1992年12月4-6日実施分), pp.147-150
- 76) 平成4年度文部省科学研究費総合研究(A)研究成果(研究代表者 平野宗夫): 雲仙における土石流・火砕流の調査研究, 全107頁, 1993.3
- 平野宗夫・森山聡之・川原恵一郎: 雲仙・水無川における92年の土石流災害, pp.1-8
- 平野宗夫・橋本晴行: 水無川における土石流の現地計測とその特性, pp.9-22
- 諏訪 浩・西村公志・清水 洋・馬越孝道: 水無川における高温土石流の発生, pp.23-34

- 下川悦朗・地頭菌隆：雲仙普賢岳における侵食・土石流の発生状況と場の条件， pp. 35-46
- 丸谷知巳・執行さや香・山本 建：雲仙普賢岳からの生産土砂の粒度組成と侵食特性， pp. 47-54
- 谷口義信：水無川土石流の流動・堆積と火砕流堆積物について， pp. 55-70
- 中田節也：普賢岳で発生した火砕流とその流下機構， pp. 71-76
- 岩元 賢：雲仙普賢岳土石流災害の総合防災計画の調査研究， pp. 77-88
- 松永勝也・北村文昭・柳田多聞・武藤郁和・織田潤里・太田一也：避難行動の心理学的実態－行政と住民への提言－， pp. 89-96
- 高橋和雄・松野 進：雲仙普賢岳災害における警戒区域設定後の情報伝達及び避難対策の整備， pp. 97-104
- 平野宗夫：速報－93年4月28日の土石流災害， pp. 105-107
- 77) 文部省科学研究費重点領域研究「自然災害の予測と社会の防災力」(研究代表者 荒牧重)：火山災害の規模と特性(研究成果報告書)，全435頁，1993.3
- 中田節也：雲仙普賢岳1991年-1993年噴火，溶岩ドームの成長と溶岩供給率の変化 pp. 135-141
- 鎌田桂子・三軒一義・谷口宏充・中田節也・鎌田浩毅：火砕流流動中の温度・風圧観測のための機器－槍型投下式温度計・風圧計－の開発と雲仙普賢岳における投下実験， pp. 215-221
- 宇井忠英・中田節也：雲仙火山の噴火災害予測図， pp. 313-317
- 渡辺一徳：雲仙普賢岳1991年溶岩出現以前のマグマ水蒸気爆発， pp. 415-418
- 渡辺一徳・星住英夫・池辺伸一郎：雲仙普賢岳1990年11月-1991年5月の噴火活動，噴火開始から溶岩出現まで， pp. 419-432
- Sato, H.・Fujii, T.・Nakata, S.: Crumbling of dacite dome lava and generation of pyroclastic flows at Unzen volcano, pp. 433-435
- 78) 福岡管区气象台・雲仙岳測候所：災害時火山現象調査報告 平成3年(1991年)雲仙岳噴火，全282頁，1993.3
- 79) 熊本営林局：雲仙岳・眉山地域治山事業総合調査報告書 火山地域防災機能強化総合治山事業，全446頁，1993.3
- 80) 自治省消防庁：火山噴火災害時における住民避難対策のあり方についての調査研究報告書，全75頁，1993.3
- 81) 自治省消防庁：火山災害時における防災組織の運営・連携等のあり方についての調査研究報告書，全32頁，1993.3
- 82) 有明海漁場環境調査協議会・長崎大学水産問題研究グループ：雲仙普賢岳火山活動の水産業に及ぼす影響調査研究(中間報告書)，全46頁，1993.4
- 83) 深江町：深江町復興計画 明日の豊かな実りのために！，全153頁，1993.5
- 84) 佐賀大学低平地防災研究センター：雲仙・普賢岳の噴出堆積土砂の利用法に関する

- 調査研究, 全15頁, 1993. 6
- 85) 雲仙火山災害長崎大学調査研究グループ(研究代表者 後藤恵之輔): 雲仙火山災害の調査研究(第2報), 全116頁, 1993. 6
- 荒生公雄・久米智子・河田 誠: 1992年に火山性土石流を発生させた島原地方の降雨の特徴, pp. 4-19
- 荒生公雄・岩坂邦彦・福井理作: 島原市における大気中の雲仙火山灰の濃度と粒径分布の変動, pp. 20-27
- 長岡信治・松岡数充・武藤鉄司・近藤 寛: 雲仙岳西方橘湾の海底活断層, pp. 28-43
- 後藤恵之輔・全 炳徳・湯藤義文・吉本雅利: 雲仙・普賢岳の降下火山灰が混入した海水のスペクトル特性に関する室内実験, pp. 44-54
- 富樫宏由・平山康志・谷口裕治・国武正大・熊本司郎: 崩落滑落物突入による島原海湾津波の水理実験, pp. 55-63
- 池永敏彦・武政剛弘: 土壌改良剤を用いた雲仙火山灰土での作物栽培試験, pp. 64-70
- 高橋和雄・岡林隆敏・松野 進: 雲仙普賢岳災害における情報伝達及び避難対策の整備, pp. 71-79
- 宮入興一: 火山災害における被害と住民生活, pp. 80-97
- 斎藤 寛・遠藤晋介・住友美智代: 雲仙普賢岳噴火活動の降灰による学童の健康への影響, pp. 98-112
- 竹本泰一郎: 雲仙普賢岳噴火災害の健康影響, pp. 113-116
- 86) 島原市役所職員組合: 雲仙普賢岳噴火災害記録集, Vol. 1 「6. 3」特集号, 全14頁, 1993. 6
- 87) 高橋和雄: 雲仙普賢岳の火山災害における行政・都市システムの対応及び社会的影響に関する調査(その2), 全281頁, 1993. 6
- 88) 島原市役所職員組合: 雲仙普賢岳噴火災害記録集, Vol. 2, 全14頁, 1993. 7
- 89) 国土庁: 雲仙岳噴火災害対策一覧(第7回 改訂版), 全35頁, 1993. 7
- 90) 建設省河川局砂防部砂防課・建設省九州地方建設局・建設省雲仙復興工事事務所・長崎県土木部砂防課: 雲仙・普賢岳噴火と火山噴火対策砂防事業, 全46頁, 1993. 8
- 91) 島原市役所職員組合: 雲仙普賢岳噴火災害記録集, Vol. 3, 全14頁, 1993. 9
- 92) 長崎県土木部: 島原地域防災都市計画策定調査報告書, 全92頁, 1993. 9
- 93) 島原地域広域市町村圏組合消防本部・島原消防団・深江町消防団: 驚異なる自然と防人の日々ー平成3年雲仙岳噴火災害ー, 全216頁, 1993. 10
- 94) 長崎県深江町: 広報ふかえ, 雲仙・普賢岳噴火災害特集号, 全371頁, 1993. 10
- 95) 島原市役所職員組合: 雲仙普賢岳噴火災害記録集, Vol. 4, 全21頁, 1993. 11
- 96) 長崎県災害対策本部: 雲仙・普賢岳噴火災害の記録(平成3年度-平成4年度), 全377頁, 1993. 12
- 97) 島原市役所職員組合: 雲仙普賢岳噴火災害記録集, Vol. 5, 全25頁, 1993. 12
- 98) 長崎県雲仙岳災害復興室: 雲仙岳災害・島原半島復興振興計画 新・しまばら創造

- へのみち, 全195頁, 1993. 12
- 99) 福岡管区気象台・長崎海洋気象台・雲仙岳測候所：災害時火山現象速報 平成5年6月下旬の雲仙岳の噴火(火砕流)に関する火山速報, 全18頁, 1993
- 100) 島原市教育委員会：雲仙普賢岳噴火災害下における学校対応の記録, 全137頁, 1994. 1
- 101) 島原鉄道：島原鉄道85年の軌跡, 全38頁, 1994. 1
- 102) 長崎県雲仙岳災害復興室：新・しまばら創造へのみち 雲仙岳災害・島原半島復興振興計画概要, 全45頁, 1994. 2
- 103) 長崎県商工会連合会：島原半島産業(商工業)復興対策への提言-雲仙・普賢岳災害をのりこえて-, 全56頁, 1994. 2
- 104) 日本弁護士連合会：災害対策基本法等の改正に関する意見書, 全111頁, 1994. 2
- 105) 高橋和雄：降灰が市民生活に及ぼす影響および基礎的基盤の整備に関する調査報告書, -火山と共生する島原に向けて-, 全82頁, 1994. 3
- 106) 長崎県島原市：広報しまばら-雲仙・普賢岳噴火災害特集号2-, 全252頁, 1994. 3
- 107) 九州経済調査協会：噴火災害の下における島原市経済社会の現状と課題-島原市勢復興計画基礎調査報告書, 全236頁, 1994. 3
- 108) 長崎県島原市：島原市中心市街地づくり検討調査報告書, 全121頁, 1994. 3
- 109) 雲仙火山災害長崎大学社会経済研究グループ(研究代表者 高島 忠)：雲仙火山災害の社会経済的研究, 全124頁, 1994. 3
- 高島 忠：自然災害に対する経済政策論的基礎考察-雲仙普賢岳災害の救済・復興対策を事例として-, pp. 1-12
- 寺村孝太郎：雲仙火山災害による葉たばこ・畜産の被害状況と営農再開の課題, pp. 13-29
- 宮入興一：長期化大規模災害下の災害対策の動向と行財政, pp. 31-76
- 高橋和雄：雲仙・普賢岳の噴火災害をおって, pp. 77-88
- 高橋和雄：島原市災害復興計画の策定に関する調査, pp. 89-97
- 高橋和雄・荒巻博志：火山活動に対応した都市整備に関する調査-その1 降灰の影響, pp. 98-104
- 高橋和雄・荒巻博志：火山活動に対応した都市整備に関する調査-その2 市民アンケート調査, pp. 105-113
- 高橋和雄：土石流・火砕流による被害拡大と恒久対策の動き, pp. 114-124
- 110) 平成5年度文部省科学研究費総合研究(A)研究成果(研究代表者 平野宗夫)：雲仙岳の土石流・火砕流に関する調査研究, 全94頁, 1994. 3
- 平野宗夫：雲仙・普賢岳における93年の土石流・火砕流災害, pp. 1-4
- 平野宗夫・原田民司郎：水無川における土石流の流出特性, pp. 5-12
- 平野宗夫・橋本晴行・河野通斉：1993年水無川・中尾川における土石流の現地観測, pp. 13-24
- 諏訪 浩・西村公志・清水 洋・馬越孝道・松島 健：水無川1993年の土石流とそ

の規模, pp. 25-36

谷口義信：火山泥流のレオロジー的・水理的特性と火砕流の流下距離について, pp. 37-46

下川悦郎・地頭菌隆：雲仙普賢岳における侵食・土石流の発生状況と発生場の変遷, pp. 47-56

岩元 賢・柿原津美：1993年雲仙眉山の土砂災害に関する調査研究, pp. 57-64

中田節也：雲仙普賢岳1993-1994年噴火の経緯と火砕流, pp. 65-72

丸谷知己：普賢岳の火砕流による森林の荒廃について－赤外エネルギー量による森林被害に判定－, pp. 73-78

松永勝也・北村文昭・柳田多聞・二瀬由里・行場次朗・太田一也・平野宗夫：雲仙・普賢岳の火山災害に対する住民と行政関係者の意識, pp. 79-84

高橋和雄：平成5年の土石流・火砕流による被害拡大と恒久対策着手への動き, pp. 85-94

- 111) 平成4-5年度科学研究費補助金・総合研究(A)・研究成果報告書(研究代表者 太田一也)：雲仙岳溶岩ドームの形成と崩落に関する総合的観測研究, 全131頁, 1994.3
- 松尾綱道・清水 洋・馬越孝道・松島 健・太田一也：雲仙岳の噴火活動概要1989年11月-1994年3月, pp. 3-10
- 山科健一郎・松島 健・清水 洋・石原和弘・井口正人・植木貞人・小野博尉・宮町宏樹：雲仙火山山頂部における傾斜の多点共同観測(2), pp. 11-16
- 山科健一郎・井上義弘・松島 健・清水 洋：雲仙火山の傾斜振動と溶岩供給量の推定, pp. 17-22
- 須藤靖明・迫 幹雄・増田秀晴・外 輝明・山田年宏・古川 慎・筒井智樹：雲仙火山野岳における地震観測(2), pp. 23-37
- 加茂幸介・江頭庸夫・西 潔・高山鐵朗・石原和弘・小野博尉・外 輝明・迫 幹雄・山田年宏・古川 慎・森 濟・鈴木敦生・木股文昭・宮島力雄・中村 勝・松島 健・内田和也・福井理作：雲仙普賢岳の噴火活動に伴う地盤変化, pp. 38-53
- 植木貞人・清水 洋・宮町宏樹・須藤靖明・前川徳光・渡辺秀文・石原和弘・浜口博之：雲仙火山地域における精密重力測定(2), pp. 54-63
- 歌田久司・鍵山恒臣・山本哲也・大学合同班電磁気グループ：MT観測による雲仙火山の深部比抵抗構造, pp. 64-71
- 上島 誠・歌田久司・鍵山恒臣・増谷文雄・田中良和・増田秀晴・橋本武志・大志万直人・住友則彦・西田泰典：島原半島における長基線地電位差観測, pp. 72-79
- 田中良和・大学合同班：雲仙火山の地磁気変化(2), pp. 80-89
- 橋本武志・大学合同班電磁気グループ：雲仙岳火山活動と自然電位観測, pp. 90-102
- 平林順一・大場 武・野上健治・吉田 稔・小坂丈予・鍵山恒臣：雲仙岳1990-1993年の活動と火山ガス, pp. 103-112
- 北 逸郎・田口幸洋・長尾敬介：雲仙火山地域の異なるマグマ性気体の放出とそ

- の変動, pp. 113-116
- 野津憲治・森 俊哉・遠嶋康徳・脇田 宏: 雲仙普賢岳の火山ガス化学組成の赤外分光による遠隔観測, pp. 117-121
- 中田節也・大学合同観測班地質グループ: 雲仙普賢岳1991年-1993年噴火の地質学的側面, pp. 122-131
- 112) 長崎大学教育学部 相川勝代・小原達朗・小野田正則: 雲仙・普賢岳災害の長期化が子どもの心身の健康および学校教育に与える影響, 全142頁, 1994. 4
- 相川勝代: 長期の噴火災害下における学童の不安, pp. 1-52
- 相川勝代: 長期の噴火災害下における教職員のストレス, pp. 53-78
- 小原達朗: 長期間の災害避難が児童生徒の発育発達に及ぼす影響, pp. 79-119
- 小原達朗: 長期の災害による活動制限が児童生徒の呼吸循環系機能に及ぼす影響, pp. 120-127
- 小野田正利: 火山災害長期化の学校教育活動への影響, pp. 128-142
- 113) 長崎県深江町: 災害と人間 普賢岳・深江町からの報告, 全111頁, 1994. 5
- 114) 島原市役所職員組合: 雲仙普賢岳噴火災害記録集, Vol. 6, 全20頁, 1994. 6
- 115) 高橋和雄: 雲仙普賢岳の火山災害における行政・都市システムの対応及び社会的影響に関する調査(その3), 全281頁, 1994. 6
- 116) 九州電力株式会社長崎支店: 雲仙・普賢岳噴火災害と九州電力の対応(中間報告), 全112頁, 1994. 6
- 117) 建設省雲仙復興工事事務所: 雲仙・普賢岳災害 道路関係対策記録集, 全51頁, 1994. 7
- 118) 建設省河川局砂防部砂防課・建設省九州地方建設局・建設省雲仙復興工事事務所・長崎県土木部砂防課: 雲仙・普賢岳噴火と火山噴火対策砂防事業, 全58頁, 1994. 8
- 119) (財)雲仙岳災害対策基金: 雲仙岳噴火災害被災者の皆様へ, たくましく, 復興への歩み, 基金事業助成実績2, 全64頁, 1994. 9
- 120) 雲仙火山災害長崎大学調査研究グループ(研究代表者 後藤恵之輔): 雲仙火山災害の調査研究(第3報), 全102頁, 1994. 10
- 近藤 寛・長岡信治・松岡數充: 雲仙・水無川における1993年4月-5月の土石流, pp. 3-10
- 荒生公雄・岩永由紀子・緒方 寛・碓由紀子: 雲仙岳周辺に火山性土石流を頻発させた1993年4月-7月の降雨の特徴, pp. 11-30
- 後藤恵之輔・全 炳徳・阿部圭吾・金 応南: 衛星リモートセンシングによる雲仙火山災害被災跡地の追跡調査, pp. 31-42
- 後藤恵之輔・山中 稔・杉山和一・伊崎博明: 雲仙火山災害における土石流堆積物の有効利用のための固化実験, pp. 43-50
- 高橋和雄: 土石流・火砕流による被害拡大と長期化・大規模災害の恒久対策への動き, pp. 51-66
- 高橋誠司・西原 純: 雲仙普賢岳活動による交通規制と島原半島南部地区の住民

の購買行動の変化, pp. 67-74

宮入興一：災害対策の展開と地方税財政制度, pp. 75-102

- 121) 松下英爾・内嶋善之助・久保田拓男・松本久利・野澤正雄・田上順一・陶山圭一郎・篠原義隆・宮入興一：雲仙・普賢岳噴火災害に関する「職員アンケート」結果報告書—噴火災害の見通し, 復興の優先課題, 業務体験の意義等に関する「自治研アンケート」結果について, 全12頁, 1995.1
- 122) 長崎県：雲仙岳災害・資料, 全12頁, 1995.1
- 123) 島原市：復興基本構想のあらまし, 全18頁, 1995.1
- 124) 平成5-6年度科学研究費補助金・一般研究(B)・研究成果報告書(研究代表者 荒生公雄)：雲仙岳に火山性土石流を発生させる豪雨の解析と防災システムの整備充実, 全147頁, 1995.3
 - 長岡信治・松岡數充・近藤 寛：地質学的にみた雲仙火山と1990-1993年普賢岳噴火, pp. 3-20
 - 長岡信治：雲仙火山北麓における火山麓扇状地の形成, pp. 21-48
 - 荒生公雄・久米智子・河田 誠：1992年に火山性土石流を発生させた島原地方の降雨の特徴, pp. 49-64
 - 荒生公雄・中根重勝・藤吉康志・武田喬男：雲仙岳に大規模土石流を発生させた1993年4月28日の降雨, pp. 65-74
 - 荒生公雄・住吉千秋・武田喬男・藤吉康志・岩崎博之：雲仙岳に火山性土石流を発生させた1993年6月18日の雷雲の降雨特性, pp. 75-88
 - 荒生公雄・岩永由紀子・緒方 寛・碓由紀子：雲仙岳周辺に火山性土石流を頻発させた1993年4-7月の降雨の特徴, pp. 89-108
 - 高橋和雄：雲仙普賢岳の噴火災害をおって, pp. 109-120
 - 高橋和雄・岡林隆敏・松野 進：雲仙普賢岳災害における情報伝達及び避難対策の整備, pp. 121-130
 - 高橋和雄：土石流・火砕流による被害拡大と長期化・大規模災害の恒久対策への動き, pp. 131-147
- 125) 建設省雲仙復興工事事務所：雲仙・普賢岳の防災情報システム—普賢岳を見はる, 全18頁, 1995.3
- 126) 国土庁防災局・防災都市計画研究所：雲仙岳噴火災害復興対策支援調査報告書(平成6年度災害対策総合推進調整費), 全133頁, 1995.3
- 127) 防災都市計画研究所：平成6年度安中地区防災施設周辺環境整備計画策定業務報告書, 全78頁, 1995.3
- 128) 長崎県警察島原警察署・長崎県島原振興局：火砕流対処要領ハンドブック, 全30頁, 1995.3
- 129) 九州経済調査協会：平成6年度砂防事業経済効果調査業務, 全59頁, 1995.3
- 130) 島原市：島原市復興計画 改訂版, 全161頁, 1995.3

- 131) 国際航業株式会社：火山災害事例の整理・分析報告書，全136頁，1995.3
- 132) 火山観光資源化調査検討委員会：火山観光化推進基本構想，全56頁，1995.3
- 133) 平成6年度科学研究費補助金・総合研究(A)・研究成果報告書(研究代表者 太田一也)：雲仙岳における火山体構造探査の事前調査研究，全138頁，1995.3
- 松尾紉道・清水 洋・馬越孝道・松島 健・太田一也：雲仙岳の噴火活動概要，1990年11月-1995年3月，pp. 3-13
- 田中良和・増田秀晴・橋本武志・歌田久司・笹井洋一・鍵山恒臣：地磁気変化から見た雲仙岳の火山活動，pp. 14-21
- 平林順一・大場 武・野上健治・鍵山恒臣：雲仙岳1990-1994年の活動と火山ガス，pp. 22-25
- 野津憲治・中井俊一・森 俊哉・脇田 宏：雲仙岳周辺の温泉ガス中のヘリウム同位体比の経年変化，pp. 26-31
- 山科健一郎・松島 健：雲仙火山における30-100時間周期の山体振動，pp. 32-38
- 宇井忠英・松尾紉道：雲仙普賢岳1991年噴火における火砕流発生状況の経時変化，pp. 39-46
- 馬越孝道・清水 洋・松尾紉道：精度の良い震源分布から推定した雲仙火山のマグマ溜まり，pp. 47-52
- 石原和弘・江頭庸夫・西 潔・松島 健・内田和也・小野博尉・山田年広・吉川 慎・外 輝明・迫 幹雄・木股文昭・中村 勝・宮島力雄・森 濟・鈴木敦生：地盤変動からみた雲仙火山のマグマ供給システム，pp. 53-57
- 植木貞人・浜口博之・清水 洋・内田和也・宮町宏樹・前川徳光・渡辺秀文・須藤靖明・石原和弘：雲仙火山噴火に伴う重力変化とマグマの運動，pp. 58-61
- 神田 径・歌田久司・鍵山恒臣・田中良和・雲仙火山電磁気構造研究グループ：島原半島西部におけるTDEM探査(序報)，pp. 62-68
- 上嶋 誠・歌田久司・鍵山恒臣・田中良和・橋本武志・増田秀晴・松島 健：島原半島におけるネットワークMT法観測について，pp. 69-73
- 鍵山恒臣・歌田久司・山本哲也：雲仙火山の電磁気構造とマグマの上昇過程，pp. 74-79
- 橋本武志・大学合同観測班電磁気観測グループ：雲仙岳の自然電位異常からマグマの供給路を探る試み，pp. 80-86
- 柳 哮・前田俊一・杉本 健：雲仙火山のマグマ溜まりの構成と機能，pp. 87-92
- 中田節也：雲仙火山のマグマ溜りについて，pp. 93-102
- 木股文昭・藤井直之：新技術による面的な地殻変動観測からマグマソースへの切迫を火山体における稠密GPS+干渉SAR観測による地殻変動の観測，pp. 103-107
- 畑 雅恭：電磁波によるマグマの動きの探索，pp. 108-117
- 寺井邦久：地形学的に見た島原半島の火山構造発達史「島原カルデラ」の提唱，

pp. 118-128

太田一也：雲仙火山のマグマ供給システムー総括ー， pp. 129-133

清水 洋：雲仙火山地震波構造探査の計画， pp. 134-135

鍵山恒臣・歌田久司・田中良和：雲仙火山電磁気構造探査の計画とその意義，
pp. 136-138

134) 長崎県：雲仙・普賢岳噴火活動による自然変遷，全170頁，1995.3

鎌田康彦：雲仙・普賢岳の噴火活動年表， pp. 25-38

太田一也：普賢岳の火山活動の推移， pp. 39-48

鎌田康彦：雲仙・普賢岳の噴火活動と地形・地質・景観への影響， pp. 49-66

伊藤秀三：雲仙・普賢岳の噴火活動による植物への影響ー5つの植物天然記念物
を中心にー， pp. 67-74

中西弘樹：雲仙・普賢岳の噴火活動による植物への影響， pp. 75-82

柿田周造：雲仙・普賢岳の噴火活動による鳥類・哺乳類への影響， pp. 83-104

池崎善博：雲仙・普賢岳の噴火活動による昆虫，両生類，爬虫類，哺乳類への影
響， pp. 105-132

矢島邦康：仁田峠における火山ガスの測定， pp. 133-154

矢島邦康：普賢池及び屏風岩火口跡溜り水の水質調査， pp. 155-156

先名征司・出江俊夫：普賢岳の噴火活動による公園景観，公園利用への影響，
pp. 157-160

135) 建設省・気象庁：雲仙普賢岳災害防止・軽減のための防災情報ネットワーク化調査報
告書，全203頁，1995.3

136) 平成6年度文部省科学研究費総合研究(A)研究成果(研究代表者 平野宗夫)：雲仙岳
の土石流・火砕流災害に関する総合的研究，全87頁，1995.3

平野宗夫・橋本晴行・川原恵一郎：水無川における土石流の流出特性とその変化，
pp. 1-7

平野宗夫・森山聡之・川原恵一郎：ニューラルネットワークを利用した土石流の
流出解析， pp. 8-11

平野宗夫・橋本晴行・恩田邦彦・河野通斉：水無川下流河道における土砂堆積の
数値計算， pp. 12-19

諏訪 浩：1994年雲仙の土石流・土砂流と火山斜面における土砂移動の経年変化，
pp. 20-28

下川悦郎・地頭菌隆・寺本行芳：雲仙普賢岳における侵食と土石流， pp. 29-38

丸谷知己・笠井美青・芳賀弘和・川西良仙：雲仙普賢岳における火砕流堆積厚と
ガリ侵食， pp. 39-42

谷口義信：水無川の土石流堆積物の流径分布・堆積構造と火砕流の流下温度に関
する実験的研究， pp. 43-57

中田節也：雲仙普賢岳の溶岩噴出率，ドーム成長，および，火砕流発生の関

- 係, pp. 58-63
- 岩元 賢・望月 潔：都市近郊林の防災機能と流域保全に関する調査, pp. 64-71
- 柳田多聞・松永勝也・徳永さや子：危機管理に対する住民意識の地域差, pp. 72-81
- 高橋和雄・藤井 真：火山災害下における島原市の振興計画策定に関する調査, pp. 82-87
- 137) 自治省消防庁：火山噴火災害時における応急対策活動についての調査研究報告書(火山噴火災害時における応急対策活動に関する調査結果より), 全47頁, 1995. 3
- 138) 高橋和雄・藤井 真：火山災害下における島原市の復興・振興計画に関する調査報告書, 全108頁, 1995. 4
- 139) 島原市：島原市勢振興計画 火山とともにいきる 湧水と歴史の国民公園都市(概要版), 全16頁, 1995. 4
- 140) 島原市：島原市勢振興計画 火山とともにいきる 湧水と歴史の国民公園都市, 全140頁, 1995. 4
- 141) NHK長崎放送局：雲仙・普賢岳噴火災害－長期化する災害報道の歩み, 全175頁, 1995. 6
- 142) 長崎県島原振興局雲仙岳土木災害復興課：雲仙岳土木災害復興部の概要 平成7年度, 全37頁, 1995. 7
- 143) 建設省九州地方建設局河川部河川計画課：雲仙・普賢岳噴火対策砂防事業, 1995. 8
- 144) (財)雲仙岳災害対策基金：たくましく 復興への歩み 基金事業助成実績3－平成3年度-平成6年度－, 全68頁, 1995. 9
- 145) 島原市役所職員組合：雲仙普賢岳噴火災害記録集 自治研特集号, Vol. 37, 全27頁, 1995. 9
- 146) 島原鉄道株式会社：島原鉄道の歩み, 全38頁, 1995. 10
- 147) 石原和弘・江頭康夫・西 潔・松島 健・内田和也・小野博尉・山田年広・吉川 慎・外 輝明・迫幹雄・木俣文昭・中村 勝・宮島力雄・森 濟・鈴木敦生：地盤変動からみた雲仙火山のマグマ供給システム, 平成6年度文部省科研費成果報告書, 雲仙岳における火山体構造探査の事前研究, pp. 53-57, 1995
- 148) 雲仙火山災害長崎大学調査研究グループ(研究代表者 後藤恵之輔)：雲仙火山災害の調査研究(第4報), 全92頁, 1996. 1
- 荒生公雄・中根重勝・江山孝則・進藤康彦：雲仙岳周辺における1994年の降雨の特徴, pp. 1-16
- 後藤恵之輔・全 炳徳・長田幸市：衛星リモートセンシングを用いた眉山の植生回復予測の試み, pp. 17-27
- 古本勝弘・武政剛弘・薦田広章・一ノ瀬和雄・岡田 武・田中克昌：島原市・深江町における地下水への降灰の影響調査, pp. 28-35
- 高橋和雄・藤井 真：島原市における災害復興・振興に関するアンケート調査, pp. 36-47

- 宮入興一：長期化大規模災害下の災害対策と地方財政システムの改革， pp. 48-80
- 竹本泰一郎・和泉 喬・田川宣昌・田川雅子・笹山初代・千住秀明：雲仙普賢岳噴火災害の健康影響， pp. 81-86
- 横尾美智代・守山正樹：大野木場小学校児童の噴火に対する受けとめ方， pp. 87-92
- 149) 横尾美智代・守山正樹：私のくらしとふんかー雲仙普賢岳の噴火災害を体験した小学生の気持ちー，長崎大学医学部衛生学教室，全123頁，1996.1
- 150) 平成6・7年度文部省科学研究費補助金・一般研究(C)・研究成果報告書(研究代表者 松永勝也)：雲仙・普賢岳火山活動にたいする関係住民の意識と組織の危機管理に関する調査研究，全90頁，1996.2
- 柳田多聞・松永勝也・徳永さや子：危機管理に対する住民意識の地域差， pp. 2-49
1995年熊本市，福岡市，島原市の高校生及び保護者における危機管理に対する意識差ならびに島原市水無川流域住民の危機管理に対する意識調査研究， pp. 50-90
- 151) 島原市：災害の長期化及び警戒区域等の設定に伴う生活実態把握調査報告書，全29頁，1996.3
- 152) 長崎県深江町：広報ふかえ 雲仙・普賢岳噴火災害特集号2，全297頁，1996.3
- 153) 高橋和雄・藤井 真・伊藤雅尚：島原市の自主防災組織の現状と課題に関するアンケート調査報告書，全90頁，1996.3
- 154) 福岡管区気象台：福岡管区気象台要報ー雲仙・普賢岳の火山活動報告ー，第51号，全315頁，1996.3
- 155) 国土庁防災局・防災都市計画研究所：平成7年度災害対策総合推進調整費ー雲仙岳噴火災害における経済復興対策検討調査報告書，全179頁，1996.3
- 156) (財)砂防フロンティア整備推進機構：平成7年度雲仙・普賢岳砂防指定地利活用計画検討業務報告書ー概要版ー，全34頁，1996.3
- 157) (財)砂防フロンティア整備推進機構：平成7年度雲仙・普賢岳砂防指定地利活用計画検討業務報告書，全127頁，1996.3
- 158) 島原半島観光復興対策協議会：生きている自然 雲仙・普賢岳の今ー平成新山の誕生ー，全23頁，1996.3
- 159) 有明海漁業環境調査協議会：雲仙普賢岳火山活動の水産業に及ぼす影響調査事業報告，全497頁，1996.5
- 西ノ首英之・山口恭弘：島原湾及び橘湾の海水流動特性， pp. 10-65
- 中村武弘・塩谷茂明：潮流の流動シミュレーション， pp. 66-95
- 合田政次・中村武弘：流木の挙動とシミュレーション， pp. 96-165
- 高山久明・西ノ首英之：島原沖漁場水質環境の推移について， pp. 164-237
- 合田政次・内山休男・近藤 寛・石原 忠：火山起因物質の拡散分布， pp. 238-350
- 合田政次・西ノ首英之：目視法による堆積量の測定， pp. 239-289
- 石原 忠：Ignition Loss法による火山灰の堆積状況， pp. 290-320

- 近藤 寛：粒度測定法による識別および堆積量の測定， pp. 321-346
- 内山休男・石原 忠：化学的方法による識別および堆積量測定， pp. 347-350
- 東 幹夫・西ノ首英之・合田政次：水無川河口周辺海域の底生動物に対する土石流の影響， pp. 351-394
- 山口勝英・乃一哲久・征矢野清・千田哲資：雲仙普賢岳の土石流が水産生物に及ぼす影響－土石流がアサリに及ぼす影響および島原半島のアサリの生態， pp. 395-419
- 西田哲太郎・松永善文・西ノ首英之・東 幹夫・千田哲資：雲仙普賢岳の土石流が水産生物に及ぼす影響－魚類の分布・食性と火山性堆積物， pp. 420-446
- 飯間雅文・中谷賢治：雲仙・普賢岳火山活動が海藻類生育におよぼす影響の調査研究， pp. 447-456
- 片岡千賀之：普賢岳災害による漁業被害と水産振興の視点－普賢岳災害による漁業被害とその対策， pp. 457-465
- 亀田和彦：普賢岳災害による漁業被害と水産振興の視点－島原市周辺における無店舗販売と水産物流通， pp. 466-472
- 片岡千賀之：普賢岳災害による漁業被害と水産振興の視点－島原市水産振興の課題「お魚センター」を考える， pp. 473-486
- 160) 高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害に関する文献目録， 全108頁， 長崎大学工学部社会開発工学科， 1996.10
- 161) 九州弁護士会連合会：雲仙普賢岳からの提言-あるべき災害対策をめざして-， 全309頁， 1996.11
- 災害対策， 復興対策
- 井上莞爾：警戒区域設定の効果と問題点について－雲仙普賢岳噴火災害の体験を通じて， pp. 27-35
- 福岡博孝：警戒区域の設定に伴う経済的損失の補償－補償制度の不存在と市町村長の苦悩-， pp. 36-43
- 松下英爾：雲仙普賢岳噴火災害－もう一つの断面－警戒区域入域業務の安全問題と住民利益， pp. 44-59
- 高橋和雄：島原市の自主防災組織の現状と課題， pp. 60-75
- 養田剛治：普賢岳噴火災害と報道の使命， pp. 76-82
- 養田剛治：普賢岳噴火災害と住民運動， pp. 83-89
- 高橋和雄：降灰が地域に及ぼした影響と対策， pp. 90-108
- 木村拓郎：災害救助法考察， pp. 109-132
- 大塚敏郎：雲仙普賢岳災害対策にあたっての体験談， pp. 133-139
- 所澤新一郎：大災害時における義援金の配分報告とその検討， pp. 140-150
- 槌田禎子：雲仙・普賢岳噴火災害に見る被災者救済対策の実例-住宅再建・中小企業者に対する個人補償的措置を中心に-， pp. 151-159

岡 克則：大規模災害における被災地の復旧・復興の法的支援， pp.160-167

高橋和雄：雲仙火山災害の地域への影響と復興対策， pp.168-181

宮入興一：災害対策における地方財政の制度と運営， pp.182-203

宮入興一：雲仙火山災害からみた災害対策行財政システムの問題点と改革課題，
pp.204-227

地震保険の問題点と共済制度

久津輪雅：自然災害における保険の現状と課題， pp.229-238

福崎博孝：地震被害住宅等復興共済制度創設に関する日弁連提言について，
pp.239-253

福崎博孝：日弁連提言に係る地震被害住宅等復興共済制度に関するシミュレーション， pp.254-289

福崎博孝：自然災害における個人補償（個人保障）と地震被害住宅共済制度－憲法論的位置付け及び制度の遡及－， pp.290-306

- 162) 高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害における各機関の対応の記録（1990年11月-1996年12月），全199頁，長崎大学工学部社会開発工学科，1997.1
- 163) 島原地域再生行動計画策定委員会事務局：島原地域再生行動計画，全133頁，1997.3
- 164) 平成7年度-平成8年度科学研究費補助金（基盤研究（C））研究成果報告書（研究代表者 高橋和雄）：長期化・大規模化した雲仙普賢岳の火山災害の復興に関する調査研究（課題番号07680493），全187頁，1997.3
- 165) 平成7年度-8年度科学研究費補助金（基盤研究（C））研究成果報告書（研究代表者 横田尚俊）：自然災害後の復興過程における地域住民の生活選択と地域社会の変容に関する研究（課題番号07610181），全54頁，1997.3
- 166) 雲仙普賢岳砂防指定地利活用方策検討委員会：雲仙普賢岳砂防指定地利活用構想報告，全39頁，1997.5
- 167) (財)雲仙岳災害対策基金：たくましく 復興への歩み 基金事業助成実績5（平成3年度-平成8年度），全68頁，1997.9
- 168) 長崎県総務部消防防災課：雲仙・普賢岳の噴火災害誌，全514頁，1998.2

特別寄稿

下鶴大輔：雲仙・普賢岳の噴火災害を顧みて， p.71

山口義廣：信頼と友情をありがとう， p.72

熊本正三：雲仙普賢岳の噴火災害警備を振り返って， pp.73-75

下田信男：団長手記， p.75

丸田源次：噴火災害の猛威の前に， pp.76-77

石川嘉則：燃える水無川－禍を転じて福となす－， pp.77-78

鐘ヶ江管一：198年ぶりの異変， p.79

吉岡庭二郎：雲仙普賢岳噴火災害記録誌の発刊に寄せて， pp.79-80

横田幸信：未曾有の災害体験， pp.81-83

- 小橋行雄：雲仙普賢岳災害対策に携わって， pp. 83-84
- 第9部 災害に強い安全な県土づくりを目指して（提言）
- 太田一也：雲仙火山の噴火活動を振り返って， pp. 435-449
- 松井宗広：災害に強い安全な県土づくりを目指して， pp. 450-451
- 第10部 忘れ得ぬそのとき（体験記）
1. 大噴火，大火砕流，大土石流
 - 山口清八：島原災害派遣体験記， p. 455
 - 島原温泉病院緊急医療救護班：火砕流被災者の処置とその記録， pp. 455-456
 - 常岡武久：6月3日の月曜日， pp. 457-458
 - 井上俊次：高圧発電機車基地設置工事， p. 458
 - 谷口宏治：雲仙普賢岳噴火災害を消防団員として体験して， pp. 458-460
 - 松前隆美：まさかわが家が…， pp. 460-461
 - 荒木フサコ：全国からのがんばれコールに応えたい， pp. 461-462
 - 横田 要：忘れられないあの時， pp. 462-463
 2. 住み慣れた土地を離る
 - 山下一郎：住み慣れた土地を離る， pp. 463-465
 - 福島美恵子：災害の終息を目指して， p. 465
 3. 夢と希望にかけて
 - 福島一彦：生活再建， p. 466
 4. 雲仙・普賢岳噴火と子供たち
 - 大場幸成：こわい火砕流， p. 467
 - 早崎貴絵：普賢岳災害で知ったこと， pp. 467-468
 5. 「12.16」安心と勇気をありがとう
 - 上田実男：感謝のことば， pp. 468-469
 - 横田繁春：感謝のことば， p. 469
 6. 「6.3」島原半島復興への出発（たびだち）
 - 森山泰夫：雲仙普賢岳災害からの再生を祈って， pp. 470-472
 - 伊藤恒男：忘れ得ぬこと， p. 472
 - 木下忠義：自衛隊の活躍と教訓， pp. 472-473
 - 平田信秀：災害対策本部解散に思う， pp. 473-474
- 169) 国土庁防災局：平成9年度復興施策検討調査報告書，全159頁，1998.3
- 170) 島原市上折橋町内会：心のふる里 わが上折橋，全180頁，1998.3
- 171) 島原市役所職員組合雲仙普賢岳噴火災害記録集編集委員会：雲仙普賢岳噴火災害記録集，Vol. 8－災害の体験と教訓を後世に－，全106頁，1998.6
- 吉岡庭二郎：普賢岳噴火災害体験と復興にかける思い， pp. 3-12
- 座談会「雲仙普賢岳噴火災害の体験と教訓」， pp. 15-52
- 鐘ヶ江管一・太田一也・宮入興一・槌田禎子・清水真守

自治研フォーラム講演集

宮入興一：復興と財政－これからの島原市財政への視点， pp. 55-71

寄稿集

福崎博孝：普賢岳災害が残したもの…－普賢岳災害の意義と教訓（法的問題を中心に）， pp. 75-76

高橋和雄：雲仙普賢岳災害を記録してきて， pp. 77-80

養田剛治：市職労と私， pp. 81-82

職員の噴火災害体験録

西川英明：雲仙普賢岳噴火災害被災者救済対策に感謝 国民皆保険制度の確立を！， pp. 85-87

平尾 明：災害記憶の伝承について－温故知新の一例 記録することの大切さとその活用－， pp. 87-89

杉本伸一：私の見た雲仙普賢岳噴火災害， pp. 89-95

牧 雅夫：普賢岳噴火災害に寄せて， pp. 95-97

内島幸治：忙殺された大切なもの， pp. 97-98

松下英爾：噴火がなければあるはずもない…五つの話， pp. 99-102

- 172) 雲仙普賢岳土石流材の有効利用に関する検討会：雲仙普賢岳土石流材の有効利用に関する検討報告書，全69頁，1998.10
- 173) 高橋和雄・塩津雅子・西村寛史：島原市全域の復興・振興に関するアンケート調査報告書，全77頁，1999.2
- 174) 高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害に関する文献目録（補遺），全30頁，1999.2
- 175) 太田一也教授退官記念文集作成有志の会：太田一也教授退官記念文集，全121頁，1999.3
- 太田一也教授の経歴， pp. 1-5
- 清水 洋：太田一也教授の業績について， pp. 7-8

行政

高田 勇：我らの羅針盤， pp. 9-10

吉岡庭二郎：太田先生退官に伴うメッセージ， pp. 11-12

横田幸信：普賢岳の町に生きる， pp. 13-14

鐘ヶ江管一：太田先生との二人三脚のころ， pp. 15-16

自衛隊

山口義広：太田先生との思いで， pp. 17-19

山内明彦：太田先生に教わったこと， pp. 20-22

澤山正一：「太田先生」の思い出， pp. 23-24

品川澄雄：教授らしくない教授!!， p. 25

三浦秀明：太田先生の思い出， pp. 26-27

三浦正司：「太田先生の思い出」， pp. 28-29

深谷康行：「太田先生定年記念文」， pp. 30-31

- 入木政明：太田一也教授に送ることば， p. 32
川田 豊：名誉パイロット太田先生， p. 33
中村泰彦：普賢岳噴火を忘れまじ， p. 34
中尾秀人：普賢岳観測飛行， p. 35
高崎義和：タカORヤマト「山変化なし」， pp. 36-37

警 察

- 牟田好男：前線にて， pp. 38-40
森林英信：太田先生の思い出， pp. 41-43

報道機関

- 浦上信之：太田教授退官に寄せて， pp. 44-45
長 征爾：回想 太田先生， pp. 46-47
甲斐 茂：「ニュースデスクの太田所長への回想」， pp. 48-50
川路芳也：「ホームドクター太田教授」， pp. 51-53
坂庭正通：太田先生とともに伝えた災害報道， pp. 54-55
清水真守：太田先生， お疲れさまでした， pp. 56-57
竹添賢一：わたしの太田教授論-学問を超えた学者として-， pp. 58-60
槌田禎子：ご退官によせて， pp. 61-62
中原孝矩：太田先生を語る， pp. 63-64
浜野真吾：太田先生の足跡， pp. 65-66
林田克己：太田先生とともに雲仙・普賢岳を見つめて， pp. 67-70
宮崎遼一：お疲れさま ご苦労さまでした， pp. 71-72
矢加部和幸：とうとう噴火したよ， pp. 73-74
八谷昌幸：実戦・・・防災講座， pp. 75-76
吉田賢治：「聞き書き・普賢岳鳴動す」， pp. 77-78

研究機関

- 須藤 茂：雲仙火山噴火災害前段階の太田先生， pp. 79-80
須藤靖明：太田さんの思い出， pp. 81-83
高橋和雄：長崎から見た太田先生， pp. 84-89
田中義和：太田先生の思い出， pp. 90-92
中田節也：普賢岳噴火と太田先生の思い出， pp. 93-97
山口 敬：太田先生退官おめでとうございます， pp. 98-99
山科健一郎：雲仙の7年間を振り返って， pp. 100-101
渡辺一徳：普賢岳噴火と太田先生と私， pp. 102-104
馬越孝道：1991年夏， 観測所， pp. 105-107
福井理作：科学の手法で火山を診断する， pp. 108-109
内田和也：お疲れさまでした， p. 110
梅林稔子：所員を大切にされた太田先生， p. 111

- 本多智江子：太田先生との出会い， p. 112
- 清水 洋：記憶に残るいくつかのこと， pp. 113-114
- 太田一也：九州大学在職30年を振り返って， pp. 118-120
- 176) 建設省九州地方建設局雲仙復興工事事務所：雲仙・普賢岳の噴火－火山災害と復旧・復興－，全21頁，1999.6
- 177) 高橋和雄・伊東義信・塩津雅子：深江町の復興・振興に関するアンケート調査報告書，全107頁，1999.8
- 178) (財)雲仙岳災害対策基金：たくましく復興への歩み 基金事業助成実績7 平成3年度-10年度，全68頁，1999.11
- 179) 高橋和雄：「雲仙普賢岳の火山災害における砂防事業と地域復興の係りに関する研究」報告書，全53頁，2000.6
- 180) 雲仙火山災害長崎大学調査研究グループ，土木学会地盤研究委員会火山工学研究小委員会，土木学会西部支部：普賢岳フォーラム発表論文集，全124頁，2000.11
- 馬越孝道：雲仙普賢岳・山頂地震活動， pp. 35-44
- 荒生公雄：雲仙岳周辺の雨雲の活動を追って， pp. 45-54
- 高橋和雄・園田雅樹・井口敬介：安中地区の復興・振興に関するアンケート調査， pp. 55-62
- 宮本邦明：1792年眉山崩壊と津波の再現計算， pp. 110-114
- 181) 島原市役所市長公室：火山とともに生きる 雲仙・普賢岳噴火災害記録ダイジェスト，2000.11
- 182) 島原市役所市長公室：まちが甦る 雲仙普賢岳噴火災害・復興記録ダイジェスト，Vol.2，2000.11
- 183) 安中地区まちづくり推進協議会：21世紀島原復興宣言－市民とともに復興を支えた池谷 浩氏退官記念語録集－，全12頁，2000.11
- 184) 長崎県島原農業改良普及センター：被災から10年よみがえる農業－雲仙・普賢岳噴火災害営農復興への普及の取り組み－，全69頁，2001.2
- 185) 国土交通省雲仙復興工事事務所：雲仙・普賢岳噴火災害復興10年のあゆみ 火山砂防事業へのとりくみ，全192頁，2001.3
- 186) NPO法人島原ボランティア協議会：普賢岳からのメッセージ 災害ボランティアの風 19-2001，全264頁，2001.6
- 187) 有明海漁場環境調査協議会・長崎大学島原湾沿岸漁業復興対策基礎研究グループ：有明海水産業復興対策基礎調査事業報告書(平成8年度-平成12年度最終報告書)，全575頁，2001.5
- 188) 高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害資料・防災施設の利活用に関する研究(平成12年度河川整備基金助成事業報告書)，工学部社会開発工学科土木構造学研究室，全42頁，2001.6
- 189) (財)雲仙岳災害対策基金：雲仙岳噴火災害被災者の皆様へ たくましく 復興への歩み 基金事業助成実績9 平成3年度-平成12年度，全71頁，2001.11

- 190) 雲仙集会実行委員会：普賢岳災害を忘れない 雲仙集会の10年，全98頁，2001.12
- 191) 雲仙・普賢岳噴火10年復興記念事業実行委員会：雲仙・普賢岳噴火10年復興記念事業記録誌，全62頁，2001
- 192) 雲仙普賢岳の被災地の復興まちづくり支援に関する研究，平成13年度河川整備基金助成事業報告書，全87頁，2002.6
- 193) 国土交通省九州地方整備局雲仙復興事務所：島原大変，全20頁，2002.10
- 194) 雲仙・普賢岳噴火災害記録誌作成委員会：平成島原大変 雲仙・普賢岳噴火災害記録集，全497頁，2002.12
- 195) 雲仙・普賢岳噴火災害記録誌作成委員会：平成島原大変 データブック，全313頁，2002.12
- 196) 気象庁：平成3年(1991年)雲仙岳調査報告，気象庁技術報告，第123号，全372頁，2002
- 197) 雲仙岳災害記念館：雲仙普賢岳平成大噴火，全87頁，2003.2
- 198) 長崎県地域振興部地域政策課：がまだす計画島原地域再生行動計画事業のあゆみ，全100頁，2003.3
- 199) 島原市都市整備課：島原市都市計画事業安中土地区画整理事業事業誌－生活再建・復興のまちづくり－，全69頁，2003.3
- 200) 雲仙復興事務所10周年記念行事実行委員会・国土交通省九州地方整備局雲仙復興事務所：雲仙復興事務所10周年記念誌子どもたちへのメッセージ，全208頁，2003.6
- 201) 雲仙普賢岳の砂防指定地利活用と地域振興に関する調査報告書，平成14年度河川整備基金助成事業報告書，全35頁，2003.7
- 202) 国土交通省九州地方整備局雲仙復興事務所：「キャンプ砂防2003in雲仙」火山との共生-よみがえる雲仙-実施報告書，全96頁，2003.8
- 203) 国土交通省九州地方整備局雲仙復興事務所：雲仙岳学習 普賢さんとわたしたち(教師用資料)，全14頁，2004.3
- 204) 国土交通省九州地方整備局雲仙復興事務所：雲仙岳学習 普賢さんとわたしたち，全37頁，2004.3
- 205) 清水 洋・松島 健・松尾紉道・植平賢司・福井理作・内田和也・渡邊篤志・河野裕希・太田一也：雲仙火山の平成噴火の概要と最近の火山活動状況，第2回雲仙火山の集中総合観測報告書，全71頁，2006
- 206) 高橋和雄：1990－1995雲仙普賢岳の噴火災害に関する文献目録，全161頁，2007.2
- 207) 中央防災会議災害教訓の継承に関する専門調査会：1990－1995雲仙普賢岳噴火報告書，全214頁，2007.3
- 208) 長崎県：雲仙普賢岳噴火災害の教訓，全12頁，2007.11
- 209) 国土交通省九州地方整備局雲仙復興事務所：1990－1995雲仙普賢岳噴火災害概要，全12頁，2007.11
- 210) 国土交通省九州地方整備局雲仙復興事務所：島原大変，全20頁，2002.10
- 211) フジタ：無人化施工の足跡，全92頁，2010.3

2. 論文

- 1) 鈴木 宏：雲仙岳噴火と災害予測図, 新砂防, Vol. 44, No.1, pp. 1-2, 1991. 5
- 2) 池谷 浩・石川芳治：平成3年雲仙岳で発生した火砕流・土石流災害, 新砂防, Vol. 44, No.2, pp. 46-56, 1991. 7
- 3) 竹下敬司：雲仙岳火山災害について, 新砂防, Vol. 44, No.2, pp. 57-61, 1991. 7
- 4) 橋岡伸守：雲仙普賢岳噴火に係わる林野被害と対策について, 新砂防, Vol. 44, No. 2, pp. 62-64, 1991. 7
- 5) 三宅康幸・藤井統邦・Al Jailani Ashraf Saiyed・福元和孝・藤木淳司：雲仙岳1991年5月28日の火砕流に伴って降下した火山豆石の分布について, 島根大学地質学研究報告, 10 pp. 25-29, 1991. 7
- 6) 斎藤英二・渡辺和明・須藤 茂・星住英夫・遠藤秀典・風早康平・川邊禎久・高田亮・阪口圭一・宝田晋治・山元孝広：雲仙普賢岳の光波測距, 地質ニュース, 444号, pp. 63-66, 1991. 8
- 7) 中山裕則・田中總太郎・西川 肇・藤井寿生・岩下圭之・千葉達郎：SPOTデータによる雲仙火砕流モニター画像, 日本リモートセンシング学会誌, Vol. 11, No. 3, pp. 43-47, 1991. 9
- 8) 植原茂次・熊谷貞治・矢崎 忍：航空機搭載MSSによる雲仙岳火山の熱観測, 日本リモートセンシング学会誌, Vol. 11, No. 3, pp. 49-55, 1991. 9
- 9) 斎藤英二・渡辺和明・須藤 茂・星住英夫・遠藤秀典：光波測距による普賢岳の山体変動の測定, 日本リモートセンシング学会誌, Vol. 11, No. 3, pp. 57-60, 1991. 9
- 10) 安田 聡・須藤 茂・遠藤秀典：空中写真を用いた雲仙・普賢岳周辺の火山活動に伴う地形変動の計測, 日本リモートセンシング学会誌, Vol. 11, No. 3, pp. 61-64, 1991. 9
- 11) 中村健治・堀江宏昭・浦塚清峰・増子治信・岡本謙一：航空機搭載マイクロ波映像レーダによる雲仙岳の観測, 日本リモートセンシング学会誌, Vol. 11, No.3, pp. 65-79, 1991. 9
- 12) 岡本謙一・田中總太郎・中山裕則・宮崎芳徳・植原茂次：雲仙岳噴火に係わるリモートセンシングデータの取得状況(1990年11月-1991年7月末), 日本リモートセンシング学会, Vol. 11, No. 3, pp. 101-125, 1991. 9
- 13) 石川芳治・池谷 浩：雲仙岳噴火による土砂災害と流木の発生, 第23回(社)砂防学会シンポジウム講演集, pp. 61-70, 1991. 10
- 14) 後藤恵之輔・板坂修二・中沼達也：熱映像装置による雲仙普賢岳・火砕流跡の温度観測, 土木工学における非破壊評価シンポジウム講演論文集, pp. 213-219, 1991. 10
- 15) 矢崎 忍・熊谷貞治・植原茂次：空中熱赤外映像装置の開発と雲仙岳等の火山の熱観測, 第17回リモートセンシングシンポジウム, pp. 113-116, 1991. 10
- 16) 中田節也・小林哲夫：雲仙岳1991年噴火によって生じた溶岩ドームの成長と火砕流, 火山, 第36巻, 第3号, pp. 391-393, 1991. 10

- 17) 池谷 浩・石川芳治：平成3年雲仙岳噴火に伴う火砕流・土石流災害, 土木技術資料, 第33巻, 第11号, pp. 52-60, 1991. 11
- 18) 鈴木 宏・宮本邦明・西山泰弘：雲仙岳火山災害予測図の作成について, 新砂防, Vol. 44, No.4, pp. 36-40, 1991. 11
- 19) 山田 孝・石川芳治・矢島重美：雲仙岳で発生した小規模な火砕流の運動特性, 新砂防, Vol. 44, No.4, pp. 41-45, 1991. 11
- 20) 向山 学・武智国加・河相祐子・増田一稔：雲仙岳の溶岩ドーム形成に伴う地形の変動について, 第1回環境地質学シンポジウム講演論文集, pp. 149-154, 1991. 11
- 21) 望月利男・花井徳實：1991年雲仙岳噴火災害調査の第一報, 総合都市研究, 第44号, pp. 143-153, 1991. 12
- 22) 中田節也・田中雅人：雲仙火山のマグマプロセス, 火山, 第36巻, 第1号, pp. 113-121, 1991.
- 23) 広瀬弘忠：雲仙・普賢岳の噴火により被災した地域住民の災害対応行動, 火災, Vol. 41, No. 5, pp. 35-43, 1991
- 24) Matsunaga, K. and Takahashi, K. : Decision Making Process for Evacuation of Administration and Inhabitants in the Unzen Volcanic Eruption, Fifth International Research and Training Seminar on Regional Development Planning for Disaster Prevention, 10-11, Nov. 1991, Nagoya, Japan
- 25) 松下忠洋：雲仙普賢岳の火山災害に学ぶ, 新砂防, Vol. 44, No.5, pp. 1-2, 1992. 1
- 26) 池谷 浩・石川芳治：平成3年雲仙普賢岳で発生した火砕流・土石流災害(第2報), 新砂防, Vol. 44, No.5, pp. 36-46, 1992. 1
- 27) 高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害に関する都市システムの応急対策, その1・ライフラインの対応, 長崎大学工学部研究報告, 第22巻, 第38号, pp. 49-54, 1992. 1
- 28) 高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害に関する都市システムの応急対策, その2・電気通信, 鉄道の対応, 長崎大学工学部研究報告, 第22巻, 第38号, pp. 55-61, 1992. 1
- 29) 馬越孝道・清水 洋・松尾紉道：雲仙火山の地震活動 I, 自然災害科学研究西部地区部会報, 第13号, pp. 10-19, 1992. 2
- 30) 羽田野袈裟義・中島克人：火砕流のイメージ, 自然災害科学研究西部地区部会報, 第13号, pp. 20-24, 1992. 2
- 31) 半田 駿：雲仙岳でのELF-MT法による比抵抗のモニター, 自然災害科学研究西部地区部会報, 第13号, pp. 25-28, 1992. 2
- 32) 高橋和雄・松野 進：雲仙普賢岳の火山災害における住民の避難対策と情報伝達の調査, 一噴火から火砕流発生までの応急対策一, 自然災害科学研究西部地区部会報, 第13号, pp. 29-42, 1992. 2
- 33) 平野宗夫・岩元 賢・橋本晴行・宮島正悟：雲仙岳の土石流(1)ー水無川において発生した土石流ー, 自然災害科学研究西部地区部会報, 第13号, pp. 43-48, 1992. 2
- 34) 平野宗夫・橋本晴行・木藤賢一：雲仙岳の土石流(2)ー湯江川において発生した土石

- 流一, 自然災害科学研究西部地区部会報, 第13号, pp. 49-54, 1992. 2
- 35) 武政剛弘・東 一洋・山崎聡太郎: 雲仙・普賢岳の噴火に伴う農林災害, 自然災害科学研究西部地区部会報, 第13号, pp. 55-59, 1992. 2
- 36) 東 孝寛・高山昌照・近藤文義・岩下幸司: 火山灰の混合に伴う畑作土(黒ぼく土)の透水性, 保水性の変化—雲仙・普賢岳噴火に伴う降下火山灰の場合—, 自然災害科学研究西部地区部会報, 第13号, pp. 60-64, 1992. 2
- 37) 宮本邦明・鈴木 宏・山下伸太郎: 火砕流の流動モデルと流下・堆積範囲の予測に関する研究, 水工学論文集, 第36巻, pp. 211-216, 1992. 2
- 38) 福嶋祐介・鍵山恒臣: サーマル理論に基づく火砕流の数値解析法—雲仙・普賢岳を例として—, 水工学論文集, 第36巻, pp. 217-220, 1992. 2
- 39) 中村裕昭: 雲仙普賢岳火山噴火に関連する文献リスト, 日本応用地質学会九州支部会, No.3, pp. 22-31, 1992. 3
- 40) 平野宗夫・橋本晴行・羽田野袈裟義: 1991年雲仙における土石流の調査研究, 平成3年度河川災害に関するシンポジウム, pp. 1-16, 1992. 3
- 41) 江崎哲郎・相川 明・清水 洋・大久保洋介・太田一也: GPSを用いた地盤環境の監視, 第24回岩盤力学に関するシンポジウム講演論文集, pp. 484-488, 1992. 3
- 42) 大学合同観測班地質班: 雲仙火山1991年噴火, 地質観察記録(その1), 火山, 第37巻, 第1号, pp. 47-53, 1992. 4
- 43) 村井 勇: 火山活動・噴火・火山噴出物などについての基礎知識と雲仙火山の噴火活動, 博物館研究, 第27巻, 第3号, pp. 11-15, 1992. 4
- 44) 池谷 浩・石川芳治: 1992年3月雲仙普賢岳で発生した土石流と対策(速報), 新砂防, Vol. 45, No. 1, pp. 56-60&口絵, 1992. 5
- 45) 大学合同観測班地球化学班: 雲仙火山と火山活動と地球化学的観測, 火山, 第37巻, 第2号, pp. 103-108, 1992. 6
- 46) 池谷 浩・石川芳治: 雲仙普賢岳で発生した火砕流, 土石流災害(第2報), 土木技術資料, 第34巻, 第6号, pp. 52-59, 1992. 6
- 47) 馬越孝道・清水 洋・松尾紉道: 雲仙火山の地震活動II, 自然災害西部地区部会報・論文集, 第14号, pp. 1-8, 1992. 7
- 48) 吉川祐司・渡辺公一郎・井沢英二・田口幸洋・甲斐辰次・寺井邦久: α トラック法による雲仙火山眉山周辺のラドンガス変動, 自然災害西部地区部会報・論文集, 第14号, pp. 9-13, 1992. 7
- 49) 高橋和雄・松野 進: 雲仙普賢岳の火山災害の社会的影響, 自然災害西部地区部会報・論文集, 第14号, pp. 14-23, 1992. 7
- 50) 高橋和雄・松野 進: 雲仙普賢岳の火山災害におけるライフラインの応急対策, 自然災害西部地区部会報・論文集, 第14号, pp. 24-30, 1992. 7
- 51) 小林哲夫: 火山学の立場からみた雲仙岳噴火, 平成4年度農業土木学会九州支部シンポジウム「火山活動による農業・農村災害と対策」, pp. 1-11, 1992. 7

- 52) 増崎一夫：雲仙岳噴火による農業・農村災害について，平成4年度農業土木学会九州支部シンポジウム「火山活動による農業・農村災害と対策」，pp.13-22，1992.7
- 53) 難波直彦・東 孝寛・高山昌照・若松千秋・平 瑞樹：土石流土の工学的性質，平成4年度農業土木学会九州支部シンポジウム「火山活動による農業・農村災害と対策」，pp.23-32，1992.7
- 54) 東 孝寛・高山昌照・藤本昌宣：火山灰の混合に伴う畑作土(黒ぼく土)の透水性，保水性－雲仙・普賢岳噴火に伴う降下火山灰の場合－，平成4年度農業土木学会九州支部シンポジウム「火山活動による農業・農村災害と対策」，pp.33-42，1992.7
- 55) 木村貞夫：降灰の理化学性の資材によるその改善－降灰混合土壌における作物の生育と土壌改良資材の効果－，平成4年度農業土木学会九州支部シンポジウム「火山活動による農業・農村災害と対策」，pp.43-60，1992.7
- 56) 小橋澄治・水山高久・谷口義信：雲仙火砕流，土石流堆積物の特性(速報)，新砂防，Vol.45，No.2，pp.28-31，1992.7
- 57) 大見士郎・清水 洋：雲仙火山とその周辺地域の地震波速度構造，火山，第37巻，第3号，pp.133-145，1992.8
- 58) 谷口宏充・鎌田桂子・中田節也・三軒一義・鎌田浩毅：ペネトレーター方式による火砕サージの温度，圧力，粒子速度測定を試み－雲仙岳における投下実験－，火山，第37巻，第3号，pp.147-151，1992.8
- 59) 高橋和雄・松野 進：雲仙普賢岳の噴火から火砕流発生までの行政の防災対策と情報伝達，自然災害科学，Vol.11，No.2，pp.97-120，1992.8
- 60) Hirose,H. : Defining Disaster Relief: Disaster Victims and Disaster Relief Administration in the Case of Mt Unzen's Eruption, International Journal of Mass Emergencies Disasters, Vol.10, No.2, pp.281-292, 1992.8
- 61) 石川芳治・山田 孝・矢島重美・中村 剛：火砕流堆積物の温度測定(速報)，新砂防，Vol.45，No.3，pp.50-56，1992.9
- 62) 渡辺一徳・星住英夫・池辺伸一郎：雲仙普賢岳1990年11月-1991年5月の噴火活動－噴火開始から溶岩出現まで－，熊本大学教育学部紀要，第41号，自然科学，pp.47-60，1992.9
- 63) 石川芳治・山田 孝・矢島重美・中村 剛：火砕流堆積物の温度測定(速報)，新砂防，Vol.45，No.3，pp.50-51，1992.9
- 64) 池谷 浩・石川芳治：1992年8月雲仙普賢岳に発生した土石流(速報)，新砂防，Vol.45，No.3，pp.52-56，1992.9
- 65) 中村淳治・水山高久：雲仙岳の模型と火砕流及び土石流の実験，新砂防，Vol.45，No.4，pp.36-39，1992.11
- 66) 渡辺一徳：雲仙普賢岳1991年溶岩出現以前のマグマ水蒸気爆発，熊本地学会誌，No.101，pp.10-13，1992.11
- 67) 山下敬則・瀨 義明・小林幸広・本多雅幸・森 淳子・小林 茂・開 泰二・平山

- 文俊・豊村敬郎：雲仙普賢岳噴火が山麓の大気質・水質へ及ぼした影響調査，長崎県衛生公害研究所報，第34号，pp.17-35，1992.12
- 68) 山口道雄・豊村敬朗・仁位敏明・熊野眞佐代・濱野敏一：雲仙・普賢岳の噴火と災害，長崎県衛生公害研究所報，第34号，pp.40-68，1992.12
- 69) 長崎県立島原温泉病院緊急医療救護班：火砕流被災者の処置とその記録，長崎県衛生公害研究所報，第34号，pp.53-68，1992.12
- 70) 清水 洋：雲仙火山モニタリング，物理探査，第45巻，第6号，pp.458-466，1992.12
- 71) Keiko Suzuki-Kamata・Kazuyoshi Sangen・Hiroki Kamata・Hiromitsu Taniguchi and Setsuya Nakata：Installation of Penetrator-type Thermometers and Blastmeters for Detecting Pyroclastic Surges during Eruptions of Unzen Volcano, Kyushu, Japan, Journal of Natural Disaster Science , Vol.14, No. 2 , pp.1-8, 1992.12
- 72) Sato, H., Fujii, T. and Nakada, S. : Crumbling of dacite dome lava and generation of pyroclastic flows at Unzen volcano, NATURE, Vol.360, pp.664-666, 1992.12
- 73) 片山信夫：雲仙火山の活動の紹介，地熱，Vol.29, No.3, pp.70-78, 1992
- 74) 宮原智哉・遠藤邦彦・陶野郁雄・千葉達朗・磯 望・撰田克也・新川和範・安井真也・小森次郎・大野希一：1991年雲仙普賢岳噴火とその噴出物－第1報－，日本大学文理学部自然科学研究所研究紀要，Vol.27, pp.71-80, 1992
- 75) 大学合同観測班地球物理班：雲仙火山1990-1992年噴火の地球物理観測（その1），火山，第37巻，第4号，pp.209-215，1992
- 76) 大見士朗・清水 洋：雲仙火山とその周辺地域の地震波速度構造，火山，37巻，pp.133-146, 1992
- 77) 平野宗夫・橋本晴行・森山聡之：雲仙岳・水無川における92年8月の土石流について，自然災害西部地区部会報・論文集，第15号，pp.33-38，1993.2
- 78) 入江 功・富樫宏由：土砂流出による津波発生の予知に関する研究，自然災害西部地区部会報・論文集，第15号，pp.58-64，1993.2
- 79) 平 瑞樹・難波直彦・若松千秋・高山昌照・東 孝寛：雲仙土石流土の工学的性質，自然災害西部地区部会報・論文集，第15号，pp.65-71，1993.2
- 80) 馬越孝道・清水 洋・松尾綱道：雲仙岳噴火活動中の九州中西部の地震活動，自然災害西部地区部会報・論文集，第16号，pp.1-10, 1993.3
- 81) 平野宗夫・橋本晴行・村上浩史：雲仙水無川における土石流の現地計測，自然災害西部地区部会報・論文集，第16号，pp.11-16, 1993.3
- 82) 鈴木義則・江頭 仁・山本晴彦・脇水健次・角 明夫：表面温度リモセンによる雲仙火砕流の植物影響範囲の推定，自然災害西部地区部会報・論文集，第16号，pp.17-20, 1993.3
- 83) 久松健一・高橋和雄：雲仙普賢岳火山災害の復興に関する調査，自然災害西部地区部会報・論文集，第16号，pp.21-28，1993.3
- 84) 荒生公雄・武田喬男・藤吉康志・中根重勝・野口正人：長崎県南部および雲仙周辺

- における豪雨の監視と減災システムの研究, 自然災害西部地区部会報・論文集, 第16号pp. 29-34, 1993. 3
- 85) 木藤賢一・平野宗夫・橋本晴行: 火砕流の流動・堆積モデルについて, 自然災害西部地区部会報・論文集, 第16号, pp. 35-41, 1993. 3
- 86) 荒生公雄・久保田由美・河田 誠・中根重勝: 雲仙岳に土石流を発生させた1991年6月30日の豪雨の微細構造, 長崎大学教育学部自然科学研究報告, 第48号, pp. 37-46, 1993. 3
- 87) 石原和弘: 雲仙火山の溶岩の噴出率と地盤の変動速度から推定されるマグマの供給率について, 京都大学防災研究所年報, 第36号, B-1, pp. 219-230, 1993. 4
- 88) 宮入興一: 災害問題と地域・自治体—自然的災害における被害の全体像と複合的被害構造の解明: 雲仙火山災害を事例として—, 経営と経済, 第73巻, 第1号, pp. 23-93, 1993. 6
- 89) 矢澤昭夫: 1993年4月28日-29日に雲仙普賢岳で発生した土石流, 土木技術資料, 第35巻, 第6号, 1993. 6
- 90) 石川芳治・山田 孝・矢島重美: 雲仙岳で発生した火砕流の本体部と熱風部の運動特性, 土木技術資料, 第35巻, 第6号, pp. 20-26, 1993. 6
- 91) 石川芳治・山田 孝・矢島重美: 雲仙岳で発生した火砕流の堆積実態とシミュレーション計算との比較, 土木技術資料, 第35巻, 第6号, pp. 27-33, 1993. 6
- 92) 高橋和雄・松野 進: 雲仙普賢岳の火山災害における警戒区域設定後の行政の危機管理と避難者対策, 自然災害科学, 第12巻, 第1号, pp. 39-62, 1993. 6
- 93) 清水 洋・馬越孝道・松尾紉道: 九州中・西部の地震活動, 地質学論集, 第41号, pp. 13-18, 1993. 6
- 94) 池谷 浩: 雲仙・水無川の土石流発生機構について, 新砂防, 第46巻, 第2号, pp. 15-21, 1993. 7
- 95) 谷口義信: 雲仙普賢岳の土石流・火砕流堆積物に関する若干の水理学的物理学的考察, 新砂防, 第46巻, 第3号, pp. 28-34, 1993. 7
- 96) 建設省九州地方建設局雲仙復興工事事務所: 平成5年6月23-24日に雲仙普賢岳北側山麓の千本木地区を襲った火砕流, 新砂防, 第46巻, 第3号, p. 61, 1993. 7
- 97) Iidaka, T., Miura, K. and Ikami, A.: EVIDENCE FOR THE EXISTENCE OF A MID-CRUSTAL REFLECTOR IN THE BEPPU - SHIMABARA GRABEN, KYUSHU, JAPAN, GEOPHYSICAL RESEARCH LETTERS, Vol. 20, No. 16, pp. 1699-1702, 1993. 8
- 98) 向山 栄・河相裕子・千葉達朗: 雲仙岳噴火による火砕流・土石流災害, 写真測量とリモートセンシング, 第32巻, 第4号, pp. 2-5, 1993. 9
- 99) 山本晴彦・鈴木義則・早川誠而: 赤外放射温度計による雲仙・普賢岳の斜面高温域の遠隔検出, 自然災害科学, 第12巻, 第2号, pp. 151-157, 1993. 9
- 100) Watanabe, K., Hoshizumi, H. and Iyama, T.: K-Ar Ages of Unzen Volcano in Kyushu, Japan -With Some Aspects of Geology of Mayu-Yama-, the Memoirs of the Faculty of Education,

- Kumamoto University, No.42, Natural Science, pp.35-41, 1993.9
- 101) 高橋和雄：雲仙普賢岳の噴火災害をおって，行政管理，No.373, pp.36-46, 1993.10
- 102) 宮入興一：災害問題と地域経済－雲仙普賢岳火山災害を事例として－，地域経済学研究，第4号，pp.1-23, 1993.10
- 103) 太田一也：1990－1992年雲仙岳噴火活動，地質学雑誌，第99巻，第10号，pp.835-854, 1993.10
- 104) Matsunaga,K. and Takahashi,K. : The Decision-Making Process for Evacuation of Administrators and Inhabitants from The Mt.Unzen Volcanic Eruption, Information Flows in Disaster Management of Metropolitan Areas, pp.132-144, 1993.11
- 105) 石川芳治・山田 孝・矢島重美・下田義文：雲仙普賢岳で発生した火砕流熱風部による災害，新砂防，Vol.46, No.4, pp.3-9, 1993.11
- 106) 石川芳治・山田 孝・川下茂樹・松本俊雄・高橋 努・緒統英章：雲仙普賢岳で1991年6月8日に発生した火砕流の堆積構造とその物質，新砂防，Vol.46, No.4, pp.16-22, 1993.11
- 107) 谷口義信：雲仙普賢岳の土石流・火砕流堆積物に関する若干の水理学的，物理学的考察，新砂防，Vol.46, No.4, pp.28-34, 1993.11
- 108) 水山高久：雲仙普賢岳の新聞における扱われ方，新砂防，Vol.46, No.4, pp.36-38, 1993.11
- 109) 陶野郁雄：複合災害と総合的災害予測図，第4紀研究，Vol.32, No.5, pp.339-352, 1993.12
- 110) Notsu,K., Mori,T., Igarashi,G., Tohjima,Y. and Wakita,H. : Infrared spectral radiometer:A new tool for remote measurement of SO₂ of volcanic gas, Goechochemical Journal,Vol.27, pp.361-366, 1993.12
- 111) Nakata,S. and Fujii,T. : Preliminary Report on the Activity Unzen Volcano (Japan)November 1990–November 1991 : Dacite Lava Domes and Pyroclastic Flows, Journal of Volcanology and Geothermal Research, Vol.54, pp.319-333, 1993
- 112) 伊東 博・坂上義雄・鳥居澄彦：雲仙・普賢岳の噴火活動，神奈川温泉地学研究所報告，第24巻，第3号，pp.5-12, 1993
- 113) 宮原智哉：火山噴出物の気泡サイズ分布－雲仙普賢岳1991-1992年噴火噴出物の例－，日本大学文理学部自然科学研究所研究紀要，Vol.28, pp.77-81, 1993
- 114) 新川和範・遠藤邦彦・大野希一・宮原智哉：雲仙火山1991年噴出物中にみられた vesicular tuff, 日本大学文理学部自然科学研究所研究紀要，Vol.28, pp.91-98, 1993
- 115) Umakoshi,K., Simizu,H., Matsuo,N., Matsushima,T. and Ohta,K. : Seismic Observations and Infrared Thermal Surveys of the 1990–1993 Eruption of Unzen Volcano, Journal of Natural Disaster Science, Vol.15, No.2, pp.69-77, 1993
- 116) 清水 洋・馬越孝道・松尾紉道：雲仙・普賢岳の火砕流の振動記録，月刊地球，Vol.15, No.8, pp.512-530, 1993
- 117) 酒井正治・大貫靖浩・藤本 潔・長友忠行：雲仙噴火に伴う降灰の森林土壌への影響

- 調査, 日林論, 104号, pp. 351-354, 1993
- 118) Mori, T., Notsu, K., Tohjima, Y. and Wakita, H. : Remote Detection of HCl and SO₂ in Volcanic Gas from Unzen Volcano, Japan, Geophysical Research Letters, Vol. 20, No. 13, pp. 1355-1358, 1993
- 119) 鎌田康彦 : 雲仙・普賢岳噴火活動年表 1 (1990年7月-1992年3月), 長崎県地質学会誌, 第55号, 1993
- 120) Kita, I., Nagao, K., Taguchi, S., Nitta, K. and Hasegawa, H. : Emission of magmatic He with different ³He/⁴He ration from the Unzen volcanic area, Japan Geochmical Journal, Vol. 27, pp. 251-259, 1993
- 121) 宇井忠英 : 雲仙普賢岳の火砕流, 月刊地球, Vol. 15, No. 8, pp. 506-511, 1993
- 122) 宇井忠英・隅田まり・大学合同観測班地質班 : メラピ型火砕流の発生過程 - 雲仙普賢岳第6ドームでの観測結果 -, 火山, 第38巻, 第2号, pp. 45-52, 1993
- 123) 山里 平・福井敬一・宇平幸一・橋本徹夫・森 博一 : 雲仙岳の火砕流に伴う振動波形と空振波形の解析, 火山, 第38巻, 第3号, pp. 79-90, 1993
- 124) 大見士朗・松島 健 : 雲仙岳普賢岳溶岩ドーム近傍におけるGPS観測, 火山, 第38巻, 第4号, pp. 129-133, 1993
- 125) 山崎義典・三浪俊夫 : 雲仙岳の火山活動と島原半島周辺の潮位変動, 福岡教育大学紀要, 第42号, 第3分冊, pp. 67-80, 1993
- 126) 須藤 茂・阪口圭一・渡辺和明・斎藤英二・川辺禎久・風早康平・宝田晋治・曾屋龍典 : 雲仙火山1991年溶岩の流動過程と粘性, 地質調査所月報, 第44巻, 第10号, pp. 609-629, 1993
- 127) 安田 聡・須藤 茂・遠藤秀典 : 空中写真解析による雲仙火山1991年溶岩噴出活動による地殻変動, 地質調査所月報, 第44巻, 第10号, pp. 631-637, 1993
- 128) 斎藤英二・須藤 茂・曾屋龍典・風早康平・川辺禎久・星住英夫・渡辺和明・遠藤秀典 : 光波測距による雲仙普賢岳の1991-1992年噴火時の山体変動観測, 地質調査所月報, 第44巻, 第10号, pp. 639-647, 1993
- 129) Shimizu, H., : Seismic activity before and during the 1990-1993 eruption of Unzen Volcano, Proceedings of the Workshop on Volcanic Disaster Prevention, pp. 254-258, 1993
- 130) 中村美千彦 : 雲仙火山の下で何が起きているか, 科学, Vol. 6, No. 1, pp. 14-18, 1994. 1
- 131) 高橋和雄・松野 進・久松健一 : 雲仙普賢岳の火山災害の復興計画に関する調査, 長崎大学工学部研究報告, 第24巻, 第42号, pp. 85-93, 1994. 1
- 132) 三浪俊夫・森 博一・山崎義典 : 雲仙岳の地震活動と地球潮汐の関連性, 自然災害科学研究西部地区部会報, 第17号, pp. 1-9, 1994. 1
- 133) 平野宗夫・橋本晴行・河野通斉 : 雲仙中尾川における土石流の現地観測, 自然災害科学研究西部地区部会報, 第17号, pp. 10-15, 1994. 1
- 134) 平野宗夫・古屋慶一・原田民司郎 : 雲仙・水無川における土石流災害の特性, 自然災

- 害科学研究西部地区部会報, 第17号, pp.16-23, 1994.1
- 135) 荒生公雄・中根勝重・藤吉康志・武田喬男: 雲仙岳に大規模土石流を発生させた1993年4月28日の降雨, 自然災害科学研究西部地区部会報, 第17号, pp.24-33, 1994.1
- 136) 高橋和雄・荒巻博志: 火山活動に対応した都市整備に関する調査-その1 降灰の影響-, 自然災害科学研究西部地区部会報, 第17号, pp.34-41, 1994.1
- 137) 磯 望・陶野郁雄・遠藤邦彦: カップで捉えた火砕サージ堆積物-1993年6月23日雲仙普賢岳火砕流-, 西南学院大学児童教育学論文集, 第20号, 第2巻, pp.55-68, 1994.2
- 138) 高橋和雄・荒巻博志: 火山活動に対応した都市整備に関する研究-その2 市民アンケート調査-, 自然災害科学研究西部地区部会報, 第18号, pp.24-32, 1994.3
- 139) 田中良和・橋本武志・増田秀晴・吉川 慎・大学合同観測班: 雲仙火山噴火にともなう地磁気変化(1991-1993), 京都大学防災研究所年報, 第37号, B-1, pp.193-206, 1994.4
- 140) 松本光朗・田内裕之・栗屋善雄: 雲仙普賢岳噴火にともなう森林被害-1992年までの状況と変化-, 新砂防, Vol.47, No.1, pp.21-29, 1994.5
- 141) 小橋澄治・水山高久: 雲仙火砕流による中尾川上流部の地形変化, 新砂防, Vol.47, No.1, pp.43-46, 1994.5
- 142) 小橋澄治・水山高久・小杉賢一朗・ヘンドロヤント: 雲仙火山における降下堆積物の浸透特性, 新砂防, Vol.47, No.1, pp.47-50, 1994.5
- 143) 松井宗広: 雲仙普賢岳における無人化施工について, 新砂防, Vol.47, No.1, pp.51-53, 1994.5
- 144) 後藤恵之輔・全 炳徳・伊崎博明: 雲仙・普賢岳土石流による有明海汚染の衛星リモートセンシング調査, 火山工学シンポジウム-火山工学の確立を目指して-発表論文集, pp.15-20, 1994.7
- 145) 後藤恵之輔・全 炳徳・阿部圭悟: 衛星データを用いた雲仙・普賢岳噴火による被災域の経時変化, 火山工学シンポジウム-火山工学の確立を目指して-発表論文集, pp.21-28, 1994.7
- 146) 岩元 賢・丸田源二: 火山地帯における土砂災害の予測と避難対策に関する研究-雲仙普賢岳災害と消防防災計画-, 火山工学シンポジウム-火山工学の確立を目指して-発表論文集, pp.29-36, 1994.7
- 147) 後藤恵之輔・杉山和一・全 炳徳: 眉山土石流の衛星リモートセンシングによる流路追跡と防止対策の検討, 火山工学シンポジウム-火山工学の確立を目指して-発表論文集, pp.53-58, 1994.7
- 148) 後藤恵之輔・福田信博・高木浩徳: 1991年9月15日大火砕流による大野木場小学校の被災とその後から学ぶ教訓, 火山工学シンポジウム-火山工学の確立を目指して-発表論文集, pp.59-64, 1994.7
- 149) 高橋和雄・荒巻博志: 火山活動に対応した都市整備基盤に関する調査-島原市を事例

- として－，火山工学シンポジウム－火山工学の確立を目指して－発表論文集，
pp. 73-78, 1994. 7
- 150) 高橋和雄・鎌田智之・阿比留勝吾：雲仙普賢岳の火山災害の復興に関する調査，火山工学シンポジウム－火山工学の確立を目指して－発表論文集，pp. 79-86, 1994. 7
- 151) 後藤恵之輔・山中 稔・杉山和一・伊崎博明・徳永 豊・川崎喜孝：火山性堆積物の有効利用に向けての物理試験，C B R 試験および固化実験，火山工学シンポジウム－火山工学の確立を目指して－発表論文集，pp. 87-92, 1994. 7
- 152) 吉野文雄・二階堂義則・杉浦幸彦・田中規夫・竹森史郎・原 邦彦・吉元隆明：雲仙岳における X バンドレーダーの適用，河川情報研究，No. 2, pp. 43-50, 1994. 7
- 153) 岩元 賢：雲仙眉山地区における土砂流出と防災対策に関する研究－1993年の土砂災害の事例－，西日本工業大学地盤工学研究所報告，No. 10, pp. 15-26, 1994. 8
- 154) Uhira, K. and Yamasato, H. : Source mechanism of seismic waves excited by pyroclastic flows observed at Unzen volcano, Japan, JOURNAL OF GEOPHYSICAL RESEARCH, Vol. 99, No. B-9, pp. 17, 757-17, 773, 1994. 9
- 155) 馬越孝道・清水 洋・松尾紉道：精度の良い震源分布から推定した1990-94年普賢岳噴火活動のマグマ上昇経路，火山，第39巻，第5号，pp. 223-235, 1994. 10
- 156) 平野宗夫：雲仙岳の火山活動による土石流，地質と調査，第4号，pp. 10-15, 1994. 12
- 157) 宮入興一：災害対策と地方財政運営－雲仙火山災害と県レベルの財政運営の対応－，経営と経済，第74巻，第3号，pp. 1-65, 1994. 12
- 158) 鎌田泰彦：雲仙・普賢岳噴火活動年表 2 (1992年4月-1994年3月)，長崎県地質学会誌，第57号，1994
- 159) Nakatsuka, T. : Aeromagnetic Anomalies over the Area of Unzendake Volcano, J. Geomag. Geoelectr, Vol. 46, pp. 529-540, 1994
- 160) Takashima, I. and Watanabe, K. : Thermoluminescence Age Determination of Lava Flows / Domes and Collapsed Materials at Unzen Volcano, SW Japan, 火山, Vol. 39, pp. 1-12, 1994
- 161) 馬越孝道・清水 洋・松尾紉道：精度のよい震源分布から推定した1990-94年普賢岳噴火活動のマグマ上昇経路，火山，第39巻，第5号，pp. 223-235, 1994
- 162) 山下祐介：長期災害と地域社会－長崎県島原市の事例から－，社会分析，第21巻，pp. 109-123, 1994
- 163) 橋本武志・田中良和・須藤靖明：火山地帯における自然電位観測－雲仙火山の場合－，京都大学防災研究所年報，第37号，B-1，pp. 183-191, 1994
- 164) 佐藤博明・清水 洋・中田節也・大見士朗：地溝幅が活火山付近で狭くなる現象について：雲仙－島原地溝の場合－，地学雑誌，Vol. 103, No. 5, pp. 471-478, 1994
- 165) 後藤章夫・大島弘光・西田泰典・岡田 弘：雲仙岳普賢岳のドーム溶岩及び噴出物の粘性係数測定，火山，第39巻，第6号，pp. 267-271, 1994
- 166) Ohba, T., Hirabayashi, J. and Yoshida, M. : Equilibrium temperature and redoxstate of volcanic gas at Unzen volcano, Japan, Journal of Volcanology and Geothermal Research,

Vol. 60, pp. 263-272, 1994

- 167) 高橋和雄：火山と共生できる島原市の基礎的基盤の整備に関する調査 第1報－防災施設－，長崎大学工学部研究報告，第25巻，第44号，pp. 51-57, 1995. 1
- 168) 高橋和雄：火山と共生できる島原市の基礎的基盤の整備に関する調査 第2報－基礎的基盤－，長崎大学工学部研究報告，第25巻，第44号，pp. 59-69, 1995. 1
- 169) 池谷 浩：雲仙水無川における流出土砂量推定方法，新砂防，Vol. 47, No. 5, pp. 36-42, 1995. 1
- 170) Nakada, S., Miyake, Y., Sato, H., Oshima, O. and Fujinawa, A. : Endogenous growth of dacite dome at Unzen volcano (Japan), 1993-1994, *Geology*, Vol. 23, No. 2, pp. 157-160, 1995. 2
- 171) Hashimoto, T. and Tanaka, Y. : A Large Self-potential Anomaly on Unzen Volcano, Shimabara Peninsula, Kyushu Island, Japan, *Geophysical Research Letters*, Vol. 22, No. 3, pp. 191-194, 1995. 2
- 172) Nakada, S. and Motomura, Y. : Manner of magma ascent at Unzen Volcano (Japan), *GEOPHYSICAL RESEARCH LETTERS*, Vol. 22, No. 5, pp. 567-570, 1995. 3
- 173) 太田保之・荒木憲一・川崎ナヲミ・中根允文・三根真理子・本田純久：雲仙・普賢岳噴火災害による避難住民の精神医学的問題に関する研究－General Health Questionnaire (GHQ-30)の因子分析より－，*日本社会精神医学会雑誌*，第3巻，2号，pp. 109-129, 1995. 3
- 174) 川原恵一郎・平野宗夫・森山聡之：ニューラルネットワークによる雲仙・水無川の流出土砂量の推算，*自然災害西部地区部会報・論文集*，第19号，pp. 46-54, 1995. 3
- 175) 高橋和雄・藤井 真：火山災害下における島原市の振興計画策定に関する調査，*自然災害西部地区部会報・論文集*，第19号，pp. 77-82, 1995. 3
- 176) 荒木憲一：雲仙・普賢岳噴火災害による避難住民に対する精神保健活動－精神科医による危機介入－，*精神神経学雑誌*，第97巻，第6号，pp. 430-444, 1995. 6
- 177) Hirabayashi, J., Ohba, T., Nogami, K. and Yoshida, M. : Discharge rate of SO₂ from Unzen volcano, Kyushu, Japan, *GEOPHYSICAL RESEARCH LETTERS*, Vol. 22, No. 13, pp. 1709-1712, 1995. 7
- 178) 池谷 浩・ヘンドロヤント・小杉賢一朗・水山高久：火山噴出物の被覆による浸透能の減少－雲仙における比較試験－，*新砂防*，Vol. 48, No. 2, pp. 22-26, 1995. 7
- 179) Iwamoto, M. K. and Chikushi, J. : An Estimation for Debris Discharge in Active Volcanic Area -Unzen Volcano in Japan-, *Proceedings of the International Sabo Symposium*, pp. 23-30, 1995. 8
- 180) Chikushi, J. and Iwamoto, M. K. : Surface Flow Simulation Considering Soil Sealing Effect, *Proceedings of the International Sabo Symposium*, pp. 369-376, 1995. 8
- 181) 太田保之：長期避難住民に対するメンタルヘルス－雲仙・普賢岳噴火災害の場合－，*保健の科学*，第37巻，第10号，pp. 684-688, 1995. 10

- 182) 中田節也：雲仙火山のマグマはどこからきたか，科学，Vol. 65, No. 10, pp. 686-691, 1995. 10.
- 183) 荒木憲一・川崎ナヲミ・太田保之：災害精神保健システムと精神科医の役割－普賢岳噴火災害後の精神保健活動を通して－，臨床精神医学，第24巻，第12号，pp. 1557-1565, 1995. 12
- 184) 川崎ナヲミ・荒木憲一・太田保之：普賢岳噴火災害後に実施された精神保健援助諸施策について，臨床精神医学，第24巻，第12号，pp. 1605-1613, 1995. 12
- 185) Tanaka, Y. : Volcano Magnetic Effects on the Unzen Volcano (1990-1992), J. Geomag. Geoelectr, Vol. 47, pp. 325-336, 1995
- 186) 西 潔・石原和弘・加茂幸介・小野博尉・森 濟：GPS測量による雲仙火山のマグマ溜りの推定，火山，第40巻，pp. 43-51, 1995
- 187) 石川芳治・山田 孝：構造物に作用する火砕流流体力，土木技術資料，Vol. 37-1, pp. 44-51, 1995
- 188) 浦井 稔・磯部一洋：夜間ランドサットデータによる雲仙火山の表面温度の推移日本リモートセンシング学会誌，Vol. 15, No. 1, pp. 3-15, 1995
- 189) Ohmi, S. and Lees, M. J. : Three-dimensional P-and-S wave velocity structure below Unzen volcano, Journal of Volcanology and Geothermal Research, Vol. 65, pp. 1-26, 1995
- 190) 大野希一・遠藤邦彦・宮原智哉・陶野郁雄・磯 望：雲仙岳1992年噴火における火山豆石の生成条件，火山，第40巻，第1号，pp. 1-12, 1995
- 191) Hashimoto, T., Yamasato, H., Uhira, K. and Goto, K. : Coda-Q-Esli t mated from Earthquakes around Unzendake Volcano, Bull. Volcanol, Soc, Japan, Vol. 40, No. 2, pp. 83-89, 1995
- 192) Uhira, K, T., Yamasato, H., Hashimoto, T., Fukui, K. and Takeo, M. : Source Mechanism of Low-frequency Seismic Events at Unzen Volcano, Kyushu, Japan, Bull. Volcanol, Soc, Japan, Vol. 40, No. 5, pp. 311-328, 1995
- 193) Ohmi, S. and Lees, M. J. : Three-dimensional P-and-S wave velocity structure below Unzen volcano, Journal of Volcanology and Geothermal Research, Vol. 65, pp. 1-26, 1995
- 194) 高橋和雄・藤井 真：長期化・大規模化した雲仙普賢岳の火山災害における道路の被害と復旧，長崎大学工学部研究報告，第26巻，第46号，pp. 63-74, 1996. 1
- 195) 高橋和雄・藤井 真：雲仙普賢岳の火山災害を教訓とした火山活動に対応した防災施設・都市整備に関する研究，第26巻，第46号，pp. 75-84, 1996. 1
- 196) 建設省九州地方建設局雲仙復興工事事務所：雲仙普賢岳火山噴火災害－雲仙普賢岳直轄火山砂防事業－，新砂防，Vol. 48, No. 5, pp. 39-44, 1996. 1
- 197) 磯 望・陶野郁雄・遠藤邦彦：雲仙普賢岳1990年-1995年噴火に伴う降下火山灰層，西南学院大学児童教育学論集，第22巻，第2号，pp. 75-90, 1996. 2
- 198) 高橋和雄・藤井 真：雲仙普賢岳の火山災害におけるライフラインの被害と復旧に関する調査，自然災害科学研究西部地区部会報，第20号，pp. 42-50, 1996. 3
- 199) 平野宗夫・川原恵一郎：雲仙・水無川における土石流流出特性とその変化，自然災害

- 科学研究西部地区部会報, 第20号, pp. 51-56, 1996. 3
- 200) 川原恵一郎・平野宗夫・森山聡之: 雲仙・水無川における土石流流出解析, 自然災害科学研究西部地区部会報, 第20号, pp. 71-75, 1996. 3
- 201) 恩田邦彦・橋本晴行・寺中孝司・平野宗夫: 雲仙・水無川における小規模土石流の再現計算, 自然災害科学研究西部地区部会報, 第20号, pp. 76-83, 1996. 3
- 202) 高橋和雄・藤井 真・伊藤雅尚: 島原市の自主防災組織の現状と課題, 自然災害科学研究西部地区部会報, 第20号, pp. 92-102, 1996. 3
- 203) 高橋和雄・藤井 真: 雲仙普賢岳の噴火活動による降灰の影響およびその対策に関する研究, 平成7年度大学院重点特別経費一研究科共同研究経費一 地球規模の酸性雨等環境問題が日本西部地域に及ぼす影響評価に関する共同研究, pp. 77-91, 1996. 3
- 204) 後藤恵之輔・全 炳徳・長田幸市: 人工衛星データを用いた雲仙普賢岳と眉山の植生回復予測, 平成7年度大学院重点特別経費一研究科共同研究経費一 地球規模の酸性雨等環境問題が日本西部地域に及ぼす影響評価に関する共同研究, pp. 93-101, 1996. 3
- 205) 横田尚俊: 災害からの復旧・復興過程と地域社会, 社会分析, 23号, pp. 45-58, 1996. 3
- 206) 三浦 研・牧 紀男・小林正美: 雲仙岳災害に伴う生活拠点移動に関する研究一自然災害を起因とする環境移行研究一, 京都大学防災研究所年報, 第38号, B-2, pp. 127-141, 1996. 4
- 207) 小橋澄治: Auto-3Dによる空中写真図化と微地形判読調査(平成6年度), 雲仙火山砂防研究報告, 第2号, pp. 8-11, 1996. 5
- 208) 小橋澄治・水山高久: 地形変動状況の把握(平成6年度), 雲仙火山砂防研究報告, 第2号, pp. 12-18, 1996. 5
- 209) 小橋澄治・水山高久: 流出土砂量の予測, 雲仙火山砂防研究報告, 第2号, pp. 19-21, 1996. 5
- 210) 西田顕郎・水山高久: Auto-3Dによる地形変動状況の判読・解析(平成7年度), 雲仙火山砂防研究報告, 第2号, pp. 22-26, 1996. 5
- 211) 平野宗夫・川原恵一郎: 雲仙・水無川における土石流の発生限界と流出土砂量(第2報), 雲仙火山砂防研究報告, 第2号, pp. 52-58, 1996. 5
- 212) 安養寺信夫・伊藤英之・尾関信幸: 雲仙普賢岳噴火による火山砕屑物の堆積形態, 雲仙火山砂防研究報告, 第2号, pp. 59-64, 1996. 5
- 213) 松井宗広・坂山敏二・三上幸三: 植生の被害と自然回復に関する調査, 雲仙火山砂防研究報告, 第2号, pp. 71-79, 1996. 5
- 214) 恩田裕一・竹中千里・水山高久: 雲仙火山灰が浸透能低下を引き起こす原因, 砂防学会誌, Vol. 49, No. 1, pp. 25-30, 1996. 5
- 215) 石川芳治・山田 孝・千葉達朗: 雲仙普賢岳噴火に伴う溶岩流出及び火砕流による土砂量と地形変化, 砂防学会誌, Vol. 49, No. 1, pp. 38-44, 1996. 5
- 216) 松井宗広・城ヶ崎正人: C. S. G. 工法を用いた仮設導流堤の施工について, 砂防学会誌, Vol. 49, No. 1, pp. 45-48, 1996. 5

- 217) 高橋和雄・藤井 真：長期化した雲仙火山災害の復興・振興計画に関するアンケート調査，自然災害科学，Vol.15，No.2，pp.139-150，1996.7
- 218) 石川芳治・矢澤昭夫・矢島重美・井原邦明・富士代悟・安養寺信夫・高橋宏造：火砕流堆積土砂を用いたソイルセメントの性質及び施工法に関する現地試験，砂防学会誌，Vol.49，No.2，pp.28-34，1996.7
- 219) 藤井理恵・磯 望：雲仙火山の寛政噴火と平成噴火の火山活動履歴の比較，西南学院大学児童教育学論集，第23巻，第1号，pp.65-133，1996.8
- 220) 西田顕郎・小橋澄治・水山高久：雲仙普賢岳の土砂流出域における堆積物の浸透能の変化，砂防学会誌，Vol.49，No.1，pp.49-53，1996.5
- 221) 高橋和雄・藤井 真：長期化した雲仙火山災害の復興・振興計画に関するアンケート調査，自然災害科学，第15巻，第2号，pp.139-150，1996.8
- 222) 寺本行芳・地頭菌隆・下川悦郎・永田 治：雲仙普賢岳における土石流・出水の観測砂防学会誌，Vol.49，No.3，pp.28-32，1996.9
- 223) 地頭菌隆・下川悦郎・寺本行芳・永田 治：雲仙普賢岳周辺斜面における火山灰の分布と浸透能，砂防学会誌，Vol.49，No.3，pp.33-36，1996.9
- 224) 高橋和雄・藤井 真：長期化・大規模化した雲仙普賢岳の火山災害におけるライフラインの被害と復旧に関する調査，土木学会論文集，No.549/I-37，pp.261-276，1996.10
- 225) 高橋和雄・中村百合・清水幸徳：長期化した雲仙普賢岳の火山災害における住環境管理，第1回都市直下地震災害総合シンポジウム論文集，pp.315-318，1996.11
- 226) Iwamoto, M. K. : Prevention of Disasters Caused by Debris Flows at Unzen Volcano, Japan, Geomorphic Hazards Edited by O.Slaymaker, John Wiley & Sons Ltd, pp.95-110, 1996
- 227) 太田一也：雲仙火山の噴火活動を振り返って，地熱，Vol.33，No.4，pp.25-41，1996
- 228) 馬越孝道・清水 洋・松尾紉道：地震活動からみた雲仙普賢岳のマグマ供給システム，月刊地球/号外，No.15，pp.70-75，1996
- 229) 高木康宏・江原幸雄：雲仙火山下の熱構造，地熱，Vol.33，No.4，pp.12-24，1996
- 230) 高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害における道路橋および鉄道橋の被害と復旧，長崎大学工学部研究報告，第27巻，第48号，pp.101-105，1997.1
- 231) 地頭菌隆・永田 治・寺本行芳・下川悦郎：火砕流堆積物および火山灰に覆われた雲仙普賢岳山腹斜面における表面流出，砂防学会誌，Vol.49，No.5，pp.42-48，1997.1
- 232) 高橋和雄・藤井 真：雲仙普賢岳の噴火活動による降灰の地域への影響およびその対策に関する調査，自然災害科学，Vol.15，No.4，pp.253-267，1997.2
- 233) 高橋和雄・藤井 真・伊藤雅尚：噴火災害下における島原市の自主防災組織の現状と課題，自然災害科学，Vol.15，No.4，pp.269-285，1997.2
- 234) 磯 望・陶野郁雄・遠藤邦彦・藤井理恵・池永絹代：雲仙普賢岳噴火に伴う火砕流堆積地形とその変化，西南学院大学児童教育学論集，第23巻，第2号，pp.147-162，1997.2
- 235) 高橋和雄・清水幸徳・中村百合：雲仙普賢岳の火山災害における応急仮設住宅の住

- 環境管理, 自然災害西部地区部会報・研究論文集, 第21号, pp.1-12, 1997.3
- 236) 高橋和雄・原野安弘・藤井 真: 雲仙普賢岳の火山災害における通勤・物流調査, 自然災害西部地区部会報・研究論文集, 第21号, pp.13-22, 1997.3
- 237) 高橋和雄・藤井 真: 雲仙普賢岳の火山災害による観光被害とその復興対策, 自然災害西部地区部会報・研究論文集, 第21号, pp.23-31, 1997.3
- 238) 高橋和雄・藤井 真: 雲仙普賢岳の火山災害の被災地の本復興計画の策定について, 自然災害西部地区部会報・研究論文集, 第21号, pp.32-40, 1997.3
- 239) 多川博章・橋本晴行・平野宗夫: 雲仙水無川における土石流の実測ハイドログラフを用いた河床変動計算, 自然災害西部地区部会報・研究論文集, 第21号, pp.41-50, 1997.3
- 240) 高橋和雄・藤井 真: 火山災害危険区域における立入制限, 都市施設の管理および防災工事を巡る諸問題, 土木学会安全問題討論会'97研究論文集, pp.49-60, 1997.3
- 241) 荒生公雄・中根重勝・岩崎博之・藤吉康志・武田喬男: 雲仙岳に大規模な土石流を発生させた豪雨の特徴, 自然災害科学, Vol.16, No1, pp.27-40, 1997.5
- 242) 高橋和雄・藤井 真: 長期化・大規模化した雲仙普賢岳の火山災害における道路・鉄道の被害と復旧, 土木学会論文集, No.567/VI-35, pp.1-17, 1997.6
- 243) 高橋和雄・藤井 真: 長期化・大規模化した雲仙普賢岳の火山災害を教訓とした防災施設および都市基盤の整備に関する研究, 土木学会論文集, No.567/VI-35, pp.19-32, 1997.6
- 244) 高橋和雄・藤井 真: 雲仙普賢岳の火山災害における情報伝達および避難対策, 土木学会論文集, No.567/VI-35, pp.33-52, 1997.6
- 245) 高橋和雄・藤井 真: 雲仙普賢岳の火山災害における被災者対策に関する調査研究, 土木学会論文集, No.567/VI-35, pp.53-67, 1997.6
- 246) 高橋和雄, 藤井 真: 雲仙普賢岳の火山災害における被災者対策に関する調査研究, 土木学会論文集, No.567, VI-35, pp.53-67, 1997.6
- 247) 高橋和雄・藤井 真・原野安弘: 雲仙普賢岳の火山災害における通行止め時の物流調査, 長崎大学工学部研究報告, Vol.27, No.49, pp.297-303, 1997.7
- 248) 高橋和雄・藤井 真・原野安弘: 雲仙普賢岳の火山災害における通行止め時の通勤動態調査, 長崎大学工学部研究報告, Vol.27, No.49, pp.305-311, 1997.7
- 249) 高橋和雄・藤井 真・原野安弘: 雲仙普賢岳の火山災害における通行止め時の物流調査, 長崎大学工学部研究報告, 第27巻, 第49号, pp.297-303, 1997.7
- 250) 高橋和雄・藤井 真: 火山災害危険区域における立入制限, 都市施設の管理および防災工事を巡る諸問題(補足), 土木学会安全問題討論会'97報告集, p.39, 1997.8
- 251) 寺本行芳・地頭菌隆・下川悦郎・安養寺信夫: 雲仙水無川流域における流出土砂量の経年変化, 砂防学会誌, Vol.50, No.3, pp.35-39, 1997.9
- 252) 高橋和雄・藤井 真: 雲仙普賢岳火山災害の被災地の災害復興・振興計画策定の過程と市民の意識に関する調査報告, 土木学会論文集, No.576/IV-37, pp.83-99, 1997.10

- 253) 高橋和雄・藤井 真：雲仙普賢岳の火山災害における交通の途絶が地域に及ぼした影響調査，土木学会論文集，No.576/IV-37，pp.111-121，1997.10
- 254) 中村百合・高橋和雄・清水幸徳：応急仮設住宅を長期間使用する際の住環境管理，第2回都市直下地震災害総合シンポジウム論文集，pp.379-382，1997.11
- 255) 太田一也：1990-1995年雲仙岳噴火活動の予知と危機管理支援，火山，第42巻，第1号，pp.61-74，1997
- 256) Hashimoto, T. : Self-Potential Changes and Subsurface Hydrothermal Activity Accompanying the 1990-1995 Eruption of Unzen volcano, J. Geomag, Geoelectr, vol. 49, pp. 977-993, 1997
- 257) 八木原 寛・清水 洋：やや遠地地震を用いた雲仙火山の3次元P波速度構造，月刊地球，号外/No17，pp.112-116，1997
- 258) Maeda, M., Yomogida, K., Umakoshi, K., Okamatsu, N., Fujii, Y. and Matsushima, T. : Broadband Seismic Observation of 1995 Explosion Experiment in Unzen Volcano, Bull. Volcanol. Soc. Japan, Vol. 42, No. 5, pp. 331-343, 1997
- 259) 小坂丈予・山本雅弘・黒崎 誠・吉田 稔・野上健治・平林順一：雲仙温泉地域に噴出するガス成分の変化と普賢岳の噴火，温泉科学，第47巻，pp.22-28，1997
- 260) 山本晴彦・早川誠而・鈴木義則・平山耕三：1990年雲仙・普賢岳噴火による農業災害の概要と復旧状況，自然災害科学，Vol.16, No4, pp.261-275，1998.2
- 261) 太田保之・荒木憲一・川崎ナヲミ・中根允文・竹本泰一郎・本田純久・三根真理子：日社精医誌，No6，pp.197-214，1998.2
- 262) Yamasato, H. Kitagawa, S., and Komiya, M. : Effect of rainfall on dacitic lava dome collapse at Unzen volcano, Japan, 気象研究所研究報告，第48号，第3号，pp.73-78，1998.2
- 263) 寺本行芳・下川悦郎・地頭菌隆・永田 治：雲仙普賢岳における土石流の観測，自然災害西部地区部会報・研究論文集，第22号，pp.127-132，1998.3
- 264) 波多江憲治・渡辺公一郎・渡辺一徳・檀原 徹・本村慶信・田口幸洋：火山活動初期噴出物を用いた噴火災害の予測-1990-91年雲仙普賢岳噴火活動におけるケーススタディ，自然災害西部地区部会報・研究論文集，第22号，pp.203-208，1998.3
- 265) 後藤恵之輔・全 炳徳・小野英一・金 應南：島原半島のGISデータに基づく雲仙火山災害の評価について，自然災害西部地区部会報・研究論文集，第22号，pp.209-212，1998.3
- 266) 高橋和雄・塩津雅子・西村寛史：島原市の復興まちづくりに関する調査，自然災害西部地区部会報・研究論文集，第22号，pp.213-218，1998.3
- 267) 高橋和雄・西村寛史・塩津雅子：島原地域の本復興計画に関する調査，自然災害西部地区部会報・研究論文集，第22号，pp.219-224，1998.3
- 268) 高橋和雄・藤井 真・西村寛史：雲仙普賢岳の火山災害における橋梁の被害と復旧，土木学会論文集，No.591/I-43，pp.379-389，1998.4

- 269) 高橋和雄・中村百合・清水幸徳：雲仙普賢岳の火山災害における応急仮設住宅の建設の経過と住環境管理，土木学会論文集，No.604/IV-41，pp.85-98，1998.10
- 270) 金田昌治・岳尾弘洋・長谷川堯一・原田哲夫：雲仙・普賢岳の火砕流で被災した鉄筋コンクリート構造物（大野木場小学校）の調査報告，コンクリート工学年次論文報告集，Vol.20，No.1，pp.275-280，1998
- 271) 高橋和雄・木村拓郎・西村寛史・藤井 真：雲仙普賢岳の火砕流で被災した大野木場小学校被災校舎保存構想の策定に関する調査，土木学会論文集，No.612/I-46，pp.359-371，1999.1
- 272) 高橋和雄・木村拓郎・西村寛史・藤井 真：雲仙普賢岳の火砕流で被災した大野木場小学校被災校舎保存構想の策定に関する調査，土木学会論文集，No.612/I-46，pp.359-371，1999.1
- 273) 原田民司郎・平野宗夫・川原恵一郎：普賢岳の噴火活動の推移に伴う土石流流出特性の変化と予測，自然災害科学研究西部地区部会報研究論文集，第23号，pp.143-148，1999.3
- 274) 高橋和雄・伊東義信・西村寛史：雲仙普賢岳の火山災害で被災した深江町の復興・振興に関する調査，自然災害科学研究西部地区部会報研究論文集，第23号，pp.149-154，1999.3
- 275) 高橋和雄・西村寛史：水無川の土石流で被災した島原市安中三角地帯の嵩上げ事業と被災者の生活再建，自然災害科学研究西部地区部会報研究論文集，第23号，pp.155-160，1999.3
- 276) Nakada, S., Shimizu, H., and Ohta, K.: Overview of the 1990-1995 eruption at Unzen Volcano, Journal of volcanology and geothermal research, Vol. 89, Nos. 1-4, pp. 1-22, 1999. 4
- 277) Nishi, K., Ono, H. and Mori, H.: Global positioning system measurements of ground deformation caused by magma intrusion and lava discharge: the 1990-1995 eruption at Unzendake volcano, Kyushu, Japan, Journal of volcanology and geothermal research, Vol. 89, Nos. 1-4, pp. 23-34, 1999. 4
- 278) Kagiya, T. Utada, H. and Yamamoto, T.: Magma ascent beneath Unzen Volcano, SW Japan, deduced from the electrical resistivity structure, Journal of volcanology and geothermal research, Vol. 89, Nos. 1-4, pp. 35-42, 1999. 4
- 279) Yamashina, K. and Shimizu, H.: Crustal deformation in the mid-May 1991 crisis preceding the extrusion of a dacite lava dome at Unzen volcano, Japan, Journal of volcanology and geothermal research, Vol. 89, Nos. 1-4, pp. 43-55, 1999. 4
- 280) Kaneko, T. and Wooster, M. J.: Landsat infrared analysis of fumarole activity at Unzen Volcano: time-series comparison with gas and magma fluxes, Journal of volcanology and geothermal research, Vol. 89, Nos. 1-4, pp. 57-64, 1999. 4
- 281) Yamashina, K. and Matsushima, T.: Ground temperature change observed at Unzen Volcano

- associated with the 1990-1995 eruption, Journal of volcanology and geothermal research, Vol. 89, Nos.1-4, pp.65-71, 1999. 4
- 282) Yamashina, K., Matsushima, T. and Ohmi, S. : Volcanic deformation at Unzen, Japan, visualized by a time-differential stereoscopy, Journal of volcanology and geothermal research, Vol. 89, Nos.1-4, pp.73-80, 1999. 4
- 283) Hoshizumi, H., Uto, K. and Watanabe, K. : Geology and eruptive history of Unzen volcano, Shimabara Peninsula, Kyushu, SW Japan, Journal of volcanology and geothermal research, Vol. 89, Nos.1-4, pp.81-94, 1999. 4
- 284) Watanabe, K., Ono, K., Sakaguchi, K., Takada, A. and Hoshizumi, H. : Co-ignimbrite ash-fall deposits of the 1991 eruptions of Fugen-dake, Unzen Volcano, Japan, Journal of volcanology and geothermal research, Vol. 89, Nos.1-4, pp.95-112, 1999. 4
- 285) Watanabe, K., Danhara, T., Watanabe, K., Terai, K. and Yamashita, T. : Juvenile volcanic glass erupted before the appearance of the 1991 lava dome, Unzen volcano, Kyushu, Japan, Journal of volcanology and geothermal research, Vol. 89, Nos.1-4, pp.113-121, 1999. 4
- 286) Ui, T., Matsuwo, N., Sumita, M. and Fujinawa, A. : Generation of block and ash flows during the 1990-1995 eruption of Unzen Volcano, Japan, journal of volcanology and geothermal research, Vol. 89, Nos.1-4, pp.123-137, 1999. 4
- 287) Miyabuchi, Y. : Deposits associated with the 1990-1995 eruption of Unzen volcano, Japan, Journal of volcanology and geothermal research, Vol. 89, Nos.1-4, pp.139-158, 1999. 4
- 288) Fujii, T. and Nakada, S. : The 15 September 1991 pyroclastic flows at Unzen Volcano (Japan): a flow model for associated ash-cloud surges, Journal of volcanology and geothermal research, Vol. 89, Nos.1-4, pp.159-172, 1999. 4
- 289) Nakada, S., Motomura, Y. : Petrology of the 1991-1995 eruption at Unzen: effusion and groundmass crystallization, Journal of volcanology geothermal research, Vol. 89, Nos.1-4, pp.173-196, 1999. 4
- 290) Sato, H., Nakada, S., Fujii, T., Nakamura, M. and Kamata, K. S. : Groundmassargasite in the 1991-1995 dacite of Unzen volcano phase stability and experiments and volcanological implications, Journal of volcanology and geothermal research, Vol. 89, Nos.1-4, pp.197-212, 1999. 4
- 291) Venezky, D. Y. and Rutherford, M. J. : Petrology and Fe-Ti oxide reequilibration of the 1991 Mount Unzen mixed magma, Journal of volcanology and geothermal research, Vol. 89, Nos.1-4, pp.213-230, 1999. 4
- 292) Kusakabe, M., Sato, H., Nakada, S. and Kitamura, T. : Water contents and hydrogen isotopic ratios of rocks and minerals from the 1991 eruption of Unzen volcano, Japan, Journal of volcanology and geothermal research, Vol. 89, Nos.1-4, pp.231-242, 1999. 4

- 293) Chang, H. C., Nakada, S., Shieh, Y. N. and DePaolo, D. J. : The Sr, Nd and O isotopic studies of the 1991-1995 eruption at Unzen, Japan, *Journal of volcanology and geothermal research*, Vol. 89, Nos. 1-4, pp. 243-253, 1999. 4
- 294) Miller, T. P., Chertkoff, D. G., Eichelberger, J. C. and Coombs, M. L. : Mount Dutton volcano, Alaska: Aleutian arc analog to Unzen volcano, Japan, *Journal of volcanology and geothermal research*, Vol. 89, Nos. 1-4, pp. 275-301, 1999. 4
- 295) Yoshida, S. and Koyaguchi, T. : A new regime of volcanic eruption due to the relative motion between liquid and gas, *Journal of volcanology and geothermal research*, Vol. 89, Nos. 1-4, pp. 303-315, 1999. 4
- 296) 高橋和雄・塩津雅子・西村寛史：アンケート調査に見る島原市と深江町の地域差の分析，長崎大学工学部研究報告，第29巻，第53号，pp. 281-288，1999. 7
- 297) 高橋和雄・藤井 真・原野安弘・西村寛史：雲仙普賢岳の火山災害における交通途絶が物流に及ぼした影響，*自然災害科学*，Vol. 18, No. 2, pp. 183-190, 1999. 8
- 298) 高橋和雄：雲仙普賢岳の噴火災害の災害対策の教訓をシステムに，西部地区自然災害資料センターニュース，No. 21, pp. 18-20, 1999. 9
- 299) 宮入興一：自然災害における被災者災害保障と財源問題－雲仙火山災害と阪神・淡路大震災との比較視点から－，*経営と経済*，第79巻，第2号，pp. 115-166，1999. 9
- 300) Ui, T., Matsuwo, N., Sumita, M. and Fujinawa, A. : Generation of block and ashflows during the 1990-1995 eruption of Unzen Volcano, Japan, *Journal of volcanology and geothermal of research*, pp. 123-137, 1999
- 301) 高橋和雄・木村拓郎・西村寛史：島原市安中三角地帯嵩上げ挙げ事業と被災者の生活再建に関する調査，*土木学会論文集*，No. 644/VI-6, pp. 25-39, 2000. 3
- 302) 宇都浩三・中田節也：雲仙火山科学掘削プロジェクトの概要，月刊地球 総特集雲仙火山科学掘削－計画の目的と意義－，Vol. 22, No. 4, pp. 215-218, 2000. 4
- 303) 東宮昭彦・小屋口剛博・高田 亮：火道の形状と形成過程およびその噴火時のふるまい，月刊地球 総特集雲仙火山科学掘削－計画の目的と意義－，Vol. 22, No. 4, pp. 219-224, 2000. 4
- 304) 篠原宏志：火道におけるマグマの脱ガス機構，月刊地球 総特集雲仙火山科学掘削－計画の目的と意義－，Vol. 22, No. 4, pp. 225-230, 2000. 4
- 305) 風早康平：火山体の地下水とマグマ活動－主に研究手法について－，月刊地球 総特集雲仙火山科学掘削－計画の目的と意義－，Vol. 22, No. 4, pp. 231-236, 2000. 4
- 306) 星住英夫・宇都浩三：雲仙火山の形成史，月刊地球 総特集雲仙火山科学掘削－計画の目的と意義－，Vol. 22, No. 4, pp. 237-245, 2000. 4
- 307) 宇都浩三・中田節也：雲仙火山および島原半島火山岩類のマグマ発達史，月刊地球 総特集雲仙火山科学掘削－計画の目的と意義－，Vol. 22, No. 4, pp. 246-251, 2000. 4
- 308) 鍵山恒臣・清水 洋：雲仙火山の物理構造，月刊地球 総特集雲仙火山科学掘削－計画の目的と意義－，Vol. 22, No. 4, pp. 252-257, 2000. 4

- 309) 中田節也・清水 洋：雲仙普賢岳噴火と地下モデル，月刊地球 総特集雲仙火山科学掘削－計画の目的と意義－，Vol.22, No. 4, pp.258-263, 2000.4
- 310) 佐久間澄夫・斎藤清次：雲仙火山火道掘削計画と掘削上の問題点，月刊地球 総特集雲仙火山科学掘削－計画の目的と意義－，Vol.22, No. 4, pp.264-268, 2000.4
- 311) 池田隆司・鶴川元雄・斎藤実篤：火山体科学掘削計画における孔内計測，月刊地球 総特集雲仙火山科学掘削－計画の目的と意義－，Vol.22, No. 4, pp.269-277, 2000.4
- 312) 中田節也・星住英夫・清水 洋：科学掘削によって期待される成果，月刊地球 総特集雲仙火山科学掘削－計画の目的と意義－，Vol.22, No. 4, pp.278-284, 2000.4
- 313) 高橋和雄・塩津雅子・西村寛史：雲仙普賢岳噴火で被災した島原市の復興に関する調査，自然災害科学，Vol.19, No.1, pp.31-44, 2000.5
- 314) 高橋和雄・藤井 真・西村寛史・塩津雅子：雲仙普賢岳の火山災害による観光被害とその復興対策，自然災害科学，Vol.19, No.1, pp.45-59, 2000.5
- 315) 高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害における砂防事業と地域復興の係りに関する研究（平成10,11年度河川整備基金助成事業報告書），工学部社会開発工学科土木構造学研究室，全53頁，2000.6
- 316) 高橋和雄・中村聖三・園田雅樹・大塚秀徳：島原市安中地区の復興・振興に関する調査，長崎大学工学部研究報告，第30巻，第55号，pp.237-246, 2000.7
- 317) 高橋和雄・伊東義信・西村寛史：雲仙普賢岳の火山災害で被災した深江町民の復興・振興に関する意識調査，自然災害科学，Vol.19, No.2, pp.169-176, 2000.8
- 318) 高橋和雄・西村寛史・塩津雅子・藤井 真・木村拓郎：噴火活動が終息した島原地域の本復興計画に関する市民の反応に関する調査，自然災害科学，Vol.19, No.2, pp.177-191, 2000.8
- 319) 高橋和雄：雲仙復興と砂防事業，小特集「雲仙・普賢岳噴火10周年」，砂防学会誌，Vol.53, No.4, pp.86-87, 2000.11
- 320) Matsushima,T. and Takagi,A. : GPS and EDM monitoring of Unzen volcano ground deformation, Earth, Planets and Space, Vol.52, No.11, pp.1015-1018, 2000
- 321) 高橋和雄・園田雅樹・大塚秀徳：島原市水無川流域の火山観光化施設における観光動態調査，自然災害科学研究西部地区部会報研究論文集，第25号，pp.113-116, 2001.2
- 322) 松木理一・高橋和雄・園田雅樹・井口敬介：島原市安中地区の復興・振興に関する調査題と方策，自然災害科学研究西部地区部会報研究論文集，第25号，pp.133-136, 2001.2
- 323) 井口敬介・高橋和雄・中村聖三：島原地域の火山観光化に向けての観光客・市民の意識調査，自然災害科学研究西部地区部会報研究論文集，第25号，pp.137-140, 2001.2
- 324) 高橋和雄：災害復振復興計画，特集記事 雲仙普賢岳の火山災害10年－火山災害がもたらしたもの，自然災害科学，Vol.20, No.1, pp.20-26, 2001.5
- 325) Umakoshi,K. Shimizu,H. and Matsuwo,N. : Volcano-tectonic seismicity at Unzen Volcano, Japan, 1985-1999, Journal, of volcanology and geothermalresearch 112, pp.117-131, 2001

- 326) 高橋和雄・中村聖三・松木理一：火山災害後における島原市の自主防災活動の活動と課題，長崎大学工学部研究報告，第32巻，第58号，pp.165-168，2002.1
- 327) 高橋和雄・井口敬介・中村聖三：噴火災害後における島原市の観光客の状況と火山観光化に関する観光客の反応，自然災害科学，Vol.20，No.4，pp.423-434，2002.2
- 328) 井口敬介・高橋和雄・中村聖三：島原地域の復興・振興に関する市民の受け取りに関する調査，自然災害科学研究西部地区部会報研究論文集，第26号，pp.17-20，2002.2
- 329) 相川浩二・高橋和雄・中村聖三：噴火終息後における島原市民の地域防災力に関するアンケート調査，自然災害科学研究西部地区部会報研究論文集，第26号，pp.21-24，2002.2
- 330) 清水 洋・松本 聡・植平賢司・松尾紉道・大西正純：雲仙火山における火道探査実験，月刊地球，Vol.24，pp.878-882，2002
- 331) 井口敬介・高橋和雄・中村聖三・木村拓郎：火山災害から復興した島原地域の振興と防災力の現状に関する調査，自然災害協議会西部地区部会報研究論文集，pp.41-44，2003.2
- 332) 富松正剛・高橋和雄・中村聖三・木村拓郎：雲仙における砂防指定地利活用に関するアンケート調査，自然災害協議会西部地区部会報研究論文集，pp.49-52，2003.2
- 333) 高橋和雄・其田智洋・中村聖三・井口敬介：復興期における深江町の復興・振興の現状と課題に関する町民の反応に関する調査，長崎大学工学部研究報告，第34巻，第62号，pp.111-117，2004.1
- 334) 高橋和雄・其田智洋・中村聖三・井口敬介：復興期における深江町の生活の現状と地域防災力に関する研究，長崎大学工学部研究報告，第34巻，第62号，pp.119-125，2004.1
- 335) 末吉龍也・高橋和雄・中村聖三・其田智洋：平成新山フィールドミュージアム構想の推進に関する観光客アンケート調査，自然災害研究協議会西部地区部会報研究論文集，第28号，pp.15-18，2004.2
- 336) 木村拓郎・高橋和雄・井口敬介・中村聖三：島原地域の復興・振興の現状と課題に館する市民の反応調査，自然災害科学，第22巻，第4号，pp.387-401，2004.3
- 337) 木村拓郎・高橋和雄・井口敬介・中村聖三：噴火終息後の島原市民の地域防災力に関するアンケート調査，自然災害科学，第22巻，第4号，pp.403-415，2004.3
- 338) 木村拓郎・高橋和雄：火山災害復興における住宅・集落再建に関する調査研究—島原・上木場地区をケースに一，自然災害科学，第23巻，第2号，pp.229-244，2004.8
- 339) 其田智洋・末吉龍也・高橋和雄・中村聖三：島原市安中三角地帯の住宅再建者の住環境評価に関する調査，自然災害研究協議会西部地区部会報研究論文集，第29号，pp.121-124，2005.2
- 340) 末吉龍也・其田智洋・高橋和雄・中村聖三：平成新山フィールドミュージアム拠点施設に関する観光動態調査，自然災害研究協議会西部地区部会報研究論文集，第29号，pp.125-128，2005.2
- 341) 木村拓郎・高橋和雄：島原市安中三角地帯嵩上げ事業に関する住民の合意形成過程に関する調査研究，土木学会論文集，No.786/IV-67，pp.145-155，2005.4
- 342) 其田智洋・高橋和雄・末吉龍也・中村聖三：島原市安中三角地帯の一体的整備の課題と住民の住民の住環境評価，土木構造・材料論文集，第21号，pp.111-118，2005.12
- 343) 木村拓郎・高橋和雄・永野智文・入山覚：災害復興における住宅及び集落再建対策の課題，土木構造・材料論文集，第21号，pp.119-127，2005.12
- 344) 中田節也・佐久間澄夫・宇都浩三・清水 洋：雲仙火道掘削の科学的成果の概要，地熱技術，

vol. 30, pp. 45-52, 2005

- 345) Nakada, S., Sakuma, S. Uto, K., Shimizu, H., Yoshimoto, M., Sugimoto, T., Kurokawa, M., Shimono, T., Goto, Y., Hoshizumi, H., Oguri, K., Nakai, S. and S. Noguchi: Real images and petrology of magmatic conduit: result of the conduit drilling at Unzen, Extended Abstract Volume, Unzen workshop 2005, pp. 15-16, 2005
- 346) 末吉龍也・其田智洋・高橋和雄・中村聖三：島原における火山観光に対する商工観光関係者の反応と評価，自然災害研究協議会西部地区部会報研究論文集，第30号，pp. 91-94，2006. 2
- 347) 其田智洋・高橋和雄・末吉龍也・中村聖三：火山災害で被災した雲仙における砂防指定地の利活用に関する調査，自然災害科学，第24巻，第4号，pp. 423-445，2006. 3
- 348) 其田智洋・高橋和雄・末吉龍也・中村聖三：島原地域の火山災害学習施設を利用した火山観光の推進と観光客の動態に関する調査，自然災害科学，第25巻，第2号，pp. 197-219，2006. 3
- 349) 其田智洋・高橋和雄・末吉龍也・中村聖三：噴火災害後の島原地域における観光支援策と商工観光業者の評価，土木構造・材料論文集，第22号，pp. 178-188，2006. 12
- 350) 高橋和雄：火山災害におけるリスク管理，安全問題研究論文集，第12号，pp. 17-22，2007. 11
- 351) 寺島健太・高橋和雄・中村聖三・松下英爾：雲仙普賢岳災害の復興評価に関するアンケート調査，自然災害科学研究西部地区部会報，第32号，pp. 101-104，2008. 2
- 352) 寺島健太・高橋和雄・中村聖三：長期・大規模噴火災害を受けた島原市安中地区住民の防災意識・復興評価に関する調査，同上，第32号，pp. 105-108，2008. 2
- 353) 山口真和・高橋和雄・中村聖三：雲仙普賢岳の火山災害から復興した島原市の地域づくりとジオパーク推進に関する調査，同上，第34号，pp. 49-52，2010. 2

3. 報告・その他

- 1) 田中邦一：雲仙岳 200年ぶりに噴火, 写真測量とリモートセンシング, Vol. 30, No. 1, pp. 2-, 1991. 2
- 2) 清水 洋：雲仙岳の1990噴火－地震活動の特徴－, WESTERN JAPAN NDIC NEWS No. 2, pp. 5-6, 1991. 2
- 3) 西野豊浩：雲仙岳 198年ぶりに噴火, 土木学会誌, Vol. 76, No. 6, pp. 20-21, 1991. 5
- 4) 古賀雅隆：雲仙の火砕流, 土石流に対する土木技術, 日経コンストラクション, 6月28日号, p. 117, 1991. 6
- 5) 建設省河川局防災課・砂防課：雲仙岳噴火, 河川, 第539号, pp. 134-135, 1991. 6
- 6) 鎌田泰彦：「雲仙岳の噴火活動」－過去と現在－, ロータリークラブ長崎南週報, Vol. 27, No. 47, pp. 1-3, 1991. 6
- 7) 金子元久：雲仙岳噴火に対する火山, 砂防対策, 砂防と治水, 第80号, pp. 39-41, 1991. 6
- 8) 松本聡子：島原署発雲仙「土石流」報告!, 警鼓, 第69巻, 平成3年6月号, pp. 82-83, 1991. 6
- 9) 高岡秀之：雲仙・火砕流で報道陣14人が犠牲に, 過剰な取材競争はなかったか?, マスコミ市民, No.274, pp. 2-7, 1991. 7
- 10) 大村東彼地区防衛協会：火砕流と戦った九日間, 琴の海, 第56号, 全6頁, 1991. 7. 1
- 11) 防衛弘済会九州支部：雲仙岳緊張いぜん続く, 鎮西, 第363号, 全12頁, 1991. 7. 25
- 12) 日本民間放送労働組合連合会：雲仙岳取材で何がどうだったのか, 民放労連, 第695, 1991. 7. 20
- 13) 松本聡子：島原署発雲仙「火砕流」報告!, 警鼓, 第69巻, 平成3年7月号, pp. 52-53, 1991. 7
- 14) 斎藤英二・渡辺和明・遠藤秀典・須藤 星住英夫：雲仙・普賢岳の光波測距(速報) 地質ニュース, 443号, p. 67, 1991. 7
- 15) ANN雲仙取材本部：雲仙・普賢岳火山活動取材の安全マニュアル, 全8頁, 1991. 7
- 16) 建設省河川局防災課災害対策調査室：雲仙の噴火, 河川, No.540, p. 60, 1991. 7
- 17) 石川芳治：土石流・火砕流の発生と被害, 河川, No.540, pp. 61-66, 1991. 7
- 18) 建設省河川局防災課災害対策調査室, 建設省河川局砂防部砂防課：雲仙岳噴火に対する対策, 河川, No.540, pp. 67-73, 1991. 7
- 19) 江口 満：総理は来た。しかし, 何も変わっていない, 長崎消息, Vol. 43, p. 1, 1991. 7
- 20) 近藤富彦：雲仙普賢岳緊急レポート みやまが豹変した, 長崎消息, Vol. 43, pp. 2-6, 1991. 7
- 21) 長崎消息編集部：ローカル新聞時評, 天災と人災のはざままで, 長崎消息, Vol. 43, p. 7, 1991. 7
- 22) 長崎消息編集部：火砕流が起きた日, 長崎消息, Vol. 43, pp. 8-9, 1991. 7
- 23) 太田一也：1990－1991年雲仙岳噴火活動概況, 地質学雑誌, 第97巻, 第7号, 口絵&

- pp. 1-3, 1991. 7
- 24) 内嶋善之助：「メッセージ」-普賢岳噴火によせる-, pp. 40-41, 1991. ありあけの歴史と風土 7月号, 1991. 7
 - 25) 江口 満：天皇も来た。しかし、依然状況は変わらない, 長崎消息, Vol. 44, p. 1, 1991. 8
 - 26) 川崎創馬・来海礼規・市丸 浩・森 泰逞・芦塚幸徳：特集 噴煙の中で 91年7月の島原, 長崎消息, Vol. 44, pp. 2-11, 1991. 8
 - 27) 田中考子・田崎さえ子・入江治美・市川ひとみ・木崎晴美・前山久美子・白倉久美子・平松栄子：揺らぐ-山が, 人々が, そして私達も-保健婦ノート, 長崎消息, Vol. 44, pp. 12-13, 1991. 8
 - 28) 長崎消息編集部：6月3日, あの日島原は, 長崎消息, Vol. 44, p. 14, 1991. 8
 - 29) 勝井智裕：島原に平和を取り戻すために今日も頑張っています, 長崎消, Vol. 44, pp. 15, 1991. 8
 - 30) 長崎消息編集部：ローカル新聞時評, 雲仙普賢岳災害報道はピークを過ぎたのか, 長崎消息, Vol. 44, p. 16, 1991. 8
 - 31) 東 一洋：雲仙岳噴火災害と農林業対策, 農政九州, (九州農政局), No.195, 夏号 pp. 24-25, 1991. 8
 - 32) 消防通信編集部：死者行方不明41人 雲仙・普賢岳で大火砕流 , 消防通信, 1991年8月号, pp. 14-26, 1991. 8
 - 33) 長崎放送：JNN取材団はその時…-平成3年6月3日雲仙・普賢岳大火砕流災害報告-, 長崎放送社報, 第676号, pp. 2-4, 1991. 8
 - 34) 全国消防協会：雲仙・普賢岳噴火災害概要, ほのお, 1991年8月号, pp. 9-10, 1991. 8
 - 35) 防災科学技術研究所：雲仙岳の噴火活動, 防災科学技術, No.68, pp. 44-47, 1991. 8
 - 36) 伊藤和明：雲仙岳火砕流災害①, 近代消防, Vol. 354, pp. 44-46, 1991. 8
 - 37) 田中康裕：雲仙岳大爆発-噴火活動と火砕流のメカニズム, 近代消防, Vol. 354, pp. 47-57, 1991. 8
 - 38) 伊藤和明：日本の火山災害史③・島原大変肥後迷惑, 近代消防, Vol. 354, pp. 58-61, 1991. 8
 - 39) 木村拓郎：「1991年雲仙岳噴火」を見て-避難所生活を考える-, 月刊消防, 1991年8月号, pp. 1-8, 1991. 8
 - 40) 吉村秀實：雲仙岳噴火災害が残したもの(1)-過小評価された火砕流-, 月刊消防, 1991年8月号, pp. 62-69, 1991. 8
 - 41) 松本聡子：島原署発「警衛警備」報告!, 警鼓, 第69巻, 平成3年8月号, pp. 52-53, 1991. 8
 - 42) 高橋和雄：'91雲仙岳噴火により大災害発生, 土木学会誌, Vol. 76, No. 9, pp. 33-36, 1991. 8
 - 43) 堀 鉄蔵・桐明桂一郎：試行錯誤の連続の中で, 新聞研究, No.481, pp. 11-14, 1991. 8
 - 44) 三原浩良：市民と共に, 市民の信頼を得て, 新聞研究, No.481, pp. 15-17, 1991. 8
 - 45) 近藤 汎：未知のものに迫る報道の使命, 新聞研究, No.481, pp. 18-19, 1991. 8
 - 46) 丸山重威：住民から問われているもの, 新聞研究, No.481, pp. 20-23, 1991. 8
 - 47) 雲仙災害取材本部：警戒心と危機管理を忘れずに, 新聞研究, No.481, pp. 24-26, 1991. 8

- 48) 金子武史：火砕流から逃れて，新聞研究，No.481，pp. 27-29，1991. 8
- 49) 高島肇久：守れなかった取材者の安全，新聞研究，No.481，pp. 30-32，1991. 8
- 50) 久木 保：「安全第一」が共通認識に，新聞研究，No.481，pp. 33-35，1991. 8
- 51) 石川一彦：ネットワーク取材団は情報交換で総力合を，新聞研究，No. 481，pp. 36-38，1991. 8
- 52) 椿 貞良：より正確，迅速な報道のために，新聞研究，No.481，pp. 39-41，1991. 8
- 53) 千田紘一：過ちを繰り返さないために，新聞研究，No.481，pp. 42-44，1991. 8
- 54) 柳川喜郎：雲仙岳噴火報道の問題点，新聞研究，No.481，pp. 45-49，1991. 8
- 55) 石黒重光：新聞写真に求められているもの，新聞研究，No.481，pp. 50-53，1991. 8
- 56) 島崎厚子：噴煙に覆われた島原から，婦人之友，第35巻，第8号，pp. 194-195，1991. 8
- 57) 大塚道男：雲仙火山の火山活動と地震活動 災害科学研究通信，No.43，pp. 6-10，1991. 8
- 58) 竹下敬司：雲仙岳火山災害について－土砂災害研究者の立場から－，災害科学研究通信，No.43，pp. 11-15，1991. 8
- 59) 宮地六美：雲仙”火砕流”に寄せて，災害科学研究通信，No.43，pp. 16-19，1991. 8
- 60) 中田節也・小林哲夫：雲仙岳平成3年噴火の降下火山灰中，本質物質とドーム溶岩の特徴，火山噴火予知連会報，第50号，pp. 77-82，1991. 8
- 61) 荒牧重雄：雲仙火山の噴火と火砕流，科学，Vol. 61，No. 8，pp. 495-498，1991. 8
- 62) 星住英夫・谷口政碩・須藤 茂・渡辺一徳・池辺伸一郎：雲仙火山1990年11月17日噴火の地質調査の概要，火山噴火予知連会報，Vol. 49，pp. 73-74，1991.
- 63) 松本成比：普賢岳災害，社報NCC，pp. 3-5，1991. 9
- 64) 「防災の日」特集，自然災害被害の防止に周到な備えを，自由新報，13-15面，1991. 9
- 65) 小野晃司・堀伸三郎・田中晃：現地で見た雲仙火山の火砕流，エルデ，No.601，pp. 2-6，1991. 9
- 66) 首藤次男：雲仙火山の火砕流を観察して，エルデ，No.601，p. 7，1991. 9
- 67) 小野晃司：火砕流－雲仙火山で初めて聞くことば－，エルデ，No.601，pp. 8-12，1991. 9
- 68) 廣井 脩：雲仙岳噴火と災害情報の伝達，新聞研究，No.482，pp. 66-70，1991. 9
- 69) 伊藤和明：雲仙岳火砕流災害②，近代消防，Vol. 355，pp. 62-64，1991. 9
- 70) 池谷 浩：雲仙・普賢岳に発生した火砕流災害に学ぶ，土木施工，Vol. 32，No. 9，pp. 6-8，1991. 9
- 71) 鈴木 宏：避難と災害予測図－雲仙岳火山災害の教訓－，近代消防，Vol. 355，pp. 66-69 1991. 9
- 72) 吉村秀實：雲仙岳噴火災害が残したもの(2)，月刊消防，1991年9月号，pp. 67-75，1991. 9
- 73) 笹木俊宏：平成3年雲仙岳噴火災害と政府の対応，月刊消防，1991年9月号，pp. 127-141，1991. 9
- 74) 内田一郎：雲仙噴火をめぐる諸問題，福岡の暮らしと自治，第165号，全13頁，1991. 9
- 75) 放送レポート編集委員会：地元スタッフ匿名座談会，雲仙普賢岳の警告，テレビの何が問われているか，放送レポート，No.112，'91・9/10，pp. 2-12，1991. 9

- 76) 放送レポート編集委員会：取材人は現地で何を教えられたか，雲仙・普賢岳の忠告，放送レポート，No.112，'91・9/10，pp. 13-17，1991. 9
- 77) 放送レポート編集委員会：君たちの名前は忘れない，雲仙・普賢岳の鎮魂，放送レポート，No.112，'91・9/10，pp. 18-23，1991. 9
- 78) 放送レポート編集委員会：予測できるか” 島原大変” NNNドキュメント'91，放送レポート，No.112，'91・9/10， pp. 24-31， 1991. 9
- 79) 松本聡子：島原署発「避難生活」報告！，警鼓，第69巻，平成3年9月号，pp. 76-80，1991. 9
- 80) 草野由紀子：雲仙普賢岳の大火砕流，警鼓，第69巻，平成3年9月号，pp. 80-81，1991. 9
- 81) 藤井敏嗣：雲仙岳噴火について，地震工学振興会ニュース，No.120，pp. 34-39，1991. 9
- 82) 気象庁地震火山業務課（小宮学）：1990年7月-1991年7月・火山活動の経過 雲仙岳の噴火，気象，No.413，pp. 11628-11631， 1991. 9
- 83) 運輸省港湾局防災課災害対策室防災企画係：雲仙岳噴火の経緯，みなとの防災，第111号，pp. 3-4，1991. 9
- 84) 廣井 脩：雲仙岳噴火緊急レポート 被災地を歩く-雲仙岳噴火現地レポート-，みなとの防災，第111号，pp. 5-8，1991. 9
- 85) 長崎消息編集部：県政・県庁の動き，長崎消息，Vol. 45，pp. 2-4，1991. 9
- 86) 吉開正治郎：雲仙岳噴火災害対策，ジュリスト，No.987，pp. 8-9，1991. 10
- 87) 松本聡子：島原署発「火砕流」報告2！，警鼓，第69巻，平成3年10月号，pp. 50-55，1991. 10
- 88) 廣井 脩：雲仙普賢岳噴火と災害情報（1）-島原・深江アンケート調査から，月刊消防，1991年10月号，pp. 1-10，1991. 10
- 89) 加藤 茂：水路部による島原湾・橘湾の調査，海洋調査協会報「海洋調査」，No. 26，pp. 6-7，1991. 10
- 90) 桂 敬一：火砕流惨事が問いかけた教訓，新放送文化，No.23，pp. 70-73，1991. 10
- 91) 黒田 清：「お手軽な現場主義」が犠牲者を生んだのか？，新放送文化，No. 23，pp. 74-77，1991. 10
- 92) 砂川浩慶：民放はどう取材し， どう報道したか，新放送文化，No.23，pp. 79-83，1991. 10
- 93) 古木杜恵：NHKはどう取材し， どう報道したか，新放送文化，No.23，pp. 84-89，1991. 10
- 94) 佐藤吉雄：災害・事故補償にメディアはどう備えるべきか，No.23，pp. 90-93，1991. 10
- 95) 廣井 脩：雲仙普賢岳噴火と災害情報（2）-島原・深江アンケート調査から，月刊消防，1991年11月号，pp. 1-11，1991. 11
- 96) 高橋和雄：長期化する雲仙普賢岳火山災害-深刻化する経済問題と復興への動き-，土木学会誌，Vol. 76，No.12，pp. 28-30，1991. 11
- 97) 民放労連雲仙災害特別委員会：「映像第一，安全二の次」の大転換を，放送レポート，No.113，91. 11/12，pp. 12-16，1991. 11
- 98) 久保寺章：噴火予知と火山災害，西部地区自然災害資料センターニュース，No.4，p. 2，1991. 11
- 99) 木村政昭：雲仙火山の活動について，西部地区自然災害資料センターニュース，No.

- 4, pp. 3-5, 1991. 11
- 100) 小林哲夫：雲仙岳噴火，1991年の推移，西部地区自然災害資料センターニュース，No. 4, pp. 6-7, 1991. 11
- 101) 中村裕昭：災害速報会を振り返って，土質工学会調査部，土と基礎，39-11, pp. 80-81, 1991. 11
- 102) 勝井智裕：災害レポート「活動終息説」が報じられた，長崎消息，Vol. 47, pp. 4-5, 1991. 11
- 103) 長崎消息編集部：ローカル新聞時評，特別立法はもはや不要か，長崎消息，Vol. 47, p. 6, 1991. 11
- 104) 金子元久：雲仙普賢岳災害とその後の対応，砂防と治水，第83号，pp. 43-45, 1991. 11
- 105) 陣内孝雄：雲仙普賢岳噴火災害に思う，ダム技術，No. 62, pp. 1-3, 1991. 11
- 106) 松本聡子：島原署発「台風19号」報告！，警鼓，平成3年11月号，pp. 44-49, 1991. 11
- 107) 植木律子：雲仙岳火砕流に思う，警鼓，平成3年11月号，pp. 49-50, 1991. 11
- 108) 松本聡子：島原署発「1年経過」報告①，警鼓，平成3年12月号，pp. 64-68, 1991. 12
- 109) 中村秀徳：災害レポート 見つけよう復興への道，長崎消息，Vol. 48, pp. 6-7, 1991. 12
- 110) 小山虎之助：地元局としての仕事は「始まったばかり」，月刊民放，1991年12月号，pp. 6-9, 1991. 12
- 111) 千田紘一：失った人材の大きさ思い，災害報道を考える，月刊民放，1991年12月号，pp. 9-10, 1991. 12
- 112) 疋田成治：開局直後の重い体験から何を学んだか，月刊民放，1991年12月号，pp. 11-14, 1991. 12
- 113) 木村拓郎：被災地に必要な災害情報とは，長期災害と報道…今，誰のために何を報道すべきか？，月刊民放，1991年12月号，pp. 15-20, 1991. 12
- 114) 山田博子：被災地からのレポートを担当して-そこに住む人たちこそ，火山活動の状況を-，月刊民放，1991年12月号，pp. 21-22, 1991. 12
- 115) 槌田禎子：『前線にて-検証・雲仙普賢岳災害報道』を製作して，月刊民放，1991年12月号，pp. 23-24, 1991. 12
- 116) 阿部泰隆：天災特に雲仙災害に個人補償はないか，法学セミナー，pp. 66-69, 1991. 12
- 117) 山口義廣：高原災害派遣部隊指揮官の指揮・統率と苦悩，Securitalian, (財)防衛弘済会発行，pp. 30-38, 1991. 12
- 118) 建設省河川局：平成3年災害の概要，河川，No. 545, pp. 6-11, 1991. 12
- 119) 長崎県土木部河川課：雲仙岳の噴火災害，河川，No. 545, pp. 46-50, 1991. 12
- 120) 鎌田泰彦：雲仙岳の火山活動史 最近の噴火活動を理解するために，ながさき自治研，No. 28, pp. 9-16, 1991. 12
- 121) 池谷 浩：土木技術者のための火砕流入門，土木施工，第32巻，第12号，pp. 9-16, 1991. 12
- 122) 中村松三：雲仙・普賢岳噴火と仁田峠周辺の森林被害，九州の森と林業，No. 18, pp. 4-5, 1991

- 123) 雲仙岳測候所・気象庁地震火山業務課：雲仙岳の火山活動，火山噴火予知連会会報，第49号，pp. 46-57, 1991
- 124) 九州大学理学部附属島原地震火山観測所：1990年雲仙火山噴火と地震活動，火山噴火予知連会会報，第49号，pp. 58-68, 1991
- 125) 国土地理院：島原半島の地殻変動，火山噴火予知連会会報，第49号，pp. 69-72, 1991
- 126) 関口辰夫・坂井尚登・稲沢保行・津沢正晴：雲仙火山の地形分類図について，地理調査部研究報告，第7号，pp. 88-94, 1991
- 127) 九州大学理学部（中田節也）・鹿児島大学理学部（小林哲夫）：雲仙岳平成3年噴火の降下火山灰中本質物質とドーム溶岩の特徴，火山噴火予知連絡会会報，第50号，pp. 77-82, 1991
- 128) 防災科学技術研究所：雲仙岳の温度分布〈1〉火山噴火予知連絡会会報，第51号，pp. 94-100, 1991
- 129) 東京大学理学部：雲仙岳周辺から放出する温泉ガスの $^3\text{He}/^4\text{He}$ 比の経時変化(1990年11月-1991年12月)，火山噴火予知連絡会会報，第52巻，pp. 54-56, 1991
- 130) 長崎消息編集部：島原災害レポートⅢ，読者の誤解を招くような記事はやめてほしい，長崎消息，Vol. 49, pp. 12-13, 1992. 1
- 131) 野田 淳：毎日が東奔西走，長崎消息，Vol. 49, p. 14, 1992. 1
- 132) 小田貞夫・内田眞澄・斎藤健作・松尾洋司：テレビの災害情報はどうか評価されたかー「雲仙・普賢岳災害と放送」調査からー，放送研究と調査，第42巻，第1号，pp. 2-19, 1992. 1
- 133) 中禮正明：地磁気観測と噴火予知，予防時報，No.168, pp. 10-11, 1992. 1
- 134) 石川芳治：土石流による災害と家屋の被災度，予防時報，No.168, pp. 62-69, 1992. 1
- 135) 小林 泉：雲仙普賢岳の斜め航空写真，写真とリモートセンシング，Vol. 13-1, p. 80, 1992. 1
- 136) 松本聡子：島原署発「1年経過」報告②，警鼓，平成4年1月号，pp. 84-88, 1992. 1
- 137) 佐野福吉郎：島原災害レポートⅣ，島原職訓の消息，長崎消息，Vol. 50, pp. 10-11, 1992. 2
- 138) 小宮 学：火山の観測，明日へのJ C C A，Vol. 174, pp. 12-15, 1992. 2
- 139) 松本聡子：島原署発「迎春」報告！，警鼓，平成4年2月号，pp. 74-81, 1992. 2
- 140) 廣井 脩：河川行政と社会心理学ー雲仙岳噴火災害を中心にー，河川，No. 547, pp. 23-28, 1992. 2
- 141) 竹下浩介：雲仙災害マスコミに想う，贅，第28号，p. 1. 1992. 3
- 142) 下田健次郎：警戒区域の決定は時期を誤れば切腹ものですよ，贅，第28号，pp. 4-5, 1992. 3
- 143) 井手 護：助役と言えども”なんでも屋”台風被害では木の伐採も，贅，第28号，pp. 6-7, 1992. 3
- 144) 長崎航空：山は刻々変化している，贅，第28号，pp. 10-13, 1992. 3
- 145) 徳永絹代・中岡洋蔵・古瀬範之・梅沢武・長田純夫・中島照次・松下英爾：地域の人々は訴える，贅，第28号，pp. 14-29, 1992. 3

- 146) 永田 健・加藤信夫・植田禎子：人々に伝えたい真実の報道を，贅，第28号，pp. 30-39, 1992. 3
- 147) 近藤昌弘・山下達夫・老名明日・松武洋司・中年球道：災害対策に働く職員たち，贅，第28号，pp. 40-47, 1992. 3
- 148) 荒木善浩・下地昌夫・中原和彦・早川成喜：応援職員たちがみた災害，贅，第28号，pp. 48-51, 1992. 3
- 149) 林 賢一・中道久郎：私の災害復興対策案，贅，第28号，pp. 52-55, 1992. 3
- 150) 二牟礼正博：桜島と雲仙普賢岳の課題，贅，第28号，pp. 56-59, 1992. 3
- 151) 中崎幸夫：災害と自衛隊，贅，第28号，pp. 60-63, 1992. 3
- 152) 川野浩一：国は島原半島を見捨てるのか，贅，第28号，pp. 64-71, 1992. 3
- 153) 建設省九州地方建設局：緊急特別焦点－火山への接近，火山の猛威と災害対策，SCENES「春号」，Vol. 15, pp. 15-18, 1992. 3
- 154) 石山 范：災害は忘れないでやってくる！－4倍増の港湾災害と雲仙岳噴火リポート－，港湾，pp. 51-55, 1992. 3
- 155) 廣井 脩：雲仙岳噴火災害の教訓－現地からの報告－，地震工学振興会ニュース(JSEEP NEWS)，No.123, pp. 43-47, 1992. 3
- 156) 太田一也：1990-92年 雲仙噴火活動概要，日本応用地質学会九州支部会報，No. 13, pp. 3-9, 1992. 3
- 157) 平野宗夫：1991年雲仙岳の土石流・火砕流災害，日本応用地質学会九州支部会報，No. 13, pp. 10-14, 1992. 3
- 158) 江崎哲郎：雲仙火山災害に関する大学の調査・研究，日本応用地質学会九州支部会報，No.13, pp. 15-17, 1992. 3
- 159) 岩尾雄四郎：雲仙火山眉山の防災的研究の中間報告，日本応用地質学会九州支部会報，No.13, pp. 18-19, 1992. 3
- 160) 佐藤博之：火砕流(Pyroclastic flow)，日本応用地質学会九州支部会報，No. 13, pp. 20-21, 1992. 3
- 161) 松本聡子：島原署発「無線ライフ」報告，警鼓，平成4年3月号，pp. 52-57, 1992. 3
- 162) アジア航測(株)提供：斜め空中写真に見る最近の雲仙普賢岳，日本リモートセンシング学会誌，Vol. 12, No. 1, p. 117, 1992. 3
- 163) 帆足建八：最近の災害で思うこと，季刊 防災，Vol. 96, pp. 49-52, 1992. 3
- 164) 長崎県土木部河川課：雲仙岳噴火災害について，季刊 防災，Vol. 96, pp. 164-167, 1992. 3
- 165) 太田一也・清水 洋・堤 一・鳥野 清・麻生稔彦・北川正一・落合英俊・林 重徳・大谷 順・梅崎健夫・江崎哲郎・相川 明：雲仙岳火山活動に関連した山体崩壊に関する合同研究報告，環境システム工学研究センター研究活動報告，第4号，九州大学，pp. 35-45, 1992. 3
- 166) 島崎厚子：91年を振り返り，島原友の会，全31頁，1992. 3
- 167) 松本聡子：島原署発「春一番」報告，警鼓，平成4年4月号，pp. 52-57, 1992. 4

- 168) 中村裕昭：雲仙普賢岳火山災害現地検討会の報告, 土と基礎, 40-4, pp. 109-111, 1992. 4
- 169) 高橋和雄：雲仙普賢岳火山砂防計画公表さるー長期化する災害と具体的な復興対策の提案ー土木学会誌, Vol. 77, pp. 37-38, 1992. 4
- 170) 建設省国土地理院災害対策本部事務局：雲仙岳噴火に伴う国土地理院の取り組み, 国土地理院時報, No. 75, 口絵& pp. 1-2, 1992. 4
- 171) 小牧和雄：雲仙岳周辺における測地測量, 国土地理院時報, No. 75, pp. 3-11, 1992. 4
- 172) 佐藤栄二：雲仙岳火山基本図(応急版)等の作成, 国土地理院時報, No. 75, pp. 12-18, 1992. 4
- 173) 長岡正利・益田幸雄：雲仙岳1990-92年噴火の熔岩噴出量の計測, 国土地理院時報, No. 75, pp. 19-25, 1992. 4
- 174) 赤桐毅一：島原周辺陸海域の地形地質, 国土地理院時報, No. 75, pp. 26-31, 1992. 4
- 175) 関口辰夫・岩橋純子：雲仙岳の地形解析と火山災害の予測, 国土地理院時報, No. 75, pp. 32-36, 1992. 4
- 176) 坂井尚登：雲仙火山眉山周辺の地形について, 国土地理院時報, No. 75, pp. 37-41, 1992. 4
- 177) 宇根 寛・坂井尚登：雲仙岳噴火に伴う地形変化の特徴について, 国土地理院時報, No. 75, pp. 42-49, 1992. 4
- 178) 九州大学理学部附属島原地震火山観測所：雲仙岳火山活動状況(1991年11月-1992年2月), 火山噴火予知連会報, 第52号, pp. 33-37, 1992. 4
- 179) 中田節也・藤井敏嗣：雲仙岳1991-1992年溶岩ドームの成長様式と火砕流堆積物, 火山噴火予知連会報, 第52号, pp. 57-66, 1992. 4
- 180) 気象研究所・雲仙岳測候所：雲仙岳溶岩の粘性と流出率, ドームの安定性, 火山噴火予知連会報, 第52号, pp. 67-72, 1992. 4
- 181) 気象研究所：雲仙岳火砕流の流速, 火山噴火予知連会報, 第52号, p. 73, 1992. 4
- 182) 九州大学理学部・東京大学地震研究所・大学合同観測班地質班：雲仙岳1991-1992年溶岩ドームの成長様式と火砕流堆積物, 火山噴火予知連会報, 第52号, pp. 57-66, 1992. 4
- 183) 気象庁地震火山業務課：雲仙岳の噴火(その2)ー1991年8月-12月・火山活動の経過ー, 気象, 第36号, pp. 14-18, 1992. 4
- 184) 土砂災害年報編集委員会：雲仙普賢岳火山災害の実態, 平成3年 土砂災害の実態, pp. 47-62, 1992. 5
- 185) 高尾 稔：康平さんと普賢岳, 肥前路, 2月号, pp. 22-26, 1992. 5
- 186) 日本放送協会放送文化研究所放送研究部：シンポジウム災害放送・役割と期待, -「雲仙普賢岳災害と放送」調査(そのII)報告-, 放送研究と調査, 5月号, pp. 1-22, 1992. 5
- 187) 鈴木 宏：土石流・火砕流ー雲仙岳における作成例ー, 小特集ハザードマップ 季刊地質と調査'92第2号, No. 52, pp. 2-7, 1992. 6
- 188) 雲仙火山災害長崎大学調査研究グループ(団長 後藤恵之輔)：雲仙火山災害の調査研究, 学内通信, No. 16, 全16頁, 1992. 6
- 189) 小牧和雄：地震予知と火山噴火予知のための地殻変動連続観測システム, 土木学会

- 誌, Vol.77, pp.16-18, 1992.6
- 190) 山田 孝・石川芳治・矢島重美・Richard P. Hoblitt: 火砕流の堆積特性に関する実験, 土木技術資料, 第34巻, 第6号, pp.46-51, 1992.6
- 191) 国土庁: 雲仙岳噴火災害と火山災害対策, 平成4年版防災白書, pp.62-97, 1992.6
- 192) 吉岡健一郎: ハザードマップの防災対策への活用ー火山噴火災害危険区域予測図作成指針ー, 地質と調査, 第2号, pp.8-14, 1992.6
- 193) 西ノ首英之: 平成の島原大変「雲仙普賢岳火山活動による有明海水産業に及ぼす影響の調査研究」, 学園だより, No.117, pp.8-9, 1992.7
- 194) 西本晴男: 雲仙・普賢岳の現状と火山砂防対策, J A C I C 情報, 第27号, pp.56-58, 1992.7
- 195) 小原達朗: 雲仙・普賢岳災害によって動きだした学生のボランティア意識とその活動ーボランティアから芽生えた研究課題「避難と子どもの心と体」ー, ながさき科学者通信, No.183, pp.7-9, 1992.7
- 196) 柳川喜郎: 雲仙・普賢岳の災害報道, FRONT, 第4巻, 第10号, pp.28-29, 1992.7
- 197) Nakada, S. : Volcanic Hazard at Unzen, Japan 1) 1990-1992 eruption of Unzen Volcano, Landslide News, No.6, pp.2-4, 1992.8
- 198) Suzuki, H. and Furuya, T. : Volcanic Hazard at Unzen, Japan 2) Hazard mapping at Unzen Volcano and the 1792 Mayuyama Landslide, Landslide News, No.6, pp.5-6, 1992.8
- 199) 中田節也・藤井敏嗣: 雲仙岳1992噴火, 溶岩ドームの成長と火砕流堆積物, 火山噴火予知連会報, 第53号, pp.75-80, 1992.8
- 200) 坪井良一: 雲仙災害地の再生をーリゾートづくりも可能ー, 砂防と治水, Vol.25, No.3, pp.9-11, 1992.8
- 201) 渡辺 実: “島原大変”とジャーナリズム, 雲仙災害報道検証, 放送批判, No.278, pp.30-38, 1992.9
- 202) 小田貞夫・日高一郎・斎藤建作: 長期災害とテレビ報道の機能ー「雲仙・普賢岳災害と放送」第二次調査からー, 放送研究と調査, 9月号, pp.15-27, 1992.9
- 203) 日本放送協会放送文化研究所放送研究部: シンポジウム災害放送・役割と期待, 放送研究と調査, 9月号, pp.28-37, 1992.9
- 204) 内嶋善之助: 牧野宗則 島原取材同行メモ「眉山と普賢岳」, 絵とおしゃべり'92.9, 1992.9
- 205) 中田節也・清水 洋: 普賢岳のマグマ活動, 科学, Vol.62, No.9, pp.554-561, 1992.9
- 206) 佐藤博明: 火砕流の発生機構, 科学, Vol.62, No.9, pp.562-565, 1992.9
- 207) 大見士朗: 島原半島の地下構造, 科学, Vol.62, No.9, pp.566-567, 1992.9
- 208) 青木治三・安藤雅孝・井田善明・岡田義光・Robert Geller・立平良三・藤井敏嗣: 地震と火山噴火はどこまで予知できるか, 科学, Vol.62, No.9, pp.568-581, 1992.9
- 209) 小宮 学: 雲仙岳の噴火, 1992年版気象年鑑, pp.154-159, 1992.9
- 210) 望月利男: 雲仙岳噴火に伴う住民避難とその問題点, 主に伊豆大島噴火時と比較し

- て，予防時報，171号，pp.12-17，1992.10
- 211) 吉江冬一郎：山河慟哭，ありあけの歴史と風土，第9号，p.3，1992.11
- 212) 馬渡 愛：雲仙普賢岳噴火，驚異の土石流，ありあけの歴史と風土，第9号，p.45，1992.11
- 213) 平野宗夫・松永勝也：1991年雲仙における土石流の調査研究，第29回自然災害科学総合シンポジウム要旨集，pp.49-64，1992.11
- 214) 長崎県：普賢岳被災農業者が洋ランを出荷，ゆうせい九州，No.200，p.23，1992.11
- 215) Sato,H., Fujii,T. and Hakada,S. : Crumbling of dacite dome lave and generation of pyroclastic flows at volcano, Nature, Vol.360, No.6405, pp.664-666, 1992.12
- 216) 島原青年会議所広報委員会：特集 島原大シンポジウム，島原J Cニュース，313号，1992.12
- 217) 宮原智哉・遠藤邦彦・陶野郁雄・千葉達朗・磯 望・撰田克也・新川和範・安井真也・小森次郎・大野希一：1991年雲仙普賢岳噴火とその噴出物－第1報－，日本大学文理学部自然科学研究所研究紀要，Vol.27，1992
- 218) 上田 泉：いま島原では・・・，ながさき科学者通信，No.183，pp.4-6，1992
- 219) 関口辰夫：雲仙岳地形分類図の作成と地形分類からみた火山災害，地図，Vol.30，No.3，pp.14-23，1992
- 220) 九州農業試験場生産環境部土壌特性研究室(川崎 弘・吉田 滯・井上恒久)：火山灰の特性解明，平成3年度雲仙岳の火山灰等の火山放出物の土壌と農作物へ及ぼす影響の解析に関する緊急調査研究実績報告書，pp.5-14，1992
- 221) 果樹試験場口之津支場栄養生理研究室(鈴木勝征)：火山灰の土壌的特性及び樹園地への影響，平成3年度雲仙岳の火山灰等の火山放出物の土壌と農作物へ及ぼす影響の解析に関する緊急調査研究実績報告書，pp.57-60，1992
- 222) 酒井正治：雲仙噴火と森林土壌－火山灰堆積と土壌水分－，九州の森と林業，No.19，pp.1-2，1992
- 223) 防災科学技術研究所(熊谷貞治・矢崎 忍・大見士朗・植原茂次)：雲仙岳の温度分布(I)，火山予知連絡会会報，第51号，pp.94-100，1992
- 224) 気象庁地磁気観測所：雲仙岳における全磁力観測(II)，火山予知連絡会会報，第51号，pp.101-105，1992
- 225) 地質調査所・熊本大学・阿蘇火山博物館：雲仙火山1990年11月17日噴火の地質調査の概報，火山噴火予知連会報，第49号，pp.73-74，1992
- 226) 東京大学理学部地殻化学実験施設：雲仙岳1990年噴火直後の周辺温泉から放出される気体中の³He/⁴He比，火山噴火予知連会報，第49号，pp.78-79，1992
- 227) 平野宗夫：雲仙火山災害，西部地区自然災害資料センター関連の研究班－第1報－，土石流・火砕流研究班，WESTERN JAPAN NDIC NEWS，No.6，pp.2-5，1993.1
- 228) 松永勝也：雲仙火山災害，西部地区自然災害資料センター関連の研究班－第1報－，危機管理研究班，WESTERN JAPAN NDIC NEWS，No.6，pp.6-8，1993.1

- 229) 入江 功：雲仙火山災害，西部地区自然災害資料センター関連の研究班－第2報－，津波研究班，WESTERN JAPAN NDIC NEWS，No. 7，pp. 2-4，1993. 2
- 230) 落合英俊：雲仙火山災害，西部地区自然災害資料センター関連の研究班－第2報－，山腹斜面崩壊時の崩壊土砂量と到達距離(山体崩壊研究班)，WESTERN JAPAN NDIC NEWS，No. 7，pp. 5-7，1993. 2
- 231) 中田節也：火砕流の本質－雲仙普賢岳噴火の例－，土と基礎，Vol. 41，No. 3，pp. 37-42，1993. 3
- 232) 入江治美・中西 峻・榊原弘子・田中孝子・田崎さえ子・市川ひとみ・下峯垂美・松武久美子・野中伸子・平松栄子・長崎大学医学部精神神経科・長崎県精神保健センター・島原市・深江町・長崎県保健予防課：雲仙普賢岳噴火災害と保健婦活動(その1)－家庭訪問を通して－，長崎県総合公衆衛生研究会誌，Vol. 25，pp. 6-7，1993. 3
- 233) 中島礼子・森垣三郎・原田美明・梅村政則・内島幸治・平川マサノ・板山美香・隈部良・近河尚子・田中絹恵・茂 良子・長崎大学医学部精神神経科・長崎県精神保健センター・長崎県保健予防課・島原保健所：雲仙普賢岳噴火活動と保健婦活動(その2)，長崎県総合公衆衛生研究会誌，Vol. 25，pp. 8-9，1993. 3
- 234) 三宅美恵子・岩永好明・宮崎秀香・松武久美子・長崎大学医学部精神神経科・長崎県精神保健センター・長崎県保健予防課・島原保健所：雲仙普賢岳災害時における健康対策について(その3)，長崎県総合公衆衛生研究会誌，Vol. 25，pp. 10-11，1993. 3
- 235) 中島ふさ・中西 峻・榊原弘子・前森聖子・大津徳子・横田恵美子・沼富美子・三宅美恵子・深江町婦人会・深江町食生活改善推進協議会わかす会：雲仙普賢岳噴火災害の食事対策における保健所栄養士のかかわり，長崎県総合公衆衛生研究会誌，Vol. 25，pp. 12-13，1993. 3
- 236) 野間セツ・田浦鉄枝・園田千枝子・谷口まゆみ・福留京子・大津徳子・吉岡勝美・伊崎美由紀・中島ふさ：雲仙普賢岳噴火災害と避難施設での栄養士活動，長崎県総合公衆衛生研究会誌，Vol. 25，pp. 14-15，1993. 3
- 237) 中村隆平：雲仙火山災害と地域医師会活動，長崎県総合公衆衛生研究会誌，Vol. 25，p. 57，1993. 3
- 238) 高橋和雄：雲仙火山災害の社会的影響と復興への動き，長崎県総合公衆衛生研究会誌，Vol. 25，p. 58，1993. 3
- 239) 清水 洋：火山活動の経過と現在，ながさき科学者通信，No. 185，pp. 4-10，1993. 3
- 240) 高橋和雄：火山情報と防災システム，ながさき科学者通信，No. 185，pp. 11-15，1993. 3
- 241) 宮入興一：雲仙火山災害における被害と住民生活－被害の特徴と今後の課題－，ながさき科学者通信，No. 185，pp. 16-23，1993. 3
- 242) 気象庁地震火山業務課：噴火開始から2年・1992年の火山活動，雲仙岳の噴火(その3)，気象，Vol. 37，No. 3，pp. 14-18，1993. 3
- 243) 岩越和紀：雲仙・普賢岳，灰に埋もれた2年間，J A F ・ M A T E，第31巻，第3号 pp. 4-9，1993. 3

- 244) 長崎県衛生公害研究所：雲仙・普賢岳の噴火と災害，島原温泉と雲仙・普賢岳噴火災害，長崎県衛生公害研究所報，第35号，pp.404-418，1993.3
- 245) 常岡武久・高口栄子・中村すみえ：火砕流被災者の処置とその記録，島原温泉と雲仙・普賢岳噴火災害，長崎県衛生公害研究所報，第35号，pp.419-426，1993.3
- 246) 高口栄子・横田ツヤ子・林田恵美子・上田恵子・松田京子・相良園巳・伊藤和代・中村すみえ・山口ユキ子：雲仙・普賢岳噴火災害時の看護管理，島原温泉と雲仙・普賢岳噴火災害，長崎県衛生公害研究所報，第35号，pp.427-436，1993.3
- 247) 太田一也：雲仙普賢岳噴火活動と被害の状況，島原温泉と雲仙・普賢岳噴火災害，長崎県衛生公害研究所報，第35号，pp.477-486，1993.3
- 248) 雲仙岳測候所：平成3年雲仙岳噴火，島原温泉と雲仙・普賢岳噴火災害，長崎県衛生公害研究所報，第35号，pp.487-492，1993.3
- 249) 長崎県警察本部：長崎県警察本部の雲仙普賢岳噴火災害活動状況，島原温泉と雲仙・普賢岳噴火災害，長崎県衛生公害研究所報，第35号，pp.493-498，1993.3
- 250) 長崎県土木部：雲仙・普賢岳火山噴火対策，SABO，全28頁，1993.3
- 251) 高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害の被災地・島原市の災害復興基本構想まとまる，土木学会誌，1993年4月号，Vol.78-4，pp.31-33，1993.4
- 252) 土砂災害年報編集委員会・砂防・地すべり技術センター：平成4年土砂災害の実態，pp.27-30，1993.5
- 253) 毎日新聞労働組合：雲仙・普賢岳の下で，対話する新聞をめざして，pp.63-79，1993.5
- 254) 太田保之：長期化する雲仙・普賢岳災害 身体的不調・精神的苦悩をほぐす継続的な支援を，らいふ一心の健康一，p.1，1993.5
- 255) 太田保之：超帰化する雲仙・普賢岳災害 身体的不調・精神的苦悩をほぐす継続的な支援を，らいふ一心の健康一，第12号，p.1，1993.5
- 256) 雲仙岳測候所：1992年の雲仙岳の火山活動，福岡管区气象台「技術通信」，第39巻，pp.97-116，1993.6
- 257) 山田スミコ：地元住民の見た雲仙普賢岳1990年-噴火活動（その1），地質ニュース，第466号，pp.18-24，1993.6
- 258) 林野弘済会熊本支部：あれから2年＝治まってくれ！普賢岳＝，No.440，pp.2-15，1993.7
- 259) 建設省河川局：雲仙普賢岳の噴火災害，平成5年の主な自然災害，pp.16-19，1993.8
- 260) 島原「巨大砂防ダム」への疑惑，選択，第19号，第8巻，pp.116-119，1993.8
- 261) 向山 栄・河相裕子・千葉達朗：雲仙岳噴火による火砕流・土石流災害，写真測量とリモートセンシング，Vol.32-4，pp.2-5，1993.9
- 262) 高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害の被害拡大，土木学会誌，第78巻，第10号，pp.40-42，1993.9
- 263) 太田一也：雲仙普賢岳災害で思うことー災害科学って何だろう？ー，災害科学研究通信，No.48，pp.3-5，1993.9

- 264) 中田節也：普賢岳噴火が教える火砕流の流下機構，災害科学研究通信，No. 48，pp. 6-10, 1993. 9
- 265) 平野宗夫：雲仙の土石流に対する防災の問題点，災害科学研究通信，No. 48，pp. 11-14, 1993. 9
- 266) 長崎大学庶務部：第2回雲仙火山災害の調査研究成果報告会，長崎大学学報，第529号，p. 5, 1993. 9
- 267) 蓮本正詞：雲仙・普賢岳噴火災害，日本医師会雑誌，第110号，第6巻，pp. 736-737, 1993. 9
- 268) 高橋和雄：「第2回雲仙火山災害の調査研究成果報告会」開催される，土木学会誌，第78巻，第115号，p. 27, 1993. 10
- 269) 建設省河川局砂防部：雲仙・普賢岳噴火に伴う火砕流，土石流災害，平成5年土砂災害，pp. 3-4, 1993. 10
- 270) 宮川守裕樹・内嶋善之助：定点を超えて，第33回長崎県民演劇祭，1993. 11
- 271) 太田一也：雲仙普賢岳の火山活動と災害，土木学会誌平成5年度全国大会報告，pp. 11-22, 1993. 12
- 272) 陶野郁雄・北村良介：研究討論会火山災害工学—その範囲とイメージ—，土木学会誌平成5年度全国大会報告，pp. 37-39, 1993. 12
- 273) 村上隆弘・大串好春・田上敏博・下田義文：雲仙普賢岳火砕流特性の検討，九州技報，第14号，pp. 35-40, 1993. 12
- 274) 林久雄：雲仙水無川遊砂地における堆積土砂除去の無人化施工計画について，九州技報，第14号，pp. 41-44, 1993. 12
- 275) 西平秀明：雲仙・普賢岳噴火対策の現状，いしだたみ，Vol. 20, pp. 122-123, 1993. 12
- 276) 熊谷貞治・矢崎忍：雲仙普賢岳の温度分布と火山活動，pp. 13-21, 1993
- 277) 九州大学理学部・鹿児島大学理学部：雲仙岳平成3年噴火の降下火山灰中本質物質とドーム溶岩の特徴，pp. 77-82, 1993
- 278) 中田節也：雲仙火山の噴火と予知，月刊地球，号外，No. 7, pp. 41-49, 1993
- 279) 寺井邦久：火山とシートベルト，ありあけの歴史と風土，第10号，pp. 29-31, 1993
- 280) 島田守：重ねる影，島原文化，第5号，pp. 27-31, 1993
- 281) 清水洋：雲仙・普賢岳火山活動—1992年—，長崎県地学会誌，第55号，口絵, 1993
- 282) 佐藤一幸：雲仙普賢岳における無人化施工について，砂防と治水，Vol. 26, No. 4, pp. 55-57, 1993
- 283) 松井宗広：雲仙における無人化施工について，砂防と治水，Vol. 27, No. 1, pp. 23-31, 1993
- 284) 地質調査所：光波測距による雲仙普賢岳の山体変動観測，1991年3月—1993年5月，火山噴火予知連絡会会報，第56号，pp. 55-61, 1993
- 285) 宝田晋治・風早康平・川辺禎久・阪口圭一・須藤茂・山元孝広・曾屋龍典・気象庁雲仙岳測候所：雲仙岳1991-92年の噴出物量と6月3日，8日の火砕流の発生機構，地質調査所月報，Vol. 44, No. 1, pp. 11-24, 1993

- 286) 太田一也：1990－1992年雲仙岳噴火活動，地質誌，Vol. 99，No. 10，pp. 835－854，1993
- 287) 東京大学理学部：雲仙岳周辺から放出する温泉ガスの $^3\text{He}/^4\text{He}$ 比の経時変化(1992年3月-1993年7月)，火山噴火予知連絡会会報，第57巻，pp. 125-127，1993
- 288) 松井宗広：雲仙普賢岳災害対策事業の現状と課題，自然災害科学，Vol. 12，No. 3，pp. 180-183，1994. 1
- 289) 橋本晴行：雲仙における土石流の波動現象，西部地区自然災害資料センターニュース，No. 10，pp. 9-10，1994. 3
- 290) 熊本正三：普賢岳と対決した1年，土佐人アメリカを往く－警察機関紙作品コンクール入選作品集，第23巻，警察協会，pp. 3-41，1994. 3
- 291) 松井宗広：近未来の砂防技術，雲仙における無人化施工について，砂防と治水，Vol. 27，No. 1，pp. 23-31，1994. 4
- 292) 下鶴大輔：《火山防災工学》推進への提言，砂防と治水，第97号，pp. 9-13，1994. 4
- 293) 松井宗広：雲仙普賢岳における無人化施工について，新砂防，第41巻，第1号，pp. 51-53，1994. 5
- 294) 東 幹夫：第12回九州地方区シンポジウムの報告と雲仙火山災害公開講演会が提起したもの，ながさき科学者通信，No. 188，pp. 4-11，1994. 5
- 295) 中田節也：雲仙普賢岳噴火の火山学的特徴と今後の見通し，ながさき科学者通信，No. 188，pp. 13-15，1994. 5
- 296) 宮入興一：雲仙火山災害の特徴と復興の諸課題，ながさき科学者通信，No. 188，pp. 16-29，1994. 5
- 297) 藤井克巳：災害対策基本法等に関する法的諸問題，ながさき科学者通信，No. 188，pp. 30-41，1994. 5
- 298) 山田スミコ：今，島原の小学校で山や川をどう教えるか，ながさき科学者通信，No. 188，pp. 42-47，1994. 5
- 299) 土砂災害年報編集委員会：雲仙・普賢岳火山災害と対策，平成5年土砂災害の実態，砂防・地すべり技術センター，pp. 57-59，1994. 6
- 300) 杉町英明：雲仙・普賢岳のその後 災害復旧と今後の対策，土木施工，Vol. 35，No. 7，pp. 56-60，1994. 6
- 301) 山田博子：普賢岳災害被災地にて－長期災害・ハルコさんの場合－，自然災害科学，Vol. 13，No. 1，pp. 25-25，1994. 6
- 302) 岩元 賢：雲仙眉山地区における土砂流出と防災対策に関する研究－1993年土砂災害の事例－，西日本工業大学地盤工学研究所報告，No. 10，pp. 15-26，1994. 8
- 303) 佐藤一幸：雲仙における無人化施工，河川，No. 577，pp. 93-96，1994. 8
- 304) 火山砂防部：雲仙・水無川における堆積土砂除去の無人化施工について，S A B O，第45号，pp. 6-10，1994. 9
- 305) 長崎大学庶務部：公開講座「雲仙・普賢岳火山災害にいどむ－長崎大学からの提言－」を終えて，長崎大学学報，第541号，pp. 1-2，1994. 9

- 306) 火山砂防部：雲仙・水無川における堆積土砂除去の無人化施工について，S A B O，45，pp. 6-10，1994. 9
- 307) 雲仙岳測候所：1993年の雲仙岳の火山活動，福岡管区気象台「技術通信」，第40巻，pp. 131-149，1994. 12
- 308) 石川芳治：平成5年度の雲仙岳における土石流・火砕流災害と対策，土木技術資料，Vol. 36，No. 6，pp. 10-11，1994
- 309) 石川芳治・山田 孝：火砕流熱風部の運動機構と数値シミュレーション土木技術資料，Vol. 36，No. 6，pp. 22-27，1994
- 310) 長崎県：火山とともに生きる，長崎県政この1年，pp. 6-7，1994
- 311) 森 博一・後藤英一：雲仙岳におけるSORASを用いた火砕流の崩落量の計算，研究時報，45巻別冊，pp. 180-181，1994
- 312) 雲仙岳測候所：雲仙岳火山の遠望観測の成果について(第11溶岩ドームの推移)，研究時報，45巻別冊，pp. 188-189，1994
- 313) 松井宗広：火山噴火災害に威力ー無人化除石システムー，土木学会誌，Vol. 80，pp. 19-20，1995. 2
- 314) 田村喜子：無人化重機を操る七人の土，雲仙普賢岳災害復旧現場の女性たち，建設業界，Vol. 44，No. 4，pp. 52-55，1995. 4
- 315) 松井宗広・井原邦明・城ヶ崎正人：火山噴火対策における無人化工事，土木施工，第36巻，第4号，pp. 65-70，1995. 4
- 316) 佐野啓介：実用段階に入った無人化施工，雲仙普賢岳砂防事業，日経コンストラクション，No. 135，pp. 52-57，1995. 5
- 317) 養田剛治：阪神・淡路大震災と普賢岳噴火災害被災者の復興ネットワーク，月刊いのちと健康，No. 5，pp. 10-18，1995. 5
- 318) 日経コンストラクション：雲仙普賢岳砂防事業（長崎県）実用段階に入った無人化施工，日経コンストラクション，No. 135，pp. 52-57，1995. 5
- 319) 高橋和雄：雲仙普賢岳の被災地，島原市の災害復興計画まとまる，土木学会誌，Vol. 80，pp. 26-27，1995. 8
- 320) 太田一也：雲仙普賢岳の溶岩ドームの活動，昭和新山生成50周年記念国際火山ワークショップ1995小論文・要旨集，pp. 5-7，1995. 9
- 321) 千葉達朗：雲仙岳噴火の経緯と災害実績図の作成，昭和新山生成50周年記念国際火山ワークショップ1995小論文・要旨集，pp. 23-24，1995. 9
- 322) 福井敬一：長時間ビデオカメラによる雲仙岳溶岩ドーム成長の観測，昭和新山生成50周年記念国際火山ワークショップ1995小論文・要旨集，pp. 36-39，1995. 9
- 323) 福崎博孝：警戒区域の設定に伴う経済的損失の補償ー補償制度の不存在と市町村長の苦悩ー，昭和新山生成50周年記念国際火山ワークショップ1995小論文・要旨集，pp. 39-41，1995. 9
- 324) 後藤章夫・大島弘光・西田泰典・園田 弘：雲仙普賢岳ドーム溶岩の動的特性に関

- する実験的考察，昭和新山生成50周年記念国際火山ワークショップ1995小論文・要旨集， pp. 44-45, 1995. 9
- 325) 橋本徹夫・宇平幸一・山里 平：雲仙岳の溶岩ドーム直下で発生したやや低周波地震の発生メカニズム，昭和新山生成50周年記念国際火山ワークショップ1995小論文・要旨集， pp. 50-52, 1995. 9
- 326) 石川芳治・小山内信智・矢島重美：火砕流防災システム，昭和新山生成50周年記念国際火山ワークショップ1995小論文・要旨集， pp. 62-63, 1995. 9
- 327) 鍵山恒臣・歌田久司・山本哲也：電磁気構造から推定される雲仙火山マグマの上昇過程，昭和新山生成50周年記念国際火山ワークショップ1995小論文・要旨集， pp. 69-72, 1995. 9
- 328) 木村拓郎・永野智文・入山 寛：災害復興における住宅及び集落再建対策の課題，昭和新山生成50周年記念国際火山ワークショップ1995小論文・要旨集， pp. 76-78, 1995. 9
- 329) 小島 明：雲仙岳災害対策基金，昭和新山生成50周年記念国際火山ワークショップ1995小論文・要旨集， p. 80, 1995. 9
- 330) 松下英爾：雲仙岳噴火災害—もう一つの断面「警戒区域入域業務の安全問題と住民利益」，昭和新山生成50周年記念国際火山ワークショップ1995小論文・要旨集， pp. 83-85, 1995. 9
- 331) 松尾紉道・馬越孝道・松島 健・八木原寛・清水 洋・太田一也：1990-95雲仙普賢岳噴火活動，昭和新山生成50周年記念国際火山ワークショップ1995小論文・要旨集， pp. 86-87, 1995. 9
- 332) 養田剛治：雲仙・普賢岳災害と住民運動の現状，昭和新山生成50周年記念国際火山ワークショップ1995小論文・要旨集， pp. 93-94, 1995. 9
- 333) 宮入興一：長期化大規模災害下の災害対策と地方財政システムの改革—雲仙火山災害を中心として—，昭和新山生成50周年記念国際火山ワークショップ1995小論文・要旨集， pp. 95-97, 1995. 9
- 334) 中田節也：雲仙普賢岳における溶岩ドームの成長と崩落，昭和新山生成50周年記念国際火山ワークショップ1995小論文・要旨集， p. 118, 1995. 9
- 335) 中村 功：雲仙普賢岳噴火と災害情報の伝達，昭和新山生成50周年記念国際火山ワークショップ1995小論文・要旨集， pp. 121-122, 1995. 9
- 336) 中山裕則・田中總太郎・稲永麻子・遠藤邦彦：人工衛星データによる雲仙噴火活動のモニタリング—1990年から1994年の噴火活動を中心として—，昭和新山生成50周年記念国際火山ワークショップ1995小論文・要旨集， pp. 123-127, 1995. 9
- 337) 西脇 誠・森 博一・永岡 修・高木朗充・生野信頼：雲仙岳火山活動概要(1990-1995年)，昭和新山生成50周年記念国際火山ワークショップ1995小論文・要旨集， p. 137, 1995. 9
- 338) 尾関信幸・伊藤英之・安養寺信夫：雲仙普賢岳溶岩ドームの形成と水無川流域の扇

- 状地発達過程, 昭和新山生成50周年記念国際火山ワークショップ1995小論文・要旨集, pp. 154-156, 1995. 9
- 339) 斎藤英二・安田 聡・須藤 茂: 雲仙普賢岳, 平成溶岩の地形変化, 昭和新山生成50周年記念国際火山ワークショップ1995小論文・要旨集, p. 159, 1995. 9
- 340) 佐藤博明・鎌田桂子・宇井忠英・日下部実・北村俊博・中田節也・神定健二: 溶岩ドームからの火砕流発生条件, 昭和新山生成50周年記念国際火山ワークショップ1995小論文・要旨集, p. 162, 1995. 9
- 341) 清野政明・橋本徹夫・山里 平・長谷川嘉彦・緒方 誠: デーサイトマグマ噴火活動に伴う地震の規模系列, 昭和新山生成50周年記念国際火山ワークショップ1995小論文・要旨集, p. 164, 1995. 9
- 342) 杉本伸一: 住民の見た雲仙普賢岳噴火, 昭和新山生成50周年記念国際火山ワークショップ1995小論文・要旨集, p. 171, 1995. 9
- 343) 須藤 茂・斎藤英二・曾屋龍典・風早康平・川邊禎久: 雲仙普賢岳の山体変動観測, 昭和新山生成50周年記念国際火山ワークショップ1995小論文・要旨集, p. 173, 1995. 9
- 344) 所沢新一郎: 大災害における義援金の配分報告と検討, 昭和新山生成50周年記念国際火山ワークショップ1995小論文・要旨集, pp. 173-176, 1995. 9
- 345) 高木朗充・生野信頼・森 博一・西脇 誠: 雲仙岳溶岩ドームの形成過程, 昭和新山生成50周年記念国際火山ワークショップ1995小論文・要旨集, p. 177, 1995. 9
- 346) 高濱淳一郎・安養寺信夫・伊藤英之: 雲仙普賢岳における火山活動と災害予想区域作成の経緯, 昭和新山生成50周年記念国際火山ワークショップ1995小論文・要旨集, p. 177, 1995. 9
- 347) 高橋和雄・藤井 真: 雲仙火山災害の地域への影響と復興対策, 昭和新山生成50周年記念国際火山ワークショップ1995小論文・要旨集, pp. 178-182, 1995. 9
- 348) 谷口宏充・中田節也・鎌田桂子・三軒一義・松島 健: 雲仙普賢岳火砕サージの物理料の直接測定, 昭和新山生成50周年記念国際火山ワークショップ1995小論文・要旨集, p. 183, 1995. 9
- 349) 槌田禎子: 雲仙・普賢岳噴火災害に見る被災者救済の実例—住宅再建・中小企業者に対する個人補償的措置を中心に—, 昭和新山生成50周年記念国際火山ワークショップ1995小論文・要旨集, pp. 191-193, 1995. 9
- 350) 喜多信悟・青景平昌・酒向信一・岡野幹雄・奥松俊博: テレワークシステム(遠距離土工システム)の開発 [雲仙復興工事への適用] フジタ技術研究所報, 第31号, pp. 73-78, 1995. 9
- 351) 雲仙普賢岳噴火災害記録集: 島原市役所職員組合, Vol. 7, 全27頁, 1995. 9
- 352) 前川俊一: 雲仙普賢岳に伴う交通確保について, 第21回日本道路会議一般論文集(A), pp. 444-445, 1995. 10
- 353) 高橋和雄・藤井 真: 火山と共生した都市基盤整備に関する研究, 第21回日本道路会議一般論文集(A), pp. 454-455, 1995. 10

- 354) 伊藤和明：雲仙岳4年半の軌跡，予防時報，183号，pp. 58-64, 1995. 10
- 355) 雲仙岳測候所：1994年の雲仙岳の火山活動，福岡管区気象台「技術通信」第41巻，pp. 113-129, 1995. 11
- 356) 雲仙岳測候所：雲仙岳火山のトリパタイトを用いたB型地震の震源について，研究時報，46巻別冊，pp. 180-181, 1995
- 357) 太田一也：普賢岳の噴火活動の推移1989年11月－1995年2月，雲仙・普賢岳噴火活動による自然変遷（長崎県）抜刷，pp. 39-48, 1995
- 358) 雲仙岳測候所：雲仙岳火山の測量観測について，研究時報，46巻別冊，pp. 184-185, 1995
- 359) 川崎ナヲミ：災害時における自殺予防－雲仙・普賢岳噴火災害での経験から－，生活，1995
- 360) Nakada, S. and Shimizu, H.: The 1991-1994 Activities of Unzendake Volcano, Reports on Volcanic Activities and Volcanological Studies in Japan for the Period from 1991 to 1994, Volcanological Society of Japan and National Committee of Volcanology and Chemistry of the Earth's Interior, Japan, Science Council of Japan, pp. 2-9, 1995
- 361) 建設省九州地方建設局雲仙復興工事事務所：雲仙普賢岳火山噴火災害－雲仙普賢岳直轄火山砂防事業－，新砂防，Vol. 48, No. 5, pp. 39-44, 1996. 1
- 362) 太田一也：雲仙普賢岳の溶岩ドームの活動，'95国際火山ワークショップ報告書，pp. 11-21, 1996. 2
- 363) 福崎博孝：警戒区域の設定に伴う経済的損失の補償，'95国際火山ワークショップ報告書，pp. 102-104, 1996. 2
- 364) 大島 治：雲仙普賢岳の活動に見る天災・人災，'95国際火山ワークショップ報告書，pp. 105-109, 1996. 2
- 365) 鐘ヶ江管一：雲仙普賢岳の教訓，'95国際火山ワークショップ報告書，pp. 125-132, 1996. 2
- 366) 高橋和雄：火山工学セミナーin長崎'95開催，土木学会誌，Vol. 81, p. 66, 1996. 3
- 367) 川端一夫：島原復興計画を考える①－火山観光化で島原半島の活性化を－，pp. 6-9, 1996. 3
- 368) 鐘ヶ江管一：雲仙普賢岳噴火災害の教訓－災害に襲われた時の教訓からの提言－，提言防災と危機管理－'95防災フォーラムから－，pp. 138-143, 1996. 4
- 369) 太田一也：普賢岳で自衛隊が果たした役割，pp. 144-145, 1996. 4
- 370) 篠 勤：島原復興計画を考える②－「島原大変」さあ大変，pp. 4-7, 1996. 4
- 371) 高橋和雄：島原復興計画を考える③－被災地の復興－その現状と未来－，pp. 12-15, 1996. 5
- 372) 橋本晴行：雲仙岳噴火災害からの復興，土木学会誌，Vol. 81, pp. 10-13, 1996. 5
- 373) 清水真守：島原復興計画を考える④－「水と緑の城下町」の現実－，pp. 6-9, 1996. 6
- 374) 松井宗広：RCC工法，CSG工法による水無川1号砂防ダムの着手，土木施工，pp. 17-21, 1996. 6
- 375) 高橋和雄：雲仙普賢岳噴火災害(1990年-1995年)，ミニ特集－情報が生死をわけた－

- 土木学会誌, Vol. 81, pp. 70-75, 1996. 7
- 376) 木村拓郎：島原復興計画を考える⑤－島原復興の現状とその行方－, pp. 8-11, 1996. 7
- 377) 雲仙岳災害復興室にぎわいのあるまちづくり班共同執筆：島原復興計画を考える⑥－再起にかける「あしたのジョー」－, pp. 14-17, 1996. 8
- 378) 権田 豊：火砕流熱風部の運動機構に関する研究－平成7年度砂防学会ワークショップ成果概要報告－, 砂防学会誌, Vol. 49, No. 3, pp. 43-45, 1996. 9
- 379) 竹田豊太郎・小山悦郎・山口 勝：光波観測で捉えたマグマ溜りの挙動, 月刊地球, 号外15, pp. 36-41, 1996
- 380) 山科健一郎：傾斜計の動きからみた雲仙火山の溶岩噴出過程, 月刊地球, 号外15, pp. 76-81, 1996
- 381) 田中良和：電磁気観測からみた地殻の加熱, 月刊地球, 号外15, pp. 145-150, 1996
- 382) 平林順一：雲仙岳からの火山ガス放出量, 月刊地球, 号外15, pp. 150-155, 1996
- 383) 植木貞人・清水 洋・内田和也・前川徳光・渡辺秀文・須藤靖昭・吉川 慎・宮町宏樹・石原和弘：雲仙火山の噴火にともなう重力変化, 月刊地球, 号外15, pp. 42-46, 1996
- 384) 野津憲治：噴火後に地下流体に現れるマグマ上昇の影響, 月刊地球, 号外15, pp. 156-160, 1996
- 385) 太田一也：雲仙普賢岳の溶岩ドームの活動, 昭和新山生成50周年記念国際火山ワークショップ報告書, pp. 11-21, 1996
- 386) 緒方 誠・森 博一：VolPASによる土石流の自動判定, 研究時報, 47巻別冊, pp. 176-177, 1996
- 387) 松井宗広：建設機械の無人化施工技術－雲仙普賢岳噴火災害対策における無人化除石工事の概要について－, 建設機械, 385, Vol. 33, No. 3, pp. 35-40, 1997. 3
- 388) 太田一也：雲仙普賢岳噴火災害からの教訓－危機管理の視点から－, N D I C NEWS, No. 16, pp. 15-18, 1997. 3
- 389) 建設省雲仙復興工事事務所：地域復興の核となる本格的な幹線道路 島原深江道路 国道57号島原深江道路, 開発往来, No. 472, pp. 44-55, 1997. 5
- 390) 高橋和雄：普賢岳噴火災害からの島原地域の本格復興を目指す「がまだす計画」策定される, 土木学会誌, Vol. 82, No. 5, pp. 44-45, 1997. 5
- 391) 高橋和雄：雲仙普賢岳砂防指定地利活用構想まとまる, 土木学会誌, Vol. 82, No. 8, pp. 46-47, 1997. 8
- 392) 坂山敏二：雲仙普賢岳砂防指定地利活用構想, 砂防と治水, Vol. 30, No. 3, pp. 56-57, 1997. 8
- 393) 磯 望：雲仙普賢岳噴火とその後の自然変化－火山灰を中心に－, 火山工学セミナーin鹿児島'97, pp. 23-32, 1997. 11
- 394) 坂山敏二：雲仙普賢岳スポーツフェスティバル'97の開催, 砂防と治水, Vol. 30, No. 5, pp. 57-58, 1997. 12

- 395) 太田一也：1990年-1995年雲仙岳噴火活動の予知と危機管理支援，火山，Vol. 42，pp. 61-74，1997
- 396) 牧角龍憲：“がまだす”島原復興を支える砂防事業－雲仙普賢岳水無川1号砂防ダム－，土木学会誌，Vol. 83，pp. 4-7，1998. 1
- 397) 池水富美矢：火山地域における無人化施工，火山工学の確立を目指して 火山工学研究小委員会報告書，pp. 36-44，1998. 3
- 398) 後藤恵之輔・山中 稔：火山資源の土木材料としての活用，火山工学の確立を目指して火山工学研究小委員会報告書，pp. 55-62，1998. 3
- 399) 木村拓郎：火山災害と復興対策－雲仙・普賢岳噴火災害に見る復興事業の教訓－，火山工学の確立を目指して 火山工学研究小委員会報告書，pp. 73-78，1998. 3
- 400) 高橋和雄：火山地域の防災対策の実例，火山工学の確立を目指して 火山工学研究小委員会報告書，pp. 79-98，1998. 3
- 401) 坂山敏二：雲仙普賢岳砂防指定地利活用構想まとまる－復興と連携して地域活性化－，砂防と治水，Vol. 31，No. 1，pp. 70-71，1998. 4
- 402) 高橋和雄：雲仙普賢岳災害を記録してきて，雲仙普賢岳噴火災害記録集－災害の体験と教訓を後世に－，pp. 77-80，1998. 6
- 403) 三木洋一：水無川の無人化施工技術が土木学会技術賞を受賞，砂防と治水，Vol. 31，No. 3，pp. 38-39，1998. 8
- 404) 高橋和雄：火砕流で被災した深江町立大野木場小学校「被災校舎」の現地保存計画まとまる，土木学会誌，Vol. 83，No. 10，pp. 39-40，1998. 9
- 405) 高橋和雄：火砕流で被災した深江町立大野木場小学校「被災校舎」の現地保存計画纏まる，土木学会誌，第83巻，第10号，pp. 39-40，1998. 9
- 406) 高橋和雄：火山災害からの生活再建をめざす－島原市安中三角地帯嵩上げ事業－，土木学会誌，第83巻，第13号，pp. 41-42，1998. 12
- 407) 高橋和雄：火山噴火災害復興計画と大学，地域創造と大学（長崎大学生涯学習教育研究センター運営委員会編），大蔵省印刷局，pp. 89-101，1999. 3
- 408) 高橋和雄・西村寛史・塩津雅子・伊東義信：噴火活動が停止した島原地域の本復興に関する調査，長崎大学からの情報発信'98，No. 4，p. 76，1999. 5
- 409) 高橋和雄：雲仙普賢岳噴火災害被災地に道の駅「みずなし本陣ふかえ」オープン，土木学会誌，第84巻，第6号，p. 55，1999. 6
- 410) 高橋和雄：自然災害科学研究を防災対策に生かすには，災害科学通信，No. 59，pp. 18-24，1999. 7
- 411) 高橋和雄：雲仙普賢岳の噴火災害の災害対策の教訓をシステムに，NDIC 西部地区自然災害資料センターニュース，No. 21，pp. 18-20，1999. 9
- 412) 木村拓郎：「雲仙・普賢岳噴火災害の復興」-安中三角地帯の嵩上事業の記録-，砂防学会誌，Vol. 52，No. 2，pp. 44-53，1999
- 413) 高橋和雄：火山災害被災地の地域環境の創造，長崎大学公開講座叢書12「地域環境の

- 創造」, (長崎大学生涯学習教育研究センター運営委員会編), 大蔵省印刷局, pp. 27-38, 2000. 3
- 414) 高橋和雄: 雲仙普賢岳の火山災害対策の教訓, 前衛, No. 725, pp. 75-80, 2000. 6
- 415) 鐘ヶ江管一: 雲仙・普賢岳噴火災害と復興の歩み, 新砂防 砂防学会誌, Vol. 53, No. 4, pp. 1-3, 2000. 11
- 416) 小橋澄治: 雲仙・普賢岳噴火10年 雲仙・普賢岳災害の教訓は生かされているか?, 新砂防砂防学会誌, Vol. 53, No. 4, pp. 84-85, 2000. 11
- 417) 太田一也: 雲仙普賢岳噴火災害を振り返って, 新砂防 砂防学会誌, Vol. 53, No. 4, pp. 85-86, 2000. 11
- 418) 高橋和雄: 雲仙復興と砂防事業, 新砂防 砂防学会誌, Vol. 53, No. 4, pp. 86-87, 2000. 11
- 419) 下川悦郎: 侵食環境からみた普賢岳近況, 新砂防 砂防学会誌, Vol. 53, No. 4, pp. 87-88, 2000. 11
- 420) 石川芳治: 雲仙岳における合成開口レーダ(SAR)を用いた地形計測, 新砂防 砂防学会誌, Vol. 53, No. 5, pp. 67-71, 2001. 1
- 421) 高橋和雄: 普賢岳フォーラム開催さる, 土木学会誌, Vol. 86, No. 2, pp. 51-52, 2001. 2
- 422) 槌田禎子: 普賢岳火砕流惨事から10年 普賢岳の教訓はいかされているのか, 月刊長崎消息, pp. 2-5, 2001. 7
- 423) 古賀省三・村上 博: 地域住民の意見を聞いて策定した雲仙・普賢岳火山砂防計画, 砂防学会誌, Vol. 55, No. 1, 240号, pp. 63-70, 2002. 5
- 424) (社)土木学会地盤工学委員会火山工学研究小委員会: 火山とつきあうQ & A 99, 砂防学会誌, Vol. 55, No. 1, 240号, p. 88, 2002. 5
- 425) 高橋和雄: 火山災害のリスクマネジメント, 地質と調査, '02第4号, pp. 14-20, 2002. 12
- 426) 高橋和雄: 自然災害や防災に関心をもとう, 国土交通省雲仙復興事務所 10周年記念誌, pp. 47-48, 2003. 6
- 427) 高橋和雄: 雲仙普賢岳の噴火活動による降灰の地域への影響およびその対策に関する調査, 都市における火山灰災害の社会的影響に関するシンポジウム, pp. 27-44, 2003. 11
- 428) 高橋和雄: 島原復興を支えた復興計画, 日本建築学会総合論文誌第2号「災害からの復興と防災フロンティア」, pp. 41-42, 2004. 2
- 429) 高橋和雄・其田智洋・中村聖三: 雲仙における砂防指定地の利活用に関する調査, 土木学会地盤工学委員会火山工学研究小委員会第4期報告書, pp. 37-48, 2004. 3
- 430) 松井宗廣: 火山噴火対策—その経験から—, 河川, 60巻, 第5号, pp. 27-44, 2004
- 431) 松井宗廣: 無人化施工による砂防ダム建設—雲仙普賢岳噴火災害対策—, 土木技術, 51巻, 第11号, pp. 31-39, 2004
- 432) 高橋和雄: 火山災害と市民生活, Re, No. 147, pp. 58-61, 2005. 2
- 433) 高橋和雄: 爆発的火山噴火に対応できる住民避難対策に関する検討, 文部科学省科学研究費特定領域研究「火山噴火のダイナミクス」平成17年度報告書, pp. 420-425, 2006. 3
- 434) 高橋和雄・下田弘二・近藤久泰: 長期・大規模噴火災害を受けた島原市安中地区住民の防災意識・復興評価に関する調査, 文部科学省科学研究費特定領域研究「火山噴火のダイナミ

- ックス」平成 18 年度報告書, pp.407-412, 2007.3
- 438) 高橋和雄:長崎の安全と安心ー雲仙普賢岳の火山災害ー広報誌〔長報:チョーホー〕CHOHO, Vol.21, pp.12-14, 2007.10
- 436) 高橋和雄:雲仙岳の地域復興ー島原復興を支えた復興計画, 科学, Vol.77, No.12, pp.1300-1303, 2007.12
- 437) 高橋和雄:過去の災害に学ぶ(第16回)雲仙普賢岳岳噴火, 広報防災, Vol.43, pp.18-19, 2008.1
- 438) Kazuo Takahashi: Mount Unzen-Fugendake Eruption Disaster and Reconstruction, the City Planning Institute of Japan News Letter, Special Issue:Urban Disaster and Its Prevention in Terms of Machidururi, No.39,2008.1

4. 講演

- 1) 平野宗夫：雲仙岳の土石流災害，豪雨災害に関する講演会要旨集，pp. 66-69，1991. 8
- 2) 太田一也：1990-91年雲仙岳噴火活動概況，「雲仙災害」防災シンポジウム，pp. 3-5，1991. 9
- 3) 毎熊輝記・田中達也：雲仙岳付近における微動観測，物理探査学会第85回学術講演会論文集，pp. 34-37，1991. 10
- 4) 守屋喜久夫：雲仙普賢岳の火砕流について，第10回日本自然災害学会学術講演会要旨集，pp. 2-3，1991. 10
- 5) 後藤恵之輔・浜崎一弘・松岡朋秀・三浦国春・持下輝雄：雲仙・普賢岳火山災害調査(その1) 現地調査，第10回日本自然災害学会学術講演会要旨集，pp. 4-5，1991. 10
- 6) 後藤恵之輔・中沼達也・大河憲二・三浦国春：雲仙・普賢岳火山災害調査(その2) リモートセンシング調査，第10回日本自然災害学会学術講演会要旨集，pp. 6-7，1991. 10
- 7) 松野 進・高橋和雄：雲仙普賢岳の噴火による住民の避難に関する調査，第10回日本自然災害学会学術講演会要旨集，pp. 72-73，1991. 10
- 8) 森 博一・花田簡輔・福留篤男：1991年雲仙普賢岳噴火 -活動概要-，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 11，1991. 10
- 9) 神定健二・森 博一・吉武正俊：1991年雲仙岳噴火-地震・微動-，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 12，1991. 10
- 10) 馬越孝道：雲仙岳火山活動にともなう地震活動，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 13，1991. 10
- 11) 宇平幸一・山里 平・橋本徹夫・福井敬一・小泉岳司：長周期地震計で観測された雲仙岳の震動について，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 14，1991. 10
- 12) 橋本徹夫・宇平幸一・山里 平・後藤和彦：雲仙岳周辺の地震により推定されたコーダQについて，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 15，1991. 10
- 13) 多田 堯：雲仙火山1990-1991年の活動と地殻変動，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 16，1991. 10
- 14) 加茂幸介・石原和弘・江頭庸夫・西 潔・井口正人・高山鐵朗・松尾紉道：島原半島におけるGPS連続観測，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 17，1991. 10
- 15) 竹田豊太郎・小山悦郎：雲仙火山西麓における光波観測(その2)，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 18，1991. 10
- 16) 江頭庸夫・西 潔・高山鐵朗・小野博尉・菊池茂智・須藤靖明・外 輝明・山田年広・迫 幹雄・宮町宏樹：雲仙火山普賢岳近傍の地盤変動，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 19，1991. 10
- 17) 斎藤英二・渡辺和明・須藤 茂・星住英夫・遠藤秀典・風早康平・川辺禎久・阪口

- 圭一・宝田晋治・山元孝広・高田 亮：雲仙火山1990-91年噴火に伴う山体変動(光波測距)，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 20，1991.10
- 18) 山科健一郎・井上義弘・清水 洋・松尾紉道：雲仙岳火山1991年噴火と傾斜変動観測，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 21，1991.10
- 19) 植木貞人・山科健一郎・小野博尉・石原和弘・井口正人・清水 洋・宮町宏樹：雲仙火山の爆発的噴火および火砕流に伴う傾斜変化，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 22，1991.10
- 20) 中禮正明・仲谷 清・中島新三郎・山崎 明・角村 悟・山元哲也・石井美樹・菅原政志：雲仙火山活動に伴う全磁力変化(その1)，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 23，1991.10
- 21) 田中良和・橋本武志・増田秀晴・半田 駿・歌田久司・笹井洋一：1991年雲仙岳噴火にともなう地磁気変化，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 24，1991.10
- 22) 鍵山恒臣・増谷文雄・歌田久司・松尾紉道・清水 洋・馬越孝道：ELF-VLF MTおよび遠望観測から推定される雲仙火山のマグマ上昇課程，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 25，1991.10
- 23) 井田喜明：膨張しながら火道を上昇するマグマ：雲仙岳にみられた周期的な噴火活動の理由，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 26，1991.10
- 24) 植木貞人・清水 洋・宮町宏樹・前川徳光・須藤靖明・石原和弘：雲仙火山地域における噴火前後の精密重力測定，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 27，1991.10
- 25) 熊谷貞治・植原茂次・矢崎 忍・大見士朗：空中からM S Sによる雲仙岳の温度観測，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 28，1991.10
- 26) 小山真人・山岡耕春・早川由紀夫・白尾元理：1991年雲仙火山噴火の潮汐依存とそのメカニズム，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 29，1991.10
- 27) 渡辺一徳・星住英夫・坂谷徹丸：雲仙火山の地質とK-A r年代，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 31，1991.10
- 28) 高島 勲・渡辺公一郎：1万年より若い火山岩の年代測定例としての雲仙火山眉山岩体のT L年代，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 32，1991.10
- 29) 尾関信幸・小林哲夫：雲仙岳火山で認められる火砕流堆積物，日本火山学会1991年度講演予稿集秋季大会，No.2，p. 33，1991.10
- 30) 太田一也・松尾紉道・清水 洋・馬越孝道：1990-91年雲仙岳噴火活動概況，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 34，1991.10
- 31) 横田 崇・西脇 誠・舟崎 淳・山口 敬：1991年雲仙岳噴火 - 遠望観測 - ，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 35，1991.10
- 32) 中田節也・小林哲夫：雲仙岳1991年噴火によって生じた溶岩ドーム，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 36，1991.10

- 33) 須藤 茂・阪口圭一・川辺禎久・風早康平・宝田晋治・曾屋龍典：セオドライトにより溶岩ドームの観測 移動速度，マグマ供給率，粘性について，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 37，1991.10
- 34) 福井敬一・橋本徹夫・宇平幸一・山里 平・小泉岳司・森 博一・上田義治・秋吉治郎：雲仙岳溶岩ドームの成長と移動 - 測角測量，写真解析による -，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 38，1991.10
- 35) 清野政明・福井敬一・橋本徹夫・宇平幸一・山里 平：雲仙岳における三つの噴火での溶岩流粘性について，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 39，1991.10
- 36) 宝田晋治・風早康平・川辺禎久・阪口圭一・須藤 茂・山元孝広・曾屋龍典：雲仙岳1991年噴火の噴出物量と $6/3 \cdot 6/8$ の火砕流の発生機構，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 40，1991.10
- 37) 藤井敏嗣・中田節也・荒牧重雄：雲仙火山1991年噴火のマグマ供給量の推移，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 41，1991.10
- 38) 柳 哮・前田俊一：雲仙岳火山地獄跡火口から噴出する溶岩の比重の時間変化と総噴出量の推定，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 42，1991.10
- 39) 長岡正利・須藤清澄・益田幸雄・佐藤栄二・石川芳治・山田 孝・小林 泉・千葉達朗：1991年雲仙岳噴火の火砕流堆積物量の空中写真測量による測定，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 43，1991.10
- 40) 荒牧重雄・藤井敏嗣・中田節也：雲仙火山1991年噴火の火砕流の特徴，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 44，1991.10
- 41) 福井敬一・橋本徹夫・小泉岳司・宇平幸一・山里 平：雲仙岳火砕流の映像観測，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 45，1991.10
- 42) 舟崎 淳・神定健二・山元敬満・後藤英一：1991年雲仙岳噴火-火砕流-，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 46，1991.10
- 43) 山里 平・福井敬一・宇平幸一・橋本徹夫・小泉岳司：雲仙岳の火砕流にともなう振動波形，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 47，1991.10
- 44) 佐藤博明・藤井敏嗣・中田節也：過剰孔隙ガス圧によるドーム溶岩の破砕化と火砕流の発生，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 48，1991.10
- 45) 宇井忠英・畚野 匡：溶岩円頂丘形成に伴って発生する火砕流，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 49，1991.10
- 46) 山元孝広・宝田晋治：重力波としてみた雲仙普賢岳火砕流の運搬機構，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 50，1991.10
- 47) 矢島重美・石川芳治・山田 孝：火砕流の運動特性，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 51，1991.10
- 48) 早川由紀夫：低アスペクト比の堆積物を残した高速火砕流，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 52，1991.10

- 49) 金子隆之・鎌田桂子：Energy Line/Coneによる雲仙火山1991年火砕流到達域の検討，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 53，1991. 10
- 50) 福嶋祐介・鍵山恒臣：雲仙普賢岳における火砕流の数値シミュレーション，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 54，1991. 10
- 51) 鈴木 宏・宮本邦明・西山泰弘：雲仙岳火山災害予想区域図の作成について，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 55，1991. 10
- 52) 宮原智哉・遠藤邦彦・新川和範・安井真也・小森次郎・大野希一・千葉達朗・陶野郁雄・磯 望・撰田克哉：1991年雲仙岳噴火のテフラ -6.8火山灰，6.11噴石を中心に-，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 56，1991. 10
- 53) 寺井邦久：1990-1991年 雲仙噴火，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 57，1991. 10
- 54) 小林哲夫・中田節也：1991年雲仙岳噴火で噴出した軽石質の噴石，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 58，1991. 10
- 55) 加藤祐三・市川由美子・赤嶺信一：雲仙火山本年6月降下火山豆石，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 59，1991. 10
- 56) 三宅康幸・野村亮太郎：兵庫県のA Tに発見した火山豆石と雲仙岳火砕流に伴う火山豆石，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 60，1991. 10
- 57) 谷口宏充・鎌田桂子：雲仙岳6月8日火山性ブラストの爆風パラメーターの直接測定と防災上の意義，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 61，1991. 10
- 58) 前田俊一・柳 哮・山下勝行・佐藤直子・鶴田忠彦・高橋祥之・井出朋徳・中田節也：雲仙火山1991年噴火の溶岩と火山灰の化学組成，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 62，1991. 10
- 59) 風早康平・川邊禎久・阪口圭一・宝田晋治・水野清秀・曾屋龍典・日下部実：雲仙岳マグマの火道上昇時の脱ガスと密度変化，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 63，1991. 10
- 60) 平林順一・大場 武・太田一也・小坂丈予・小沢竹二郎・吉田 稔・野上健治・山本雅弘：雲仙岳の活動と火山ガス成分および放出量，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 64，1991. 10
- 61) 野津憲治・石橋純一郎・遠嶋康徳・脇田 宏：雲仙岳の噴火活動と火山体周辺から放出する温泉ガスの $^3\text{He}/^4\text{He}$ 比の経時変化，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.，p. 65，1991. 10
- 62) 早川由紀夫：雲仙岳1991年噴火観測日記，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 139，1991. 10
- 63) 小林哲夫・中田節也：雲仙火山，火砕流・岩屑なだれ堆積物の ^{14}C 年代と発達史，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 140，1991. 10
- 64) 宇井忠英・中田節也・谷口宏充：1991年雲仙普賢岳噴火の火砕流と土石流による被害，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 141，1991. 10

- 65) 谷口宏充・中田節也・太田一也・宇井忠英：雲仙岳6月3日火砕流に伴う火山災害の評価：災害からサージの物理的条件を読む試み，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p.142，1991.10
- 66) 宝田晋治・山元孝広・中野 司・村田泰章・風早康平・川辺禎久・阪口圭一・曾屋龍典：雲仙岳1991年噴火の火砕流－エネルギーライン(コーン)モデルとビンガムフローモデル－，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p.143，1991.10
- 67) 渡辺一徳・小野晃司・阪口圭一・高田 亮・星住英夫：雲仙岳噴火で1991年5・6月に発生した火砕流に伴う火山灰，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p.144，1991.10
- 68) 川辺禎久・須藤 茂・阪口圭一・高田 亮・風早康平・宝田晋治・山元孝広・曾屋龍典：雲仙岳火山1991年噴火噴出物の岩石学的記載，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p.145，1991.10
- 69) 中田節也・本村慶信・島田允堯・真島秀壽・C. H. Chen・D. J. Depaolo・福岡孝昭：雲仙火山1991年溶岩の鉱物学的特徴および同位体比・R E E組成，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p.146，1991.10
- 70) 渡辺公一郎・吉川祐司・井沢英二・甲斐辰次・田口幸洋・寺井邦久：1991年雲仙火山噴火に伴う眉山周辺の地下ガス変動，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p.147，1991.10
- 71) 清水 洋・馬越孝道・松尾紉道：雲仙火山の地震・微動の発生機構(1) 一 方面現象との対比－，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p.148，1991.10
- 72) 沢田宗久・三ヶ田均・清水 洋：雲仙火山における強震観測，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p.149，1991.10
- 73) 宇平幸一・山里 平・橋本徹夫・福井敬一・宝来帰一・清野政明・神定健二・森 博一：雲仙岳で観測された振動波形について，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p.150，1991.10
- 74) 白尾元理・小山真人・早川由紀夫：潮汐と1991年雲仙火山噴火の関係，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p.151，1991.10
- 75) 鍵山恒臣・歌田久司・増谷文雄・山元哲也・村上英記・増田秀晴・橋本武志・田中良和：雲仙火山のMT共同観測(序報)，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p.152，1991.10
- 76) 馬越孝道・清水 洋・松尾紉道・太田一也・鍵山恒臣・増谷文雄：雲仙岳溶岩ドームの表面温度測定，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p.153，1991.10
- 77) 安田 聡・須藤 茂・遠藤秀典：雲仙火山1990－91年噴火に伴う山体変動(空中写真解析)，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p.154，1991.10
- 78) 鍵山恒臣・増谷文雄・馬越孝道：長時間ビデオによる雲仙火山ドーム形成までの遠望観測，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p.155，1991.10
- 79) 加茂幸介・石原和弘・江頭庸夫・西 潔・井口正人・高山哲朗・小野博尉・菊池

- 茂智・須藤靖明・外 輝明・山田年廣・迫 幹雄・宮町宏樹・松尾紉道：雲仙火山周辺の地盤変動，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p.156，1991.10
- 80) 八木新太郎・佐々木久和・長岡正利：数値標高データを用いた雲仙岳の三次元画像表示，日本火山学会1991年度秋季大会講演予稿集，No.2，p.157，1991.10
- 81) 太田一也・松尾紉道・清水 洋・馬越孝道：1990-91雲仙岳噴火活動状況，自然災害科学研究平成3年度第1回西部地区部会・研究発表会，1991.11
- 82) 馬越孝道・清水 洋・松尾紉道：雲仙火山の地震活動I，自然災害科学研究平成3年度第1回西部地区部会・研究発表会，1991.11
- 83) 羽田野袈裟義：火砕流のイメージ，自然災害科学研究平成3年度第1回西部地区部会・研究発表会，1991.11
- 84) 半田 駿：雲仙岳でのELF-MT法による比抵抗のモニター，自然災害科学研究平成3年度第1回西部地区部会・研究発表会，1991.11
- 85) 森山聡之・平野宗夫・橋本晴行・岩元 賢・脇水健次：雲仙岳土石流情報収集システムについて，自然災害科学研究平成3年度第1回西部地区部会・研究発表会，1991.11
- 86) 高橋和雄：雲仙岳火山災害による住民の避難について，自然災害科学研究平成3年度第1回西部地区部会・研究発表会，1991.11
- 87) 平野宗夫・岩元 賢・橋本晴行・宮島正悟：雲仙岳の土石流(1)ー水無川において発生した土石流ー，自然災害科学研究平成3年度第1回西部地区部会・研究発表会，1991.11
- 88) 平野宗夫・橋本晴行・木藤賢一：雲仙岳の土石流(2)ー湯江川において発生した土石流ー，自然災害科学研究平成3年度第1回西部地区部会・研究発表会，1991.11
- 89) 武政剛弘・東 一洋・山崎聡太郎：雲仙・普賢岳の噴火に伴う農林災害，自然災害科学研究平成3年度第1回西部地区部会・研究発表会，1991.11
- 90) 東 孝寛・高山昌照・近藤文義・岩下幸司：雲仙・普賢岳噴火に伴う降下火山灰に関する現地調査，自然災害科学研究平成3年度第1回西部地区部会・研究発表会，1991.11
- 91) 高橋和雄：火山と共生するまちづくりー新しい防災都市づくりーをめざして，長崎青年会議所建設部会討論会，1991.11
- 92) 高橋和雄：情報化と都市防災，日本エンジニアリング振興協会都市研究部会，1991.11
- 93) 武政剛弘・東 一洋・山崎聡太郎：雲仙・普賢岳の噴火に伴う降灰による農林被害，平成3年度日本農業気象学会九州支部大会講演要旨，pp.35-38，1991.11
- 94) 堀江宏昭・中村健治・浦塚清峰・増子治信・岡本謙一：航空機搭載映像レーダによる雲仙岳の観測，日本リモートセンシング学会第11回学術講演会論文集，pp.153-156，1991.11
- 95) 中山裕則・田中總太郎・稲永麻子・西川 肇・藤井寿生・岩下圭之・遠藤邦彦・千葉達朗・加藤洋一：人工衛星データによる雲仙岳噴火の観測，日本リモートセンシ

- ング学会第11回学術講演会論文集, pp.157-160, 1991.11
- 96) 伊藤和明: 火山災害と防災, 平成4年度地すべり学会総会, 1991.11
- 97) 北浦 勝・宮島昌克・池本敏和・尾崎 孝・鈴木 有・吉田雅穂: 雲仙普賢岳の火山災害におけるボランティア活動の実態調査, 平成3年度自然災害科学中部地区シンポジウム講演要旨集, pp.6-7, 1991
- 98) 北浦 勝・宮島昌克・池本敏和・尾崎 孝・鈴木 有・吉田雅穂: 新聞報道からみた雲仙普賢岳の火山災害とボランティア活動, 平成3年度自然災害科学中部地区シンポジウム講演要旨集, pp.8-9, 1991
- 99) Takahashi.K.Special Lecture 「Unzen Volcano」, Earthquake Engineering Course, 29 Jan.1992, Tsukuba, 1992.1
- 100) 馬越孝道・清水 洋・松尾紉道: 雲仙火山の地震活動Ⅱ, 自然災害科学研究平成3年度第2回西部地区部会・研究発表会, 1992.2
- 101) 渡辺公一郎・井沢英二・田口幸洋・甲斐辰次・吉川祐二: 雲仙火山眉山周辺の地下ガス変動, 自然災害科学研究平成3年度第2回西部地区部会・研究発表会, 1992.2
- 102) 高橋和雄・松野 進: 雲仙普賢岳の火山災害の社会的影響, 自然災害科学研究平成3年度第2回西部地区部会・研究発表会, 1992.2
- 103) 松野 進・高橋和雄: 雲仙普賢岳の火山災害におけるライフライン, 電気通信, 交通システムの応急対策, 自然災害科学研究平成3年度第2回西部地区部会・研究発表会, 1992.2
- 104) 鈴木義則・早川誠而・角 明夫・山本晴彦・武政剛弘: 雲仙火砕流とその植物影響に関する基礎的研究, 自然災害科学研究平成3年度第2回西部地区部会・研究発表会, 1992.2
- 105) 鐘ヶ江管一: 火山災害との闘い, 砂防学会雲仙普賢岳特別シンポジウムー火砕流・土石流の実態と対策ー, 1992.2
- 106) 太田一也: 雲仙普賢岳の火山活動, 砂防学会雲仙普賢岳特別シンポジウムー火砕流・土石流の実態と対策ー, 1992.2
- 107) 池谷 浩: 雲仙普賢岳の火砕流・土石流の発生状況とその対策, 砂防学会雲仙普賢岳特別シンポジウムー火砕流・土石流の実態と対策ー, 1992.2
- 108) 水山高久: 火砕流・土石流の流動メカニズム, 砂防学会雲仙普賢岳特別シンポジウムー火砕流・土石流の実態と対策ー, 1992.2
- 109) 落合博貴: 火砕流による森林被害の実態と復旧, 砂防学会雲仙普賢岳特別シンポジウムー火砕流・土石流の実態と対策ー, 1992.2
- 110) 伊藤和明: マスコミから見た雲仙火山災害, 砂防学会雲仙普賢岳特別シンポジウムー火砕流・土石流の実態と対策ー, 1992.2
- 111) 加茂幸介: 1991年雲仙普賢岳の噴火活動, 京都大学防災研究所平成3年度研究発表講演会, 1992.2
- 112) 石原和弘・小野博尉: 地盤変動観測からみた雲仙岳の活動, 京都大学防災研究所平成

- 3年度研究発表講演会, 1992.2
- 113) 西 潔: G P S連続観測データの処理方法と結果の再現性について－1991年島原半島における観測－, 京都大学防災研究所平成3年度研究発表講演会, 1992.2
- 114) 田中良和・橋本武志・増田秀晴: 1991年の雲仙火山の活動に伴う地磁気変化, 京都大学防災研究所平成3年度研究発表講演会, 1992.2
- 115) 須藤靖明・筒井智樹・迫 幹雄: 雲仙普賢岳における地震観測, 京都大学防災研究所平成3年度研究発表講演会, 1992.2
- 116) 石川芳治: 平成3年雲仙岳噴火に伴う火砕流・土石流, 平成3年度土木研究所講演会, 1992.2
- 117) 野田 弘: 第1次現地調査の結果について, 国土問題研究会主催第1回シンポジウム「島原災害を考える」, 1992.2
- 118) 小林芳正: 火砕流・岩屑流・土石流, 国土問題研究会主催第1回シンポジウム「島原災害を考える」, 講演集(国土問題, No.5, pp.1-9), 1992.2
- 119) 見上崇洋: 災害復旧・救助に関するわが国の制度・現状とその問題点, 国土問題研究会主催第1回シンポジウム「島原災害を考える」, 講演集(国土問題, No.5, pp.10-19), 1992.2
- 120) 岡田 弘: 火山観測と減災対策(活発な内外の噴火から学ぶ), 土質工学会関西支部平成3年度講話会「天変地異(地震・噴火)を考える」予稿集, pp.9-17, 1992.2
- 121) 池谷 浩: 雲仙普賢岳噴火に伴う火砕流・土石流災害, 土質工学会関西支部平成3年度講話会「天変地異(地震・噴火)を考える」予稿集, pp.31-41, 1992.2
- 122) 広瀬弘忠: 雲仙・普賢岳の噴火により被災した地域住民の災害対応行動, 土質工学会関西支部平成3年度講話会「天変地異(地震・噴火)を考える」予稿集, pp.60-68, 1992.2
- 123) 濱崎一弘・後藤恵之輔・三浦国春・湯藤義文: 衛星リモートセンシングによる雲仙普賢岳周辺の植物活性と土地被覆分類, 平成3年度土木学会西部支部研究発表会概要集, pp.2-3, 1992.3
- 124) 大久保洋介・江崎哲郎・相川 明: G P Sを用いた山体崩壊の監視システム, 平成3年度土木学会西部支部研究発表会概要集, pp.4-5, 1992.3
- 125) 中島克人・羽田野袈裟義・平野宗夫: 雲仙の火砕流について, 平成3年度土木学会西部支部研究発表会概要集, pp.6-7, 1992.3
- 126) 山田邦晴・西田 渉・野口正人: 雲仙普賢岳の火砕流流動予測シミュレーション, 平成3年度土木学会西部支部研究発表会概要集, pp.8-9, 1992.3
- 127) 宮島正悟・平野宗夫・橋本晴行: 1991年雲仙水無川における土石流の特性, 平成3年度土木学会西部支部研究発表会概要集, pp.10-11, 1992.3
- 128) 川原恵一郎・森山聡之・白川朋道・上松泰介: 雲仙普賢岳における土石流発生予測について, 平成3年度土木学会西部支部研究発表会概要集, pp.12-13, 1992.3
- 129) 松野 進・高橋和雄: 雲仙普賢岳の火山災害による住民の避難体制について, 平成3

- 年度土木学会西部支部研究発表会概要集, pp. 14-15, 1992. 3
- 130) 山崎聡太郎・武政剛弘・東 一洋・池永敏彦: 雲仙・普賢岳の火山灰による農林被害, 平成3年度土木学会西部支部研究発表会概要集, pp. 16-17, 1992. 3
- 131) 高橋和雄・松野 進: 雲仙普賢岳火山災害の社会的影響, 平成3年度土木学会西部支部研究発表会概要集, pp. 18-19, 1992. 3
- 132) 其田智洋・高橋和雄: 雲仙普賢岳の火山災害に対するライフラインの事前・緊急対策, 平成3年度土木学会西部支部研究発表会概要集, pp. 20-21, 1992. 3
- 133) 町田健一郎・高橋和雄・入江省造: 雲仙普賢岳の火山災害に対する電気通信, 交通システムの対応, 平成3年度土木学会西部支部研究発表会概要集, pp. 22-23, 1992. 3
- 134) 太田一也: 1990-1992年雲仙岳噴火活動, 日本地質学会第99年学術大会講演要旨, pp. 10-16, 1992. 4
- 135) 寺井邦久: 1990-92年雲仙普賢岳溶岩ドームの成長と降灰分布, 日本地質学会第99年学術大会講演要旨, p. 412, 1992. 4
- 136) 柳 哮・前田俊一・山下勝行・中田節也: 雲仙岳火山の溶岩の化学組成と分化モデル, 日本地質学会第99年学術大会講演要旨, p. 413, 1992. 4
- 137) 大島 治: 雲仙1990年噴火ー類似活動火山との比較, 日本地質学会第99年学術大会講演要旨, p. 414, 1992. 4
- 138) 向山 栄・武智国加・河相祐子: 雲仙岳噴火の状況ー最近の空中写真による噴出物の分布と地形変化の判読ー, 日本地質学会第99年学術大会講演要旨, p. 602, 1992. 4
- 139) 磯 望・遠藤邦彦・宮原智哉・陶野郁雄・千葉達朗・撰田克也・小森次郎・中村真人: 雲仙普賢岳噴火と噴出物の特性, 日本地質学会第99年学術大会講演要旨, p. 603, 1992. 4
- 140) 神定健二: 1991年雲仙岳噴火ー活動概要その2ー, 地球惑星科学関連学会1992年合同大会・予稿集, 1992. 4
- 141) 神定健二: 雲仙・普賢岳の地震活動, 地球惑星科学関連学会1992年合同大会・予稿集, 1992. 4
- 142) 馬越孝道・清水 洋・松尾紉道: 雲仙火山の地震活動, 地球惑星科学関連学会1992年合同大会・予稿集, 1992. 4
- 143) 松尾紉道・清水 洋・馬越孝道・宮町宏樹: 雲仙火山火口直下の地震1. 地震活動, 地球惑星科学関連学会1992年合同大会・予稿集, 1992. 4
- 144) 馬越孝道・清水 洋・松尾紉道: 雲仙火山火口直下の地震2. 地震波形, 地球惑星科学関連学会1992年合同大会・予稿集, 1992. 4
- 145) 鈴木 理・大滝壽樹・小林直樹・芝崎文一郎・吉田茂生・吉岡祥一・金嶋 聡: 雲仙の噴火及び火砕流の地震波による解析, 地球惑星科学関連学会1992年合同大会・予稿集, 1992. 4
- 146) 飯高 隆・三浦勝美・伊神 輝: 雲仙普賢岳近傍での後続波の観測, 地球惑星科学関連学会1992年合同大会・予稿集, 1992. 4

- 147) 山岡耕春・佐々木透：改良CMG-3型広帯域地震計による雲仙火山での地震観測の試み，地球惑星科学関連学会1992年合同大会・予稿集，1992.4
- 148) 芳野赳夫・富澤一郎：雲仙火山噴火に於けるseismogenic emissionの観測結果，地球惑星科学関連学会1992年合同大会・予稿集，1992.4
- 149) 橋本徹夫・宇平幸一・山里 平・後藤和彦：周波数1 Hz付近のコーダQについて－雲仙岳周辺で発生した低周波の地震を用いて－，地球惑星科学関連学会1992年合同大会・予稿集，1992.4
- 150) 須藤靖明・筒井智樹・迫 幹雄：1991年5月に観測された地震について，地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集，1992.4
- 151) 須藤靖明・筒井智樹・迫 幹雄：1991年12月に観測された“C-type”に類似した地震について，地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集，1992.4
- 152) 江原幸雄：雲仙火山周辺の水理的・熱的構造，地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集，1992.4
- 153) 半田 駿：雲仙岳噴火活動に伴う比抵抗変化，地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集，1992.4
- 154) 田中良和・橋本武志・増田秀晴：雲仙火山の活動に伴う地磁気変化（1992年春まで），地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集，1992.4
- 155) 中禮正明・仲谷 清・中島新三郎・山崎 明・角村 悟・山本哲也・石井美樹・菅原政志：雲仙火山活動に伴う全磁力変化（その2），地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集，1992.4
- 156) 中塚 正・森尻理恵・牧野雅彦：空中磁気異常から見た雲仙岳周辺の構造，地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集，1992.4
- 157) 山崎義典・三浪俊夫：雲仙岳の活動と島原半島周辺の潮位，地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集，1992.4
- 158) 三浪俊夫・山崎義典・森 博一：雲仙岳の火山性地震活動と地球潮汐の関係，地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集，1992.4
- 159) 大竹政和・鶴岡 弘：固体および海洋潮汐による1991年雲仙火山噴火のトリガー作用，地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集，1992.4
- 160) 植木真人・石原和弘・宮町宏樹・須藤靖明・清水 洋・渡辺秀文・前川徳光・浜口博之：雲仙火山の噴火活動に伴う重力変化，地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集，1992.4
- 161) 小牧和雄・菊池新市・河和 宏・平井英明・堀 弘：雲仙岳におけるGPS連続観測，地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集，1992.4
- 162) 多田 堯・中川勝登：GPSによる地殻変動と雲仙火山普賢岳の活動について，地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集，1992.4
- 163) 国立大学火山観測機関合同観測班・測地グループ（発表者 西 潔）：雲仙火山周辺の地盤変動（1991年5月-1992年2月），地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿

- 集, 1992. 4
- 164) 竹田豊太郎・小山悦郎: 雲仙火山西麓における光波観測 (その3), 地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集, 1992. 4
- 165) 山科健一郎・井上義弘・清水 洋・松尾紉道: 雲仙火山の噴火と傾斜変動, 地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集, 1992. 4
- 166) 井田喜明: 普賢岳へのマグマ輸送の経路とリズム, 地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集, 1992. 4
- 167) 中田節也・大学合同観測班 (地質班): 雲仙火山1991-1992年噴火によって生じた溶岩ドーム, 地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集, 1992. 4
- 168) 岡田 弘: 溶岩ドームの生長と火山危機事例研究, 地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集, 1992. 4
- 169) 石原和弘・山科健一郎・小野博尉・須藤靖明: 1991年5月の雲仙岳溶岩ドームの上昇過程について, 地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集, 1992. 4
- 170) 早川由紀夫: 雲仙岳1991年噴火の特徴と1992年予測, 地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集, 1992. 4
- 171) 神定健二・西辻和也・三浪俊夫: 雲仙普賢岳の火砕流震動波形, 地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集, 1992. 4
- 172) 山里 平・福井敬一・宇平幸一・橋本徹夫: 雲仙岳の火砕流に伴う震動波形 (2) 地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集, 1992. 4
- 173) 宇平幸一・武尾 実・山里 平・橋本徹夫・福井敬一・小泉岳司: 雲仙岳火砕流震動の震源時間関数について, 地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集, 1992. 4
- 174) 宮原智哉・遠藤邦彦・陶野郁雄・磯 望・新川和範・小森次郎・千葉達朗: 雲仙普賢岳1991年9月15日火砕流の検討, 地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集, 1992. 4
- 175) 中田節也・荒牧重雄・藤井敏嗣・隅田まり・三宅康幸: 雲仙火山1991年噴火の火砕流堆積物調査 (速報), 地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集, 1992. 4
- 176) 山元孝広・宝田晋治: 重力流としてみた雲仙普賢岳火砕流の運搬機構 (II), 地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集, 1992. 4
- 177) 山田 孝・石川芳治・矢島重美・下田義文: 1991年雲仙岳で発生した火砕流 (熱風+火山灰) の被害特性について, 地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集, 1992. 4
- 178) 鈴木貞臣・後藤 進: 雲仙岳溶岩ドームの定時・定点写真撮影 (1990年11月より), 地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集, 1992. 4
- 179) 宇井忠英・隅田まり: 雲仙普賢岳における火砕流発生の直前現象 - 1992年1月の目視観測より -, 地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集, 1992. 4
- 180) 宝田晋治・風早康平・川辺禎久・阪口圭一・須藤 茂・山元孝広・曾屋龍典・気象庁雲仙岳測候所: 雲仙岳1991-92年噴火の噴出物量, 地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集, 1992. 4

- 181) 斎藤英二・渡辺和明・須藤 茂・遠藤秀典・風早康平・川辺禎久・曾屋龍典：雲仙火山1990-91年噴火に伴う山体変動（光波測距，その2），地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集，1992.4
- 182) 吉田英人・高橋正樹：雲仙・普賢岳火山歴史時代噴出物中の斜長石組成累帯構造について，地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集，1992.4
- 183) 新川和範・宮原智哉・小森次郎・大野希一・遠藤邦彦・千葉達朗：雲仙普賢岳噴火で生じたvesicular tuff，地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集，1992.4
- 184) 宮原智哉：1991年雲仙岳噴火噴出物の気泡サイズ分布の変化，地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集，1992.4
- 185) 大島 治：雲仙火山1990-年噴火ー溶岩ドーム形成と他火山との比較ー，地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集，1992.4
- 186) 高橋正樹・吉田英人・金子浩樹・中田節也：雲仙・普賢岳火山歴史時代噴出物(1663年，1792年，1991年)の比較岩石学1．斑晶モードおよび鉱物化学組成，地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集，1992.4
- 187) 高橋正樹・金子浩樹・吉田英人：雲仙・普賢岳火山歴史時代噴出物(1663年，1792年，1991年)の比較岩石学2．全岩化学組成，地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集，1992.4
- 188) 高橋正樹・吉田英人：雲仙・普賢岳火山歴史時代噴出物(1663年，1792年，1991年)の比較岩石学3．浅所マグマ供給系内での諸現象，地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集，1992.4
- 189) 北 逸郎・新田恒造・長尾敬介・田口幸洋：雲仙地熱地域のマグマ性気体の挙動，地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集，1992.4
- 190) 平林順一・大場 武・吉田 稔・野上健治・小坂丈予・河野美香・日下部実：雲仙岳の火山ガス組成と放出量，地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集，1992.4
- 191) 山口佳昭・日下部実・河野美香・三宅康幸：雲仙火山1991ドーム溶岩の石基ガラスおよび石基含水鉱物のC I，F，S含有量，地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集，1992.4
- 192) 高島 勲・渡辺公一郎：T L年代測定による雲仙火山活動史の解明，地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集，1992.4
- 193) 東宮昭彦・高橋栄一・中田節也：高温高压実験による雲仙火山マグマ溜まりの再現の試み，地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集，1992.4
- 194) 高橋正樹・吉田英人：雲仙・普賢岳火山下のマグマ供給系モデル，地球惑星科学関連学会1992年合同大会予稿集，1992.4
- 195) 佐藤敬久・高橋正昭・川下茂樹：水無川で発生した平成3年6月30日の土石流とその再現計算，平成4年度砂防学会研究発表会，1992.5
- 196) 石川芳治・山田 孝・矢島重美・千葉達朗：1991年雲仙普賢岳における溶岩ドームの成長と崩壊，平成4年度砂防学会研究発表会，1992.5

- 197) 石川芳治・山田 孝・矢島重美・下田義文：1991年雲仙普賢岳で発生した火砕流による被害，平成4年度砂防学会研究発表会，1992.5
- 198) 山田 孝・石川芳治・矢島重美：雲仙岳で発生した火砕流の本体部と熱風部の運動特性，平成4年度砂防学会研究発表会，1992.5
- 199) 山田 孝・石川芳治・矢島重美・井戸清雄：雲仙岳で発生した火砕流の堆積実態とシミュレーション計算との比較，平成4年度砂防学会研究発表会，1992.5
- 200) 山下伸太郎・宮本邦明：火砕流の数値シミュレーションとその適用法，平成4年度砂防学会研究発表会，1992.5
- 201) 西山泰弘・山下伸太郎・川下茂樹：雲仙・普賢岳における平成3年6月3日，9月15日の火砕流とその再現計算，平成4年度砂防学会研究発表会，1992.5
- 202) 平野宗夫・橋本晴行・森山聡之・岩元 賢：雲仙岳の土石流とその発生予測，平成4年度砂防学会研究発表会，1992.5
- 203) 荒牧重雄：火山とは，1992防災シンポジウム島原「雲仙普賢岳噴火災害を考える」，1992.5
- 204) 太田一也：いま雲仙普賢岳で何が生じているか，九州大学学術講演会講演要旨，pp. 1-19，1992.5
- 205) 高橋和雄：雲仙普賢岳の火山活動とその社会的影響について，平成4年度熊本大学工学部学生の合宿研修，1992.5
- 206) 石川芳治・山田 孝・矢島重美・下田義文：1991年雲仙普賢岳で発生した火砕流による被害，平成4年度砂防学会研究発表会，1992.5
- 207) 山田 孝・石川芳治・矢島重美：雲仙岳で発生した火砕流の本体部と熱風部の運動特性，平成4年度砂防学会研究発表会，1992.5
- 208) 山田 孝・石川芳治・矢島重美・井戸清雄：雲仙岳で発生した火砕流の堆積実態とシミュレーション計算との比較，平成4年度砂防学会研究発表会，1992.5
- 209) 山下伸太郎・宮本邦明：火砕流の数値シミュレーションとその適用法，平成4年度砂防学会研究発表会，1992.5
- 210) 西山泰弘・山下伸太郎・川下茂樹：雲仙・普賢岳における平成3年6月3日，9月15日の火砕流とその再現計算，平成4年度砂防学会研究発表会，1992.5
- 211) 平野宗夫・橋本晴行・森山聡之・岩元 賢：雲仙岳の土石流とその発生予測，平成4年度砂防学会研究発表会，1992.5
- 212) 荒牧重雄：火山とは，1992防災シンポジウム島原「雲仙普賢岳噴火災害を考える」，1992.5
- 213) 太田一也：いま雲仙普賢岳で何が生じているか，九州大学学術講演会講演要旨，pp. 1-19，1992.5
- 214) 高橋和雄：雲仙普賢岳の火山活動とその社会的影響について，平成4年度熊本大学工学部学生の合宿研修，1992.5
- 215) 太田一也：「いま雲仙普賢岳で何が起きているか」，九州大学学術講演会，全19頁，

1992.5

- 216) 荒生公雄・久保田由美・河田 誠：雲仙に土石流を発生させた1991年6月30日の豪雨，日本気象学会1992年春季大会講演予稿集，p.1，1992.5
- 217) 太田一也：「雲仙・普賢岳における火山活動」(仮題)，コンクリート工学年次大会1992，1992.6
- 218) 陶野郁雄・遠藤邦彦・中村裕昭・宮原智哉・小森次郎：映像による雲仙普賢岳噴火に伴う火砕流堆積物の特徴，第27回土質工学研究発表会(高知)，pp.41-42，1992.6
- 219) 遠藤邦彦・陶野郁雄・宮原智哉・千葉達朗・小森次郎：雲仙普賢岳噴火の経緯と噴出物の特徴，第27回土質工学研究発表会(高知)，pp.43-44，1992.6
- 220) 近藤 寛・松岡敷充：雲仙普賢岳1991年6月の噴火による火山灰，軽石，火山礫について，長崎県地学会平成4年度総会・研究発表会，1992.6
- 221) 寺井邦久：1990-92年雲仙普賢岳の火山活動について，長崎県地学会平成4年度総会研究発表会，1992.6
- 222) 宮島昌克・北浦 勝・鈴木 有・池本敏和：雲仙普賢岳噴火災害におけるボランティア活動の実態とその問題点，日本建築学会北陸支部研究報告集，第35号，pp.109-112，1992.7
- 223) 鈴木 有・北浦 勝・宮島昌克・岡田有司：島原市広報と新聞記事からみた雲仙普賢岳噴火災害の拡大過程と地域社会への影響，日本建築学会北陸支部研究報告集，第35号，pp.313-316，1992.7
- 224) 太田一也：雲仙普賢岳平成噴火の近況，福岡大学公開講座(火山と自然災害「雲仙普賢岳：今・昔」)，pp.12-18，1992.8
- 225) 中山 隆・大住明夫・下川澄雄：火山活動による影響と道路整備のあり方について，第3回日・韓建設技術セミナー，全10頁，1992.9
- 226) 雲仙火山災害長崎大学調査研究グループ：雲仙火山災害の調査研究，雲仙火山災害の調査研究成果報告会，全18頁，1992.9
- 227) 松野 進・高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害における住民への情報伝達について，土木学会第47回年次学術講演会講演概要集，第4部，pp.22-23，1992.9
- 228) 其田智洋・高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害に対するライフラインの事前・緊急対策，土木学会第47回年次学術講演会講演概要集，第4部，pp.24-25，1992.9
- 229) 町田健一郎・高橋和雄・入江省造：雲仙普賢岳の火山災害に対する電気通信・交通システムの対応，土木学会第47回年次学術講演会講演概要集，第4部，pp.26-27，1992.9
- 230) 高橋和雄・松野 進：雲仙普賢岳における火山災害の社会的影響，土木学会第47回年次学術講演会講演概要集，第4部，pp.200-201，1992.9
- 231) 川原恵一郎・平野宗夫・森山聡之：雲仙普賢岳における土石流発生の限界と予測について，土木学会第47回年次学術講演会講演概要集，第2部，pp.58-59，1992.9
- 232) 宮本邦明・高濱淳一郎・東野良平：雲仙普賢岳火山災害におけるシュミレーション手法による災害予想区域図の作成とその利用及び今後の課題，土木学会第47回年次学

- 術講演会講演概要集，第2部，p. 36，1992.9
- 233) 宮島昌克・北浦 勝・鈴木 有：災害時の復旧・救援に関するボランティア活動について－雲仙普賢岳噴火災害を例として－，土木学会第47回年次学術講演会講演概要集，第1部，pp. 68-69，1992.9
- 234) 藤井敏嗣：普賢岳の活動，日本第4紀学会講演要旨集，No. 22，pp. 14-15，1992.9
- 235) 中田節也：雲仙普賢岳1991－1992年噴火と噴出物について，平成4年度長崎県地質調査業協会技術講演会(第13回)，pp. 52-55，1992.10
- 236) 高橋和雄・松野 進：雲仙普賢岳の火山災害における都市システムの応急対策，第11回日本自然災害学会学術講演会要旨集，pp. 38-39，1992.11
- 237) 棚橋由彦・松岡明秀・岩尾雄四郎・後藤恵之輔：雲仙火山眉山の数量化解析による危険度予測，第11回日本自然災害学会学術講演会要旨集，pp. 40-41，1992.11
- 238) 陶野郁雄・遠藤邦彦・棚橋由彦・磯 望：複合災害予測図作成に関する研究(1) 雲仙普賢岳噴火を例として，第11回日本自然災害学会学術講演会要旨集，pp. 42-43，1992.11
- 239) 鈴木義則・早川誠而・角 明夫・山本晴彦・武政剛弘：火砕流による植物の焼失温度の推定と生理反応の変化に関する基礎的研究，第11回日本自然災害学会学術講演会要旨集，pp. 154-155，1992.11
- 240) 高橋和雄・松野 進：雲仙普賢岳における火山災害の社会的影響，第11回日本自然災害学会学術講演会要旨集，pp. 160-161，1992.11
- 241) 小野晃司・渡辺一徳・板谷徹丸・堀伸三郎・星住英夫・林 久雄・緒統英章：雲仙火山の地質(予察)とK-Ar年代，日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 1，1992.11
- 242) 高島 勲・渡辺公一郎：TL年代測定による雲仙火山の層序と二次堆積物の時代及び供給源の推定，日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 2，1992.11
- 243) 中田節也・大学合同観測班地質グループ：雲仙火山1992年噴火，地質観察日記，日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 3，1992.11
- 244) 宇井忠英・隅田まり・佐藤博明・藤縄明彦：雲仙普賢岳における火砕流発生の観測1992年1月－7月の6・7ドーム，日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 4，1992.11
- 245) 藤井敏嗣・隅田まり・中田節也：雲仙普賢岳9.15火砕流およびサージ堆積物とその形成過程，日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 5，1992.11
- 246) 山内常生・宮島力男・奥田 隆・藤井直之：火山性プラスチック計測用自記風圧計，日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 6，1992.11
- 247) 谷口宏充・中田節也・鎌田桂子・三軒一義・鎌田浩毅：流走中における雲仙岳火砕流の物理条件測定，日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集，No.2，p. 7，1992.11
- 248) 高山和喜・斎藤 務・木下利博・藤井直之・谷口宏充：火山爆発のシミュレーション(I)－衝撃波伝播：雲仙1991年6月8日の噴火への応用－，日本火山学会1992年度

- 秋季大会講演予稿集, No.2, p. 8, 1992. 11
- 249) 大野希一・遠藤邦彦・宮原智哉・陶野郁雄・磯 望：雲仙普賢岳噴火における火山豆石の生成－1992年4月1日及び7月14日の例－, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 9, 1992. 11
- 250) 長岡正利・小出正則・須藤清澄・田中宗男・千葉達朗：雲仙岳1991－1992年噴火の噴出物量の計測, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 10, 1992. 11
- 251) 佐藤博明・中田節也：1991年雲仙岳溶岩中の逆累帯構造を示す斜長石のMgO及びFeO*含有量：酸性及び塩基性マグマ混合の証拠, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 11, 1992. 11
- 252) 福岡孝昭・中田節也・前田俊一・柳 哮：雲仙火山1991－92年噴火噴出物の化学組成, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 12, 1992. 11
- 253) 中村美千彦・東宮昭彦・宮城磯治・高橋栄一：普賢岳噴火におけるマグマ混合モデルの実験岩石学的検討, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 13, 1992. 11
- 254) 寺井邦久：1792年眉山崩壊の再検討, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No. 2, p. 14, 1992. 11
- 255) 雲仙岳測候所・福岡管区气象台(代表者 舟崎 淳)：1991年雲仙普賢岳－活動概要(その3)－, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 16, 1992. 11
- 256) 清水 洋・松尾紉道・馬越孝道・松島 健：雲仙火山溶岩ドーム直下の地震活動, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 17, 1992. 11
- 257) 馬越孝道・清水 洋・松尾紉道：雲仙火山におけるマグマ溜まりと上昇路に関する地震学的考察, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 18, 1992. 11
- 258) 神定健二：雲仙・普賢岳の地震活動：観測および理論地震波形の比較, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 19, 1992. 11
- 259) 宇平幸一・鈴木 理・金嶋 聰：1991年6月11日の雲仙岳の爆発的噴火について(改訂版)－シングルフォースあるいはモーメントソース?－, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 20, 1992. 11
- 260) 中山裕則・田中總太郎・遠藤邦彦・千葉達朗・西川 肇・藤井寿生・岩下圭之・加藤洋一：人工衛星データによる雲仙岳噴火の観測, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No., p. 21, 1992. 11
- 261) 橋本徹夫：雲仙地域のコーダ Q^1 値の時間変化－千々石湾付近で発生した地震を用いて－, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 22, 1992. 11
- 262) 山里 平・宇平幸一・福井敬一・橋本徹夫・森 博一：雲仙岳火砕流に伴う空振の解析, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 23, 1992. 11
- 263) 多田 堯：雲仙火山1991年－1992年の活動と地殻変動, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 24, 1992. 11
- 264) 国立大学火山観測機関合同観測班・測地グループ(代表者 江頭庸夫)：地盤変動から

- みた雲仙火山地下のマグマ活動, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 25, 1992. 11
- 265) 大見士朗・松島 健: 雲仙普賢岳溶岩ドーム近傍におけるGPS観測, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 26, 1992. 11
- 266) 多田 堯・中川勝登・河和 宏: GPSによる雲仙岳地殻変動連続観測, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 27, 1992. 11
- 267) 山科健一郎・井上義弘: 雲仙火山の噴火と傾斜変動, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 28, 1992. 11
- 268) 松島 健・清水 洋・太田一也: 雲仙普賢岳の周囲に設置された坑井型傾斜計の記録, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 29, 1992. 11
- 269) 斎藤英二・須藤 茂・渡辺和明・遠藤秀典・風早康平・川辺禎久・曾屋龍典: 雲仙火山1991-92年噴火に伴う山体変動(光波測距, その3), 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 30, 1992. 11
- 270) 竹田豊太郎・小山悦郎・山口 勝・行田紀也: 雲仙火山西麓における光波観測(その4), 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 31, 1992. 11
- 271) 植木貞人・石原和弘・宮町宏樹・須藤靖明・清水 洋・渡辺秀文・前川徳光・浜口博之: 雲仙火山の噴火活動に伴う重力変化(2), 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 32, 1992. 11
- 272) 橋本武志・田中良和・増田秀晴・歌田久司・鍵山恒臣・増谷文雄: 雲仙岳における自然電位観測(続報), 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 33, 1992. 11
- 273) 平林順一・大場 武・吉田 稔・日下部実・G.L. Scott: 雲仙岳火山ガスの組成と放出量, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 103, 1992. 11
- 274) 内川 啓・吉田 稔・平林順一: 雲仙火山1991-92 活動火山岩の塩素, フッ素含有量, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 104, 1992. 11
- 275) 森 俊哉・野津憲治・遠嶋康徳・脇田 宏: 雲仙火山における火山ガス中の SO_2 , HCl の遠隔測定, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 105, 1992. 11
- 276) 羽生 毅・尾崎史子・兼岡一郎・高橋正樹: 雲仙噴石中の希ガス同位体組成より推定されるマグマ移動経路の環境に対する制約, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 106, 1992. 11
- 277) 堀伸三郎・林 久雄・緒統英章・渡辺一徳・星住英夫・小野晃司: 雲仙火山の活動史, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 135, 1992. 11
- 278) 舟崎 淳・横田 崇: 雲仙岳の火山監視システム, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 136, 1992. 11
- 279) 長谷川嘉彦・舟崎 淳: 最近の雲仙岳の地震の発生状況とm値について, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 137, 1992. 11
- 280) 橋本徹夫・山里 平・宇平幸一・清野政明: 雲仙岳測候所火山用地震計によるマグニチュード決定の試み, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 138,

1992. 11

- 281) 千葉達朗・中田節也：雲仙火山1991-92年溶岩ドームの1:2, 000地形図作成, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 139, 1992. 11
- 282) 後藤章夫・大島弘光・岡田 弘：雲仙火山の噴出物及びドーム溶岩の粘性系数測定, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 140, 1992. 11
- 283) 山科健一郎・井上義弘：雲仙火山における溶岩噴出量の減少, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 141, 1992. 11
- 284) 大見士朗・山科健一郎：雲仙火山における溶岩噴出時間変動の写真計測, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 142, 1992. 11
- 285) 谷口宏充・中田節也・三軒一義・鎌田桂子・鎌田浩毅：雲仙岳における火砕流・爆風の物理条件測定のためのペネトレーターの開発・投下・設置実験とTNT爆破によるキャリブレーション, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 143, 1992. 11
- 286) 高山和喜・斎藤 務・木下利博・藤井直之・山岡耕春・谷口宏充：火山爆発のシミュレーション(Ⅱ)－衝撃波の発生と光環現象－, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 144, 1992. 11
- 287) 馬越孝道・清水 洋・松尾紉道・太田一也：雲仙火山・普賢岳の火砕流－地震計と空振計の記録－(1991年5月-6月), 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 145, 1992. 11
- 288) 大島弘光・前川徳光：映像同時記録方式による雲仙普賢岳の火砕流の観測, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 146, 1992. 11
- 289) 下鶴大輔・成岡 市：X線トモグラフィとSEMによる溶岩からの脱ガス過程の推定－新島溶岩流と普賢岳溶岩, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 147, 1992. 11
- 290) 中田節也・木村慶信：雲仙普賢岳1991-92年溶岩, 鉱物の組成変化, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 148, 1992. 11
- 291) 吉田英人・高橋正樹：斜長石組成累帯構造からみた雲仙・普賢岳火山歴史時代噴出物におけるマグマ混合現象, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 149, 1992. 11
- 292) 歌田久司・鍵山恒臣・山本哲也・雲仙火山MT観測グループ：雲仙火山周辺におけるMT観測結果(Ⅱ), 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 150, 1992. 11
- 293) 佐藤博明・清水 洋・佃 栄吉・大見士朗・中田節也：地溝幅が活火山付近で狭くなる現象について：局所的リソスフェア薄化モデル, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 151, 1992. 11
- 294) 上野秀則・小窪則夫・神定健二：雲仙火山の火砕流発生回数, 流走距離および震動継続時間, 日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集, No.2, p. 152, 1992. 11
- 295) 中禮正明・仲谷 清・中島新三郎・山崎 明・角村 悟・山本哲也・石井美樹・大

- 和田毅：雲仙火山活動に伴う全磁力変化(その3)，日本火山学会1992年度秋季大会講演予稿集，No.2，p.153，1992.11
- 296) 太田一也：火山活動の実態—どこまで判ったか—，雲仙普賢岳噴火から2年—九州大学からの報告—，1992.12
- 297) 平野宗夫：土石流発生メカニズム—今後の人的被害の発生を回避するために—，雲仙普賢岳噴火から2年—九州大学からの報告—，1992.12
- 298) 松永勝也：避難行動の心理的実態—行政と住民への提言—，雲仙普賢岳噴火から2年—九州大学からの報告—，1992.12
- 299) 尾崎 孝・北浦 勝・鈴木 有・宮島昌克・池本敏和：災害復旧・救援のためのボランティアの活動について，平成3年度土木学会中部支部研究発表会講演概要集，pp.106-107，1992
- 300) 栗田哲良・北浦 勝・鈴木 有・宮島昌克・池本敏和：雲仙普賢岳噴火災害における被害の波及とその相互関連，平成3年度土木学会中部支部研究発表会講演概要集，pp.112-113，1992
- 301) 水上 博：活火山とともに生きる 街づくり，島原市災害復興シンポジウム，1993.1
- 302) 太田一也：火山活動の実態，島原市災害復興シンポジウム，1993.1
- 303) 池谷 浩：雲仙普賢岳火山災害とその対策，第12回全国防災協会・海外建設防災協会防災セミナー，pp.107-115，1993.1
- 304) 島田健一：雲仙普賢岳噴火災害河川対策，第12回全国防災協会・海外建設防災協会防災セミナー，pp.117-126，1993.1
- 305) 荒生公雄・岩坂邦彦・福井理作：大気中に浮遊する雲仙火山灰の濃度と粒径分布の変動，日本気象学会九州支部講演要旨集，No.94，pp.41-42，1993.1
- 306) 西 潔・江頭庸夫・石原和弘・小野博尉・森 濟：GPS測量による雲仙岳火山の水平変動(1991年1月-1992年9月)，平成4年度京都大学防災研究所研究発表講演会，1993.2
- 307) 石原和弘：雲仙岳の溶岩噴出率と地盤の変形速度の関係から推定されるマグマの供給率について，平成4年度京都大学防災研究所研究発表講演会，1993.2
- 308) 清水 洋：火山活動と経過と現在，日本科学者会議長崎支部1992年度研究交流会，テーマ「雲仙普賢岳を考える」，1993.2
- 309) 高橋和雄：火山情報と防災システム，日本科学者会議長崎支部1992年度研究交流会，テーマ「雲仙普賢岳を考える」，1993.2
- 310) 宮入興一：被害と住民生活，日本科学者会議長崎支部1992年度研究交流会，テーマ「雲仙普賢岳を考える」，1993.2
- 311) 馬越孝道・清水 洋・松尾綱道：雲仙噴火活動中の九州中西部の地震活動，自然災害科学研究 平成4年度第2回西部地区部会・研究発表会，1993.2
- 312) 平野宗夫・橋本晴行・村上浩史：雲仙水無川における土石流の現地観測，自然災害科学研究 平成4年度第2回西部地区部会・研究発表会，1993.2

- 313) 後藤恵之輔・湯藤義文・吉本雅利：雲仙・普賢岳噴火活動による周辺樹木の衛星被害調査，自然災害科学研究 平成4年度第2回西部地区部会・研究発表会，1993.2
- 314) 鈴木義則・山本晴彦・脇水健次・角 明夫：表面温度リモセンによる雲仙火砕流の植物影響範囲の推定，自然災害科学研究 平成4年度第2回西部地区部会・研究発表会，1993.2
- 315) 高橋和雄・久松健一：雲仙普賢岳の火山災害被災都市の復興に関する調査，自然災害科学研究 平成4年度第2回西部地区部会・研究発表会，1993.2
- 316) 荒生公雄・武田喬男・藤吉康志・中根重勝・野口正人：長崎県南部および雲仙周辺における豪雨活動の監視と減災システムの研究，自然災害科学研究 平成4年度第2回西部地区部会・研究発表会，1993.2
- 317) 平野宗夫・橋本晴行・木藤賢一：火砕流の流動・堆積モデルについて，自然災害科学研究 平成4年度第2回西部地区部会・研究発表会，1993.2
- 318) 河野通斉・平野宗夫・橋本晴行・村上浩史：雲仙水無川における土石流の特性，平成4年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集，pp.214-215，1993.3
- 319) 平野宗夫・森山聡之・川原恵一郎・戸嶋真人：ニューラルネットを用いた雲仙水無川における土石流発生予測，平成4年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集，pp.216-217，1993.3
- 320) 岩本 賢・杉本真紀・工藤茂春・多田克生：雲仙普賢岳・火山災害の総合防災計画に関する研究－消防防災計画－，平成4年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集，pp.220-221，1993.3
- 321) 後藤恵之輔・湯藤義文・吉本雅利：衛星リモートセンシングによる雲仙普賢岳周辺の樹木被害調査，平成4年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集，pp.732-733，1993.3
- 322) 松野 進・高橋和雄・樋口由紀子：雲仙火山災害における情報伝達及び避難対策の調査，平成4年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集，pp.734-735，1993.3
- 323) 久松健一・高橋和雄：雲仙普賢岳火山災害に関する調査，平成4年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集，pp.736-737，1993.3
- 324) 岩尾雄四郎・福島真夫：雲仙眉山地域の地質と熱流量調査，平成4年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集，pp.552-553，1993.3
- 325) 馬越孝道・松尾綱道・松島 健・清水 洋・太田一也：雲仙・普賢岳火山活動の推移，地球惑星科学関連学会1993年合同大会・予稿集，p.288，1993.3
- 326) 橋本徹夫・宇平幸一・山里 平：雲仙岳山頂直下の地震について，地球惑星科学関連学会1993年合同大会・予稿集，p.288，1993.3
- 327) 清水 洋・馬越孝道・松尾綱道・松島 健：雲仙火山における1991年6月11日の爆発的噴火－噴火地震の震源，および地震・空振記録の特徴－，地球惑星科学関連学会1993年合同大会・予稿集，p.289，1993.3
- 328) 植木貞人・石原和弘・宮町宏樹・須藤靖明・清水 洋・渡辺秀文・前川徳光・浜口

- 博之：雲仙火山の噴火活動に伴う重力変化(2)，地球惑星科学関連学会1993年合同大会予稿集，p.289，1993.3
- 329) 山科健一郎・井上義弘・清水 洋・松尾紉道：雲仙火山の長周期傾斜振動と溶岩の噴出：続報，地球惑星科学関連学会1993年合同大会・予稿集，p.290，1993.3
- 330) 電磁気研究グループ(発表者 本蔵義守)：無人飛行船による雲仙火山上空全磁力測定(序報)，地球惑星科学関連学会1993年合同大会・予稿集，p.290，1993.3
- 331) 小嶋美都子・田中良和・橋本武志：Magnetic properties of some volcanics from Mt. Unzen，地球惑星科学関連学会1993年合同大会・予稿集，p.291，1993.3
- 332) 橋本武志・田中良和・増田秀晴・歌田久司・鍵山恒臣・増谷文雄：自然電位観測から推定される雲仙岳の地下熱水対流，地球惑星科学関連学会1993年合同大会・予稿集，p.291，1993.3
- 333) 茂木 透・下泉政志・福岡晃一郎：雲仙普賢岳周辺でのMT観測，地球惑星科学関連学会1993年合同大会・予稿集，p.292，1993.3
- 334) 中田節也・大学合同観測地質グループ：雲仙普賢岳，1992年10月以降の噴火の地質観測記録，地球惑星科学関連学会1993年合同大会・予稿集，p.292，1993.3
- 335) 隅田まり・及川 純：火山活動によって生じる音の観測から我々は何を知ることができるか？—雲仙岳を例にした溶岩ドームの成長過程と火砕流の発生に伴う音—，地球惑星科学関連学会1993年合同大会・予稿集，p.293，1993.3
- 336) 及川 純・隅田まり：火砕流の発生する音，地球惑星科学関連学会1993年合同大会・予稿集，p.293，1993.3
- 337) 遠藤邦彦・磯 望・千葉達朗・宮地直道・宮原智哉・大野希一・奥井真人・大学合同観測班地質グループ：雲仙普賢岳噴火による火砕流・火砕サージ堆積物の特徴，地球惑星科学関連学会1993年合同大会・予稿集，p.294，1993.3
- 338) 羽生 毅・尾崎史子・兼岡一郎・高橋正樹：雲仙噴石中の希ガス同位体組成より推定されるマグマ移動経路の環境に対する制約(2)，地球惑星科学関連学会1993年合同大会・予稿集，p.294，1993.3
- 339) 中田節也・伊藤暢康・能美 仁・篠原 博：小型機搭載用合成開口レーダによる普賢岳の画像，地球惑星科学関連学会1993年合同大会・予稿集，p.301，1993.3
- 340) 山里 平・宇平幸一・福井敬一・橋本徹夫・森 博一：雲仙岳火砕流に伴う空振の解析(2)地球惑星科学関連学会1993年合同大会・予稿集，p.301，1993.3
- 341) 茂木 透・田中良和・歌田久司・田中耕平・棚橋道郎・森川剛夫・日下部和宏：雲仙火山における空中電磁法・全磁力測定，地球惑星科学関連学会1993年合同大会・予稿集，p.302，1993.3
- 342) 上嶋 誠・歌田久司・橋本岳志・田中良和・雲仙火山MT観測グループ：雲仙火山周辺でのネットワークMT観測について(序報)，地球惑星科学関連学会1993年合同大会予稿集，p.302，1993.3
- 343) 宮原智哉・宇井忠英・三宅康幸・遠藤邦彦・磯 望・千葉達朗・大学合同観測班

- 地質グループ：雲仙普賢岳噴火1992年12月20日火砕流の堆積学的特徴，地球惑星科学関連学会1993年合同大会・予稿集，p. 303，1993. 3
- 344) 宇井忠英・中田節也：雲仙火山の噴火災害予想図，地球惑星科学関連学会1993年合同大会・予稿集，p. 303，1993. 3
- 345) 宝田晋治・山元孝広：火砕流の流動・堆積機構—雲仙岳1991-93年火砕流と北海道駒ヶ岳1929年火砕流の研究—，日本地質学会第100年学術大会講演要旨，pp. 8-9，1993. 4
- 346) 宮原智哉・遠藤邦彦・奥井真人・大野希一・磯望・宮地直道・千葉達朗：雲仙普賢岳噴火で発生した火砕流・火砕サージ・及びブラスト堆積物の特徴，日本地質学会第100年学術大会講演要旨，p. 561，1993. 4
- 347) 鎌田桂子・谷口宏充・中田節也・三軒一義・鎌田浩毅：雲仙普賢岳噴火における火砕流温度・風圧・粒子速度測定，日本地質学会第100年学術大会講演要旨，p. 562，1993. 4
- 348) 前田俊一・柳哮：歴史時代噴出溶岩の比重と噴出量の関係，日本地質学会第100年学術大会講演要旨，p. 563，1993. 4
- 349) 陶野郁雄・遠藤邦彦・磯望・宮原智哉：雲仙普賢岳噴火に伴う降下火山灰分布の特徴とその影響，日本地質学会第100年学術大会講演要旨，p. 743，1993. 4
- 350) 竹本泰一郎：火山噴火災害の学童生徒の健康への影響，第63回日本衛生学会総会講演集，Vol. 48，No. 1，p. 292，1993. 4
- 351) 太田一也：雲仙・普賢岳の火山活動状況，雲仙復興シンポジウム，1993. 4
- 352) 池谷浩：火砕流・土石流の実態とその対策，雲仙復興シンポジウム，1993. 4
- 353) 廣井脩：災害状況の伝達と住民の行動，雲仙復興シンポジウム，1993. 4
- 354) 千葉達朗・森田明夫：雲仙普賢岳噴火の火山災害判読図の作成，平成5年度砂防学会研究発表会概要集，pp. 17-20，1993. 5
- 355) 宮縁育夫・清水晃・竹下幸・波野正巳・藤本定：雲仙普賢岳における地表面変動の観測，平成5年度砂防学会研究発表会概要集，pp. 21-22，1993. 5
- 356) 大角達夫・安養寺信夫・大原正則・柳瀬梢：雲仙・普賢岳における地形変化と土砂の生産・流出について，平成5年度砂防学会研究発表会概要集，pp. 23-26，1993. 5
- 357) 諏訪浩・西村公志・清水洋・馬越孝道：雲仙水無川の土石流について，平成5年度砂防学会研究発表会概要集，pp. 27-30，1993. 5
- 358) 矢島重美・石川芳治・山田孝：火山灰堆積地域の植生回復に関する調査，平成5年度砂防学会研究発表会概要集，pp. 59-60，1993. 5
- 359) 丸谷知己・出口雄大：雲仙眉山の氾濫原における土砂動態と森林の破壊—再生プロセス，平成5年度砂防学会研究発表会概要集，pp. 69-72，1993. 5
- 360) 池谷浩・石川芳治・徳永秋男：雲仙普賢岳で発生した土石流の特徴，平成5年度砂防学会研究発表会概要集，pp. 161-162，1993. 5
- 361) 石川芳治・山田孝・矢島重美・千葉達朗：雲仙普賢岳における溶岩ドームの崩壊メカニズム，平成5年度砂防学会研究発表会概要集，pp. 199-200，1993. 5
- 362) 中筋章人・河相裕子：リモートセンシングによる雲仙岳噴火活動の時系列変化，平

- 成5年度砂防学会研究発表会概要集, pp.305-306, 1993.5
- 363) 中山裕則・田中總太郎・稲永麻子・西川 肇・藤井寿生・岩下圭之・遠藤邦彦・千葉達朗:人工衛星データによる雲仙岳噴火の観測(その3),日本リモートセンシング学会,第14回学術講演会論文集,pp.53-54,1993.5
- 364) 荒生公雄・藤吉康志・武田喬男:雲仙土石流に着目した降雨のRHIリーダー観測,日本気象学会1993年春季大会講演予稿集,p.5,1993.5
- 365) 平野宗夫:土石流の予測ー雲仙・水無川と台風2次災害を事例としてー,豪雨災害に関する講演会要旨集,pp.20-35,1993.6
- 366) 松永勝也:災害時の住民心理と避難行動ー普賢岳災害と風倒木災害に関連する地域の住民の意識調査報告ー,豪雨災害に関する講演会要旨集,pp.36-48,1993.6
- 367) 高橋和雄:ふるさとを取り戻すにはー模索の状況,6.3雲仙集会「島原を忘れるな!ー雲仙普賢岳火砕流惨事から2年 市民とマスコミの対話集会」,1993.6
- 368) 藤井克己:警戒区域設置と損害補償,6.3雲仙集会「島原を忘れるな!ー雲仙普賢岳火砕流惨事から2年 市民とマスコミの対話集会」,1993.6
- 369) 高橋和雄:雲仙火山災害の調査研究の到達点と今後の課題ー工学の立場からー,日本科学者会議第2回雲仙火山災害特別委員会,1993.7
- 370) 太田一也:雲仙普賢岳の火山活動の経過と今後の予測について,砂防学会ワークショップ「活火山地域における火砕流・火砕泥流災害発生規模の予測に関する研究」,1993.8
- 371) 中田節也:雲仙・普賢岳火砕流の発生と流動について,砂防学会ワークショップ「活火山地域における火砕流・火砕泥流災害発生規模の予測に関する研究」,1993.8
- 372) 宮本邦明:火山泥流の発生と流動について,砂防学会ワークショップ「活火山地域における火砕流・火砕泥流災害発生規模の予測に関する研究」,1993.8
- 373) 谷口義信:雲仙・普賢岳火山泥流の流動特性について,砂防学会ワークショップ「活火山地域における火砕流・火砕泥流災害発生規模の予測に関する研究」,1993.8
- 374) 太田一也:雲仙普賢岳の火山活動と災害ー1990-1993年ー,土木学会平成5年度全国大会特別講演会講演要旨,pp.7-11,1993.9
- 375) 高橋和雄:災害様式,火山災害に伴う二次的影響,地域社会へのインパクト,土木学会平成5年度全国大会研究討論会「火山災害工学ーその範囲とイメージ」資料,pp.7-12,1993.9
- 376) 町田健一郎・高橋和雄・松野 進:雲仙普賢岳の火山災害における交通システムの対応,土木学会第48回年次学術講演会,共通セッション,pp.16-17,1993.9
- 377) 岩元 賢・杉本真紀・渡辺一仁:雲仙普賢岳・火山災害の総合防災計画に関する研究ー河川砂防計画ー,土木学会第48回年次学術講演会,共通セッション,pp.18-19,1993.9
- 378) 久松健一・高橋和雄:雲仙普賢岳の火山災害の復興に関する調査,土木学会第48回年次学術講演会,共通セッション,pp.20-21,1993.9

- 379) 其田智洋・松野 進・樋口由紀子・高橋和雄：雲仙火山災害における情報伝達及び避難対策の調査，土木学会第48回年次学術講演会，共通セッション，pp.22-23，1993.9
- 380) 平野宗夫・橋本晴行・川原恵一郎：1993年雲仙における土石流災害について，第12回日本自然災害学会学術講演会講演概要集，pp.55-56，1993.10
- 381) 山本晴彦・鈴木義則・早川誠而：雲仙・普賢岳の噴火による農業被害について，第12回日本自然災害学会学術講演会講演概要集，pp.83-84，1993.10
- 382) 高橋 保・里深好文・金銅将史：火砕流の流動に関する実験的研究，第12回日本自然災害学会学術講演会講演概要集，pp.97-98，1993.10
- 383) 高橋和雄・荒巻博志：雲仙普賢岳火山災害の復興に関する調査，第12回日本自然災害学会学術講演会講演概要集，pp.99-100，1993.10
- 384) 遠藤邦彦・宮原智哉・新川和範・磯 望・陶野郁雄・天国邦博：降下火山灰と火山災害予測－雲仙岳噴火の例を中心として－，第12回日本自然災害学会学術講演会講演概要集，pp.101-102，1993.10
- 385) 檀原 徹・岩野英樹・星住英夫・渡辺一徳：若い火山岩のフィッシュ・トラック年代測定を試み，日本火山学会講演予稿集1993年度秋季大会，p.51，1993.10
- 386) 渡辺一徳・星住英夫・川辺禎久：雲仙火山新期の活動史，日本火山学会講演予稿集1993年度秋季大会，p.52，1993.10
- 387) 中村真人：雲仙岳・普賢岳の活動はいつまで続き得るか？，日本火山学会講演予稿集1993年度秋季大会，p.53，1993.10
- 388) 高橋春男・松本和康・佐藤 純：雲仙普賢岳噴出物のラドン脱ガス率，日本火山学会講演予稿集1993年度秋季大会，p.54，1993.10
- 389) 中村美千彦：雲仙混合マグマ中の磁鉄鋼斑晶滞留時間分布解析によるマグマ供給過程の推定，日本火山学会講演予稿集1993年度秋季大会，p.55，1993.10
- 390) 宮原智哉・遠藤邦彦・大野希一・宮地直道・磯 望：雲仙普賢岳噴火噴出物の粒度特性，日本火山学会講演予稿集1993年度秋季大会，p.56，1993.10
- 391) 石川芳治・山田 孝・川下茂樹・松本俊雄・高橋 努・緒統英章：雲仙普賢岳で1991年6月8日に発生した火砕流の堆積構造とその物性，日本火山学会講演予稿集1993年度秋季大会，p.57，1993.10
- 392) 石川芳治・山田 孝・井戸清雄：火砕流熱風部の運動機構とその数値シミュレーション手法，日本火山学会講演予稿集1993年度秋季大会，p.58，1993.10
- 393) 谷口宏充・中田節也・松島 健・鎌田桂子・三軒一義：流走中における雲仙岳火砕サージのキャラクタリゼーション，日本火山学会講演予稿集1993年度秋季大会，p.59，1993.10
- 394) 須藤 茂・安田 聡・斎藤英二・曾屋龍典・風早康平・川辺禎久：雲仙火山山頂部の1993年春の急激な山体変動，日本火山学会講演予稿集1993年度秋季大会，p.60，1993.10
- 395) 福井敬一：雲仙岳溶岩ドームの成長と移動(2)，日本火山学会講演予稿集1993年度秋

- 季大会, p. 61, 1993. 10
- 396) 松島 健・大見士朗：雲仙普賢岳溶岩ドーム近傍におけるGPS観測(2), 日本火山学会講演予稿集1993年度秋季大会, p. 62, 1993. 10
- 397) 後藤 進・鈴木貞臣・竹中博士・清水 洋：雲仙普賢岳のドーム付近で発生した地震の超近地観測, 日本火山学会講演予稿集1993年度秋季大会, p. 63, 1993. 10
- 398) 上嶋 誠・歌田久司・鍵山恒臣・橋本武志・田中良和・雲仙火山MT観測グループ: Network-MT法による雲仙火山周辺での見かけ比抵抗分布, 日本火山学会講演予稿集1993年度秋季大会, p. 64, 1993. 10
- 399) 山科健一郎・井上義弘・松島 健・清水 洋：雲仙火山における溶岩噴出量推定と活動の推移, 日本火山学会講演予稿集1993年度秋季大会, p. 65, 1993. 10
- 400) 石原和弘・加茂幸介：雲仙火山のマグマ供給率の試算, 日本火山学会講演予稿集1993年度秋季大会, p. 66, 1993. 10
- 401) 多田 堯：潮位変動による雲仙普賢岳火山活動の推移とマグマ蓄積量の推定, 日本火山学会講演予稿集1993年度秋季大会, p. 67, 1993. 10
- 402) 松尾綱道・松島 健・馬越孝道・清水 洋・太田一也：雲仙火山の噴火活動(-1993年8月), 日本火山学会講演予稿集1993年度秋季大会, p. 97, 1993. 10
- 403) 中田節也・大学合同観測班地質グループ：雲仙普賢岳噴火, 1993年3月以降の地質観察記録, 日本火山学会講演予稿集1993年度秋季大会, p. 98, 1993. 10
- 404) 高木朗充・森 博一・三谷浩行：雲仙普賢岳第10溶岩ドームの成長過程, 日本火山学会講演予稿集1993年度秋季大会, p. 99, 1993. 10
- 405) 山科健一郎・大見士朗・松島 健：時間差実体視写真による雲仙火山の地殻変動検出, 日本火山学会講演予稿集1993年度秋季大会, p. 100, 1993. 10
- 406) 前田勝彦・渡辺公一郎・井沢英二・甲斐辰次・寺井邦久：雲仙火山眉山周辺の地下ガス変動調査(第2報), 日本火山学会講演予稿集1993年度秋季大会, p. 101, 1993. 10
- 407) 千葉達朗：雲仙岳噴火のディザスターマップの作成, 日本火山学会講演予稿集1993年度秋季大会, p. 102, 1993. 10
- 408) 大島 治：世界の溶岩ドームと雲仙—1950年代以降の比較, 日本火山学会講演予稿集1993年度秋季大会, p. 103, 1993. 10
- 409) 西ノ首英之・石原 忠・千田哲資・千手龍征・部原政夫・濱本藤壽：雲仙普賢岳火山活動の水産業に及ぼす影響—I 火山活動と調査研究の経緯—, 平成5年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p. 25, 1993. 10
- 410) 高山久明・山口恭弘・西ノ首英之・吉田範秋：雲仙普賢岳火山活動の水産業に及ぼす影響—II 島原沖漁場の水質変動—, 平成5年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p. 25, 1993. 10
- 411) 山口恭弘・合田政次・塩谷茂明・西ノ首英之・石原 忠・沖野哲昭・内山休男：雲仙普賢岳火山活動の水産業に及ぼす影響—III 水無川河口周辺海底への火山起因物質堆積—, 平成5年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p. 26, 1993. 10

- 412) 東 幹夫・水谷 浩・西ノ首英之・合田政次・沖野哲昭：雲仙普賢岳火山活動の水産業に及ぼす影響－IV水無川河口周辺海域における底生動物の分布－，平成5年度日本水産学会秋季大会講演要旨集，p.26，1993.10
- 413) 乃一哲久・山口勝秀・松尾央子・千田哲資・松本昌士・中谷賢治：雲仙普賢岳火山活動の水産業に及ぼす影響－V島原地方の渚域における仔稚魚の出現－，平成5年度日本水産学会秋季大会講演要旨集，p.27，1993.10
- 414) 片岡千賀之・西ノ首英之：雲仙普賢岳火山活動の水産業に及ぼす影響－VI漁業被害とその対策－，平成5年度日本水産学会秋季大会講演要旨集，p.27，1993.10
- 415) 松井宗広：島原の復興と防災計画－災害に強い安全な街づくり－，ゆとりある住まいづくりイン島原半島，1993.10
- 416) 鐘ヶ江管一：災害に襲われたとき－島原の教訓－，長崎総合科学大学地域科学研究所公開講演会，1993.10
- 417) 片寄俊秀：島原再生の道をさぐる，長崎総合科学大学地域科学研究所公開講演会，1993.10
- 418) 松尾紉道：雲仙岳活動概要(1992－1993)，自然災害科学研究平成5年度第1回西部地区部会・研究発表会，1993.11
- 419) 三浪俊夫・森 博一・山崎義典：雲仙岳の火山性地震と地球潮汐の関連性，自然災害科学研究平成5年度第1回西部地区部会・研究発表会，1993.11
- 420) 太田一也：雲仙岳における火砕流と住民の避難，自然災害科学研究平成5年度第1回西部地区部会・研究発表会，1993.11
- 421) 平野宗夫・橋本晴行・河野通斉：1993年雲仙における土石流の現地観測，自然災害科学研究平成5年度第1回西部地区部会・研究発表会，1993.11
- 422) 平野宗夫・原田民司郎：雲仙・水無川における土石流災害の特性，自然災害科学研究平成5年度第1回西部地区部会・研究発表会，1993.11
- 423) 荒生公雄・中根重勝・藤吉康志・武田喬男：雲仙岳に大規模土石流を発生させた1993年4月28日の降雨，自然災害科学研究平成5年度第1回西部地区部会・研究発表会，1993.11
- 424) 後藤恵之輔：1972年眉山大崩壊の発生メカニズム考と崩壊・土石流対策，自然災害科学研究平成5年度第1回西部地区部会・研究発表会，1993.11
- 425) 高橋和雄・松野 進：雲仙普賢岳の火山災害の復興に関する調査，自然災害科学研究平成5年度第1回西部地区部会・研究発表会，1993.11
- 426) 高橋和雄・荒巻博志：火山活動に対応した都市整備に関する調査－その1 降灰の影響－，自然災害科学研究平成5年度第1回西部地区部会・研究発表会，1993.11
- 427) 松永勝也・北村文昭・平野宗夫・太田一也：雲仙・普賢岳の火山活動下の長期避難に伴う住民の意識の変化，自然災害科学研究平成5年度第1回西部地区部会・研究発表会，1993.11
- 428) 中田節也：雲仙普賢岳噴火の火山学的特徴と今後の見通し，第12回日本科学者会議九

- 州地方区シンポジウム・雲仙火山災害公開講演会予稿集「考えよう 復興に向けて何をなすべきか」, pp. 3-6, 1993. 11
- 429) 宮入興一：雲仙火山災害の特徴と復興の諸課題，第12回日本科学者会議九州地方区シンポジウム・雲仙火山災害公開講演会予稿集「考えよう 復興に向けて何をなすべきか」, pp. 7-14, 1993. 11
- 430) 藤井克己：災害対策基本法等に関する法的諸問題，第12回日本科学者会議九州地方区シンポジウム・雲仙火山災害公開講演会予稿集「考えよう 復興に向けて何をなすべきか」, pp. 1-16, 1993. 11
- 431) 山本晴彦：雲仙火山災害の隔測評価と農林業への影響，第12回日本科学者会議九州地方区シンポジウム・雲仙火山災害公開講演会予稿集「考えよう 復興に向けて何をなすべきか」, pp. 17-32, 1993. 11
- 432) 室崎益輝：雲仙普賢岳災害が投げかけた問題，第12回日本科学者会議九州地方区シンポジウム・雲仙火山災害公開講演会予稿集「考えよう 復興に向けて何をなすべきか」 pp. 34-35, 1993. 11
- 433) 木下紀正：桜島から普賢岳災害を考える，第12回日本科学者会議九州地方区シンポジウム・雲仙火山災害公開講演会予稿集「考えよう 復興に向けて何をなすべきか」, pp. 36-37, 1993. 11
- 434) 東 幹夫：土石流の海域への影響について，第12回日本科学者会議九州地方区シンポジウム・雲仙火山災害公開講演会予稿集「考えよう 復興に向けて何をなすべきか」, pp. 38-39, 1993. 11
- 435) 山田スミコ：今，島原市の小学校で山や川をどう教えるか，第12回日本科学者会議九州地方区シンポジウム・雲仙火山災害公開講演会予稿集「考えよう 復興に向けて何をなすべきか」, 1993. 11
- 436) 高田 勇：雲仙普賢岳災害対策について，平成5年度噴火3周年行事「普賢岳噴火から4年目を迎えて」, 1993. 11
- 437) 今井康容：防災について，平成5年度噴火3周年行事「普賢岳噴火から4年目を迎えて」, 1993. 11
- 438) 太田一也：普賢岳・最近の火山活動，平成5年度噴火3周年行事「普賢岳噴火から4年目を迎えて」, 1993. 11
- 439) 平野宗夫：土石流の発生とその予測，雲仙における土石流・火砕流の調査研究報告会，1993. 12
- 440) 橋本晴行：土石流の流動特性について，雲仙における土石流・火砕流の調査研究報告会，1993. 12
- 441) 下川悦郎：土石流の発生場の特性，雲仙における土石流・火砕流の調査研究報告会，1993. 12
- 442) 志方照敏：土石流災害に係る砂防対策について，雲仙における土石流・火砕流の調査 研究報告会，1993. 12

- 443) 檀原 徹, 岩野英樹, 星住英夫, 渡辺一徳: 若い火山岩のフィッシュ・トラック年代測定の試み—雲仙普賢岳・眉山の例—, 日本火山学会講演予稿集, 9巻, A51, p. 51, 1993
- 444) 西 潔・小野博尉・森 濟: 雲仙火山の活動に伴う島原半島の水平変動(1991-1993GPS測量), 平成5年度京都大学防災研究所研究発表講演会, 1994.2
- 445) 田中良和・橋本武志・増田秀晴: 雲仙火山の地磁気変化(1991-1993), 平成5年度京都大学防災研究所研究発表講演会, 1994.2
- 446) 田中良和・橋本武志・須藤靖明: 活火山における自然電位(雲仙火山について), 平成5年度京都大学防災研究所研究発表講演会, 1994.2
- 447) 諏訪 浩・西村公志・清水 洋・馬越孝道: 雲仙水無川に発生した土石流の諸特性, 平成5年度京都大学防災研究所研究発表講演会, 1994.2
- 448) 後藤恵之輔: 長期災害-雲仙火山災害を中心とした比較災害学, 平成5年度第2回自然災害総合研究班西部地区部会・研究発表会, 1994.2
- 449) 荒巻博志・高橋和雄: 火山活動に対応した都市基盤整備に関する研究—その2 市民アンケート調査—, 平成5年度第2回自然災害総合研究班西部地区部会・研究発表会, 1994.2
- 450) 岩元 賢・太田一也・丸田源二: 雲仙眉山地区の土砂流出に関する調査, 平成5年度土木学会西部地区研究発表会, 講演概要集, pp.320-321, 1994.3
- 451) 河野通斉・平野宗夫・橋本晴行・垣田直樹: 雲仙中尾川における土石流の特性, 平成5年度土木学会西部地区研究発表会, 講演概要集, pp.332-333, 1994.3
- 452) 澤田耕一・一ノ瀬和雄・古本勝弘: 島原市における地下水の動態, 平成5年度土木学会西部地区研究発表会, 講演概要集, pp.452-453, 1994.3
- 453) 後藤恵之輔・杉山和一・山中 稔・伊崎博明・徳永 豊・高橋直樹: 雲仙普賢岳土石流堆積物のCAS材による固化実験, 平成5年度土木学会西部地区研究発表会, 講演概要集, pp.592-593, 1994.3
- 454) 荒巻博志・高橋和雄: 雲仙普賢岳の火山活動が市民に及ぼした影響-その1 降灰の影響-, 平成5年度土木学会西部地区研究発表会, 講演概要集, pp.774-775, 1994.3
- 455) 高橋和雄・荒巻博志・鎌田智之: 長期化した火山災害に対応した都市整備に関する調査—島原市を事例として—, 第13回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, pp.33-34, 1994.9
- 456) 遠藤邦夫・磯 望・陶野郁雄: 雲仙岳噴火に伴う降灰分布について, 第13回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, pp.35-36, 1994.9
- 457) 諏訪 浩・西村公志・清水 洋・馬越孝道・松島 健: 水無川1993年の土石流とその規模, 第13回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, pp.121-124, 1994.9
- 458) 廣井 脩: 災害時の避難・予警報システムの向上に関する研究, 第31回自然災害科学総合シンポジウム要旨集, pp.25-33, 1994.9
- 459) 横山哲夫: 雲仙・普賢岳火山災害と長崎大学, 平成6年度長崎大学公開講座, 雲仙・

- 普賢岳火山災害にいどむ－長崎大学からの提言－，長崎会場，1994.9
- 460) 後藤恵之輔：雲仙火山災害の経緯調査と教訓，平成6年度長崎大学公開講座，雲仙・普賢岳火山災害にいどむ－長崎大学からの提言－，長崎会場，1994.9
- 461) 荒生公雄：雲仙火山災害の気象学特性，平成6年度長崎大学公開講座，雲仙・普賢岳火山災害にいどむ－長崎大学からの提言－，長崎会場，1994.9
- 462) 高橋和雄：火山災害に対応した防災都市づくり，平成6年度長崎大学公開講座，雲仙・普賢岳火山災害にいどむ－長崎大学からの提言－，長崎会場，1994.9
- 463) 西ノ首英之：火山活動の有明海水産業への影響，平成6年度長崎大学公開講座，雲仙・普賢岳火山災害にいどむ－長崎大学からの提言－，長崎会場，1994.9
- 464) 竹本泰一郎：火山噴火災害の健康影響，平成6年度長崎大学公開講座，雲仙・普賢岳火山災害にいどむ－長崎大学からの提言－，長崎会場，1994.9
- 465) 小原達朗：災害避難と子どもの心身の変化，平成6年度長崎大学公開講座，雲仙・普賢岳火山災害にいどむ－長崎大学からの提言－，長崎会場，1994.9
- 466) 横山哲夫：雲仙・普賢岳火山災害と長崎大学，平成6年度長崎大学公開講座，雲仙・普賢岳火山災害にいどむ－長崎大学からの提言－，島原会場，1994.9
- 467) 宮入興一：雲仙火山災害の特徴と災害復興の諸課題，平成6年度長崎大学公開講座，雲仙・普賢岳火山災害にいどむ－長崎大学からの提言－，島原会場，1994.9
- 468) 後藤恵之輔：火山性堆積物の有効利用と大野木場小学校の火砕流被災から学ぶ教訓，平成6年度長崎大学公開講座，雲仙・普賢岳火山災害にいどむ－長崎大学からの提言－，島原会場，1994.9
- 469) 高橋和雄：長期化火山災害による被災地域の復興対策，平成6年度長崎大学公開講座，雲仙・普賢岳火山災害にいどむ－長崎大学からの提言－，島原会場，1994.9
- 470) 池永敏彦：土壌改良材で処理した雲仙火山灰土での作物栽培の試み，平成6年度長崎大学公開講座，雲仙・普賢岳火山災害にいどむ－長崎大学からの提言－，島原会場，1994.9
- 471) 片岡千賀之：島原市漁業の現状と課題，平成6年度長崎大学公開講座，雲仙・普賢岳火山災害にいどむ－長崎大学からの提言－，島原会場，1994.9
- 472) 竹本泰一郎：火山噴火災害の健康影響，平成6年度長崎大学公開講座，雲仙・普賢岳火山災害にいどむ－長崎大学からの提言－，島原会場，1994.9
- 473) 小原達朗：災害避難と子どもの心身の変化，平成6年度長崎大学公開講座，雲仙・普賢岳火山災害にいどむ－長崎大学からの提言－，島原会場，1994.9
- 474) 富樫宏由：眉山崩壊に伴う有明海津波の水理実験，平成6年度長崎大学公開講座，雲仙・普賢岳火山災害にいどむ－長崎大学からの提言－，玉名会場，1994.9
- 475) 近藤 寛：地質学的に見た雲仙火山と1990－1993年普賢岳噴火，平成6年度長崎大学公開講座，雲仙・普賢岳火山災害にいどむ－長崎大学からの提言－，玉名会場，1994.9
- 476) 後藤恵之輔：宇宙から見る雲仙火山災害，平成6年度長崎大学公開講座，雲仙・普賢岳火山災害にいどむ－長崎大学からの提言－，玉名会場，1994.9

- 477) 高橋和雄：初動期火山災害対策と課題，平成6年度長崎大学公開講座，雲仙・普賢岳火山災害にいどむー長崎大学からの提言ー，玉名会場，1994.9
- 478) 東 幹夫：底生動物に与える土石流の影響，平成6年度長崎大学公開講座，雲仙・普賢岳火山災害にいどむー長崎大学からの提言ー，玉名会場，1994.9
- 479) 千田哲資：噴火とアサリ 付アサリの生態，平成6年度長崎大学公開講座，雲仙・普賢岳火山災害にいどむー長崎大学からの提言ー，玉名会場，1994.9
- 480) 松尾紉道・清水 洋・馬越孝道・松島 健・内田和也：雲仙火山山頂部の地震活動，自然災害科学研究平成6年度第1回西部地区部会・研究発表会，1994.10
- 481) 渡辺公一郎・前田勝彦・井沢英二・寺井邦久・甲斐辰次・田口幸洋：雲仙火山眉山周辺の地下ガスモニタリング，自然災害科学研究平成6年度第1回西部地区部会・研究発表会，1994.10
- 482) 平野宗夫・原田民司郎：雲仙・水無川の土石流災害と対策について，自然災害科学研究平成6年度第1回西部地区部会・研究発表会，1994.10
- 483) 高橋和雄・藤井 真：噴火災害下における島原市の復興・振興計画について，自然災害科学研究平成6年度第1回西部地区部会・研究発表会，1994.10
- 484) 清水 洋・松永勝也・小原達朗・釘原直樹：雲仙・普賢岳噴火災害と住民の生活，第55回九州心理学会，1994.10
- 485) 古賀啓子・篠原弘章：雲仙普賢岳災害後の子供の生活行動の変化，第55回九州心理学会，1994.10
- 486) 福崎博孝：雲仙普賢岳火山災害に関する法律制度の問題点，土木学会火山災害防災対策研究小委員会・九州地区部会，1994.10
- 487) 宇井忠英：雲仙普賢岳噴火活動の現状と将来の展望，第3回雲仙火山災害の調査研究成果報告会，1994.11
- 488) 近藤 寛：水無川流域の地質と1993年4-5月の土石流堆積物，第3回雲仙火山災害の調査研究成果報告会，1994.11
- 489) 荒生公雄：雲仙岳周辺に火山性土石流を頻発させた1993年4-7月降雨の特徴，第3回雲仙火山災害の調査研究成果報告会，1994.11
- 490) 山中 稔：雲仙普賢岳火山性堆積物の有効利用に向けての土質試験，第3回雲仙火山災害の調査研究成果報告会，1994.11
- 491) 古本勝弘：島原市・深江町における地下水の動態，第3回雲仙火山災害の調査研究成果報告会，1994.11
- 492) 池永俊彦：雲仙火山灰土で作物は作れるか，第3回雲仙火山災害の調査研究成果報告会，1994.11
- 493) 寺村孝太郎：地域経済への影響と再建に向けた対策，第3回雲仙火山災害の調査研究成果報告会，1994.11
- 494) 西原 純・高橋誠司：雲仙普賢岳活動による交通規制と島原半島南部地区の住民の購買行動の変化，第3回雲仙火山災害の調査研究成果報告会，1994.11

- 495) 宮入興一：雲仙火山災害の特徴と災害対策の課題，第3回雲仙火山災害の調査研究成果報告会，1994.11
- 496) 横尾美智代・守山正樹：大野木場小学校児童の噴火に対する受けとめ方，第3回雲仙火山災害の調査研究成果報告会，1994.11
- 497) 高橋和雄：火山と共生した防災施設および基盤整備に関する調査，第3回雲仙火山災害の調査研究成果報告会，1994.11
- 498) 後藤恵之輔：大野木場小学校の火砕流被災から学ぶ教訓と校舎保存，第3回雲仙火山災害の調査研究成果報告会，1994.11
- 499) 矢崎 忍・熊谷貞治・植原茂次：火山専用空中赤外映像装置(VAM-90A)による雲仙岳火山災害の調査，日本リモートセンシング学会第17回学術講演会論文集，pp.129-132，1994.12
- 500) 太田一也：雲仙岳噴火活動の実態 1989年11月-1994年10月，第9回「大学と科学」自然災害と地域社会の防災，pp.40-42，1994.12
- 501) 下川悦郎：火砕流及び土石流による災害，第9回「大学と科学」自然災害と地域社会の防災，pp.43-44，1994.12
- 502) 高橋和雄：地域への影響と対応，第9回「大学と科学」自然災害と地域社会の防災，pp.45-47，1994.12
- 503) 多田 堯：雲仙火山のマグマ溜りの位置について，日本火山学会講演予稿集，2巻，F38，p.98，1994
- 504) 鍵山恒臣・歌田久司・山本哲也：電磁気構造から推定される雲仙・普賢岳マグマの上昇過程一屏風岩火口はなぜ1991年2月12日に噴火したか一，日本火山学会講演予稿集，F42，p.102，1994
- 505) 中田節也・木村慶信・清水 洋：雲仙普賢岳マグマ溜りからの上昇様式一マグマ水蒸気爆発からの情報一，日本火山学会講演予稿集，F45，p.105，1994
- 506) 三浦 研・牧 紀男・小林正美：雲仙普賢岳の噴火災害に伴い建設された復旧住宅への生活拠点移動に関する研究，平成6年度京都大学防災研究所研究発表講演会，1995.1
- 507) 李 宗学・福岡 浩・佐々恭三：雲仙・七面山地地すべりの発生・運動予測，平成6年度京都大学防災研究所研究発表講演会，1995.1
- 508) 奥西一夫・宇民 正：雲仙普賢岳の地形変化と災害危険度の予測，平成6年度京都大学防災研究所研究発表講演会，1995.1
- 509) 諏訪 浩・山超隆雄：火山溪流における土石流の発生と土砂輸送，平成6年度京都大学防災研究所研究発表講演会，1995.1
- 510) 鐘ヶ江管一・大河憲二・金崎福男・松下英爾：山よ鎮まれ 雲仙普賢岳の1553日，豊中市ゆとりシンポジウム，1995.2
- 511) 菊池文喬：他とともに生きる一阪神大震災に普賢岳のノウハウを，復興ネットワーク，1995.3

- 512) 宮入興一・福崎孝雄：島原・阪神災害シンポジウム ともに復興を考えるー島原，そして阪神から，1995.4
- 513) 普賢岳・・・そして阪神・淡路ー災害と報道，市民とマスコミの対話集会，1995.6
- 514) 宮入興一：復興に向けた島原市財政の視点，第1回自治研フォーラム-(復興と財政)を考えるー，島原，1995.9
- 515) 平野宗夫・原田民司郎・河原恵一郎：雲仙・水無川における土石流の特性，第14回日本自然災害学会学術講演会講演概要集，pp.46-47，1995.10
- 516) 高橋和雄・藤井 真：長期化した雲仙普賢岳の火山災害下における島原市復興計画の策定について，第14回日本自然災害学会学術講演会講演概要集，pp.78-79，1995.10
- 517) 藤井 真・高橋和雄：火山災害下における島原市の振興計画策定に関する調査，第14回日本自然災害学会学術講演会講演概要集，pp.80-81，1995.10
- 518) 地域と災害を見つめる週間島原実行委員会：島原・深江復興シンポジウム，島原，1996.1
- 519) 馬越孝道：地震活動から見た雲仙普賢岳のマグマ供給システム，第4回雲仙火山災害の調査研究成果報告会，1996.1
- 520) 松井宗弘：雲仙普賢岳の噴火災害対策の現状，第4回雲仙火山災害の調査研究成果報告会，1996.1
- 521) 後藤恵之輔：眉山の植生回復予測，第4回雲仙火山災害の調査研究成果報告会，p.1 1996.1
- 522) 山中 稔：土石流堆積物の水中構造物への適用性，第4回雲仙火山災害の調査研究成果報告会，pp.2-3，1996.1
- 523) 荒生公雄：雲仙岳周辺における1994年の降雨の特徴，第4回雲仙火山災害の調査研究成果報告会，pp.4-5，1996.1
- 524) 高橋和雄：島原市の災害復興・振興に関する課題，第4回雲仙火山災害の調査研究成果報告会，pp.6-7，1996.1
- 525) 宮入興一：災害復興と自治体財政，第4回雲仙火山災害の調査研究成果報告会，pp.8-9，1996.1
- 526) 竹本泰一郎：火山噴火の健康影響ー呼吸器能への中心として，第4回雲仙火山災害の調査研究成果報告会，pp.10-11，1996.1
- 527) 横尾美智代：大野木場小学校児童の噴火に対する受けとめ方，第4回雲仙火山災害の調査研究成果報告会，pp.12-13，1996.1
- 528) 高橋和雄：長引く火山災害 雲仙普賢岳の事例をもとに，東京大学生産技術研究所国際災害軽減工学研究センター第10回公開講演会原点から視る災害軽減の科学ー都市災害の実像とその多様ー，東京，1996.2
- 529) 川原恵一郎・平野宗夫・森山聡之：雲仙・水無川における土石流の流出解析，自然災害科学研究平成7年度第2回西部地区部会・研究発表会，福岡，1996.2
- 530) 恩田邦彦・平野宗夫・橋本晴行・寺中孝司：雲仙水無川における土石流堆積の再現計算，自然災害科学研究平成7年度第2回西部地区部会・研究発表会，福岡，1996.2

- 531) 後藤恵之輔・武政剛弘：1991年9月15日大野木場小学校の火砕流被災に関する一考察，自然災害科学研究平成7年度第2回西部地区部会・研究発表会，福岡，1996.2
- 532) 川原恵一郎・平野宗夫・森山聡之：ニューラルネットワークによる土石流の流出解析，平成7年度土木学会西部支部研究発表会，講演概要集，pp.162-163，1996.3
- 533) 恩田邦彦・平野宗夫・橋本晴行・河野通斉：雲仙水無川における土砂堆積の数値計算について，平成7年度土木学会西部支部研究発表会，講演概要集，pp.206-207，1996.3
- 534) 高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害の被災地の復興の現状と課題，平成7年度土木学会西部支部研究発表会，講演概要集，pp.868-869，1996.3
- 535) 太田晶一・高橋和雄・藤井 真：雲仙普賢岳噴火災害における道路・鉄道の被害と復旧対策，平成7年度土木学会西部支部研究発表会，講演概要集，pp.870-871，1996.3
- 536) 山口健市・藤井 真・高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害におけるライフラインの被害と復旧対策，平成7年度土木学会西部支部研究発表会，講演概要集，pp.872-873，1996.3
- 537) 平尾 明・高橋和雄：災害文化の伝承について一現場に於ける問題一平成7年度土木学会西部支部研究発表会，講演概要集，pp.874-875，1996.3
- 538) 高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害の被災地の復興の現状と課題，土木学会第51回年次学術講演会講演概要集第4部，pp.92-93，1996.9
- 539) 伊藤雅尚・藤井 真・高橋和雄：島原市における自主防災組織の現状と課題，同上，pp.98-99，1996.9
- 540) 藤井 真・高橋和雄：雲仙普賢岳噴火災害における道路・鉄道の被害と復旧，同上，pp.102-103，1996.9
- 541) 松井宗広：土石流対策の現状＝無人化施工による砂防ダム建設＝噴火災害5周年祈念 事業復興シンポジウム，1996.10
- 542) 平尾 明・高橋和雄：災害文化の伝達一寛政四年災害を例に一，第15回日本自然災害学会学術講演会講演概要集，pp.107-108，1996.11
- 543) 橋本晴行・平野宗夫・多川博章・恩田邦彦：雲仙水無川における小規模土石流の数値計算，同上，pp.145-146，1996.11
- 544) 後藤恵之輔・全 炳徳・長田幸市：雲仙・普賢岳と眉山を例とした人工衛星データによる植生回復予測システムの構築の試み，同上，pp.157-158，1996.11
- 545) 磯 望・陶野郁雄・遠藤邦彦・藤井理恵・神村郁子：雲仙岳噴火に伴う降下火山灰とその堆積後の変化，同上，pp.159-160，1996.11
- 546) 原野安弘・藤井 真・高橋和雄：雲仙普賢岳噴火災害における道路・鉄道の被害と復旧，同上，pp.161-162，1996.11
- 547) 高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害による橋梁の被害と復旧，同上，pp.163-164，1996.11
- 548) 高橋和雄・藤井 真：雲仙普賢岳の火山災害の被災地の復興の現状と課題，同上，pp.167-168，1996.11
- 549) 清水幸徳・中村百合・高橋和雄：雲仙普賢岳の火山被害における仮設住宅の住環境調査，自

- 然災害科学研究平成8年度西部地区部会研究発表会，春日，1997.2
- 550) 原野安弘・藤井 真・高橋和雄：雲仙普賢岳の火山被害における通勤・物流調査，同上，春日，1997.2
- 551) 藤井 真・高橋和雄：雲仙普賢岳の火山被害における観光被害とその復興対策，同上，春日，1997.2
- 552) 高橋和雄・藤井 真：雲仙普賢岳の火山被害の被災地の本復興計画の策定について，同上，春日，1997.2
- 553) 呉 明強・高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害における橋梁の被害と復旧，平成8年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集Ⅰ-64，pp.128-129，1997.3
- 554) 多川博章・平野宗夫・橋本晴行：雲仙水無川下流河道における土砂堆積の数値計算，平成8年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集Ⅱ-33，pp.208-209，1997.3
- 555) 中村百合・清水幸徳・高橋和雄：阪神・淡路大震災における仮設住宅の住環境管理，平成8年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集Ⅳ-43，pp.712-713，1997.3
- 556) 清水幸徳・中村百合・高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害における仮設住宅を巡る課題の調査，平成8年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集Ⅳ-44，pp.714-715，1997.3
- 557) 高橋和雄・藤井 真：雲仙普賢岳の噴火活動が終息した島原地域の復興計画について，平成8年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集Ⅳ-45，pp.716-717，1997.3
- 558) 原野安弘・藤井 真・高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害による通行止め時の通勤・物流に関する調査，平成8年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集Ⅳ-46，pp.718-719，1997.3
- 559) 藤井 真・高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害における交通施設の被害額と交通コストの増大の推計，平成8年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集Ⅳ-47，pp.720-721，1997.3
- 560) 清水幸徳・中村百合・高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害における応急仮設住宅の住環境管理，土木学会第52回年次学術講演会講演概要集共通セッション，pp.304-305，1997.8
- 561) 原野安弘・藤井 真・高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害における通行止め時の通勤・物流に関する調査，土木学会第52回年次学術講演会講演概要集共通セッション，pp.306-307，1997.8
- 562) 西村寛史・藤井 真・高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害における観光被害と復興対策，土木学会第52回年次学術講演会講演概要集共通セッション，pp.308-309，1997.8
- 563) 呉 明強・高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害における橋梁の被害と復旧，土木学会第52回年次学術講演会講演概要集共通セッション，pp.310-311，1997.8
- 564) 藤井 真・高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害における交通施設の被害額と交通コストの増大の推計，土木学会第52回年次学術講演会講演概要集共通セッション，pp.312-313，1997.8

- 565) 高橋和雄・藤井 真：雲仙普賢岳の噴火活動が終息した島原地域の復興計画について，土木学会第52回年次学術講演会講演概要集共通セッション，pp.314-315，1997.8
- 566) 清水幸徳・中村百合・高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害における応急仮設住宅の住環境管理，土木学会第52回年次学術講演会講演概要集共通セッション，pp.304-305，東京，1997.9
- 567) 原野安弘・藤井 真・高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害における通行止め時の通勤・物流に関する調査，同上，pp.306-307，東京，1997.9
- 568) 西村寛史・藤井 真・高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害における観光被害と復興対策，同上，pp.308-309，東京，1997.9
- 569) 呉 明強・高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害における橋梁の被害と復旧，同上，pp.310-311，東京1997.9
- 570) 藤井 真・高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害における交通施設の被害額と交通コストの増大の推計，同上，pp.312-313，東京，1997.9
- 571) 高橋和雄・藤井 真：雲仙普賢岳の噴火活動が終息した島原地域の復興計画について，同上，pp.314-315，東京，1997.9
- 572) 西村寛史・藤井 真・高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害における観光被害と復興対策，第16回日本自然災害学会学術講演会講演概要集，pp.133-134，1997.10
- 573) 高島正典・林 春男・河田恵昭：自然災害による総被害の推定手法の構築－雲仙普賢岳噴火災害を事例として－，第16回日本自然災害学会学術講演会講演概要集，pp.165-166，1997.10
- 574) 塩津雅子・高橋和雄：雲仙普賢岳の噴火災害を経た島原市の町内会の変化，第16回日本自然災害学会学術講演会講演概要集，pp.167-168，1997.10
- 575) 高橋和雄・中村百合：応急仮設住宅の長期間使用における課題について，第16回日本自然災害学会学術講演会講演概要集，pp.169-170，1997.10
- 576) 寺本行芳・下川悦郎・地頭菌隆・永田 治：雲仙普賢岳における土石流の観測，自然災害科学研究平成9年度西部地区部会・研究発表会，鹿児島，1997.10
- 577) 波多江憲治・渡辺公一郎・渡辺一徳・檀原 徹・本村慶信・田口幸洋：火山活動初期噴出物を用いた噴火災害の予測－1990-91年雲仙普賢岳噴火活動におけるケーススタディ，自然災害科学研究平成9年度西部地区部会・研究発表会，福岡，1998.2
- 578) 後藤恵之輔・全 炳徳・小野英一・金 應南：島原半島のGISに基づく雲仙火山災害の評価について，自然災害科学研究平成9年度西部地区部会・研究発表会，福岡，1998.2
- 579) 塩津雅子・西村寛史・高橋和雄：島原市の復興まちづくりに関するアンケート調査，自然災害科学研究平成9年度西部地区部会・研究発表会，福岡，1998.2
- 580) 西村寛史・塩津雅子・高橋和雄：島原市の本復興計画に関する調査，自然災害科学研究平成9年度西部地区部会・研究発表会，福岡，1998.2
- 581) 西村寛史・塩津雅子・高橋和雄：雲仙普賢岳の噴火災害の本復興に関する調査，平成9年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集 其の2 IV-41，pp.746-747，1998.3
- 582) 塩津雅子・西村寛史・高橋和雄：島原市の復興まちづくりに関する調査，平成9年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集 其の2 IV-42，pp.748-749，1998.3

- 583) 金田昌治・長谷川堯一・下田英彦・原田哲夫：雲仙・普賢岳の火砕流で被災した鉄筋コンクリート構造物(大野木場小学校)の調査報告,平成9年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集 其の2 V-36, pp.874-875, 1998.3
- 584) 太田一也：雲仙火山の噴火活動をふり返って,雲仙普賢岳の噴火とその背景, 1998.6
- 585) 後藤恵之輔・山中 稔・富永恵介・小川鉄平：雲仙普賢岳土石流堆積物の活用に向けた動的変形特性など土質力学的検討,土木学会第52回年次学術講演会講演概要集共通セッション, pp.8-9, 1998.10
- 586) 西村寛史・塩津雅子・高橋和雄：島原地域の本復興計画に関する調査,土木学会第53回年次学術講演会講演概要集共通セッション, pp.16-17, 1998.10
- 587) 塩津雅子・西村寛史・高橋和雄：噴火活動が終息した島原市のまちづくりに関する調査研究,土木学会第53回年次学術講演会講演概要集共通セッション, pp.18-19, 1998.10
- 588) 金田昌治・原田 徹・原田哲夫・長谷川堯一・古瀬陽一郎：火砕流(雲仙・普賢岳)で被災した鉄筋コンクリート構造物(大野木場小学校)の調査報告,土木学会第53回年次学術講演会講演概要集共通セッション, pp.20-21, 1998.10
- 589) 山本幹広・高橋和雄：火砕流で被災した大野木場小学校校舎現地保存構想の実現に向けての動き,土木学会第53回年次学術講演会講演概要集共通セッション, pp.22-23, 1998.10
- 590) 塩津雅子・西村寛史・高橋和雄：噴火災害後の島原市のまちづくりに関する調査研究,第17回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, pp.165-166, 1998.10
- 591) 西村寛史・塩津雅子・高橋和雄：噴火活動終息後の島原地域の本復興に対する市民の受取に関する調査,第17回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, pp.167-168, 1998.10
- 592) 原田民司郎・平野宗夫・川原恵一郎：普賢岳の噴火活動の推移に伴う土石流流出特性の変化と予測,自然災害科学研究平成10年度西部地区部会・研究発表会,福岡, 1999.1
- 593) 伊東義信・西村寛史・高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害で被災した深江町の復興・振興に関する調査,同上,福岡, 1999.1
- 594) 西村寛史・高橋和雄：水無川の土石流で被災した島原市安中三角地帯の嵩上げ事業と被災者の生活再建,同上,福岡, 1999.1
- 595) 西村寛史・高橋和雄：水無川の土石流で被災した島原市安中三角地帯の嵩上げ事業と被災者の生活再建,福岡, 1999.1
- 596) 塩津雅子・高橋和雄・伊東義信・西村寛史：雲仙普賢岳の火山災害で被災した島原市と深江町の住民の対応の比較,平成10年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.676-677, 北九州, 1999.3
- 597) 伊東義信・塩津雅子・西村寛史・高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害で被災した深江町の復興・振興に関する調査,平成10年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集,

- pp. 678-679, 北九州, 1999. 3
- 598) 西村寛史・高橋和雄・伊東義信：水無川の土石流で被災した島原市安中三角地帯の嵩上げ事業と被災者の生活再建, 平成10年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp. 680-681, 北九州, 1999. 3
- 599) 高橋和雄：噴火災害と復興計画について, 平成11年度「キャンプ砂防in雲仙」, 島原, 1999. 8
- 600) 西村寛史・高橋和雄：島原市安中三角地帯の嵩上げ事業と被災者の生活再建, 土木学会第54回年次学術講演会講演概要集共通セッション, pp. 274-275, 東広島, 1999. 9
- 601) 塩津雅子・伊東義信・高橋和雄：雲仙普賢岳の火山災害で被災した深江町の復興・振興に関する調査, 土木学会第54回年次学術講演会講演概要集共通セッション, pp. 276-277, 東広島, 1999. 9
- 602) 高橋和雄・西村寛史：島原市安中三角地帯の嵩上げ事業と被災者の生活再建, 第18回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, pp. 1-2, 仙台, 1999. 10
- 603) 高橋和雄：雲仙普賢岳の噴火災害の教訓, 岩手県立大学特別講演会, 岩手, 1999. 10
- 604) 高橋和雄：雲仙普賢岳の噴火継続中における市民の情報ニーズ, 日本災害情報学会1999年研究発表大会, pp. 71-74, 1999. 10
- 605) 高橋和雄・園田雅樹：水無川流域の火山観光化に向けての観光客動態調査, 自然災害科学研究平成11年度第2回西部地区部会・研究発表会, 宇部, 2000. 1
- 606) 大塚秀徳・高橋和雄・中村聖三・園田雅樹：雲仙普賢岳の火山災害で導入された災害対策システムの調査, 平成11年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集, 第2分冊, pp. 704-705, 国分, 2000. 3
- 607) 園田雅樹・中村聖三・高橋和雄・二宮耕平：島原市水無川流域の火山観光化施設における観光動態調査, 平成11年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集, 第2分冊, pp. 744-745, 国分, 2000. 3
- 608) 園田雅樹・高橋和雄・中村聖三・二宮耕平：島原市水無川流域の火山観光化施設における観光動態調査, 土木学会第55回年次学術講演会講演概要集, 第4部, pp. 340-341, 仙台, 2000. 9
- 609) 高橋和雄・中村聖三・園田雅樹・大塚秀徳：島原市安中地区の復興・振興に関する調査, 土木学会第55回年次学術講演会講演概要集, 第4部, pp. 364-365, 仙台, 2000. 9
- 610) 高橋和雄・中村聖三・園田雅樹・大塚秀徳：島原市安中三角地帯の復興・振興に関する調査, 第19回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, 仙台, pp. 47-48, 2000. 10
- 611) 高橋和雄・中村聖三・園田雅樹・大塚秀徳：島原市安中地区の復興・振興に関する調査, 第19回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, pp. 47-48, 大宮, 2000. 11
- 612) 松木理一・高橋和雄・園田雅樹・井口敬介：島原安中地区の復興・振興に関する調査, 平成12年度自然災害科学研究西部地区部会発表大会, 福岡, 2001. 2
- 613) 井口敬介・高橋和雄・中村聖三：島原地域の火山観光化に向けての観光客・市民の意識調査, 平成12年度自然災害科学研究西部地区部会発表大会, 福岡, 2001. 2

- 614) 荒渡光貴・橋本晴行・Park Kichan：雲仙水無川における小規模土石流による流出土砂量の評価，平成12年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集，第2分冊，pp. 50-51，福岡，2001.3
- 615) 松木理一・高橋和雄・中村聖三・園田雅樹：島原市安中地区の復興・振興に関する調査，平成12年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集，第2分冊，pp. B332-B333，福岡，2001.3
- 616) 井口敬介・高橋和雄・中村聖三：島原市地域の火山観光化に向けての観光客・市民の意識調査，平成12年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集，第2分冊，pp. B334-B335，福岡，2001.3
- 617) 富山隆介・三谷 彰・大町辰郎・神戸金史・木村拓郎：島原，有珠山，三宅島からの報告と討論，災害と報道を考える第10回雲仙集会「つなごう 島原の今」，第10回雲仙集会実行委員会，島原，2001.6
- 618) 岩永和昭・内嶋善之助：「和道・深江太鼓」と「朗読と映像による・定点回帰」，災害と報道を考える第10回雲仙集会「つなごう 島原の今」，第10回雲仙集会実行委員会，島原，2001.6
- 619) 鎌田 慧：災害と報道，災害と報道を考える第10回雲仙集会「つなごう 島原の今」，第10回雲仙集会実行委員会，島原，2001.6
- 620) 井口敬介・高橋和雄・中村聖三：島原地域の観光状況と火山観光化に対する観光客の意識，土木学会第56回年次学術講演会講演概要集第3部(B)，pp. 686-687，熊本，2001.10
- 621) 高橋和雄・井口敬介・中村聖三：島原地域の観光状況と火山観光化に対する観光客の意識，第20回日本自然災害学会学術講演会講演概要集，pp. 47-48，室蘭，2001.10
- 622) 高橋和雄：噴火災害後における島原市の自主防災組織の活動と課題，日本災害情報学会第3回研究発表大会予稿集，pp. 124-128，吹田，2001.11
- 623) 井口敬介・高橋和雄・中村聖三：島原地域の復興・振興に関する市民の受け取りに関する調査，平成13年度自然災害科学研究西部地区部会発表大会，福岡，2002.2
- 624) 相川浩二・高橋和雄・中村聖三：噴火終息後における島原市民の地域防災力に関するアンケート調査，同上，福岡，2002.2
- 625) 高橋和雄・中村聖三・井口敬介・相川浩二：雲仙普賢岳の砂防指定地利活用による地域復興に関する調査，平成12年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集第2分冊，pp. B-306-B-307，佐賀，2002.3
- 626) 井口敬介・相川浩二・高橋和雄・中村聖三：島原地域の復興・振興の現状と課題に関する市民アンケート調査，同上，pp. B-308-B-309，佐賀，2002.3
- 627) 相川浩二・井口敬介・高橋和雄・中村聖三：噴火終息後における島原市民の地域防災力に関するアンケート調査，同上，pp. B-310-B-311，佐賀，2002.3
- 628) 高橋和雄・井口敬介・木村拓郎・中村聖三：島原地域の復興・振興の現状と課題に関する市民アンケート調査，第21回日本自然災害学会学術講演会講演概要集，pp. 141-143，宮崎，2002.9
- 629) 相川浩二・井口敬介・高橋和雄・中村聖三：噴火終息後における島原市民の地域防災力に関するアンケート調査，土木学会第56回年次学術講演会講演概要集CS，pp. 281-282，札幌，

2002.9

- 630) 井口敬介・高橋和雄・相川浩二・中村聖三：島原地域の復興・振興の現状と課題に関する市民アンケート調査，同上，pp.283-284，札幌，2002.9
- 631) 高橋和雄・井口敬介・相川浩二・中村聖三：雲仙普賢岳の砂防指定地利活用による地域復興に関する調査，同上，pp.285-286，札幌，2002.9
- 632) 高橋和雄・井口敬介・木村拓郎・中村聖三：噴火終息後における島原市民の地域防災力に関するアンケート調査，日本災害情報学会第4回研究発表大会予稿集，pp.154-161，東京，2002.11
- 633) 井口敬介・富松正剛・高橋和雄・中村聖三：火山災害から復興した島原地域の復興と防災力の現状に関する研究，平成15年度自然災害科学研究西部地区部会発表大会，福岡，2003.2
- 634) 富松正剛・井口敬介・高橋和雄・中村聖三：雲仙における砂防指定地利活用に関するアンケート調査，同上，福岡，2003.2
- 635) 井口敬介・富松正剛・高橋和雄・中村聖三：火山災害から復興した島原地域の復興と防災力の現状に関する研究，平成14年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集第2分冊，pp.B-358-B-359，京都郡，2003.3
- 636) 富松正剛・井口敬介・高橋和雄・中村聖三：雲仙における砂防指定地利活用に関するアンケート調査，同上，pp.B-360-B-361，京都郡，2003.3
- 637) 高橋和雄・井口敬介・富松正剛・中村聖三：水無川上流域と中尾川流域における砂防指定地利活用に関する調査，第22回日本自然災害学会学術講演会講演概要集，pp.171-172，高知，2003.9
- 638) 高橋和雄・中村聖三・富松正剛・井口敬介：雲仙における砂防指定地利活用に関するアンケート調査，土木学会第58回年次学術講演会講演概要集第4部，pp.355-356，徳島，2003.9
- 639) 井口敬介・富松正剛・高橋和雄・中村聖三：火山災害から復興した島原地域の復興と防災力の現状に関する研究，同上，pp.357-358，徳島，2003.9
- 640) 高橋和雄：雲仙普賢岳の噴火活動による降灰の地域への影響およびその対策に関する調査都市における火山灰災害の社会的影響に関するシンポジウム，pp.27-44，静岡，2003
- 641) 末吉龍也・高橋和雄・中村聖三・其田智洋：平成新山フィールドミュージアム構想の推進に関する観光客アンケート調査，平成15年度自然災害科学研究西部地区部会発表大会，福岡，2004.2
- 642) 末吉龍也・高橋和雄・中村聖三・其田智洋：平成新山フィールドミュージアム構想の推進に関する観光客アンケート調査，平成15年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集第2分冊，pp.B-264-B-265，大分，2004.3
- 643) 其田智洋・高橋和雄・中村聖三・末吉龍也：雲仙普賢岳の火山災害から再生した安中三角地帯の住環境に関する調査，同上，pp.B-378-B-379，大分，2004.3
- 644) 末吉龍也・高橋和雄・中村聖三・其田智洋：平成新山フィールドミュージアム構想の推進に関する観光客アンケート調査，土木学会第59回年次学術講演会講演概要集第4部，pp.371-372，豊田，2004.9
- 645) 其田智洋・末吉龍也・高橋和雄・中村聖三：島原市安中三角地帯の住宅再建者の住環境評価に関する調査，平成16年度自然災害科学研究西部地区部会発表大会，春日，2005.2
- 646) 末吉龍也・其田智洋・高橋和雄・中村聖三：平成新山フィールドミュージアム拠点施設にお

- ける観光動態調査, 春日, 2005.2
- 647) 末吉龍也・其田智洋・高橋和雄・中村聖三:平成新山フィールドミュージアム拠点施設に関する観光動態調査,平成16年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集第I部門, pp.661-662, 福岡, 2005.3
- 648) 其田智洋・末吉龍也・高橋和雄・中村聖三:島原市安中三角地帯の住宅再建者の住環境評価に関する調査,第60回年次学術講演会講演概要集 第IV部門, pp.13-14, 東京, 2005.9
- 649) 末吉龍也・其田智洋・高橋和雄・中村聖三:平成新山フィールドミュージアム拠点施設における観光動態調査,同上, pp.495-496, 東京, 2005.9
- 650) 末吉龍也・其田智洋・高橋和雄:島原市安中三角地帯の住宅再建者の面的整備評価について,第24回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, pp.51-52, 仙台, 2005.11
- 651) 末吉龍也・其田智洋・高橋和雄・中村聖三:島原における火山観光に対する商工観光関係者の反応と評価,平成17年度自然災害科学研究西部地区部会発表大会, 福岡, 2006.2
- 652) 末吉龍也・其田智洋・高橋和雄・中村聖三:島原における火山観光に対する商工観光関係者の反応と評価,平成17年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集第I部門, pp.647-648, 宮崎, 2006.3
- 653) 末吉龍也・其田智洋・高橋和雄・中村聖三:島原における火山観光に対する商工関係者の反応と評価,土木学会第61回年次学術講演会概要集 共通部門, pp.431-432, 草津, 2006.9
- 654) 高橋和雄・中村聖三・近藤久泰・下田弘二・其田智洋:雲仙普賢岳火山災害の被災地安中地区住民の復興に関する評価の調査,平成18年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集第IV部門, pp.677-678, 北九州, 2007.3
- 655) 高橋和雄:1990年雲仙普賢岳噴火,九州地区国立大学連携事業-防災・環境ネットワークシンポジウム2007・イン・ナガサキ, pp.1-4, 長崎, 2007.8
- 656) 高橋和雄・中村聖三・近藤久泰・下田弘二:雲仙普賢岳火山災害の被災地安中地区住民の復興に関する評価の調査,土木学会第62回年次学術講演会講演概要集共通セッション, pp.417-418, 東広島, 2007.9
- 657) 高橋和雄・其田智洋・中村聖三・寺島健太:島原における火山観光に対する商工観光関係者の反応と評価,日本災害情報学会第9回研究発表大会予稿集, pp.17-22, 島原, 2007.11
- 658) 寺島健太・高橋和雄・中村聖三:長期・大規模噴火災害を受けた島原市安中地区住民の防災意識・復興評価に関する調査,同上, pp.23-28, 島原, 2007.11
- 659) 太田一也:1990-1995年雲仙普賢岳噴火-神秘的な溶岩ドームの形成と火砕流・土石流の脅威-,火山都市国際会議島原大会講演要旨集日本語版, p.1, 島原, 2007.11
- 660) Bettina Scheu, Ulrich Kueppers, Sebastian Mueller, Oliver Spieler, Donald B. Dingwell:雲仙火山1990-1995年噴火の噴出物に関する実験火山学,同上, p.5, 島原, 2007.11
- 661) 中田節也・後藤芳彦・佐久間澄夫・清水 洋:雲仙火道掘削の科学的成果,同上, p.5, 島原, 2007.11
- 662) 宝田晋治・メレンデス クリスチャン:1991-95年雲仙火砕流と1792年眉山岩屑なだれの堆積構造と流動堆積機構の比較検討,同上, p.6, 島原, 2007.11
- 663) Marco Brenna, Keiko Suzuki-Kamata, Mary Gee:雲仙普賢岳(日本の南西部)の1990年-1995年の噴火による6つの火山堆積物の段階熱消磁によって測定した堆積温度,同上, p.10, 島原, 2007.11

- 664) 後藤芳彦・中田節也・吉本充宏・嶋野岳人・黒川 将・杉本 健・佐久間澄夫・星住英夫・宇都浩三：雲仙火山の火道の岩相，同上，p.11，島原，2007.11
- 665) 渡辺公一郎・波多江憲治・山中琢士・本村慶信・渡辺一徳：雲仙火山 1990-1995 噴火において溶岩ドーム出現前の初期噴出物より検出された本質マイクロバミスの岩石化学，同上，pp.11-12，島原，2007.11
- 666) 杉本 健・星住英夫・清水 洋：ボーリングコア試料から見た雲仙眉山火山の形成史，同上，p.11，島原，2007.11
- 667) 杉本 健，中田節也，秋政貴子，黒川 将：USDP-3 を用いた雲仙火山のマグマ発達史の解明，同上，p.11，島原，2007.11
- 668) 寺井邦久：溶岩ドーム成長，5 年間の動画記録，同上，p.12，島原，2007.11
- 669) 河野裕希・松島 健・松本 聡・清水 洋：有限要素法を用いて地震と地殻変動データから推定される 1990-1995 年雲仙火山の噴火を引き起こしたマグマ溜まりモデル，同上，p.12，島原，2007.11
- 670) 田口幸洋・久保有未・吉井創一郎・千葉 仁：長崎県雲仙地獄の珪化岩の産状と成因について，同上，p.12，島原，2007.11
- 671) 大久保綾子・田中良和・中塚 正・鍵山恒臣・神田 径・北田直人・宇津木充・石原和弘・清水 洋・松島 健・味喜大介・高山鉄朗・福嶋麻沙代：空中磁気データから推定される火山体磁化構造—雲仙火山と桜島火山—，同上，p.13，島原，2007.11
- 672) 濱崎聡志・星住英夫・森下祐一・中田節也・黒川 将：熱水変質からみた雲仙火山体の熱水系—火道掘削(USDP=4)の解析—，同上，pp.13-14，島原，2007.11
- 673) 齊藤武士・石川尚人：雲仙火山歴史溶岩の示す磁気岩石学的特徴，同上，p.14，島原，2007.11
- 674) 森川徳敏・風早康平・安原正也・高橋 浩・稲村明彦・大和田道子・フランソワ ルゲルン・河野 忠・大澤信二・由佐悠紀・北岡豪一：雲仙火山周辺の地下水の地球科学・水文学的研究，同上，p.14，島原，2007.11
- 675) 松本 聡・清水 洋・大西正純・植平賢司・松尾綱道：反射法地震探査による雲仙火山の浅部地殻構造，同上，p.14，島原，2007.11
- 676) スリグトモ ワヒュー・鍵山恒臣・神田 径・宗包浩志・橋本武志・田中良和・歌田久司・宇津木充：TDEM 観測で明らかにされた雲仙火山の非抵抗構造，同上，pp.14-15，島原，2007.11
- 677) 高橋 浩・風早康平・篠原宏志・森川徳敏・大和田道子・半田宙子・中村俊夫：雲仙火山におけるマグマ性二酸化炭素の山体放出，同上，p.15，島原，2007.11
- 678) 野口 聡・寅丸敦志・中田節也：雲仙火道掘削試料の石基結晶化過程，同上，pp.15-16，島原，2007.11
- 679) 長井大輔：雲仙普賢岳 1991 年 6 月 3 日火砕サージの特徴と防災上の意義，同上，p.16，島原，2007.11
- 680) 雑賀 敦・松本 聡・植平賢司・馬越孝道・松島 健・清水 洋：雲仙火山下地殻の地震波速度構造，同上，p.16，島原，2007.11
- 681) 渡邊篤志・松本 聡・清水 洋：雲仙火山下の散乱体分布，同上，p.16，島原，2007.11
- 682) Hakim Saibi, Sachio Ehara, Yasuhiro Fujimitsu, Jun Nishijima, Koichiro Fukuoka : 雲仙岳の西側の山腹にある小浜地熱地域の数値および地球科学調査，同上，pp.16-17，島原，

2007.11

- 683) 橋本武志：雲仙岳の自然電位変動，同上，p.17，島原，2007.11
- 684) 稲垣有香・長谷部徳子・石原 崇・荒井章司：ジルコンのウラン系列非平衡年代決定：雲仙火山での試み，同上，p.17，島原，2007.11
- 685) 大澤範一・福嶋祐介：三次元地形を考慮した火砕流のシミュレーションモデル，同上，p.18，島原，2007.11
- 686) 星住英夫・宇都浩三・松本哲一・栗原 新：雲仙火山の噴火史と発達史，同上，p.45，島原，2007.11
- 687) 馬越孝道・梶原孝允・松井絵美・清水 洋：1990－1995年雲仙岳噴火前および噴火中に観測された地震微動，同上，p.72，島原，2007.11
- 688) 板坂真子・馬越孝道・清水 洋：雲仙岳溶岩ドーム成長初期の地震活動(1991年5月-6月)，同上，p.72，島原，2007.11
- 689) 松島 健・河野裕希・平尾暁彦・清水 洋：GPSによる雲仙岳平成新山溶岩ドームの監視，同上，p.76，島原，2007.11
- 690) 植木貞人・清水 洋・内田和也・前川徳光・須藤靖明・宮町宏樹・渡辺秀文・石原和弘：雲仙火山1990－1995年噴火期に観測された重力変化，同上，p.79，島原，2007.11
- 691) 中禮正明・山崎明：雲仙岳1991年溶岩ドーム出現に伴う地磁気変化の再検討，同上，pp.80-81，島原，2007.11
- 692) 清水 洋・松島 健・河野裕希・松本 聡・植平賢司・雑賀 敦・渡邊篤志：雲仙火山における1990－1995年噴火後のマグマ再蓄積過程のモニタリング，同上，p.99，島原，2007.11
- 693) 藤田弘子：雲仙普賢岳噴火時の火砕流被災者の救護活動，同上，p.101，島原，2007.11
- 694) 松下英爾：雲仙・普賢岳噴火災害下、災害対策業務従事者の労働安全と健康対策，同上，pp.101-102，島原，2007.11
- 695) 高城昭紀：雲仙普賢岳噴火時の住民の精神障害事例，同上，p.102，島原，2007.11
- 696) 高城昭紀：1990年代の雲仙普賢岳噴火時の高城病院における避難活動，同上，p.109，島原，2007.11
- 697) 池谷 浩：雲仙普賢岳の平成噴火と火山災害対策，同上，p.136，島原，2007.11
- 698) 木村拓郎：噴火災害と土地の嵩上げによる集落再建，同上，p.152，島原，2007.11
- 699) 高橋和雄：長期化・大規模化した雲仙噴火災害に学ぶ都市施設の整備に関する研究，同上，pp.153-154，島原，2007.11
- 700) 黒木貴一・磯 望・後藤健介：雲仙噴火以降の地形変化と植物活性度変化との関係，同上，p.154，島原，2007.11
- 701) 荒牧重雄：「火砕流」という語がいかにして市民の間に定着したか，同上，p.155，島原，2007.11
- 702) 杉本伸一：1991年6月3日雲仙普賢岳の火砕流による人的被害，同上，p.159，島原，2007.11
- 703) 槌田禎子：雲仙・普賢岳噴火災害報道の教訓 マスコミの立場から，同上，p.160，島原，2007.11
- 704) 土橋潤二：雲仙火山が持つ教材としての可能性-中学校における総合的な学習の時間での活用-，同上，p.175，島原，2007.11

- 705) 川原和博・近藤篤史・河内一城・久保拓也・白川 哲・白山裕太郎・友田佳佑・林田亮佑・廣高健斗：5千分の一、雲仙普賢岳（平成新山）地形模型の製作，火山都市国際会議島原大会一般ポスター発表要旨集 COV5 Open Poster Presentation Abstracts Volume, pp. 2-3, 島原, 2007. 11
- 706) 久保歩美・草野直人・坂本健次・松本幸徳・山田久遠・大屋舞佳・喜久優佳・坂本知霞・森山由香里・原田 創・酒井慎太郎・尾藤 優・木村千陽・高橋 茜：火山の研究やっています！, 同上, pp. 4-5, 島原, 2007. 11
- 707) 高瀬文字：普賢岳噴火後の学校の状況及び仮設校舎での学校生活, 同上, pp. 6-7, 島原, 2007. 11
- 708) 旭 芳郎：NPO 法人島原ボランティア, 同上, pp. 8-9, 島原, 2007. 11
- 709) 高橋和雄：長崎大学工学部高橋研究室の調査研究活動, 同上, pp. 10-11, 島原, 2007. 11
- 710) 高橋和雄：火山工学研究の紹介, 同上, pp. 12-13, 島原, 2007. 11
- 711) 藤本景子：都市は常に復興している一都市の本質と島原の災害復興一, 同上, pp. 14-15, 島原, 2007. 11
- 712) 井上公夫：1792年の島原4月朔島原大変による地形変化と災害復興の経緯, 同上, pp. 16-17, 島原, 2007. 11
- 713) 稲田孝博：雲仙普賢岳噴火災害における島原市医師会の活動と対策, 同上, pp. 18-19, 島原, 2007. 11
- 714) 清水康裕・末吉孝夫：火砕流犠牲者の検視活動報告, 同上, pp. 20-21, 島原, 2007. 11
- 715) 徳永能治・松尾繁年・高口栄子・常岡武久：火砕流被災者に対する急性期治療経験, 同上, pp. 22-23, 島原, 2007. 11
- 716) 中島禮子・園田美香・島原市保健センター：雲仙普賢岳噴火災害と保健師活動, 同上, pp. 24-25, 島原, 2007. 11
- 717) 中尾八重子・林田りか・内海文子：大学看護教育における災害看護実習の実態, 同上, pp. 26-27, 島原, 2007. 11
- 718) 平尾 明・寺田集施・高田順次・吉田正久・江越美香・宮崎英寿・小山智己：雲仙・普賢岳噴火災害の復興の足取りと災害教訓, 同上, pp. 28-29, 島原, 2007. 11
- 719) 梶山義久：噴火災害と消防団, 同上, pp. 30-31, 島原, 2007. 11
- 720) 宮崎 薫：防人の日々, 同上, pp. 32-33, 島原, 2007. 11
- 721) 長崎県島原振興局：雲仙岳噴火災害復興事業, 同上, pp. 34-35, 島原, 2007. 11
- 722) 根々善勇：雲仙・普賢岳噴火災害と警察活動, 同上, pp. 36-37, 島原, 2007. 11
- 723) 陸上自衛隊西部方面隊：雲仙・普賢岳噴火に伴う自衛隊の災害派遣活動状況, 同上, pp. 38-39, 島原, 2007. 11
- 724) 野田信幸・石坪昭二・水田貴夫・山崎 勉：直轄火山砂防事業と無人化施工, 同上, pp. 40-41, 島原, 2007. 11
- 725) 寺島健太・高橋和雄・中村聖三・松下英爾：雲仙普賢岳災害の復興評価に関するアンケート調査, 自然災害研究協議会西部地区部会報研究発表会, 福岡, 2008.2
- 726) 寺島健太・高橋和雄・中村聖三：長期・大規模噴火災害を受けた島原市安中地区住民の防災意識・復興評価に関する調査, 同上, 福岡, 2008.2
- 727) 寺島健太・高橋和雄・中村聖三・松下英爾：雲仙普賢岳災害の復興評価に関するアンケート調査, 平成 19 年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集第 IV 部門, pp.695-696, 長崎,

2008.3

- 728) 高橋和雄・中村聖三・寺島健太：雲仙普賢岳災害の復興評価に関する調査，土木学会第 63 回年次学術講演会講演概要集第Ⅲ部門，pp.875-876，仙台，2008.9
- 729) 山口真和・高橋和雄・中村聖三：雲仙普賢岳の火山災害から復興した島原市の地域づくりとジオパーク推進に関する調査，平成 20 年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集第 IV 部門，pp.635-636，熊本，2010.3
- 730) 高橋和雄・山口真和・中村聖三：噴火災害から復興した島原市の地域づくり、防災及びジオパークに関する調査，土木学会第 65 回年次学術講演会講演概要集第 IV 部門，pp.79-80，札幌，2010.9

5. 単行本

- 1) 久保寺章：火山噴火のしくみと予知 補章「雲仙岳の噴火（1990年以降）」，古今書院，pp.174-191, 1991.7
 - 2) 矢内真由美：夫31歳，カメラマン。なぜ，雲仙で死んだの。KKベストセラーズ，全205頁，1991.11
 - 3) 今「火山」が危ない，UTAM「驚異の科学」シリーズ⑧，学習研究社，全138頁，1991.11
 - 4) NHK取材班ほか：火山列島日本，pp.6-39，日本放送出版協会，1991.12
 - 5) 大浦ふみ子：火砕流，青磁社，pp.4-45, 1992.1
 - 6) 守屋以智雄：火山をよむ，岩波書店，pp.34-36, 1992.3
 - 7) 大田征希：気道熱傷 わが子の闘病記録，中国新聞社，全155頁，1992.6
 - 8) 稲本 博：火焰の山に挑む－雲仙・普賢岳と自衛隊－，おりじん出版，全208頁，1992.6
 - 9) 村山 磐：雲仙・普賢岳大噴火 寛政と平成の記録，東海大学出版会，全158頁，1992.6
 - 10) 孤崎 修・トシ子：さようなら敦ちゃん，ダイコロ株式会社，全40頁，1992.6
 - 11) 小林松太郎：雲仙噴火の日々，葦書房，全239頁，1992.8
 - 12) T. Yanagi, H. Okada and K. Ohta : Unzen Volcano the 1990-1992 Eruption, The Nishinippon & Kyushu University Press, 全135頁，1992.8
- Ohta, K. : Photographic Records of the 1990-1992 Eruptions at Unzen Volcano, pp. 5-11
- Nakada, S. : Photographic Records of Eruption Products at Unzen Volcano during May 1991-May 1992, pp. 12-20
- Photographic Records of People's Life during the Eruption The Nishinippon, pp. 21-28
- Okada, H. : Geological and Tectonic Setting of Unzen Volcano, pp. 29-33
- Ohta, K., Matsuwo, N. and Yanagi, T. : The 1990-1992 Eruption of Unzan Volcano, pp. 34-37
- Shimizu, H., Umakoshi, K., Matsuwo, N. and Ohta, K. : Seismological Observations of Unzan Volcano before and during the 1990-1992 Eruption, pp. 38-43
- Umakoshi, K., Shimizu, H., Matsuwo, N. and Ohta, K. : Surface Temperature Measurements of Lava Domes and Pyroclastic Flows by Infrared Thermal Video System, pp. 44-48
- Suzuki, S. : Seismological Comparison in Eruptive Activity between Mt. Unzen and Mt. Usu, pp. 49-55
- Nakada, S. : Lava Domes and Pyroclastic Flows of the 1991-1992 Eruption at Unzen Volcano, pp. 56-66
- Hirano, M., Hashimoto, H. and Moriyama, T. : Debris Flows in Mt. Fugen, pp. 67-73
- Takaoka, N., Tokunaga, T. and Nagao, K. : Geochemical Study of Unzen Volcano by Noble Gas Measurement, pp. 74-79
- Yanagi, T., Maeda, S. and Nakada, S. : Temporal Variation in Specific Gravity of the

- Lava Extruded from the Jigokuato Crater, pp.80-81
- Yanagi, T., Maeda, S. and Maeda, S. : Temporal Variation in Chemical Composition of the Lava Extruded from the Jigokuato Crater, Unzen Volcano, pp.82-91
- Yanagi, T., Nakada, S. and Maeda, S. : Batch Fractionation Model for the Evolution of Unzen Volcanic Rocks, pp.92-98
- Miyachi, M. : Geological Examination of the Two Old Maps from the Tokugawa Era Concerning the "Shimabara Catastrophe", pp.99-102
- Esaki, T., Aikawa, A., Okubo, Y., Shimizu, H. and Ohta, K. : Monitoring Ground Movements of Chijiwa Fault and Mt. Mayuyama Using the Global Positioning System for Surveying, pp.103-109
- Ochiai, H., Hayashi, S., Umemura, J. and Iryo, T. : Slope Stability of Mt. Mayuyama under the Volcanic Activity of Unzen Volcano, pp.110-115
- Tsutsumi, H., Aso, T., Kitagawa, S. and Uno, K. : Earthquake Observations at Mt. Mayuyama, pp.116-119
- Matsunaga, K. and Takahashi, K. : Decision Making Process of Both the Administration Bodies and the Inhabitants for Evacuation during the Eruption of Mt. Fugen in Unzen, pp.120-127
- Kawazoe, O. and Okada, H. : A Documentary of People's Life during the 1990-1992 Eruption of Unzen Volcano, pp.128-133
- 13) 江川紹子 : 大火砕流に消ゆ, 文藝春秋, 全245頁, 1992.11
- 14) 久保寺章 : 火山災害, 災害の辞典, 朝倉書店, pp.72-74, 1992.11
- 15) 砂防学会 : 火砕流・土石流の実態と対策, 鹿島出版会, 全157頁, 1993.1
- 16) 社団法人 土質工学会 (雲仙普賢岳火山災害調査委員会) : 雲仙岳の火山災害—その土質工学的課題をさぐる—, 全178頁, 1993.6
- 小宮 学 : 雲仙岳の火山活動の経過, pp.1-14
- 中田節也 : 雲仙普賢岳噴火の経緯と溶岩ドームの成長, pp.15-28
- 長岡正利 : 雲仙岳噴火の熔岩噴出量変化の計測, pp.29-44
- 遠藤邦彦・磯 望・宮原智成・陶野郁雄・大野希一 : 雲仙岳噴火による降下火山灰, pp.45-58
- 石川芳治 : 雲仙岳噴火に伴う火砕流・土石流, pp.59-76
- 平野宗夫 : 雲仙岳噴火に伴う土石流とその予測, pp.77-86
- 後藤恵之輔 : 人工衛星リモートセンシングによる雲仙・普賢岳火山災害の推移調査 pp.87-96
- 落合博貴 : 雲仙普賢岳噴火に伴う森林被害, pp.97-104
- 熊谷貞治・矢崎忍・植原茂次 : 雲仙岳の温度分布, pp.105-114
- 瀬戸島政博 : 航空写真でみる雲仙岳火山災害の推移, pp.115-120
- 千葉達朗 : 雲仙岳噴火のディザスターマップの作成, pp.121-130

- 陶野郁雄：雲仙岳噴火に伴う環境影響， pp. 131-140
- 陶野郁雄・遠藤邦彦：火山災害への土質工学的貢献と複合災害， pp. 141-148
- 中村裕昭：1990-1993 雲仙岳噴火に関する文献， pp. 149-165
- 中山裕則：リモートセンシングデータ取得リスト， pp. 166-170
- 長岡正利：雲仙岳1990-93年噴火関連作成地形図リスト， pp. 171
- 瀬戸島政博：航空写真撮影リスト， pp. 172-178
- 17) 大屋鍾吾・中村八郎：災害に強い都市づくり 補論「活動続く雲仙普賢岳一被災地住民の救済と復興の課題」， 新日本出版社， pp. 245-254， 1993. 8
- 18) 鐘ヶ江管一：普賢， 鳴りやまずーヒゲ市長の防災実記763日ー， 集英社， 全255頁， 1993. 9
- 19) 一色彩都：ショ・コラ， 近代文芸社， 全78頁， 1993. 10
- 20) 大隈孝一：鎮魂！雲仙・普賢岳 200年ぶりの噴火 麗山鳴動の四季， オフィス隈， 全79頁， 1993. 11
- 21) 長崎大学生涯学習教育研究センター運営委員会：雲仙・普賢岳火山災害にいどむー長崎大学からの提言ー， 全320頁， 1994. 3
- 後藤恵之輔：雲仙火山災害の経緯， pp. 1-10
- 長岡信治・松岡數充・近藤寛：地質学的にみた雲仙火山と1990ー1993年普賢岳噴火 pp. 13-29
- 荒生公雄：雲仙火山災害の気象学的特性， pp. 31-42
- 後藤恵之輔：リモートセンシングで見る雲仙火山災害， pp. 43-58
- 後藤恵之輔・棚橋由彦・杉山和一：眉山崩壊の危険度評価と崩壊・土石流対策， pp. 59-76
- 富樫宏由：眉山崩壊に伴う有明海津波の水理実験， pp. 77-86
- 池永俊彦・武政剛弘：農業被害の現状と今後の改善策， pp. 87-95
- 高山久明・西ノ首英之・吉田範秋：島原沖漁場の水質変動， pp. 99-120
- 山口恭弘・合田政次・塩谷茂明・石原 忠・西ノ首英之・内山休男：火山起因物質の水無川河口周辺海底への堆積， pp. 121-140
- 東 幹夫・西ノ首英之・合田政次：水無川河口周辺海域における底生動物の分布， pp. 141-153
- 乃一哲久・山口勝秀・松尾央子・千田哲資：火山灰堆積時におけるアサリの行動， pp. 155-164
- 片岡千賀之：漁業被害とその対策， pp. 165-174
- 竹本泰一郎・田川雅子：雲仙普賢岳噴火災害の健康影響， pp. 177-203
- 高橋和雄・岡林隆敏：初動期災害対策と復興への課題， pp. 207-217
- 宮入興一：火山災害下の地域経済社会と地方財政， pp. 219-232
- 小原達朗：身体発達への影響， pp. 235-257
- 小原達朗：呼吸循環機能への影響， pp. 259-266
- 相川勝代：精神保健への影響， pp. 267-308

- 小野田正利：火山災害長期化の学校教育活動への影響， pp. 309-320
- 22) 荒木正利：普賢岳噴火災害との共存，近代文芸社，全209頁，1994. 4
- 23) 内嶋善之助：モノトーンの町 火の山の記憶，葦書房，全185頁，1994. 6
- 24) 太田一也：雲仙噴火の教訓，火山噴火と環境・文明，思文閣出版，pp. 101-150，1994. 8
- 25) 大浦ふみ子：土石流，光陽出版社，全231頁，1994. 11
- 26) 島原合同短歌会：普賢噴火の下で，合同歌集 平成島原大変，全244頁，1994. 11
- 27) 第9回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会編：自然災害と地域社会の防災，安全な社会生活を守るために，クバプロ，全221頁，1995. 9
- 太田一也：雲仙岳噴火活動の実態， pp. 126-139
- 下川悦郎：火災流および土石流による災害， pp. 140-148
- 高橋和雄：地域への影響と対応， pp. 149-161
- 28) 土木学会土構造物および基礎委員会 火山工学研究小委員会：火山とつきあう，土木学会，全110頁，1995. 9
- 宇井忠英：火砕流とシラス， pp. 18-21
- 磯 望：火山灰とはどんなもの， pp. 46-49
- 池谷 浩：火山災害から住民を守るには， pp. 58-61
- 高橋和雄：火山災害時の避難， pp. 62-65
- 飯酒盃久夫：火山災害危険地帯での無人化施工， pp. 66-69
- 高橋和雄：火山とくらし， pp. 74-77
- 平尾 明：災害教訓を後世に伝えよう， pp. 78-81
- 福崎博孝：火山災害の法律はこれで良いのか， pp. 82-85
- 陶野郁雄：雲仙岳噴火は環境に影響を及ぼしたか， pp. 86-89
- 29) 神戸金史：雲仙記者日記，ジャストシステム，全325頁，1995. 10
- 30) 種村繁守：山遊記一普賢岳自然観察写真集一，全120頁，1995. 11
- 31) 真鍋和子：火をふく山のふもと一普賢岳の噴火にたちむかう子どもたち，全127頁，1996. 4
- 32) 太田保之編・荒木憲一・川崎ナヲミ・長岡興樹・中根允文著：災害ストレスと心のケア一雲仙・普賢岳噴火災害を起点に一，医歯薬出版，全171頁，1996. 8
- 33) 鈴木 広：災害都市の研究一島原市と普賢岳一，九州大学出版会，全387頁，1998. 2
- 34) 古賀義章：普賢岳 OFF LIMITS，平凡社，全107頁，1998. 3
- 35) 小田桐誠：検証テレビ報道の現場 雲仙・普賢岳一「災害報道」，現代教養文庫，pp. 164-229，1994. 3
- 36) 中田節也：防災 雲仙噴火と火山災害，東京大学出版会，pp. 37-67，1996. 9
- 37) 葦書房編：噴火と闘った島原鉄道，葦書房，全145頁，1998. 4
- 38) 松下忠洋：自然の復元，山海堂，pp. 136-142，1998. 5
- 39) 吉田憲治：太田一也聞書 普賢岳鳴動す，西日本新聞社，全289頁，1999. 2
- 40) 高橋和雄：雲仙火山災害における復興対策と防災対策一火山工学の確立を目指して一，

- 九州大学出版会，全580頁，2000.2
- 41) 長崎大学「火山と災害」教育研究グループ：火山 雲仙普賢岳がもたらしたものの，長崎出島文庫，全293頁，2000.4
 - 42) 内嶋善之助：戯曲 沈黙する定点，全119頁，2000.6
 - 43) 「雲仙・普賢岳噴火災害を体験して」編集委員会：雲仙・普賢岳噴火災害を体験して被災者からの報告，特定非営利活動法人「島原普賢会」，全132頁，2000.8
 - 44) 梅崎 良：普賢さんは怒っちゃらすー火砕流に埋もれた故郷ー，夢工房，全103頁，2000.8
 - 45) 長崎新聞社・後藤恵之輔：復興の「教訓」「普賢岳」からよみがえった10年，小学館，全287頁，2001.1
 - 46) アグニエシュカ・タボルスカ：くろい山，雲仙旅館ホテル組合，全33頁，2001.3
 - 47) 杉本伸一：そのとき何が 雲仙普賢岳噴火 住民の証言と記録，東洋印刷所，全203頁，2001.6
 - 48) 西川成子：西川清人遺作集 普賢の刻(とき)，昭和堂印刷出版事業部，全107頁，2001.6
 - 49) (社)土木学会地盤工学委員会火山工学研究小委員会：火山とつきあうQ & A 99，全371頁，pp. 56-57, pp. 60-61, pp. 78-82, pp. 156-158, pp. 180-183, pp. 186-187, pp. 188-191, pp. 210-214, pp. 216-219, pp. 220-221, pp. 236-241, pp. 242-244, pp. 268-272, pp. 276-279, pp. 280-286, pp. 338-339, 2001.12
 - 50) 毎日新聞西部本社：大火砕流を越えて 普賢岳が残した10年，全315頁，2002.6
 - 51) 長崎地盤研究会・九州橋梁構造工学研究会：長崎県の災害史，全301頁，2005.9
 - 52) 高橋和雄・木村拓郎：火山災害復興と社会ー平成の雲仙普賢岳噴火ー，古今書院，全198頁，2009.11

6. 雑言誌

- 1) 小林松太郎：普賢噴煙日誌，岬，第9号，pp. 16-24, 1991. 5
- 2) Volcano prediction problems, N A T U R E, Vol. 351, p. 511, 1991. 6
- 3) 特報 雲仙「火砕流」の惨劇 だが，恐いのはこれからの豪雨→土石流だ，週刊文春，6月13日号，pp. 32-33, 1991. 6
- 4) 雲仙・普賢岳から本誌取材班が決死的レポート 200年ぶりに大噴火！灼熱の「火砕流」が街を襲う，F R I D A Y, 6月14日号，pp. 8-9, 1991. 6
- 5) 200年ぶりの「島原大変」（グラビア）取材陣 多数不明 も呑み込んだ雲仙火砕流の恐怖，週刊朝日，6月14日増大号，25-26, 1991. 6
- 6) 激震続く雲仙・普賢岳 迫りくる火砕流の恐怖（グラビア），サンデー毎日，6月16日号，1991. 6
- 7) 雲仙岳大噴火島原大変！（グラビア）巻頭警告特集 甦る恐怖の日本火山列島，プレイボーイ，6月18日号，pp. 42-47, 1991. 6
- 8) 死者不明者37人の大災害 雲仙岳の火砕流，A E R A, 6月18日号，pp. 9-13, 1991. 6
- 9) 雲仙 地獄の熱い舌（グラビア）雲仙「火砕流」新聞が書かないこと，週刊文春，6月20日号，pp. 38-44, 1991. 6
- 10) 迫る火砕流（グラビア）火砕流頻発 飛びかうデマ 島原市民，恐怖の大脱出，週刊朝日 6月21日号，pp. 187-189, 1991. 6
- 11) 雲仙大噴火 甦る200年前の恐怖（グラビア） 災害列島の「危機管理能力」科学はなぜ勝てない？，Asahi Journal, 6月21日号，pp. 11-17, 1991. 6
- 12) 雲仙大噴火!!火砕流のつめ跡（グラビア）ルポ 火砕流と降灰におびえる水無川流域，アサヒグラフ，6月21日号，pp. 20-23, 1991. 6
- 13) 雲仙岳「火砕流」（グラビア）時速100キロ 火砕流の明と暗，週刊読売，6月23日号，pp. 22-31, 1991. 6
- 14) 怒る「雲仙」の爪痕（グラビア）悲しみに包まれた街（グラビア）「生」と「死」をわけた人間ドキュメント 火砕流に「地獄」を見た!!，サンデー毎日 6月23日号，pp. 26-31, 1991. 6
- 15) 噴火続く雲仙 島原の前途は視界ゼロ，A E R A, 6月25日号，pp. 13-14, 1991. 6
- 16) 灰の街は戦闘態勢（グラビア）新聞・テレビで報道されない雲仙大火砕流パニック，週刊宝石，6月27日号，pp. 34-39, 1991. 6
- 17) 鐘ヶ江管一・島原市長と一週間「雲仙が吹っ飛んでも島原ば離れとうなか」，週刊文春，6月27日号，pp. 196-198, 1991. 6
- 18) 琉球大助教授が想定する「雲仙」終焉までの「変動」，週刊新潮，6月27日号，pp. 156-159, 1991. 6
- 19) 人類が忘れていた火砕流の恐怖，S A P I O, 6月27日号，pp. 14-15, 1991. 6
- 20) 雲仙…ピナトゥポ 2つの噴火を結ぶ「点」と「線」，Asahi Journal, 6月28日号，pp. 18-20,

1991. 6

- 21) いまこそ「火山保険」を創設せよ, 週刊ポスト, 6月28日号, pp. 58-62, 1991. 6
- 22) 疲労 ストレス 絶望からパニック寸前! 雲仙避難民1万2千人が直面している「残酷な日々」, FRIDAY, 6月28日号, pp. 72-73, 1991. 6
- 23) 島原の乱 極限に達した市民生活の不安, 苦悩, 疲労(グラビア) 雲仙緊迫 島原「ポンペイの恐怖」, 週刊読売, 6月30日号, pp. 22-27, 1991. 6
- 24) 緊迫の雲仙 普賢岳 恐怖と焦燥(グラビア)「島原半島全壊」の風聞に揺れる5万人, サンデー毎日, 6月30日号, pp. 26-29, 1991. 6
- 25) 火砕流に脅える島原市民に国の対策は冷たくないか?, プレイボーイ, 7月2日号, p. 53, 1991. 7

1991. 7

- 26) 雲仙岳噴火 戦慄の7ヶ月(グラビア) ピナツボー雲仙ー東京 恐怖のトライアングル, 週刊読売, 7月7日号, pp. 22-28, 1991. 7
- 27) 「厳重警戒」で干上る島原1万人避難の「現場」, 週刊新潮, 7月18日号, pp. 134-138 1991. 7
- 28) 天皇陛下ご夫妻が雲仙岳被災地をお見舞に, FRIDAY, 7月26日号, pp. 8-9, 1991. 7
- 29) 被災地に飛び込む「アクション陛下」にお見事!!の声(グラビア), 週刊朝日, 7月26日号, 1991. 7
- 30) 「灰の街」島原絶望地帯を往く, FRIDAY, 8月2日号, pp. 16-17, 1991. 8
- 31) 一日遅かった雲仙災害予測地図, 月刊Asahi, 8月号, pp. 52-57, 1991. 8
- 32) 集団移転を白紙撤回した雲仙「島原市民」, 週刊新潮, 8月15, 22日夏季特別号, pp. 54-55, 1991. 8

- 33) 「大島」と「島原」, 週刊新潮, 8月29日号, pp. 112-113, 1991. 8
- 34) 吉原敦子: 火山列島の“棄民”たち, 諸君!, 第23巻, 第9号, pp. 250-257, 1991. 9
- 35) 鐘ヶ江管一: 島原大変オロオロ日記, 文芸春秋, 9月特別号, pp. 280-290, 1991. 9
- 36) 島原流民の夏, AERA, 9月10日号, pp. 30-34, 1991. 9
- 37) 雲仙普賢岳「避難地獄」はいつまで続く, FOCUS, 9月13日号, pp. 62-65, 1991. 9
- 38) 「平成島原大変」現地見舞, 週刊ポスト, 9月13日号, pp. 40-43, 1991. 9
- 39) 竹内 均: 雲仙・普賢岳からのレポート, Newton, Vol. 11, No.10, pp. 90-101, 1991. 9
- 40) 普賢岳大噴火に泣く長崎「雲仙温泉」の開店休業, 週刊新潮, 9月19日号, pp. 58-59, 1991. 9
- 41) 雲仙普賢岳に賭ける「科学と決断」の闘い, 週刊新潮, 9月26日号, pp. 140-143, 1991. 9
- 42) 消えゆく街を見殺しにする国の無策ぶり 長期化する雲仙岳災害, 九経エコノス, Vol. 24, pp. 30-32, 1991. 9
- 43) 雲仙・普賢岳よ, もういいかげんにしろ(グラビア), 週刊文春, 10月3日号, 1991. 10
- 44) 白石一郎: ああ「島原大変」, 別冊・文芸春秋, 10月3日号, pp. 56-66, 1991. 10
- 45) 「雲仙大火砕流」 自衛隊決死の救援作戦, FOCUS, 10月29日号, pp. 82-83, 1991. 10
- 46) 雲仙「噴火」と潮の干満の不思議な関係, 週刊新潮, 10月31日号, pp. 42-43, 1991. 10

- 47) 小林松太郎：妖怪・見越入道 雲仙噴火日録から抜書, 岬, 第10号, pp. 20-51, 1991. 10
- 48) 「雲仙」「西湖」…天変地異の「真因」, F R I D A Y, 11月26日号, pp. 18-21, 1991. 11
- 49) 黒田社会部：「島原難民一万人」望郷の声を聞け!, 宝石, 12月号, pp. 84-107, 1991. 12
- 50) 広岩近広：「人間と死」雲仙で死んだカメラマン・1, サンデー毎日, 12月15日号, pp. 184-187, 1991. 12
- 51) 広岩近広：「人間と死」雲仙で死んだカメラマン・2, サンデー毎日, 12月22日号, pp. 187-189, 1991. 12
- 52) 広岩近広：「人間と死」雲仙で死んだカメラマン・3, サンデー毎日, 12月29日号, pp. 182-185, 1991. 12
- 53) 江川紹子：感動のドキュメント1 大火砕流に消ゆ, 週間文春, 1月23日号, pp. 64-75, 1992. 1
- 54) 江川紹子：感動のドキュメント2 大火砕流に消ゆ, 週間文春, 1月30日号, pp. 66-73, 1992. 1
- 55) 暮しの手帳編集部：噴火の下で—雲仙からの報告, 暮しの手帳, No.36, pp. 68-73, 1992. 2, 3
- 56) 雲仙普賢岳避難住民「決死の入山」撮影記, F O C U S, 5月1・8日号, pp. 30-33, 36-39, 1992. 5
- 57) 吉江冬一郎：普賢岳噴火島原近況, 岬, 第11号, p. 9, 1992. 5
- 58) 雲仙普賢岳避難住民「決死の入山」撮影記, Focus, 5月1・8日号, pp. 30-39, 1992. 5
- 59) 梅崎 良：雲仙普賢岳決死行, マルコポーロ, Vol.2, No.5, pp. 94-101, 1992. 5
- 60) 福永法源：長崎の7000人が目覚めれば平成4年12月29日, 普賢岳の噴火は止まる, Earth Aid, 第3巻, 第20号, pp. 51-55, 1992. 7
- 61) 梅崎 良：誰もが知りたい雲仙普賢岳のいま!, プレイボーイ, 11. 3, No. 45, pp. 253-260, 1992. 11
- 62) Sato, H., Fujii, T. and Nakata, N. : Crumbling of dacite dome lava and generation of pyroclastic flows at Unzen volcano, NATURE, Vol. 360, No. 6405, pp. 664-666, 1992. 12
- 63) 雲仙普賢岳, 大土石流100万立方メートルの濁流—1階は全て土砂に埋まった, F O C U S, 5月14日号, pp. 30-31, 1993. 5
- 64) 江川紹子：島原大土石流は人災だ, 週刊文春, 5月20日号, pp. 222-225, 1993. 5
- 65) 江川紹子：仮借なき爪跡—終わりのない島原の土石流—, 週刊新潮, 5月20日号, pp. 13-15, 1993. 5
- 66) 3年目の悪夢再び「信号機まで埋まった」雲仙”最大土石流の恐怖”, F R I D A Y, 5月21日号, pp. 66-67, 1993. 5
- 67) 埋まったしもうたパイ 最大級の土石流に襲われた普賢岳周辺の住民のため息, プレイボーイ, 第28巻, 第19号, pp. 31-37, 1993. 5
- 68) 鎌田 慧：あれから2年”光の見えない街” 島原を歩く, F R I D A Y, 6月18日号, pp. 56-59, 1993. 6
- 69) 石川文洋：雲仙・普賢岳 大火砕流から2年, アサヒグラフ, 通巻3711号,

pp. 3-13, 1993. 7

- 70) 土方正志：灰と土砂に襲われたまち－雲仙普賢岳噴火から2年－，晨，第12巻，第8号，pp. 3-10, 1993. 8
- 71) 土方正志：島原の「受難の日々」は続く－3年目を迎えた雲仙・普賢岳噴火災害－，晨，第12巻，第8号，pp. 33-35, 1993. 8
- 72) 江川紹子：復興の風景・雲仙と奥尻，文芸春秋，9月特別号，第71巻，第9号，pp. 318-327, 1993. 9
- 73) 与田一男：復興の道はどこに－普賢岳災害拡大 苦悩の島原－，九経エコノス，Vol. 48, pp. 5-10, 1993. 9
- 74) 畠中克弘：雲仙普賢岳砂防事業（長崎県）緊張強いる火砕流の脅威，日経コンストラクション，No.95, pp. 46-53, 1993. 9
- 75) 木村政昭：普賢岳と沖縄トラフ，P l e a s e ，10月号，No.77, pp. 16-19, 1993. 10
- 76) 鐘ヶ江管一（原作）・あおきてつお（作画）：普賢，鳴りやまず 第1話 普賢に呑まる，スーパージャンプ，No.23, pp. 5-36, 1993. 11
- 77) 鎌田 慧：島原・噴火 三年目の焦燥，世界，1993年12月号，第589号，pp. 253-263, 1993. 12
- 78) 鐘ヶ江管一（原作）・あおきてつお（作画）：普賢，鳴りやまず 第2話 普賢に哭く，スーパージャンプ，No.24, pp. 117-147, 1993. 12
- 79) ネクサス：普賢岳災害，無人で除石に成功した！試験フィールド制度6技術にお墨付き，第3巻，第9号，pp. 34-35, 1994. 10

7. 県政だより，広報しまばら島原市災害復興・再建ニュース「ふっこう」および広報ふかえ

県政だより NEWながさき

- 1) 雲仙岳の防災対策について，No.439，pp.4-5，1991.5
- 2) 雲仙岳の万全な防災対策を，No.440，pp.10-11，1991.6
- 3) なおも活発な火山活動を続ける雲仙普賢岳-その災害対策について-，No.441，pp.2-3，1991.7
- 4) 天皇皇后両陛下が雲仙・普賢岳噴火による被災地をお見舞，No.442，pp.2-5，1991.8
- 5) 「雲仙岳噴火災害対策」に議論が集中(平成3年第2回定例県議会)，No.442，pp.6-7，1991.8
- 6) F A C E ' 9 1 九州大学島原地震火山観測所所長，No.442，p.9，1991.8
- 7) 被災地の念願が実現！災害対策基金(仮称)を創設へ，No.443，pp.2-3，1991.9
- 8) 総合的な復興・振興を図る(財)雲仙岳災害対策基金を設立，No.444，pp.2-3，1991.10
- 9) 「雲仙岳災害対策基金」の設置予算などを可決(平成3年第3回定例県議会)，No.445，pp.4-5，1991.11
- 10) 「台風災害対策及び雲仙災害対策事業予算などを可決(平成3年第4回定例県議会)」，No.447，pp.4-5，1992.1
- 11) 30億円で「義援金基金」を創設，No.447，p.8，1992.1
- 12) 天皇皇后両陛下が雲仙普賢岳噴火災害を気遣われるお歌，No.448，p.8，1992.2
- 13) さらに進む救済・防災対策，No.449，pp.2-3，1992.3
- 14) 総額600億円に増額-雲仙岳災害対策基金-，No.451，p.8，1992.5
- 15) 「緊急連絡橋」建設へ-土石流対策，国道251号-，No.451，p.8，1992.5
- 16) 治山ダム5基完成-土石流対策-，No.451，p.10，1992.5
- 17) 緊急連絡橋，遊砂地2基完成-土石流対策-，No.453，p.11，1992.7
- 18) 雲仙・普賢岳噴火災害対策など13項目を特別決議(第99回九州地方知事会議)，No.453，p.11，1992.7
- 19) 平成4年第2回定例県議会：雲仙岳噴火災害対策，No.454，p.5，1992.8
- 20) 長期的な住宅確保対策を実施-雲仙・普賢岳噴火災害対策-，No.454，p.8，1992.8
- 21) 噴火からもうすぐ2年，災害に強い街づくりを目指して〈雲仙・普賢岳噴火災害対策〉，No.455，pp.2-3，1992.9
- 22) 雲仙・普賢岳砂防計画の基本構想を一部見直し-雲仙・普賢岳噴火災害対策-，No.457，p.8，1992.11
- 23) 長崎くんちに島原・深江の被災者を招待，No.457，p.10，1992.11
- 24) 火山灰が降っても平気-深江町，No.457，p.12，1992.11
- 25) プライバシー保護に配慮した個室型避難施設完成，No.458，p.10，1992.12
- 26) 防災施設を模型実験，No.461，p.8，1993.3

- 27) 急がれる土石流対策, No.464, p.8, 1993.6
- 28) 雲仙岳災害・島原半島復興振興計画の策定に向けて, No.464, p.8, 1993.6
- 29) 高田知事が被災地視察, No.464, p.10, 1993.6
- 30) 自然との闘い-雲仙・普賢岳噴火災害対策-, No.466, p.8, 1993.8
- 31) よみがえれ農地 とりもどそう水と緑!! , No.467, p.8, 1993.9
- 32) 知ってますか県産品, 普賢ガラス, No.467, p.18, 1993.9
- 33) 普賢岳の鎮静を祈って, No.468, p.13, 1993.10
- 34) 中尾川に緊急連絡橋完成, No.469, p.11, 1993.11
- 35) 災害に強いまちづくりを目指して-雲仙・普賢岳噴火災害対策-, No.470, p.8, 1993.12
- 36) 普賢岳噴火から4年目を迎えて, No.470, p.10, 1993.12
- 37) 雲仙岳災害・島原半島復興振興計画を決定,火山との共生をめざして, No.471, pp.2-3, 1994.1
- 38) 雲仙グリーンロード北部地区供用開始, No.471, p.8, 1994.1
- 39) 被災者用住宅団地が完成, No.471, p.10, 1994.1
- 40) 島原深江道路, 橋脚工事に着工, No.471, p.11, 1994.1
- 41) 将来に向けた人材づくり, No.471, p.12, 1994.1
- 42) 中尾川流域を土石流から守る, No.472, p.8, 1994.2
- 43) 普賢岳からメリークリスマス, No.472, p.11, 1994.2
- 44) 農地復興を目指して基盤整備始まる, No.472, p.11, 1994.2
- 45) 雲仙岳噴火にかかる災害対策, No.473, p.4, 1994.3
- 46) 監視カメラを一元化-「映像ネットワーク」整備-, No.473, p.8, 1994.3
- 47) 島原, 深江を救え, No.474, p.12, 1994.4
- 48) 雲仙・普賢岳の様子がリアルタイムな画面で, No.476, p.11, 1994.6
- 49) 雲仙岳噴火災害対策, No.478, p.2, 1994.8
- 50) 住民が山と共に生きているからこそ撮る, No.479, p.9, 1994.9
- 51) 湯江川流域に最大規模のスーパー治山ダムを建設
- 52) 雲仙普賢岳噴火対策について, No.483, p.7, 1995.1
- 53) 島原からクリスマスのメッセージ, No.483, p.10, 1995.1
- 54) 4年間の災害記録集完成, No.483, p.12, 1995.1
- 55) 住宅の安定的確保に一步, No.484, p.11, 1995.2
- 56) 農業復興めざし溶液栽培, No.485, p.12, 1995.3
- 57) 雲仙・普賢岳噴火災害についての防災体制, No.486, p.3, 1995.4
- 58) 全面開通めざし疾走, No.486, p.9, 1995.4
- 59) 国道251号水無川橋が開通, No.487, p.10, 1995.5
- 60) 安中三角地帯をかさ上げ, No.489, p.11, 1995.7
- 61) アーケードで復興アピール, No.489, p.12, 1995.7
- 62) 「火山観光化推進基本構想」策定, No.490, p.8, 1995.8

- 63) スーパー治山ダム完成, No. 490, p. 10, 1995. 8
- 64) 復興への決意あらたに, No. 492, p. 13, 1995. 10
- 65) 天皇皇后両陛下, 島原・深江へ, No. 494, p. 10, 1995. 12
- 66) 環境をいかしてまちづくり島原市, No. 494, p. 13, 1995. 12
- 67) 雲仙普賢岳復興対策, No. 495, p. 6, 1996. 1
- 68) 「雲仙・普賢岳噴火災害」救援活動に関する感謝決議, No. 495, p. 7, 1996. 1
- 69) 安心と勇気をありがとう, No. 495, p. 11, 1996. 1
- 70) 平成溶岩に復興への誓い新た, No. 495, p. 12, 1996. 1
- 71) 復興の” つちおと ” が聞こえるまち, No. 495, p. 17, 1996. 1
- 72) 雲仙岳災害対策基金の増額と延長決定, No. 496, p. 8, 1996. 2
- 73) 半島振興計画承認, No. 496, p. 8, 1996. 2
- 74) 普賢岳からメリークリスマス, No. 496, p. 10, 1996. 2
- 75) 水無川災害復旧助成事業完了, No. 498, p. 11, 1996. 4
- 76) 観光復興記念館オープン, No. 500, p. 12, 1996. 6
- 77) もっと島原半島を元気に「がまだす計画」策定へ, No. 501, p. 8, 1996. 7
- 78) 眉山に大型治山ダム完成, No. 501, p. 10, 1996. 7
- 79) 本格復興へ向け新たな一歩, No. 501, p. 11, 1996. 7
- 80) 溶岩ドームを「平成新山」と命名, No. 501, p. 12, 1996. 7
- 81) 湯江川流域に再大規模のスーパー治山ダムを建設, No. 481, p. 8, 1994. 11
- 82) がまだす計画について(雲仙岳災害復興対策, 災害に強いまちづくり計画), No. 502, p. 6, 1996. 8
- 83) 島原温泉病院の建て替えについて, No. 502, p. 7, 1996. 8
- 84) 全国に発信したい貴重な体験, No. 505, p. 9, 1996. 11
- 85) 島原深江被災農家初出荷, No. 506, p. 10, 1996. 12
- 86) がまだす料理をPR, No. 506, p. 11, 1996. 12
- 87) 「復興シンポジウム」開催, No. 506, p. 12, 1996. 12
- 88) がまだす計画, No. 507, p. 5, 1997. 1
- 89) 島鉄「安新大橋」完成, No. 508, p. 10, 1997. 2
- 90) 島原地域再生行動計画(愛称がまだす計画)策定(1997-2001年までの5カ年計画), No. 510, pp. 2-5, 1997. 4
- 91) がまだす計画発進!, No. 512, p. 11, 1997. 6
- 92) 日本画「普賢岳」を寄贈, No. 514, p. 11, 1997. 8
- 93) 「自然との調和」の願いを込めて, No. 516, p. 12, 1997. 10
- 94) みんなの意見を「島原火山科学博物館」づくりへ, No. 520, p. 11, 1998. 2
- 95) 島原半島の新たな観光拠点をめざして, No. 522, p. 8, 1998. 4
- 96) 水無川1号砂防ダムが完成-島原深江道路も一部供用開始-, No. 522, p. 10, 1998. 4
- 97) 島原港に新ターミナルが完成, No. 523, p. 10, 1998. 5

- 98) 知事が島原半島を視察, No. 524, p. 11, 1998. 6
- 99) 雲仙が変わる-緑のダイヤモンド計画-, No. 525, pp. 6-7, 1998. 7
- 100) 普賢岳が美しい山に戻る日までシャッターを切り続けたい, No. 525, p. 9, 1998. 7
- 101) 「防災の森」に記念の第1歩, No. 525, p. 11, 1998. 7
- 102) 災害の記憶を後世に伝える, No. 525, p. 12, 1998. 7
- 103) 平成9年度地域情報発進事業「がまだす島原」返信ハガキ集, THANKS, 長崎県, 全44頁, 1998. 7
- 104) 大手川の河川改修・砂防事業が完了, No. 531, p. 10, 1999. 1
- 105) 緑の復元をめざして!, No. 531, p. 14, 1999. 1
- 106) 雲仙岳災害復興対策の推進, No. 532, p. 6, 1999. 2
- 107) 雲仙岳噴火災害農地復旧・復興事業が完了, No. 533, p. 10, 1999. 3
- 108) 島原深江町道路が開通, No. 534, p. 10, 1999. 4
- 109) 普賢岳を眺めながら走り初め, No. 534, p. 15, 1999. 4
- 110) ようこそ, がまだすアグリ王国へ, No. 534, p. 14, 1999. 4
- 111) 「がまだす計画」に農協合併が追加, No. 535, p. 11, 1999. 5
- 112) 雲仙岳災害記念館(仮称)整備事業, No. 536, p. 12, 1999. 6
- 113) 被災校舎を一般開放, No. 537, p. 15, 1999. 7
- 114) 災害からの自然再生-焼山園地と田代原キャンプが完成, No. 538, p. 11, 1999. 8
- 115) 平成13年度中の開院をめざして-県立島原温泉病院の建て替え始まる-, No. 539, p. 11, 1999. 9
- 116) 平成新山のふもとにスポーツ・文化の拠点が生誕, No. 539, p. 14, 1999. 9
- 117) 全国初の無人化施工-水無川流域治山ダムが着工, No. 541, p. 10, 1999. 11
- 118) 深江町立大野木場小学校の新校舎が落成, No. 545, p. 11, 2000. 3
- 119) 雲仙グリーンロードが全線開通, No. 545, p. 12, 2000. 3
- 120) 火山災害をのりこえて-元気になりました島原半島, Vol. 11, 2001. 9
- 121) ふるさと大好き手づくりまちづくり, Vol. 13, 2001. 11
- 122) 長崎県立島原病院平成14年1月24日オープン, Vol. 17, 2002. 3
- 123) 全国初の火山体験型記念館 雲仙岳災害記念館「がまだすドーム」が7月1日島原市に誕生!!, Vol. 3, p. 2-3, 2002. 7
- 124) 「がまだすドーム」オープン, Vol. 8, p. 5, 2002. 12
- 125) 平成新山が天然記念物に!, 火山について学べる! 「雲仙岳災害記念館」, Vol. 21, p. 11, 2004. 1

1998 nagasaki 長崎県政この1年

- 1) 島原港に新ターミナル完成, p. 11, 1999. 2
- 2) 水無川1号砂防ダムが完成, 大手川河川改修・砂防事業が完了, p. 15, 1999. 2
- 3) 「防災の森」造成記念植樹, 緑のダイヤモンド計画事業, p. 17, 1999. 2

4) 島原温泉病院の基本計画まとまる, p.22, 1999.2

1999 nagasaki 長崎県政この1年

1) 島原地域行動再生計画(がまだす計画), p.15, 2000.3

2001 nagasaki 長崎県政この1年

見せます ながさき'99

1) がまだす計画, p.13, 1999.6

広報しまばら

- 1) 198年ぶりの異変, 普賢岳が噴煙をあげる, No.440, pp.4-5, 1990.12
- 2) 普賢岳再噴火, 新火口から激しくわく噴煙・灰-眉山崩壊へ備え特別避難計画を公表
-, No.443, pp.2-5, 1991.3
- 3) 普賢岳の火山活動, 災害対策の焦点は泥流・土石流対策へ, No.445, pp.2-5, 1991.5
- 4) 普賢岳は動いている, 自然災害の無残なツメ跡を残した後もなお…, No.446, pp.3-13,
1991.6
- 5) 天皇・皇后両陛下が島原訪問, 被災住民をお見舞い, No.447, pp.2-3, 1991.7
- 6) 普賢岳は動いている, 心配していた土石流発生そして, 溶岩ドームは依然成長, No.
447, pp.4-27, 1991.7
- 7) 普賢岳は動いている, 「いったい, いつまで」衰えを見せない“普賢岳”, No.448, pp.2-13,
1991.8
- 8) 火砕流から身を守るために, 「もしかしたら」と考えよう, No.449, pp.2-3, 1991.9
- 9) 普賢岳は動いている, 新溶岩ドームから火砕流発生 千本木地区に危険が迫る, No.449,
pp.4-15, 1991.9
- 10) 普賢岳9月15日の火砕流分布図, No.450, pp.2-3, 1991.10
- 11) 普賢岳は動いている, 大規模火砕流が発生そして…台風が直撃, No.450, pp.4-13,
1991.10
- 12) 生命と生活を守るために島原災害派遣隊の活動状況, No.451, pp.2-3, 1991.11
- 13) 普賢岳は動いている, 山は落ち着いているように見えるが今後も厳重な警戒が必要,
No.451, pp.4-11, 1991.11
- 14) 普賢岳は動いている, 火山活動は依然活発そして越年の見通し, No.452, pp.2-9, 1991.12
- 15) 普賢岳は動いている, 成長を続ける溶岩ドーム終息の兆しは見えぬ, No.453, pp.4-11,
1992.1
- 16) 普賢岳は動いている, 火山活動は依然活発今後も厳重な警戒を, No.454, pp.2-9, 1992.2
- 17) 普賢岳は動いている, 火砕流・土石流には厳重な警戒を, No.455, pp.2-9, 1992.3
- 18) 災害に強いまちづくりをめざして, No.455, pp.10-12, 1992.3

- 19) 普賢岳は動いている，火山活動は一向に衰える気配を見せず，No.456，pp.8-14，1992.4
- 20) 平成3年度観光動態，雲仙普賢岳噴火災害のため観光客が大幅に減少，No.457，pp.2-3，1992.5
- 21) 普賢岳は動いている，警戒区域設定1年を超える，No.457，pp.4-9，1992.5
- 22) 災害には十分注意を，No.457，p.10，1992.5
- 23) 惨事から1年 6月3日，追悼行事を開催，No.458，pp.2-3，1992.6
- 24) 普賢岳は動いている，溶岩の供給は依然として活発，No.458，pp.4-9，1992.6
- 25) 普賢岳は動いている，隆起する溶岩ドーム普賢岳の標高を上回る，No.459，pp.4-9，1992.7
- 26) 脅威！！土石流，No.460，pp.2-3，1992.8
- 27) 普賢岳は動いている，到達距離が延びる火砕流，土石流による被害も発生，No.460，pp.4-9，1992.8
- 28) 普賢岳は動いている，警戒区域を一部解除，今後も十分な警戒と注意を，No.461，pp.2-8，1992.9
- 29) 普賢岳は動いている，火山活動は衰えず，避難生活は今年いっぱい，No.462，pp.2-7，1992.10
- 30) 普賢岳は動いている，噴火から2年，火山活動は終息せず，No.463，pp.2-6，1992.11
- 31) 個室型集合避難施設が完成，122世帯の収容が可能，No.463，p.7，1992.11
- 32) 普賢岳は動いている，第9溶岩ドーム出現，終息の気配は・・・，No.464，pp.2-6，1992.12
- 33) 空への避難，ヘリコプター離着陸用広場が完成，No.464，p.7，1992.12
- 34) 目で見る復興元年，No.464，p.12，1992.12
- 35) 普賢岳は動いている，溶岩の噴出量が減少，落ち着いた状態が続く，No.465，pp.3-7，1993.1
- 36) 普賢岳は動いている，終息の気配はしても，嚴重な警戒が必要，No.466，pp.2-5，1993.2
- 37) 普賢岳は動いている，第10溶岩ドームが成長，今後も嚴重な警戒が必要，No.467，pp.2-5，1993.3
- 38) うるおいと活力に満ちた災害に強いまちづくり，No.468，pp.12-15，1993.4
- 39) 普賢岳は動いている，第11溶岩ドーム出現，不安定な状態が続く，No.468，pp.12-15，1993.4
- 40) 猛威再び，土石流が発生しやすくなっています 日ごろから避難の準備は万全に，No.469，pp.2-4，1993.5
- 41) 普賢岳は動いている，火砕流が頻発，火山活動は依然活発，No.469，pp.6-10，1993.5
- 42) 降灰への心がけ，No.469，p.17，1993.5
- 43) 6月3日から2年・・・活動を続ける普賢岳と島原，No.470，pp.2-3，1993.6
- 44) 普賢岳は動いている，中尾川へ火砕流，再び警戒区域を拡大，No.470，pp.4-8，1993.6
- 45) 普賢岳は動いている，火砕流と土石流，市街地が一時孤立，No.471，pp.2-10，1993.7

- 46) 義援金の配分状況, No. 471, p. 11, 1993. 7
- 47) 普賢岳は動いている, 第11溶岩ドームが成長, 火山性地震が過去最高に, No. 472, pp. 2-7, 1993. 8
- 48) 眉山六溪で土石流, No. 473, p. 2, 1993. 9
- 49) 普賢岳は動いている, 大きく成長する溶岩ドーム, 引き続き厳重な警戒を, No. 473, pp. 3-9, 1993. 9
- 50) 普賢岳は動いている, 急ピッチで進む防災工事, 不安定さを増す第11溶岩ドーム, No. 474, pp. 4-6, 1993. 10
- 51) 普賢岳は動いている, 普賢岳噴火から3年, 終息する兆しは見えず, No. 475, pp. 6-7, 1993. 11
- 52) 災害に強いまちづくりを目指し, 国道251号水無川仮設橋が完成, No. 476, p. 2, 1993. 12
- 53) 普賢岳は動いている, 急ピッチで進む緊急工事, 普賢岳の活動は依然活発, No. 476, pp. 3-6, 1993. 12
- 54) 普賢岳は動いている, 新たな展開? 普賢神社も埋まる, No. 477, pp. 9-13, 1994. 1
- 55) 起死回生 生活拠点確保に向け安心できる住宅を, No. 478, pp. 2-4, 1994. 2
- 56) 普賢岳は動いている, 第12溶岩ドームが出現, 多方向で火砕流が発生, No. 478, pp. 5-8, 1994. 2
- 57) 島原災害派遣1, 000日 活躍する自衛隊, No. 479, pp. 2-3, 1994. 3
- 58) 起死回生 安心して快適な防災都市づくり, No. 479, pp. 4-6, 1994. 3
- 59) 無人化工事で土石を除去, No. 479, p6, 1994. 3
- 60) 普賢岳は動いている, 普賢池が埋没 厳重な警戒が必要, No. 479, pp. 7-9, 1994. 3
- 61) 起死回生 明るく住みよいまちづくりを推進, No. 480, pp. 8-9, 1994. 4
- 62) 普賢岳は動いている, 活発な火山活動 十分な注意を, No. 480, pp. 11-13, 1994. 4
- 63) 今までの災害を教訓にして, 災害に対する備えを再確認, No. 481, pp. 2-5, 1994. 5
- 64) 普賢岳は動いている, 多方面で火砕流衰えを見せない火山活動, No. 481, pp. 6-7, 1994. 5
- 65) 起死回生 観光客の誘致へ向け積極的な活動を展開, No. 481, pp. 8-10, 1994. 5
- 66) 復興に向けて, No. 482, pp. 2-3, 1994. 6
- 67) 起死回生 漁業の活性化に向けて新規事業を導入, No. 482, pp. 4-5, 1994. 6
- 68) 普賢岳は動いている, 溶岩噴火から丸3年依然続く火山活動, No. 482, pp. 6-8, 1994. 6
- 69) 避難対策確認はできましたか? -防災ガイドブックと防災マップを作成-, No. 482, p. 14, 1994. 6
- 70) 起死回生 健康で明るい家庭を築くために, No. 483, pp. 2-3, 1994. 7
- 71) 普賢岳は動いている, 第13ドーム出現火山活動は依然活発, No. 483, pp. 4-6, 1994. 7
- 72) 義援金の配分状況, No. 483, p. 7, 1994. 7
- 73) 湯江川方向の普賢岳, No. 483, p. 12, 1994. 7
- 74) '94火山砂防フォーラム 安全で魅力ある地域づくりを目指し, No. 484, pp. 2-3, 1994. 8
- 75) 起死回生 高齢化時代の社会に向けて, No. 484, pp. 4-6, 1994. 8

- 76) 普賢岳は動いている，表面上は落ち着いた状態急ピッチで進む砂防工事，No.484，pp.8-9，1994.8
- 77) 86年間の歴史に幕折橋分校廃校式，No.484，p.14，1994.8
- 78) 起死回生 中心市街地再生を目指し，No.485，pp.2-3，1994.9
- 79) 普賢岳は動いている，火砕流が多発火山活動は活発，No.485，pp.4-6，1994.9
- 80) 土石流発生に備えて，No.485，p.7，1994.9
- 81) 名球会がやってきた，No.485，p.14，1994.9
- 82) 中尾川流域土石流対策，No.486，p.2，1994.10
- 83) 仁田団地 完成までもう少し，No.486，p.3，1994.10
- 84) 普賢岳は動いている，溶岩供給は低レベル比較的落ち着いた状態，No.486，pp.4-6，1994.10
- 85) 進んでいます 防災・復興，No.487，pp.2-3，1994.11
- 86) 普賢岳は動いている，溶岩ドームは内的成長活動は第2波の後期，No.487，pp.5-7，1994.11
- 87) 災害支援イベントがぞくぞく一泉谷しげるさん再び 噴火災害救済コンサート，自然に親しんで健康づくり 島原半島ツーデーマーチ，NHK「どんとこい民謡」公開録画，pp.10-11，1994.11
- 88) 復興・再生に向けて一市長を囲む懇談会一，No.488，pp.4-7，1994.12
- 89) 普賢岳は動いている，噴火から丸4年 火山活動はいつまで・・・，No.488，pp.8-9，1994.12
- 90) 三会海岸埋め立て事業，No.488，pp.10-11，1994.12
- 91) 平成6年復興・再生の1年，No.488，pp.12-13，1994.12
- 92) 復興へ向けて・島原復興の風に一第7回名水の里ジョギングフェスティバル一，美しく・愉快地一杉谷地区演芸大会一，復興への輝き一'94島原ファンタジア，No.488，pp.14，1994.12
- 93) 緊急避難路大下仁田線が一部開通，No.489，pp.3，1995.1
- 94) 普賢岳は動いている，隆起が続く普賢岳標高は1,500mに，No.489，pp.8-9，1995.1
- 95) 地域高規格道路に指定 島原道路の深江町・諫早間，No.489，pp.14，1995.1
- 96) 仁田団地が完成，No.490，pp.2，1995.2
- 97) 湯江川流域の防災工事始まる，No.490，pp.3，1995.2
- 98) 島場深江道路の上部工設置へ，No.490，pp.3，1995.2
- 99) 普賢岳は動いている，火山活動は低調，災害への備えは十分に，No.489，pp.4-6，1995.2
- 100) 災害に負けるな！広がる支援の輪，No.490，pp.16，1995.2
- 101) 普賢岳は動いている，地震回数が減少，活動はきわめて低調，No.491，pp.4-5，1995.3
- 102) 平成7年度施政方針，火山とともに生きる湧水と歴史の国民公園都市をめざします，No.492，pp.4-9，1995.4
- 103) 普賢岳は動いている，活動は落ち着いた状態，災害への備えは忘れずに，No.492，

- pp.10-11, 1995.4
- 104) 復興・再生への礎が着々と完成一国道251号水無川橋, 中尾川災害関連緊急砂防事業, 島原市雲仙普賢岳復興祈念公園, No.492, pp.12, 1995.4
 - 105) 平成6年度観光動態調査, 観光客に回復の兆し, No.493, pp.2-4, 1995.5
 - 106) 雨の多いシーズンを迎えます, あなたの備えは万全ですか, No.493, pp.5-7, 1995.5
 - 107) 普賢岳は動いている, 落ち着いた状態が続く普賢岳, 梅雨期の土石流に注意を, No.493, pp.8-10, 1995.5
 - 108) 国道57号山側ルートの通行を再開, 水無川・中尾川流域の緑化対策へリから種子を空中散布, 湯江川流域に治山ダム2基完成, No.493, pp.11, 1995.5
 - 109) 44の御霊やすらかに, 6月3日仁田団地内の追悼碑前において追悼式を挙行, No.493, pp.16, 1995.5
 - 110) 雲仙普賢岳の噴火活動ほぼ停止, No.494, pp.2, 1995.6
 - 111) 安中三角地帯嵩上事業スタート, No.494, pp.4, 1995.6
 - 112) 中木場簡易水道施設が完成, No.494, pp.4, 1995.6
 - 113) 普賢岳は動いている, 噴火活動は停止状態, 土石流に対しては十分注意を, No.494, pp.8-10, 1995.6
 - 114) 進んでいます, 防災・復興・まちづくり, No.495, pp.2-3, 1995.7
 - 115) 島原災害派遣1500日を経過, 市民に信頼される自衛隊, No.495, pp.4, 1995.7
 - 116) 普賢岳は動いている, 火山活動は落ち着いた状態, 災害へ備えは忘れずに, No.495, pp.5-7, 1995.7
 - 117) 防災・復興関連事業進捗レポート, 眉山治山事業2, No.495, pp.14, 1995.7
 - 118) 普賢岳は動いている, 火山活動は落ち着いた状態, 災害へ備えは十分に, No.496, pp.8-10, 1995.8
 - 119) 防災・復興関連事業進捗レポート, 西川・三会川・湯江川流域の治山事業3, No.496, p.16, 1995.8
 - 120) 防災の重要性を再認識 避難訓練に1900人が参加, No.497, p.5, 1995.9
 - 121) 普賢岳は動いている, 火砕流発生ゼロ連続200日を経過, 台風に対する備えも忘れずに, No.497, pp.6-8, 1995.9
 - 122) 防災・復興関連事業進捗レポート, 地域高規格道路, No.497, p.14, 1995.9
 - 123) 天皇・皇后両陛下ご訪問, No.498, pp.2-3, 1995.10
 - 124) 普賢岳は動いている, 進む防災事業, 水無川1号砂防ダム着工決定, No.498, pp.6-7, 1995.10
 - 125) 防災・復興関連事業進捗レポート, 水無川1号砂防ダム着工決定, No.498, p.14, 1995.10
 - 126) 温かいお気持再び, No.499, p.2, 1995.11
 - 127) 地域高規格道路の早期完成に向け, 「島原道路」島原市工区建設促進期成会を設立, No.499, p.3, 1995.11
 - 128) 水無川1号砂防ダムが着工, No.499, p.4, 1995.11

- 129) 観光復興記念館の建設進む, No. 499, p. 4, 1995. 11
- 130) 県道愛野島原線が全面通行を再開, No. 499, p. 4, 1995. 11
- 131) 官民一体で復興を目指し, 島原半島火山観光化推進協議会が発足, No. 499, p. 4, 1995. 11
- 132) 普賢岳は動いている, 噴火からまもなく5年, 復興への動き進む, No. 499, pp. 10-11, 1995. 11
- 133) 防災・復興関連事業進捗レポート, 安中三角地帯嵩上事業, No. 499, p. 18, 1995. 11
- 134) 自衛隊災害派遣隊が撤収, 長期の派遣お疲れさまでした, No. 500, pp. 2-3, 1995. 12
- 135) 復興・活性化に向けて, 市長を囲む懇談会, No. 500, pp. 4-5, 1995. 12
- 136) 目で見ると平成7年, No. 500, pp. 8-9, 1995. 12
- 137) 普賢岳は動いている, 噴火から丸5年を経過, 自衛隊災害派遣隊の撤収が決定, No. 500, pp. 14-15, 1995. 12
- 138) 復興のシンボルに, No. 500, pp. 16, 1995. 12
- 139) 安心と勇気をありがとう, 陸上自衛隊島原災害派遣部隊が撤収, No. 501, pp. 10-11, 1996. 1
- 140) 普賢岳は動いている, 長期の派遣に感謝, 自衛隊島原災害派遣隊が撤収, No. 501, pp. 12-13, 1996. 1
- 141) 国道57号水無川橋本格復旧へ, No. 502, p. 4, 1996. 2
- 142) 災害派遣隊員の所感文が届くー感謝の気持ちを込めてー, No. 502, p. 5, 1996. 2
- 143) 普賢岳は動いている, 1年ぶりに火砕流が発生, 溶岩の局部崩壊に注意, No. 502, pp. 10-11, 1996. 2
- 144) 普賢岳は動いている, 溶岩は数百度の高温, 崩落による火砕流に注意, No. 503, pp. 4-5, 1996. 3
- 145) 防災・復興に向けて, 国・県・市一体となって取り組んでいます, No. 504, pp. 14-15, 1996. 4
- 146) 普賢岳は動いている, 水無川災害復旧事業が完了, 普賢岳の緑化事業も進む, No. 504, pp. 16-17, 1996. 4
- 147) 災害の長期化及び警戒区域等の設定に伴う生活実態調査の結果がまとまる, No. 505, pp. 2-4, 1996. 5
- 148) 普賢岳は動いている, 生活実態調査の結果を発表, 被害総額は約四百億円と推定, No. 505, pp. 6-7, 1996. 5
- 149) あれから5年, 鎮魂と復興の6月3日, No. 506, pp. 2-3, 1996. 6
- 150) 官民一体で島原半島の復興を, がまだす計画の策定始まる, No. 506, pp. 4-5, 1996. 6
- 151) 復興のつち音高らかにー防災・復興工事が着々と進んでいますー, No. 506, pp. 6-7, 1996. 6
- 152) よみがえれ! ふるさと, 噴火活動が終息, 溶岩ドームを平成新山に, No. 506, pp. 8-10, 1996. 6
- 153) 溶岩ドームを「平成新山」と命名, No. 506, p. 22, 1996. 6

- 154) よみがえれ！ふるさと，進む防災工事，土石流被害の拡大防ぐ，No. 507, pp. 6-7, 1996. 7
- 155) 県道千本木島原港線の復旧工事，今年10月着工予定，No. 507, p. 8, 1996. 7
- 156) 導流堤をまたぐ上部工架設始まる，No. 507, p. 8, 1996. 7
- 157) 防災功績で国土庁長官賞 太田一也所長が栄えある受賞，No. 509, p. 3, 1996. 9
- 158) よみがえれ！ふるさと，平成新山の標高は1486mに，No. 509, pp. 6-7, 1996. 9
- 159) よみがえれ！ふるさと，市災害警戒本部が解散，仮設校舎の解体も進む，No. 508, pp. 8-10, 1996. 8
- 160) よみがえれ！ふるさと，噴火から間もなく六年，ふるさと再生の動きが活発に，No. 510, pp. 4-5, 1996. 10
- 161) 島原鉄道自治体連絡協議会が設立，No. 510, p. 11, 1996. 10
- 162) 市長を囲む懇談会，No. 511, pp. 2-4, 1996. 11
- 163) 感謝と勇気を届けてきました，島原・深江被災農家初出荷セレモニー，No. 511, p. 6, 1996. 11
- 164) 災害を検証して未来を創造，復興シンポジウム，No. 511, p. 7, 1996. 11
- 165) 寛政4 島原大変関連古絵図展，No. 511, p. 7, 1996. 11
- 166) よみがえれ！ふるさと，平成新山シンボルマークが決定，がまだす祭り月間がスタート，No. 511, pp. 12-14, 1996. 11
- 167) 杉谷地区住民を対象に眉山崩壊に備えた避難訓練，No. 511, p. 15, 1996. 11
- 168) よみがえれ！ふるさと，噴火から丸六年を経過，皇太子ご夫妻がご訪問，No. 512, pp. 6-7, 1996. 12
- 169) よみがえれ！ふるさと，本格復興にまい進する平成9年がスタート，No. 513, pp. 6-7, 1997. 1
- 170) 今年四月に着工，水無川2号砂防ダム，No. 514, p. 2, 1997. 2
- 171) 島原鉄道4月1日全線開通，導流堤をまたぐ「安新大橋」が完成，No. 514, p. 3, 1997. 2
- 172) よみがえれ！ふるさと，ガマダス計画策定間近，水無川2号砂防ダム着工決定，No. 514, pp. 4-5, 1997. 2
- 173) よみがえれ！ふるさと，溶岩ドームに観測機器を設置，警戒区域は1年間延長，No. 515, pp. 4-5, 1997. 3
- 174) 中尾川六ツ木橋の架け替え工事が始まります，No. 515, p. 14, 1997. 3
- 175) 水清く緑あふれ人つどいにぎわう島原半島，がまだす計画発進，No. 516, p. 6, 1997. 4
- 176) がまだす計画重点27大プロジェクト，No. 516, p. 7, 1997. 4
- 177) 渡る，走る，希望を乗せて復興に向けて出発進行，No. 516, p. 10, 1997. 4
- 178) よみがえれ！ふるさと，No. 516, p. 11, 1997. 4
- 179) 豊かな水資源を後世に，地下水利用実態調査の結果まとまる，No. 517, pp. 4-5, 1997. 5
- 180) 観光客は165万人を突破，平成八年観光客動態調査，No. 517, pp. 6-7, 1997. 5
- 181) がまだす計画重点27大プロジェクト，雲仙平成大噴火復興記念島原火山科学博物館(仮称)建設事業，多目的複合施設島原復興アリーナ(仮称)建設事業，No. 517, p. 10, 1997. 5

- 182) よみがえれ！ふるさと，No.517，p.11，1997.5
- 183) 誓いの火を後世に，平成新山から採火，No.518，pp.2-3，1997.6
- 184) 土石流による被災農地復旧事業がスタート，No.518，p.4，1997.6
- 185) よみがえれ緑，航空緑化工を実施，No.518，p.4，1997.6
- 186) よみがえれ！ふるさと，No.518，p.5，1997.6
- 187) がまだす計画重点27大プロジェクト，砂防指定地利活用推進事業，No.518，p.8，1997.6
- 188) 大火碎流惨事から丸6年，追悼の六月三日，No.518，p.18，1997.6
- 189) よみがえれ！ふるさと，No.519，p.5，1997.7
- 190) がまだす計画重点27大プロジェクト，街なみ環境整備事業，復興記念病院(仮称)建設事業，No.519，p.6，1997.7
- 191) 宇土山団地の造成始まる，11月完成，No.519，p.14，1997.7
- 192) 島原一大牟田定期航路が再開，No.520，p.2，1997.8
- 193) がまだすサンプラザ事業がスタート，No.520，p.3，1997.8
- 194) 溶岩の崩落が続いています，危険ですので警戒区域には入らないで下さい，No.520，p.3，1997.8
- 195) 復興のつち音高らかに，中尾川に治山ダム六基が完成，No.520，p.4，1997.8
- 196) 島鉄中尾川本線が1年8ヵ月ぶりに開通，No.520，p.4，1997.8
- 197) がまだす計画重点27大プロジェクト，島原半島広域観光ルート形式事業，島原半島農林業立国宣言事業，No.520，p.6，1997.8
- 198) よみがえれ！ふるさと，No.520，p.7，1997.8
- 199) 復興への誓いのシンボル「平成新山の火」モニュメントが完成，No.520，p.16，1997.8
- 200) 島原の今後を考える，都市計画マスタープランを策定しています，No.521，p.2，1997.8
- 201) がまだす計画重点27大プロジェクト，高等看護学校の設置事業，地域・情報通信基盤の整備事業，No.521，p.6，1997.9
- 202) よみがえれ！ふるさと，No.521，p.7，1997.9
- 203) 島原半島の魅力をPR，広島で「観光のゆうべ」を開催，No.521，p.8，1997.9
- 204) 森岳地区住民を対象とした眉山崩壊に備えた避難訓練，No.522，p.4，1997.10
- 205) 進む水無川2号砂防ダムの建設，No.522，p.5，1997.10
- 206) がまだす計画重点27大プロジェクト，島原・深江地区農地区画整備事業，あすを築く漁協合併総合対策事業，雲仙岳災害復興種苗放流事業，広域型増殖場造成事業，漁村加工推進圏形成事業，島原半島商工業振興支援事業，No.522，p.6，1997.10
- 207) よみがえれ！ふるさと，No.522，p.7，1997.10
- 208) がまだす計画重点27大プロジェクト，地域高規格道路(島原道路)の整備事業，水無川中尾川・湯江川流域の防災対策事業，担い手育成畑地帯総合整備事業，ボランティア団体のネットワーク化推進事業，雲仙ルネサンス計画(仮称)事業，島原半島市町村合併調査検討事業，土石流災害遺構保存公園(仮称)整備事業，道の駅整備事業，No.523，p.8，1997.11

- 209) よみがえれ！ふるさと，No.523，p.9，1997.11
- 210) 仁田団地バス路線が開通，市内初のフリーバスも運航，No.523，p.10，1997.11
- 211) よみがえれ緑，復興の森実行委員会設立総会を開催，No.523，p.10，1997.11
- 212) 雲仙普賢岳砂防指定地利活用整備計画検討委員会，砂防事業地の有効利用を考える，No.523，p.11，1997.11
- 213) 展示計画二案を提示，火山観光化基本計画検討委員会，No.523，p.12，1997.11
- 214) 千本木1号砂防ダムが着工，No.523，p.22，1997.11
- 215) 火山と共生・災害の教訓を生かそう，土石流対策シンポジウム，No.524，p.7，1997.12
- 216) がまだす計画重点27大プロジェクト，小浜温泉リフレッシュセンター建設事業，がまだす計画推進のための基金設置事業，原城史料館整備事業，観光系学科（高等学校）設置調査事業，No.524，p.10，1997.12
- 217) よみがえれ！ふるさと，No.524，p.11，1997.12
- 218) 導流堤内でスポーツフェスティバルを開催，No.524，p.18，1997.12
- 219) 雲仙復興ウォッチング，No.524，p.18，1997.12
- 220) 間もなく完成，水無川一号砂防ダム，島原深江道路の一部区間，No.525，p.3，1998.1
- 221) よみがえれ！ふるさと，No.525，p.8，1998.1
- 222) 広域農道島原北部地区が全線開通，No.526，p.16，1998.1
- 223) 島原半島農林業立国宣言推進大会ーアグリ王国が誕生，No.526，p.2，1998.2
- 224) 4月1日から島原市地下水保全要項がスタートします，No.526，p.8，1998.2
- 225) よみがえれ！ふるさと，No.526，p.9，1998.2
- 226) 安心して暮せるまちへ，大手川改修工事が完成，No.527，p.18，1998.2
- 227) がまだす芸能唄まつり，島原ガマダス音頭発表会，No.527，p.7，1998.3
- 228) 水無川1号砂防ダム竣工！島原深江道路の一部開通，No.528，p.7，1998.3
- 229) 復興再生へ向けて，市内で3番目の被災者用住宅団地宇土山団地が完成，No.527，p.8，1998.3
- 230) 自衛隊顕彰碑が建立，No.527，p.8，1998.3
- 231) 1本1本に願いを込めて，「復興の森」植樹祭，No.527，p.9，1998.3
- 232) 雲仙百年の森づくりの会が種まき，No.527，p.9，1998.3
- 233) 新しい観光拠点に，島原火山科学博物館の基本計画決まる，No.527，p.10，1998.3
- 234) よみがえれ！ふるさと，No.527，p.11，1998.3
- 235) がまだす計画重点27大プロジェクト，平成13年度完成を目指して，島原温泉病院が建て替えられます，No.527，p.20，1998.3
- 236) 短期・中長期整備計画の方針まとまる，雲仙普賢岳砂防指定地利活用，No.528，p.8，1998.4
- 237) よみがえれ！ふるさと，No.528，p.9，1998.4
- 238) 観光・島原ガマダシてます，平成9年観光動態調査，No.529，pp.2-3，1998.5
- 239) おしが谷の治山ダムが着工，No.529，p.4，1998.5

- 240) よみがえれ！ふるさと，No.529，p.5，1998.5
- 241) あれから7年，鎮魂と祈りの6月3日，No.530，p.2，1998.6
- 242) 防災の認識新たに，県総合防災訓練に千五百人が参加，No.530，p.3，1998.6
- 243) よみがえれ！ふるさと，No.530，p.5，1998.6
- 244) 島原復興アリーナ（仮称）の基本計画決まる，No.530，p.16，1998.6
- 245) よみがえれ！ふるさと，No.531，p.5，1998.7
- 246) 杉谷公民館の移転工事に着手，No.531，p.6，1998.7
- 247) 台風シーズンを迎えます，風災害に対して十分な警戒を！，No.531，p.16，1998.7
- 248) よみがえれ！ふるさと，No.532，p.7，1998.8
- 249) まちづくりとは，No.532，p.9，1998.8
- 250) 募集，仁田団地分譲，No.532，p.14，1998.8
- 251) 「道の駅」来年4月オープン，「島原湧水館」がオープンします，No.533，p.4，1998.9
- 252) よみがえれ！ふるさと，No.533，p.4，1998.9
- 253) 響け！復興の槌音，No.533，p.4，1998.9
- 254) 島原半島ツーデーマーチ，No.533，p.13，1998.9
- 255) 夏の夜空に4千発の大輪の花，島原温泉ガマダス花火大会，No.533，p.14，1998.9
- 256) よみがえれ！ふるさと，No.534，p.5，1998.10
- 257) 11月17日は「防災の日」，No.534，p.6，1998.10
- 258) 壺丘地区を対象に防災訓練を実施，No.534，p.6，1998.10
- 259) 島原防災の日シンポジウムを開催，No.534，p.6，1998.10
- 260) 国際ワークショップ「ハワイにおける火山植物の保全管理と活用」を開催，No.534，p.6，1998.10
- 261) 水無川・中尾川上流部砂防ダムの越流部に着工，No.534，p.7，1998.10
- 262) 島原湧水館がオープン，No.534，p.8，1998.10
- 263) 来年3月完成国道57号水無川橋，No.535，p.6，1998.11
- 264) よみがえれ！ふるさと，No.535，p.7，1998.11
- 265) 自然を満喫，No.535，p.9，1998.11
- 266) 植生と火山観光化を学ぶ，No.535，p.10，1998.11
- 267) 成長を願って，No.535，p.11，1998.11
- 268) フラッシュバック'98，島原の1年を振り返る，No.536，pp.4-5，1998.12
- 269) 島原防災の日，避難訓練，島原防災の日シンポジウム，雲仙普賢岳フェスティバル，No.536，pp.6-7，1998.12
- 270) 市長を囲む懇談会，No.536，pp.8-10，1998.12
- 271) よみがえれ！ふるさと，No.536，p.11，1998.12
- 272) 冬の風物詩を満喫，活性化へ向けて，No.536，p.18，1998.12
- 273) 再生への道を探る，No.536，p.19，1998.12
- 274) 間もなく着手，第四小学校移転造成工事，No.536，p.22，1998.12

- 275) 新年を迎えて, No. 537, p. 2, 1999. 1
- 276) 4月1日から市役所の機構が変わります, No. 537, p. 3, 1999. 1
- 277) 杉谷公民館が完成, No. 537, p. 8, 1999. 1
- 278) よみがえれ! ふるさと, No. 537, p. 9, 1999. 1
- 279) 観客を魅了, No. 537, p. 14, 1999. 1
- 280) 島原道路 秩父が浦町一下折橋町区間が整備区間に指定, No. 537, p. 19, 1999. 1
- 281) 島原深江道路が全線開通します, No. 537, p. 19, 1999. 1
- 282) 復興のシンボル雲仙岳災害記念館(仮称)基本設計の素案が示される, No. 538, pp. 2-3, 1999. 2, 3
- 283) よみがえる農地水無川流域の農地復旧・復興事業が完了, No. 538, p. 4, 1999. 2, 3
- 284) よみがえれ! ふるさと, No. 538, p. 5, 1999. 2, 3
- 285) ひょうたん池公園が四月から一部供用開始, No. 538, p. 18, 1999. 2, 3
- 286) 復興の願いを込めて島原市「再生の森」つくり植樹祭, No. 538, p. 18, 1999. 2, 3
- 287) 新しい時代への飛躍を目指して 平成11年度施政方針(抜粋), No. 539, pp. 2-7, 1999. 4
- 288) よみがえれ! ふるさと, No. 539, p. 13, 1999. 4
- 289) 防災意識を高める, No. 539, p. 16, 1999. 4
- 290) 島原深江道路が全線開通, 水無大橋が供給開始, No. 539, p. 22, 1999. 4
- 291) 湧水を生かした観光スポット中央公園が完成, No. 540, p. 6, 1999. 5
- 292) 道の駅「みずなし本陣ふかえ」がオープン, No. 540, p. 7, 1999. 5
- 293) よみがえれ! ふるさと, No. 540, p. 9, 1999. 5
- 294) 緑あふれるふるさとを, トロッコ列車が走る, No. 540, p. 12, 1999. 5
- 295) 冥福を祈る, 「水無大橋」の名付け親, No. 540, p. 13, 1999. 5
- 296) コンテストの入賞作品決まる, No. 540, p. 18, 1999. 5
- 297) 魅力ある観光地を目指して 平成10年観光客動態調査, No. 541, pp. 2-5, 1999. 6
- 298) よみがえれ! ふるさと, No. 541, p. 11, 1999. 6
- 299) 万全を期して, No. 541, p. 13, 1999. 6
- 300) おしが谷の治山ダム, No. 542, p. 3, 1999. 7
- 301) よみがえれ! ふるさと, No. 542, p. 5, 1999. 7
- 302) 緑いっぱい山へ, No. 542, p. 11, 1999. 7
- 303) あの火砕流から8年6. 3いのりの日, いのりの日バスツアー, 第五小学校に災害資料展示室がオープン, No. 542, p. 18, 1999. 7
- 304) 建設進む島原復興アリーナ, No. 543, p. 3, 1999. 8
- 305) 「水」は限りある貴重な資源です, No. 543, pp. 6-7, 1999. 8
- 306) 湧水を活かした施設「しまばら湧水館」「中央公園」, No. 543, p. 7, 1999. 8
- 307) よみがえれ! ふるさと, No. 543, p. 9, 1999. 8
- 308) 焼山園地がオープン, No. 543, p. 13, 1999. 8
- 309) よみがえれ! ふるさと, No. 544, p. 6, 1999. 9

- 310) 第四小学校の建設に着手, No.544, p.7, 1999.9
- 311) 住みよいまちづくりを, No.544, p.6, 1999.9
- 312) 平成13年度の開院を目指して島原温泉病院の建て替え工事始まる, No.544, p.16, 1999.9
- 313) 平成12年度の開通を目指して 県道千本木島原港線, 平成新山展望園地がオープン, No.545, p.2, 1999.10
- 314) よみがえれ!ふるさと, No.545, p.5, 1999.10
- 315) 夜空に舞う大輪の華, No.545, p.7, 1999.10
- 316) 創造的なまちづくりを目指して 市民大学講座, No.545, p.9, 1999.10
- 317) 熱気あふれるガマダス島原!しまばら温泉不知火まつり, No.546, pp.2-3, 1999.11
- 318) 来年3月完成予定 国道251号の導流堤に架かる橋, No.546, p.6, 1999.11
- 319) よみがえれ!ふるさと, No.546, p.7, 1999.11
- 320) 島原防災の日 眉山崩壊に備えた避難訓練, No.547, p.2, 1999.12
- 321) 雲仙普賢岳フェスティバル'99, 自主防災会役員研修会, No.547, p.3, 1999.12
- 322) 消防殉職者慰霊碑が完成, フィリピンで開催 '99火山砂防フォーラム, No.547, p.4, 1999.12
- 323) よみがえれ!ふるさと, No.547, p.5, 1999.12
- 324) 「観光島原」を年賀絵はがきでPR, No.547, p.8, 1999.12
- 325) 平成13年3月完成予定 広域農道の水無川導流堤に架かる橋, No.548, p.3, 2000.1
- 326) フラッシュバック'99 島原の1年を振り返る, No.548, pp.8-9, 2000.1
- 327) 市長を囲む懇談会, No.548, p.11, 2000.1
- 328) よみがえれ!ふるさと, No.548, p.13, 2000.1
- 329) 「噴火の仕組み」解明へ, 島原港緑地公園が完成, No.548, p.15, 2000.1
- 330) '99島原ファンタジア 光が演出する幻想の世界, No.548, p.21, 2000.1
- 331) よみがえれ!ふるさと, No.549, p.5, 2000.2
- 332) 神戸へエールを, No.549, p.12, 2000.2
- 333) 河原橋・六ツ木橋の親柱のデザインが決まる, 4月から島原深江道路の中安徳ランプを開放, No.550, p.4, 2000.3
- 334) よみがえれ!ふるさと, No.550, p.5, 2000.3
- 335) 絵画を寄贈, No.550, p.12, 2000.3
- 336) 平成12年度施政方針(抜粋), No.551, pp.2-6, 2000.4
- 337) 緑を増やそう, No.551, p.10, 2000.4
- 338) 掘削を一般に公開, No.551, p.11, 2000.4
- 339) 市制六十周年, 噴火十周年復興記念事業, No.551, p.18, 2000.4
- 340) 島原市制施工60周年, No.552, pp.2-3, 2000.5
- 341) シンボルマーク決定 噴火十年復興記念事業実行委員会が初会合, No.552, pp.2-3, 2000.5

- 342) 復興の礎着々と一千本木1号砂防ダムが完成, 中尾川の改修工事が完成, No. 552, p. 8, 2000. 5
- 343) 水無川2号砂防ダムが完成, 新たな観光ルートとして期待 島原眉山ロードが全線開通, No. 552, p. 9, 2000. 5
- 344) 安中三角地帯嵩上事業が完了, 吉岡市長と霜田議長が有珠山噴火災害の見舞・激励に, No. 552, p. 10, 2000. 5
- 345) 市町村合併を考える, No. 552, p. 11, 2000. 5
- 346) 湧水でお茶を堪能, No. 552, p. 12, 2000. 5
- 347) 10年を顧みる, No. 552, p. 13, 2000. 5
- 348) 市制施工60周年「市制の歩み展」, No. 552, p. 20, 2000. 5
- 349) 魅力ある観光地を目指して 平成十一年観光客動態調査, No. 553, pp. 2-3, 2000. 6
- 350) 安徳大橋の親柱のデザインが決まる, No. 553, p. 6, 2000. 6
- 351) 危険箇所を視察, 願いを込めて, No. 553, p. 9, 2000. 6
- 352) 平成十四年度開館予定 雲仙岳災害記念館(仮称), No. 553, p. 16, 2000. 6
- 353) あの火砕流から九年 6月3日「いのりの日」, No. 554, pp. 2-3, 2000. 7
- 354) 自然にふれながら, No. 554, p. 8, 2000. 7
- 355) 過去の災害に学ぶ, No. 554, p. 9, 2000. 7
- 356) 安全・安心なまちづくりを目指して, No. 554, p. 16, 2000. 7
- 357) 災害を未然に, No. 555, p. 8, 2000. 8
- 358) 被災地へエール, No. 555, p. 9, 2000. 8
- 359) 第四小学校が移転 親しんだ学び舎にお別れ..., No. 555, p. 16, 2000. 8
- 360) 21世紀を担う子供たちが交流, No. 556, pp. 2-3, 2000. 9
- 361) スポーツの殿堂島原復興アリーナがオープン, No. 556, pp. 4-5, 2000. 9
- 362) 白亜の学び舎第四小学校の新校舎が完成, No. 556, p. 8, 2000. 9
- 363) 4年ぶりの盆踊り, No. 556, p. 11, 2000. 9
- 364) 豊かな湧水の恵みに感謝 島原水まつり, No. 556, p. 18, 2000. 9
- 365) われん川を再生, No. 557, p. 8, 2000. 10
- 366) 砂防事業を体験, 年賀はがきに「平成新山と島原城」, No. 557, p. 9, 2000. 10
- 367) 島原復興アリーナが完成, No. 557, p. 18, 2000. 10
- 368) 熱気に包まれた三日間 しまばら温泉不知火まつり, No. 558, pp. 4-5, 2000. 11
- 369) 浜の町土地地区画整理事業に着手, No. 558, p. 9, 2000. 11
- 370) 眉山崩壊に備えた避難訓練, No. 559, p. 2, 2000. 12
- 371) 広げようネットワーク! 災害ボランティア全国大会, 雲仙岳災害記念館(仮称)の建設工事に着手, No. 559, p. 3, 2000. 12
- 372) 「緑よ甦れ・十年の軌跡」治山フォーラム, しまばら水と住民のシンポジウム, No. 559, p. 6, 2000. 12
- 373) 「観光島原」を年賀絵はがきでPR, No. 559, p. 7, 2000. 12

- 374) 2000年がまだせ！コンサート, No. 559, p. 17, 2000. 12
- 375) 再生の決意新たに 雲仙・普賢岳噴火十年復興記念式典, 火山地域の世紀にむけて2000火山砂防フォーラム, No. 560, p. 3, 2001. 1
- 376) われん川が復元第一工区「ふるさとの泉」が完成, 二万本の苗木を記念植樹, 水無川導流堤, No. 560, p. 4, 2001. 1
- 377) 雲仙普賢岳フェスティバル2000, 住民主権復興シンポジウム, No. 560, p. 5, 2001. 1
- 378) 1本のタスキが思いをつなぐ 島原・雲仙学生駅伝, No. 560, pp. 6-7, 2001. 1
- 379) フラッシュバック2000 島原の1年を振り返る, No. 560, pp. 8-9, 2001. 1
- 380) 市長を囲む懇談会, No. 560, pp. 10-12, 2001. 1
- 381) 河原橋が開通, No. 561, p. 9, 2001. 2
- 382) 21世紀へのカウントダウン島原ファンタジア, No. 561, p. 16, 2001. 2
- 383) 緑よよみがえれ 千本木1号砂防ダムで卒業記念植樹, No. 562, p. 10, 2001. 3
- 384) 事業着手へ向けて, 「希望の灯り」島原へ, No. 562, p. 12, 2001. 3
- 385) 「安中大橋」が開通, No. 563, p. 9, 2001. 4
- 386) 砂防指定地利活用計画が進む, 水無川導流堤が完成, 安中三角地帯の区画整理事業が完了, No. 564, p. 5, 2001. 5
- 387) 入り込み・宿泊客数ともに増加 平成12年度観光客動態調査, No. 565, pp. 2-3, 2001. 6
- 388) 島原市第三次行政改革大綱を策定－新しい時代に対応した行政運営を推進－, No. 565, pp. 6-8, 2001. 6
- 389) 観光客にも大人気, 笑顔でゴール, No. 565, p. 11, 2001. 6
- 390) 叙勲を受賞, 緑よよみがえれ, No. 565, p. 12, 2001. 6
- 391) あなたの備えは大丈夫?, No. 565, p. 18, 2001. 6
- 392) あの大惨事から10年・・・6月3日いのりの日 雲仙・普賢岳噴火災害10周年犠牲者追悼式, No. 566, p. 2, 2001. 7
- 393) めい福を祈って, 災害を鋼製に, No. 566, p. 3, 2001. 7
- 394) 砂防えん堤工事が進む, 「海底堆積火山灰除去装置」を開発, No. 566, p. 7, 2001. 7
- 395) 自然と歴史を満喫, No. 566, p. 8, 2001. 7
- 396) つなごう島原の今, No. 566, p. 9, 2001. 7
- 397) 災害の教訓を後世へ, 「北上木場農業研修所跡地」の遺構保存方針が決定, 「定点」に標柱を設置, No. 566, p. 18, 2001. 7
- 398) 「雲仙・普賢岳噴火災害記録誌」を作成しています。作品を載せてみませんか, No. 567, p. 3, 2001. 8
- 399) 「いのりの日親子スケッチ大会」の入賞作品が決定, No. 567, p. 5, 2001. 8
- 400) 住民の努力に栄冠, No. 567, p. 9, 2001. 8
- 401) 平成14年7月オープン 雲仙岳災害記念館(仮称), No. 568, p. 6-7, 2001. 9
- 402) 涼しげなひとときを満喫 島原みずまつり, No. 568, p. 18, 2001. 9
- 403) 島原から元気な歌声を 2001年がまだせ！コンサート, No. 569, p. 4, 2001. 10

- 404) 夏の夜空に大輪の花 島原温泉ガマダス花火大会, No. 569, p. 5, 2001.10
- 405) 島原の経験を学ぶ, No. 569, p. 6, 2001.10
- 406) 防災意識を再確認, No. 569, p. 8, 2001.10
- 407) 水産業の振興を目指して島原漁協がアサリを放流, No. 570, p. 6, 2001.11
- 408) 雲仙岳の歴史を学ぶ, No. 571, p. 10, 2001.12
- 409) 復興事業を間近で, No. 571, p. 11, 2001.12
- 410) 「観光島原」を年賀はがきでPR 今年の絵柄は小4年岩永紗依さんの「鯉の泳ぐまち島原」, No. 571, p. 18, 2001.12
- 411) 雲仙普賢岳フェスティバル2001, 雲仙・普賢岳火山砂防シンポジウム, No. 572, p. 3, 2002.1
- 412) 1本のタスキが思いをつなぐ島原・雲仙学生駅伝, No. 572, p. 4-5, 2002.1
- 413) 1月24日診療開始 長崎県立島原病院, No. 572, p. 8-9, 2002.1
- 414) 島原の夜を灯す, No. 572, p. 16, 2002.1
- 415) 災害への備えを再認識, 地元産がずらり, No. 572, p. 17, 2002.1
- 416) 地震に備えた避難訓練, No. 572, p. 24, 2002.1
- 417) 県立島原病院が開院, No. 573, p. 13, 2002.2
- 418) 2001島原ファンタジアCount Down in 島原城, No. 573, p. 20, 2002.2
- 419) 大きく育て, No. 574, p. 8, 2002.3
- 420) 地域高規格道路「島原道路」の早期開通を目指して, No. 574, p. 14, 2002.3
- 421) 宇土山墓地の整備がスタート, No. 575, p. 16, 2002.4
- 422) 不撓不屈の精神は不滅, No. 575, p. 17, 2002.4
- 423) 緑豊かな森林を取り戻そう 雲仙普賢岳の森植林ボランティア, 宇土山トンネル(仮称)が貫通, No. 575, p. 26, 2002.4
- 424) 春のそよ風になびく, No. 576, p. 7, 2002.5
- 425) ふるさとを再生安中三角地帯復興記念式典, No. 576, p. 16, 2002.5
- 426) 宿泊客は2年連続の増加 平成13年観光動態調査, No. 577, pp. 2-3, 2002.6
- 427) 降雨時の通行に期待, No. 577, p. 7, 2002.6
- 428) まもなくオープン! 雲仙岳災害記念館, No. 577, p. 16, 2002.6
- 429) 6月3日いのりの日, No. 578, p. 2-3, 2002.7
- 430) 雲仙・普賢岳噴火災害写真公募展, No. 578, p. 6, 2002.7
- 431) ふるさと再発見千本木湧水, No. 578, p. 9, 2002.7
- 432) 初夏の陽気に誘われて島原半島ソーデーマーチ, No. 578, p. 11, 2002.7
- 433) 梅雨期に備える防災対策現地視察, No. 578, p. 12, 2002.7
- 434) 豊かなまちづくりを目指して 全国城下町シンポジウム島原大会, No. 578, p. 12, 2002.7
- 435) 雲仙岳災害記念館がオープン, No. 579, p. 6, 2002.8
- 436) 協同部門で全建賞を受賞, No. 579, p. 11, 2002.8

- 437) 豊かな漁場回復を目指し, No. 579, p. 12, 2002. 8
- 438) 平成14年12月完成予定 平成新山自然観察センター(仮称), No. 579, p. 18, 2002. 8
- 439) ようこそ島原へ 豊後高田市の児童会が来島, No. 580, p. 4, 2002. 9
- 440) 高潮に備えた防災避難訓練, No. 580, p. 7, 2002. 9
- 441) 中尾川流域の砂防指定地利活用整備計画が決定, No. 580, p. 8, 2002. 9
- 442) 道路ふれあい月間「道の日イベント」, No. 580, p. 9, 2002. 9
- 443) 水の恵みに感謝 島原水まつり, No. 580, p. 18, 2002. 9
- 444) 夜空に浮かぶ大輪の花, No. 581, p. 9, 2002. 10
- 445) 入場者10万人を達成, No. 581, p. 10, 2002. 10
- 446) 海底を耕す アサリ放流前耕運作業, No. 582, p. 8, 2002. 11
- 447) 島原の元気を全国へ がまだせ!コンサート2002, No. 582, p. 9, 2002. 11
- 448) 豊かな山と海の再生を願って, No. 583, p. 12, 2002. 12
- 449) 雲仙普賢岳フェスティバル2002, No. 584, p. 3, 2003. 1
- 450) 初冬の島原路を駆け抜ける 島原・雲仙学生駅伝, No. 584, pp. 4-5, 2003. 1
- 451) フレッシュバック2002, No. 584, pp. 6-7, 2003. 1
- 452) 開所10周年を祝う, No. 584, p. 14, 2003. 1
- 453) 災害遺構を後世に, 地元産に舌鼓, 幻想の世界島原ファンタジア, No. 584, p. 15, 2003. 1
- 454) 2002島原ファンタジア Count Down in島原城, No. 585, p. 18, 2003. 2
- 455) 噴火のメカニズムを解明 平成新山の火道を掘削, 山の資源で海を生かす 間伐材を利用した漁礁を設置, No. 586, p. 4, 2003. 3
- 456) 旅立ちを前に 島原半島の高校生植樹n, No. 586, p. 5, 2003. 3
- 457) 有事に備える 三県合同災害訓練, 豊作を願って 葉たばこの種まき, No. 586, p. 7, 2003. 3
- 458) 平成新山ネイチャーセンターがオープン, No. 586, p. 14, 2003. 3
- 459) 梅林を復元させよう 第五小学校6年生と在京しまばら会が植樹, No. 587, p. 8, 2003. 4
- 460) 北上木場農業研修所跡地 被災した消防車を保存, No. 587, p. 18, 2003. 4
- 461) ハッピートレイン出発進行, No. 588, p. 9, 2003. 5
- 462) まゆやまロードを結ぶ「さくら街道(仮称)」事業スタート, No. 589, p. 18, 2003. 6
- 463) 被災したパトカーを搬入 北上木場農業研修所跡地, No. 590, p. 10, 2003. 7
- 464) 備えあれば憂いなし 土砂災害街頭キャンペーン, No. 590, p. 11, 2003. 7
- 465) 6月3日いのりの日, No. 590, p. 18, 2003. 7
- 466) 高度情報化を目指して 防災・行政同報告知システム試験運用開始, さらなる飛躍を目指して 雲仙岳災害記念館1周年, No. 591, p. 11, 2003. 8
- 467) 水の恵みに感謝を込めて 島原水まつり, No. 592, p. 20, 2003. 9
- 468) 夜空に輝く大輪の花に歓声 島原温泉ガマダス花火大会, DA PANP(ダ パンプ)が熱唱 普賢岳復興コンサート, No. 593, p. 9, 2003. 10
- 469) 11月17日は「島原防災の日」, No. 594, p. 11, 2003. 11

- 470) 土石流に備えた避難訓練, No.595, p.2, 2003.12
- 471) 秋の島原路を満喫 島原半島ツアーマーチ, No.595, p.9, 2003.12
- 472) 母校の名誉とランナーの誇りをかけた島原・雲仙駅伝, No.596, p.4-5, 2004.1
- 473) 島原の1年を振り返るフラッシュバック2003, No.596, p.6-7, 2004.1
- 474) 貴重な島原大変絵図など展示, No.596, p.11, 2004.1
- 475) 「観光島原」を光のファンタジーでPR, 「平成新山」を国天然記念物へ答申, No.596, p.18, 2004.1
- 476) 2003島原ファンタジアCount Down in 島原城, No.597, p.20, 2004.2
- 477) おめでとう最優秀賞 平成15年度全国消防団員意見発表会, No.598, p.5, 2004.3
- 478) 豊かな海は森づくりから 漁民の森づくり記念植樹, No.599, p.15, 2004.4
- 479) 桜並木でまちづくり 第四小学校6年生と在京しまばら会が記念植樹, No.599, p.17, 2004.4
- 480) 災害に強いまちづくり「がまだすロード」開通, No.599, p.24, 2004.4
- 481) ハッピートレイン出発 観光トロッコ列車, No.600, p.6, 2004.5
- 482) 宿泊客が2年ぶりに増加 平成1年観光動態調査, No.601, p.2, 2004.6
- 483) 散策コースに最適 垂木台地森林公園が完成, No.601, p.7, 2004.6
- 484) 6月3日いのりの日, No.602, p.2-3, 2004.7
- 485) 火山と人とのかわりあい 平成新山フィールドミュージアム公開セミナー, 万一に備えて市防災会議, No.602, p.8, 2004.7
- 486) 緑豊かな台地へ 垂木台地森林公園, No.602, p.18, 2004.7
- 487) 平成噴火のマグマ採取 雲仙科学掘削プロジェクト, No.603, p.6, 2004.8
- 488) 水の恵みに感謝 島原水まつり, No.604, p.16, 2004.9
- 489) 立派な橋が完成 われん川大橋, 華やかに夜空に輝く大輪の花 島原温泉ガマダス花火大会, No.605, p.6, 2004.10
- 490) 大雨と土砂災害に備えた避難訓練, No.607, p.3, 2004.12
- 491) 新たな泉源を求めて, 秋の島原路を満喫 島原半島ツアーマーチ, No.607, p.9, 2004.12
- 492) 「観光都市・島原」を年賀はがきでPRー絵柄は一小4年・渡邊 子さんの「島原城と平成新山」, No.607, p.17, 2004.12
- 493) 幻想の世界 島原ファンタジア, 災害復興の記念碑が完成 島原生き残り復興対策協議会, No.608, p.11, 2005.1
- 494) 2004島原ファンタジア Count Down in 島原城, No.609, p.22, 2005.2
- 495) 緑の再生に願い込め 第7回高校生卒業記念植樹, No.611, p.12, 2005.4
- 496) 豊かな海づくりは森づくりから 漁民の森づくり記念植樹, No.612, p.6, 2005.5
- 497) さあ!みんなで出発進行 観光トロッコ列車, No.612, p.7, 2005.5
- 498) 平成16年観光動態調査, No.613, p.2-3, 2005.6
- 499) 梅雨期に備えて 防災対策現地視察, No.613, p.6, 2005.6

- 500) 森林浴が楽しめる眉山の森遊歩道が完成, No. 613, p. 14, 2005. 6
- 501) 6月3日「いのりの日」あの日を忘れない, No. 614, p. 2-3, 2005. 7
- 502) 防災意識の高揚を目指し 県総合防災訓練に1, 200人が参加, No. 614, p. 4-5, 2005. 7
- 503) いざというときに備えて 市防災会議, No. 614, p. 9, 2005. 7
- 504) 早期完成を目指し 地域高規格道路「島原道路」島原市工区建設推進大会, No. 614, p. 18, 2005. 7
- 505) 大雨と土砂災害と地震災害に備え島原市防災避難訓練, No. 619, p. 5, 2005. 12
- 506) 雲仙・普賢岳噴火災害の教訓を世界へ発信—火山災害都市国際会議誘致に向け実行委員会が発足—, No. 620, p. 3, 2006. 1
- 507) 噴火災害の教訓を構成に伝えるために 地震・火山セミナーわれん川再生工事, No. 620, p. 18, 2006. 1
- 508) 2005 島原ウィンターナイトファンタジアカウントダウン in 島原城, No. 621, p. 3, 2006. 2
- 509) 卒業の思い出に 第8回高校生卒業記念植樹, No. 622, p. 6, 2006. 3
- 510) 島原から世界へ発信 火山都市国際会議開催決定, No. 622, p. 6, 2006. 3
- 511) 島原半島の発展と活性化を目指し 地域企画道路「島原道路」, No. 623, p. 8, 2006. 4
- 512) 島原中央道路と地下水, No. 623, pp. 9-13, 2006. 4
- 513) めい福を祈る 島原大変遭難者慰霊祭, No. 624, p. 8, 2006. 5
- 514) 火山都市国際会議島原大会開催に向け本格始動, No. 624, p. 18, 2006. 5
- 515) 地域防災の拠点として 島原地域広域市町村圏組合消防本部・島原消防署庁舎が新築移し業務開始, No. 625, pp. 2-3, 2006. 6
- 516) いざという時に備えて 防災対策現地視察, No. 625, p. 4, 2006. 6
- 517) 大惨事から15年6月3日いのりの日, 後世に語り継ぐ, No. 626, pp. 2-3, 2006. 7
- 518) 平成17年観光動態調査, No. 626, pp. 6-7, 2006. 7
- 519) 水の恵みに感謝 島原水まつり, No. 628, p. 16, 2006. 9
- 520) 夜空を覆う大輪の花に大歓声 第14回島原温泉ガマダス花火大会, No. 629, p. 6, 2006. 10
- 521) 火山都市国際会議島原大会を成功させよう, No. 629, p. 7, 2006. 10
- 522) 熱気に包まれた3日間 しまばら温泉不知火まつり, No. 630, p. 4, 2006. 11
- 523) 火山都市国際会議の豆知識その壱, 松島健博士と行く世界の火山めぐり 西日本の活火山, No. 630, p. 6, 2006. 11
- 524) 島原・雲仙学生駅伝 12月2日(土)号砲, No. 630, p. 4, 2006. 11
- 525) 島原市防災避難訓練, No. 631, p. 6, 2006. 12
- 526) 火山都市国際会議の豆知識 その弐, 松島健博士と行く世界の火山めぐり 東日本の活火山, No. 631, p. 6, 2006. 12
- 527) 平成新山南東側斜面の山火事, No. 631, p. 6, 2006. 12
- 528) 美しい森を再生しよう, 秋の島原路を満喫 島原半島ツーデーマーチ, No. 631, p. 8, 2006. 12
- 529) 「観光都市・島原」を年賀絵はがきでPR 絵柄は一小4年・渡邊里佳さんの「ゆかいな島原市」, No. 631, p. 8, 2006. 12
- 530) 母校の名誉をたすきに込めて 島原・雲仙学生駅伝, No. 632, pp. 8-10, 2007. 1

- 531) 火山都市国際会議の豆知識 その参, 松島健博士と行く世界の火山めぐり (3) イタリアの活火山, No. 632, p. 14, 2007. 1
- 532) 火山都市国際会議島原大会に向けたワンポイント英会話「ようこそ島原へ」第1回 Greeting (あいさつ), No. 632, p. 15, 2007. 1
- 533) 地場産品が大盛況 がまだす島原の産業まつり農林水産祭, No. 632, p. 16, 2007. 1
- 534) 彩り豊かに飾りつけ 2006島原ウィンターナイト・ファンタジア, No. 632, p. 17, 2007. 1
- 535) 大会の成功に向け火山都市国際会議プレイベント開催, No. 632, p. 24, 2007. 1
- 536) 当時の思いと災害の継承を タイムカプセル開封・われん川清掃活動, No. 632, p. 24, 2007. 1
- 537) 2006島原ウィンターナイトファンタジア カウントダウンin島原城, No. 633, p. 11, 2007. 2
- 538) 火山都市国際会議の豆知識 その四, 松島健博士と行く世界の火山めぐり (4) ニュージージーランドの活火山, No. 633, p. 12, 2007. 2
- 539) 火山都市国際会議島原大会に向けたワンポイント英会話「ようこそ島原へ」第2回 Direction(道案内), No. 633, p. 13, 2007. 2
- 540) 高校生活思い出の1 ページに, No. 634, p. 4, 2007. 3
- 541) 火山都市国際会議の豆知識 その五, 松島健博士と行く世界の火山めぐり (5) ハワイの活火山, No. 634, p. 8, 2007. 3
- 542) 火山都市国際会議島原大会に向けたワンポイント英会話「ようこそ島原へ」第3回 Hotel(ホテル), No. 633, p. 9, 2007. 3
- 543) 火山都市国際会議の豆知識 その六, 松島健博士と行く世界の火山めぐり (6) エクアドルの活火山, No. 635, p. 14, 2007. 4
- 544) 火山都市国際会議島原大会に向けたワンポイント英会話「ようこそ島原へ」第4回 Restaurant(レストラン), No. 635, p. 15, 2007. 4
- 545) 火山都市国際会議の豆知識 その七, 松島健博士と行く世界の火山めぐり (7) インドネシアの活火山, No. 636, p. 6, 2007. 5
- 546) 火山都市国際会議島原大会に向けたワンポイント英会話「ようこそ島原へ」第5回 Taxi(タクシー), No. 636, p. 7, 2007. 5
- 547) 平成新山や被災地を一望 観光トロッコ列車が運行, No. 636, p. 8, 2007. 5
- 548) 豊かな自然に恵まれた「島原」 仁田住宅団地・安中土地区画整理事業区域内宅地の一般分譲, No. 636, p. 18, 2007. 5
- 549) 本番に向けて 火山都市国際会議実行委員会, No. 637, p. 7, 2007. 6
- 550) 火山都市国際会議の豆知識 その八, 松島健博士と行く世界の火山めぐり (8) ロシアの活火山, No. 637, p. 8, 2007. 6
- 551) 火山都市国際会議島原大会に向けたワンポイント英会話「ようこそ島原へ」第6回 Photo(写真), No. 637, p. 9, 2007. 6
- 552) 平成18年度観光動態調査, No. 638, p. 2-3, 2007. 7

- 553) 自衛隊の活躍を末永く後世に, No. 638, p. 10, 2007. 7
- 554) 江川詔子さん講演会, No. 638, p. 11, 2007. 7
- 555) 普賢岳は今 溶岩ドームを観測する登山, 災害対策業務を再確認 市防災会議, No. 638, p. 12, 2007. 7
- 556) 火山都市国際会議の豆知識 その九, 松島健博士と行く世界の火山めぐり (9) フィリピンの活火山, No. 638, p. 8, 2007. 7
- 557) 火山都市国際会議島原大会に向けたワンポイント英会話「ようこそ島原へ」第7回 Shopping(買い物), No. 638, p. 9, 2007. 7
- 558) 6月3日「いのりの日」, No. 638, p. 22, 2007. 7
- 559) 火山都市国際会議の豆知識 その10, 松島健博士と行く世界の火山めぐり (10) カメルーンの活火山, No. 639, p. 6, 2007. 8
- 560) 火山都市国際会議島原大会に向けたワンポイント英会話「ようこそ島原へ」第8回 Home Visit(家を訪ねる), No. 639, p. 7, 2007. 8
- 561) 平成20年春のオープンを目指して 島原市温泉施設を建設中, No. 639, p. 6, 2007. 8
- 562) 火山都市国際会議の豆知識 その11, 松島健博士と行く世界の火山めぐり (11) アイスランドの活火山, No. 640, p. 8, 2007. 9
- 563) 火山都市国際会議島原大会に向けたワンポイント英会話「ようこそ島原へ」第9回 Illness (病気), No. 640, p. 9, 2007. 9
- 564) 水の恵みに感謝 島原水まつり, No. 640, p. 22, 2007. 9
- 565) 火山都市国際会議の豆知識 その12, 松島健博士と行く世界の火山めぐり (12) パプアニューギニアの活火山, No. 641, p. 12, 2007. 10
- 566) 火山都市国際会議島原大会に向けたワンポイント英会話「ようこそ島原へ」第10回 Trouble(トラブル), No. 641, p. 13, 2007. 10
- 567) 夏の夜空に大輪の花開く 島原温泉ガマダス花火大会, No. 641, p. 14, 2007. 10
- 568) 開催まであと50日 第5回火山都市国際会議島原大会, No. 641, p. 24, 2007. 10
- 569) 火山都市国際会議の事前情報, No. 642, p. 2, 2007. 11
- 570) Welcome to Shimabara ようこそ島原へ 「もてなし協力店」で市内のお店の協力も, No. 642, p. 3, 2007. 11
- 571) 熱気に包まれた3日間 しまばら温泉不知火まつり, No. 642, p. 4-5, 2007. 11
- 572) 第5回火山都市国際会議島原大会, No. 642, p. 18, 2007. 11
- 573) 「観光都市・島原」を年賀絵はがきでPR 絵柄は三小5年田中彰馬君の「私たちの島原市」, No. 643, p. 5, 2007. 12
- 574) 平成新山を望みつつ 雲仙岳災害記念碑除幕式, いざという時に備えて 島原市防災避難訓練, No. 643, p. 6, 2007. 12
- 575) 島原の新たな情報発信の拠点「FMしまばら」が開局, No. 643, p. 16, 2007. 12
- 576) 第5回火山都市国際会議島原大会 フィナーレを飾る研究者の登頂, No. 644, pp. 6-9, 2008. 1
- 577) 母校の名誉をたすきに込めて 島原・雲仙学生駅伝, No. 644, pp. 10-12, 2008. 1

- 578) 早期完成を目指して, No. 644, p. 16, 2008. 1
- 579) 買い物客で大賑わい, さようならハッピートレイン 観光トロッコ列車, No. 644, p. 17, 2008. 1
- 580) 大きな反響「市民によるおもてなしの心」 第5回火山都市国際会議島原大会参加者大感激, No. 644, p. 24, 2008. 1
- 581) いよいよ4月1日オープン 島原温泉ゆとろぎの湯, No. 646, p. 16, 2008. 3
- 582) 4月1日から島原鉄道南線廃止に伴う代替バスの運行が開始されます, No. 647, p. 10, 2008. 4
- 583) 国内初認定を目指して 島原半島ジオパーク推進連絡協議会設立総会, 島原の風景を銀幕で映画「まぼろしの邪馬台国」島原ロケ, No. 647, p. 13, 2008. 4
- 584) 島原半島をジオパークに! その老, No. 648, p. 5, 2008. 5
- 585) がまだすドームボランティア語り部ボランティア, No. 648, p. 7, 2008. 5
- 586) 冥福を祈る 島原大変遭難者慰霊祭, 日ごろの疲れを癒しましょう ゆとろぎの湯オープン, No. 648, p. 9, 2008. 5
- 587) ジオパーク認定日本第1号を目指して本格始動 過去から未来へ島原で自然と人間の営みを考えよう, No. 648, p. 16, 2008. 5
- 588) 島原半島をジオパークに! その式, No. 649, p. 7, 2008. 6
- 589) 島原を全国へアピール 島原ロケの映画上映決定「同窓会」, 「まぼろしの邪馬台国」, No. 650, pp. 2-3, 2008. 7
- 590) 平成19年観光客動態調査 外国人宿泊客、修学旅行客が増加, No. 650, pp. 8-9, 2008. 7
- 591) 島原半島をジオパークに! その参, No. 650, p. 13, 2008. 7
- 592) 6月3日「いのりの日」, No. 650, p. 24, 2008. 7
- 593) 8月1日は「水の日」, No. 651, p. 2, 2008. 8
- 594) 島原半島をジオパークに! その四, No. 651, p. 7, 2008. 8
- 595) 島原の夏を彩るイベント, No. 651, p. 16, 2008. 8
- 596) 島原半島をジオパークに! その五, 島原半島ジオパークのロゴマークを募集します, No. 652, p. 7, 2008. 9
- 597) 水の恵みに感謝 島原水まつり, No. 652, p. 17, 2008. 9
- 598) 地域住民の念願かなう 吉祥白天橋通り初め式, 夜空に咲く大輪の花 島原温泉ガマダス花火大会, No. 653, p. 7, 2008. 10
- 599) 島原半島の地形、地質を学ぶ ジオパークガイド養成講座, No. 653, p. 8, 2008. 10
- 600) 島原半島をジオパークに! その六, 締め切り迫る島原半島ジオパークのロゴマークを募集, No. 653, p. 9, 2008. 10
- 601) 島原の秋を彩るイベント, No. 653, p. 18, 2008. 10
- 602) ユネスコ支援世界ジオパークへの申請決定, No. 654, p. 2, 2008. 11
- 603) 島原半島をジオパークに! その七, No. 654, p. 3, 2008. 11
- 604) 第11回島原学生駅伝 12月6日号砲 女子駅伝同時開催, No. 654, pp. 4-5, 2008. 11

- 605) しまばらの秋！熱気に包まれた3日間 しまばら温泉不知火まつり, No. 654, pp. 6-7, 2008. 11
- 606) 地元商品をピーアール ワカメ・コンブ料理コンクール, 有明海の幸を楽しむ 有明がねまつり, No. 654, p. 9, 2008. 11
- 607) 姉妹都市提携25周年記念 福知山市から友好親善訪問団が来島, No. 655, pp. 2-3, 2008. 12
- 608) 島原市防災避難訓練, 「観光都市・島原」を年賀絵はがきでPR 絵柄は三会中3年・寺中香奈子さんの「鯉の泳ぐまち」, No. 655, p. 8, 2008. 12
- 609) 島原半島をジオパークに！その八, No. 655, p. 9, 2008. 12
- 610) ウォーキングで島原を満喫 島原半島ツーデーマーチ, No. 655, p. 11, 2008. 12
- 611) 雲仙・普賢岳噴火災害犠牲者を追悼 麻生太郎首相が来島, No. 656, p. 3, 2009. 1
- 612) 学生アスリートたちが島原路を駆け抜ける 島原学生駅伝, No. 656, pp. 4-6, 2009. 1
- 613) 島原半島をジオパークに！その九, 島原半島の温泉の秘密—多様な泉質の温泉—No. 656, p. 7, 2009. 1
- 614) フラッシュバック2008—島原の1年を振り返る—, No. 656, pp. 8-9, 2009. 1
- 615) 市長退任のごあいさつ 前島原市長吉岡庭二郎, No. 656, p. 17, 2009. 1
- 616) 島原半島をジオパークに！その十, 島原半島各地で見られる地質遺産, No. 657, p. 5, 2009. 2
- 617) 島原半島をジオパークに！その11, 地球や地質に関連した歴史や文化, No. 658, p. 10, 2009. 3
- 618) 地域スポーツの活性化に向けて 中尾川河川敷多目的広場整備落成式, No. 659, p. 14, 2009. 4
- 619) まちづくりを提案しました まちづくり協働プランの報告, No. 659, p. 15, 2009. 4
- 620) 島原半島をジオパークに！その12, 日本ジオパークの認定証が授与されました 島原半島ジオパークのガイド養成講座, No. 659, p. 16, 2009. 4
- 621) しまばら再発見シリーズ1 鯉の泳ぐまち, No. 660, p. 1, 2009. 5
- 622) まちかどウォッチング 周遊型観光の拠点施設「観光ガイド大手門番」を開所, No. 660, p. 6, 2009. 5
- 623) 島原半島をジオパークに！その13, 島原半島ジオパークのテーマ, No. 660, pp. 8-9, 2009. 5
- 624) しまばら再発見シリーズ2 平成新山ネイチャーセンターから望む平成新山, No. 661, p. 1, 2009. 6
- 625) 島原半島をジオパークに！その14, 火砕流と土石流。そして人と火山との共生, No. 661, p. 8-9, 2009. 6
- 626) 小崎侃島島原半島を描く 世界ジオパーク認定をめざす島原半島の光を描く美術展, No. 661, p. 9, 2009. 6
- 627) 観光客も楽しませてね 鯉の供養と放流, No. 661, p. 11, 2009. 6
- 628) しまばら再発見シリーズ3 「ひまわり」で人も土も元気に！, No. 662, p. 1, 2009. 7
- 629) 平成20年観光客の動態を説明します—島原城への観光客が増加—, No. 662, pp. 6-7, 2009. 7
- 630) 島原半島をジオパークに！その15, 今年も開催します！「島原半島ジオパークガイド初級講座」No. 662, p. 9, 2009. 7
- 631) 6月3日「いのりの日」, No. 662, p. 20, 2009. 7
- 632) しまばら再発見シリーズ4 浜の川湧水, No. 663, p. 1, 2009. 8

- 633) 島原水まつり, No. 663, p. 3, 2009. 8
- 634) 島原半島の魅力を再発見 小崎侃美術展を開催, No. 663, p. 6, 2009. 8
- 635) 商店街の活性化に一役 一番街ビジーホールが開館, 地元産品を売り込むために 農産物流通に関する意見交換会, No. 663, p. 7, 2009. 8
- 636) 島原半島をジオパークに! 島原半島ジオパーク活動推進に約259万円を寄付, 世界ジオパークネットワーク現地調査, その16, No. 663, pp. 8-9, 2009. 8
- 637) 豊かな水に感謝 島原水まつり, No. 664, pp. 8-9, 2009. 8
- 638) しまばら再発見シリーズ5 有明の森フラワー公園, No. 664, p. 1, 2009. 9
- 639) 島原観光の活性化を目指して 熊本港に観光案内所を設置, No. 664, p. 6, 2009. 9
- 640) 島原半島をジオパークに! その17, 雲仙岳が「平成百景」の認定地へ 島原半島ジオパーク展開催 世界ジオパーク加盟審査が終了, No. 664, p. 10, 2009. 9
- 641) しまばら再発見シリーズ6 島原城新能 10月16日開催, No. 665, p. 1, 2009. 10
- 642) 島原半島ジオパーク 世界ジオパークネットワーク日本第1号加盟決定!, No. 665, pp. 2-3, 2009. 10
- 643) 夜空の祭典賑わう 島原温泉ガマダス花火大会, No. 665, p. 9, 2009. 10
- 644) 第30回しまばら温泉不知火まつり 島原城秋祭り, No. 665, p. 9, 2009. 10
- 645) しまばら再発見シリーズ7 雲仙岳災害記念館, No. 666, p. 1, 2009. 11
- 646) 13年ぶりのご来島 皇太子さま災害記念館をご訪問, No. 666, p. 8, 2009. 11
- 647) 熱気に包まれた30回記念しまばら温泉不知火まつり, 観光年賀はがきの絵が決まりました, No. 666, p. 9, 2009. 11
- 648) ふるさと再発見第103回普賢岳広葉樹林, No. 666, p. 13, 2009. 11
- 649) 世界ジオパークネットワーク加盟記念イベント「島原半島ジオさらく」バスツアー, 記念講演会テーマ「ジオパークを語る」, No. 666, p. 20, 2009. 11
- 650) しまばら再発見シリーズ8 島原ウィンターナイト・ファンタジア, No. 666, p. 1, 2009. 12
- 651) 世界に羽ばたく島原半島ジオパーク① テーマ: 島原半島ジオパークを楽しむために ジオさらく一島原半島ジオパークを楽しもう一, No. 667, p. 9, 2009. 12
- 652) 豊後高田市への友好親善訪問の旅, No. 667, p. 22, 2009. 12
- 653) 世界に羽ばたく島原半島ジオパーク② テーマ: 島原半島の成り立ち一島原半島は、地学的な歴史の中でどのように形成されたのか一, No. 668, p. 5, 2010. 1
- 654) 平成新山島原学生駅伝 市民の声援を背に島原路を走破, No. 668, p. 9, 2010. 1
- 655) 島原市の2009年を振り返る, No. 668, pp. 10-11, 2010. 1
- 656) 第6次島原市市勢振興計画の「基本構想」が決定 市勢振興計画は今後10年間のまちづくり計画です, No. 669, pp. 2-4, 2010. 2
- 657) 世界に羽ばたく島原半島ジオパーク③ テーマ: 人々と火山の噴火一人々は繰り返し起こる噴火とどう向き合ってきたのか一, No. 669, p. 5, 2010. 2
- 658) 島原観光のシンボル増す 島原城城壁清掃, No. 669, p. 13, 2010. 2
- 659) 第6回島原城下ひなめぐり開催中! 3月7日(日)まで, No. 669, p. 22, 2010. 2

- 660) 島原半島の発展と活性化を目指して—地域高規格道路「島原道路」—, No. 670, pp. 2-4, 2010. 3
- 661) 世界に羽ばたく島原半島ジオパーク④ テーマ: 災害の予防—火山災害を減らすためにはどんな取り組みがなされているのか—, No. 669, p. 5, 2010. 3
- 662) 有明海でつながる島原と熊本の将来を語る—1月21日両市長の船中対談, No. 670, pp. 6-7, 2010. 3
- 663) ふるさと島原へ多額の浄財を寄付, No. 670, p. 8, 2010. 3
- 664) 島原の「春」のイベント, No. 670, p. 18, 2010. 3
- 665) しまばら再発見シリーズ12 商店街に賑わいを, No. 671, p. 1, 2010. 4
- 666) 平成22年施政方針(要旨) 将来像「有明海にひらく湧水あふれる火山と歴史の田園都市 島原」の実現に向けて, No. 671, pp. 2-6, 2010. 4
- 667) 世界に羽ばたく島原半島ジオパーク⑤ テーマ: 自然の恵み—火山や自然からの恵みと人々の暮らし—, No. 671, p. 7, 2010. 4
- 668) 「ジオパーク国際ユネスコ会議」の島原半島開催が決定!, No. 672, p. 1, 2010. 5
- 669) 世界に羽ばたく島原半島ジオパーク⑥ テーマ: 歴史・民話—昔話が伝える台地の恵み—, 島原半島ジオパークキャラクター決定, No. 672, p. 5, 2010. 5
- 670) 世界に羽ばたく島原半島ジオパーク⑦ ジオパーク国際ユネスコ会議の模様, 島原半島ジオパークの新しいキャラクターに愛称をつけてください!, No. 673, p. 8, 2010. 6
- 671) 梅林の復活を目指して安中梅林1,000本記念植樹, No. 673, p. 10, 2010. 6
- 672) 世界に羽ばたく島原半島ジオパーク⑧ 市民誰もがジオガイド「雲仙岳災害記念館」 島原半島ジオパークキャラクター使用について, No. 674, p. 10, 2010. 7
- 673) 6月3日「いのりの日」, No. 674, p. 22, 2010. 7
- 674) 世界に羽ばたく島原半島ジオパーク⑨ 世界ジオパーク認定1周年記念事業, No. 675, p. 6, 2010. 8
- 675) 世界に羽ばたく島原半島ジオパーク⑩ 島原半島ジオパークキャラクターの愛称決定 ジオパークキャラクターの愛称は「ジーオくん」 第5回ジオパーク国際ユネスコ会議の事前調査を実施 「ジーオくん」の着ぐるみができました, No. 676, p. 5, 2010. 9
- 676) 水と灯りの共演 島原水まつり, No. 676, p. 6, 2010. 9

広報ふかえ

- 1) 普賢岳噴火による災害対策について, No.139, pp. 6-8, 1991. 5
- 2) 強力な支援約束 海部首相が被災地視察, No.140, pp. 2-4, 1991. 6
- 3) 天皇・皇后両陛下が深江訪問, No.141, pp. 2-4, 1991. 8
- 4) 雲仙・普賢岳は動いている, 溶岩ドームは最大に成長, No.141, pp. 5-35, 1991. 8
- 5) 仮設住宅304戸が完成 1, 331人が入居, No.142, pp. 2-3, 1991. 9
- 6) 雲仙・普賢岳は動いている, 終息はいつ! 住民の疲れはピーク, No.142, pp. 4-19, 1991. 9

- 7) 町内一時間の中 大野木場地区一夜で灰 「まさかが、現実に」, No.143, pp. 2-3, 1991.10
- 8) 雲仙・普賢岳は動いている, 溶岩ドーム不安定 崩落続く, No.143, pp. 4-17, 1991.10
- 9) 仮設住宅163戸が完成 627人が入居, No.144, pp. 2-3, 1991.11
- 10) 雲仙・普賢岳は動いている, 火口直下地震が増加 溶岩ドーム不安定, No.144, pp. 4-11, 1991.11
- 11) 雲仙・普賢岳は動いている, 赤松谷川方向へ火砕流頻発 嚴重な警戒が必要, No.145, pp. 4-12, 1991.12
- 12) 雲仙・普賢岳は動いている, 火山活動依然活発 火砕流が赤松谷川流域へ頻発 民家まで300メートルに迫る, No.146, pp. 5-14, 1992.1
- 13) 雲仙・普賢岳は動いている, マグマの供給が依然続く 火砕流赤松谷川を下る, No.147, pp. 4-12, 1992.2
- 14) 砂防・治山施設計画の基本構想(概要図), No.148, pp. 2-3, 1992.3
- 15) 雲仙・普賢岳は動いている, 第6ドーム成長続く 火砕流赤松谷に集中, No.148, pp. 4-11, 1992.3
- 16) 雲仙・普賢岳は動いている, 第7ドーム出現 マグマの供給依然続く, No.149, pp. 6-13, 1992.4
- 17) 実践さながら! 避難訓練, No.150, pp. 2-3, 1992.5
- 18) 雲仙・普賢岳は動いている, 火砕流赤松谷へ集中 赤松谷堆積物で埋まる, No.150, pp. 4-9, 1992.5
- 19) 災害復興・再建ニュース, 復興センター建設に着手着手, 総合建設科訓練生募集, (財)町災害対策基金事業, No.150, pp.10-11, 1992.5
- 20) 雲仙・普賢岳噴火災害から1年, No.151, pp. 2-4, 1992.6
- 21) 雲仙・普賢岳は動いている, 第七ドーム火砕流を頻発 赤松谷を駆け下る, No.151, pp. 4-9, 1992.6
- 22) 災害復興・再建ニュース, (財)深江町災害対策基金事業, 「花いっぱい運動」, No.151, p.12, 1992.6
- 23) 雲仙・普賢岳火山活動報告会500人が集まる, No.151, p.16, 1992.6
- 24) 警戒区域を追加設定, ボタン山, 頂上から半径250メートル, No.152, p.2, 1992.7
- 25) 雲仙・普賢岳は動いている, 火砕流赤松谷へ頻発 熱風中ノ間川上流に流入, No.152, pp. 3-9, 1992.7
- 26) 災害復興・再建ニュース, 池平地区集会所・横馬場地区集会所が完成, 基金事業紹介, No.152, p.13, 1992.7
- 27) 8・8火砕流で住家焼失=台風10・水無川・土石流氾らん=, No.153, pp. 2-3, 1992.8
- 28) 雲仙・普賢岳は動いている, 火砕流上大野木場に到達, 悪夢ふたたび, No.153, pp. 4-10, 1992.8
- 29) 災害復興・再建ニュース, 「深江町温泉保養所」雲仙小地獄にオープン, 基金事業紹介, No.153, p.11, 1992.8

- 30) 雲仙・普賢岳は動いている, No. 154, pp. 2-3, 1992. 8
- 31) 災害復興・再建ニュース, 仮設住宅のゆとり化, 深江保養所でくつろぐ-敬老月間-, 「長崎くんちへ招待」, 普賢岳災害復興太鼓コンサート, No. 154, p. 12, 1992. 9
- 32) 雲仙・普賢岳は動いている, 第8ドーム不安定, 大規模火砕流の恐れも, No. 155, pp. 4-10, 1992. 10
- 33) 災害復興・再建ニュース, 「仮設住宅」の今後の対応, 平成4年度新規事業を実施します, No. 155, p. 11, 1992. 10
- 34) 雲仙普賢岳の移り変わり, No. 155, p. 20, 1992. 10
- 35) 雲仙・普賢岳は動いている, 噴火から丸2年, 終息の気配見えず, No. 156, pp. 4-9, 1992. 11
- 36) 災害復興・再建ニュース, 水道料一時金支払事業を実施します, 家畜導入促進事業-新規事業-, 商工業施設再建支援助成金, 個別型避難所が完成, No. 156, p. 11, 1992. 11
- 37) 普賢岳噴火から丸2年, No. 156, p. 20, 1992. 11
- 38) 雲仙・普賢岳は動いている, 噴火から丸2年, 第9溶岩ドーム出現, No. 157, pp. 4-9, 1992. 12
- 39) 災害復興・再建ニュース, 中ノ間川火山砂防ダム工事に着手, 深江町復興センター-大いに利用しましょう-, 町外仮設住宅の移動について, No. 157, p. 10, 1992. 12
- 40) 雲仙・普賢岳は動いている, 表面上は落ち着く, 仮設住宅で2度目の正月, No. 158, pp. 5-9, 1993. 1
- 41) 災害復興・再建ニュース: 「復・活・祭」開催, 深江町自主防災組織活動促進次議用を実施します, 被災住宅再建時の一時助成について, No. 158, p. 10, 1993. 1
- 42) 復・活・祭, 1日も早く元の深江町に, 約4,300人の人出でにぎわう, No. 159, pp. 2-3, 1993. 2
- 43) 雲仙・普賢岳は動いている, 第10溶岩ドーム出現, 北西側に成長続ける, No. 159, pp. 4-8, 1993. 2
- 44) 災害復興・再建ニュース: 防災自主活動促進事業の活用を!, 仮設住宅正式入居者の取扱い, 水道料一時金支給について, No. 159, p. 9, 1993. 2
- 45) 土のうで”堤防” 雨期を前に土石流対策(大野木場地区), No. 160, pp. 2-3, 1993. 3
- 46) 雲仙・普賢岳は動いている, 火山活動依然活発, 火砕流や崩落が多発, No. 160, pp. 4-7, 1993. 3
- 47) 災害復興・再建ニュース: 水道料一時金支給 申請はお済みですか, No. 160, p. 9, 1993. 3
- 48) 雲仙・普賢岳は動いている, 火砕流, 崩落が頻発, 第11溶岩ドーム出現, No. 161, pp. 7-10, 1993. 4
- 49) 災害復興・再建ニュース: 平成5年度町災害対策基金新規事業, No. 161, p. 12, 1993. 4
- 50) 大規模土石流, 1月半ぶりに発生, 143世帯559人が避難, 家屋被害は98棟, No. 162, pp. 2-3, 1993. 5
- 51) 雲仙・普賢岳は動いている, 火砕流 頻発, 火山活動活発, No. 162, pp. 4-9, 1993. 5

- 52) 災害復興・再建ニュース：防災集団移転事業について紹介，No.162，p.10，1993.5
- 53) 雲仙岳災害・復興提言募集，No.162，p.16，1993.5
- 54) 深江町復興基本計画，事業実施に向け前進，No.163，pp.2-6，1993.6
- 55) 雲仙・普賢岳は動いている，火砕流・崩落が頻発，第11溶岩ドーム成長，No.163，pp.7-11，1993.6
- 56) 災害復興・再建ニュース：平成5年度予算，No.163，p.12，1993.6
- 57) 雲仙・普賢岳は動いている，火砕流や土石流が頻発，第11溶岩ドーム大きく成長，No.164，pp.4-11，1993.7
- 58) 災害復興・再建ニュース：住宅再建築の意向調査にご協力を，No.164，p.12，1993.7
- 59) 雲仙・普賢岳は動いている，崩落が頻発，第11溶岩ドーム東側に大きく成長，No.165，pp.4-10，1993.8
- 60) 災害復興・再建ニュース：平成4年度決算，平成5年度新規事業等，応急仮設住宅補強工事を実施中，No.165，p.11，1993.8
- 61) 上屋付プールが完成，火山灰シャットアウト 小林小学校，No.166，p.3，1993.9
- 62) 山ノ寺地区に簡易水道，地域住民の不安を解消，平成6年度に完成，No.166，p.3，1993.9
- 63) 雲仙・普賢岳は動いている，第11溶岩ドームが不安定，赤松川方向に崩落，No.166，pp.4-9，1993.9
- 64) 災害復興・再建ニュース：緊急避難用デイバッグ(リュックサック)を全世帯に配布，深江町温泉保養所の閉所時間の延長，No.166，p.10，1993.9
- 65) 大火砕流発生！町内全域に避難勧告を発令，防災訓練658人が参加，No.167，p.2-3，1993.10
- 66) 雲仙・普賢岳は動いている，第11溶岩ドーム不安定，No.167，pp.4-6，1993.10
- 67) ストレスと健康，普賢岳災害は大きなストレス源，No.167，pp.7，1993.10
- 68) 災害復興・再建ニュース：水道料一時金支給申請について，水道料一時金支給の不適用について，No.167，p.9，1993.10
- 69) 雲仙・普賢岳は動いている，第11溶岩ドーム成長続く，No.168，pp.4-6，1993.11
- 70) 雲仙・普賢岳は動いている，第11溶岩ドーム成長続く，火山性地震が頻発，No.169，pp.4-7，1993.12
- 71) 雲仙・普賢岳は動いている，第11溶岩ドーム成長続く，南西側へ溶岩塊が崩落，No.170，pp.5-8，1994.1
- 72) 「災害に強い農業」目指して，No.171，pp.2-3，1994.2
- 73) 雲仙・普賢岳は動いている，第12溶岩ドームを確認，赤松谷方向へ火砕流頻発，No.171，pp.4-8，1994.2
- 74) 災害復興・再建ニュース：住宅家賃補助・倉庫補助事業の延長，No.171，p.9，1994.2
- 75) 雲仙・普賢岳は動いている，北西方向へ火砕流発生北側斜面は亀裂や断層で不安定，No.172，pp.4-8，1994.3

- 76) 雲仙・普賢岳は動いている, 北側方面へ火砕流や崩落が頻発北側斜面は不安定, No. 173, pp. 7-10, 1994. 4
- 77) 風水害に備える わが家の防災, No. 174, pp. 2-5, 1994. 5
- 78) 雲仙・普賢岳は動いている, 北西方向へ崩落頻発, No. 174, pp. 6-8, 1994. 5
- 79) 雲仙・普賢岳は動いている, 西方向へ崩落頻発, No. 175, pp. 4-8, 1994. 6
- 80) 雲仙・普賢岳は動いている, 南東側に第13溶岩ドームが出現, No. 176, pp. 4-6, 1994. 7
- 81) 雲仙・普賢岳は動いている, 南東から南西側に小規模火砕流が頻発, No. 177, pp. 4-7, 1994. 8
- 82) 雲仙・普賢岳は動いている, 南東・南西側に火砕流頻発, No. 178, pp. 4-6, 1994. 9
- 83) 雲仙・普賢岳は動いている, 溶岩供給量は現象傾向, No. 179, pp. 5-7, 1994. 10
- 84) 雲仙・普賢岳は動いている, 溶岩供給は依然続く, No. 180, pp. 4-6, 1994. 11
- 85) 雲仙・普賢岳は動いている, 噴火から丸4年, No. 181, pp. 4-6, 1994. 12
- 86) 雲仙・普賢岳は動いている, 普賢岳の標高は1500メートル, No. 182, pp. 5-7, 1995. 1
- 87) 雲仙・普賢岳は動いている, 火山活動は比較的落ち着いた状態, No. 183, pp. 4-6, 1995. 2
- 88) 砂防施設を活用した復興振興方策に関する提案を募集します, No. 183, pp. 7, 1995. 2
- 89) 雲仙・普賢岳は動いている, 火山性地震は噴火以来最低回数を記録, No. 184, pp. 4-6, 1995. 3
- 90) 雲仙・普賢岳は動いている, 溶岩崩落は安定, No. 185, pp. 7-8, 1995. 4
- 91) 雲仙・普賢岳は動いている, 溶岩の供給は停止, 梅雨期の土石流には十分注意を, No. 186, pp. 4-6, 1995. 5
- 92) 雲仙・普賢岳は動いている, あの大火砕流被害から丸4年, 山は落ち着いた状態, No. 187, pp. 4-7, 1995. 6
- 93) 雲仙・普賢岳は動いている, 雨期の土石流発生も少なく, ドームは安定保つ, No. 188, pp. 4-6, 1995. 7
- 94) 雲仙・普賢岳は動いている, 溶岩ドーム安定保つ, No. 189, pp. 4-7, 1995. 8
- 95) 雲仙・普賢岳は動いている, 溶岩ドーム安定保つ, No. 190, pp. 4-7, 1995. 9
- 96) 雲仙・普賢岳は動いている, 小さな崩落が発生, No. 191, pp. 4-6, 1995. 10
- 97) 復興ムードに沸く, 天皇・皇后両陛下深江町ご訪問, No. 192, pp. 2-3, 1995. 11
- 98) 雲仙・普賢岳は動いている, 山は安定続く, No. 192, pp. 4-7, 1995. 11
- 99) 雲仙・普賢岳は動いている, 雪化粧した普賢岳, No. 193, pp. 4-6, 1995. 12
- 100) 雲仙・普賢岳は動いている, 自衛隊災害派遣隊が撤収, No. 194, pp. 5-6, 1996. 1
- 101) 安心と勇気をありがとう, 自衛隊災害派遣隊が撤収, No. 194, pp. 14-15, 1996. 1
- 102) 雲仙・普賢岳は動いている, 火砕流1年半ぶりに発生 1.5キロメートル下る, No. 195, pp. 4-5, 1996. 2
- 103) 雲仙・普賢岳は動いている, 噴火活動は停止状態, No. 196, pp. 4-6, 1996. 3
- 104) 雲仙・普賢岳は動いている, 普賢岳斜面に種子を播く, No. 197, pp. 7-9, 1996. 4
- 105) 普賢岳が青色になっているのをご存じですか, 国(林野庁)空から種子を播く, No. 197,

- p. 16, 1996. 4
- 106) 雲仙・普賢岳は動いている, 普賢岳溶岩ドームを「平成新山」と命名, No. 198, pp. 4-5, 1996. 5
 - 107) よみがえる深江, 噴火活動が終息 山肌が緑色に変わる, No. 199, pp. 4-7, 1996. 6
 - 108) よみがえる深江, 土石流が発生 土砂で遊砂地埋まる, No. 200, pp. 4-7, 1996. 7
 - 109) 雲仙・普賢岳噴火から四年, No. 170, p. 11, 1994. 1
 - 110) 雲仙・普賢岳噴火から四年, No. 171, p. 10, 1994. 2
 - 111) 雲仙・普賢岳噴火から四年, No. 172, p. 9, 1994. 3
 - 112) 雲仙・普賢岳噴火から四年, No. 173, p. 11, 1994. 4
 - 113) 雲仙・普賢岳噴火から四年, No. 174, p. 9, 1994. 5
 - 114) 雲仙・普賢岳噴火から四年, No. 175, p. 8, 1994. 6
 - 115) 雲仙・普賢岳噴火から四年, No. 176, p. 7, 1994. 7
 - 116) 雲仙・普賢岳噴火から四年, No. 178, p. 7, 1994. 8
 - 117) 雲仙・普賢岳噴火から四年, No. 178, p. 7, 1994. 9
 - 118) 自治大臣賞に輝く, 広報ビデオ「深江町に生きる」-I 全国広報コンクール, No. 178, p. 9, 1994. 9
 - 119) 降灰回避型稲作, 早期水稻栽培の結果出る, 雲仙普賢岳降灰対策現地実証試験, No. 179, pp. 2-4, 1994. 10
 - 120) 雲仙・普賢岳噴火から四年, No. 179, p. 7, 1994. 10
 - 121) 雲仙・普賢岳噴火から四年, No. 180, p. 7, 1994. 11
 - 122) 雲仙・普賢岳噴火から五年, No. 181, p. 6, 1994. 12
 - 123) 第13回産業文化祭, 天候に恵まれ盛大に盛り上がる, No. 205, pp. 2-3, 1996. 12
 - 124) よみがえる深江, 噴火から七年火山活動は落ち着いた状態が続く, No. 205, pp. 4-7, 1996. 12
 - 125) 雲仙・普賢岳噴火から七年, No. 205, p. 7, 1996. 12
 - 126) 皇太子ご夫妻ご訪問, 復興に頑張ってください, 「深江しいたけ生産組合と水無川堤防流域をご視察」, No. 205, p. 11, 1996. 12
 - 127) あなたも走ってみませんか, 平成新山ドームマラソン大会, No. 205, p. 17, 1996. 12
 - 128) 皇太子ご夫妻深江町をご訪問, No. 205, p. 20, 1996. 12
 - 129) 新年を迎えて「復興・振興を町民一丸となつて」, No. 206, p. 2, 1997. 1
 - 130) よみがえる深江, 平成新山の標高は1484メートル, No. 206, pp. 5-6, 1997. 1
 - 131) 雲仙・普賢岳噴火から七年, No. 206, p. 7, 1997. 1
 - 132) よみがえる深江, 普賢岳は安定した状態続く, No. 207, pp. 4-6, 1997. 2
 - 133) 雲仙・普賢岳噴火から七年, No. 207, p. 7, 1997. 2
 - 134) よみがえる深江, 警戒区域の「ポタン山山頂より半径250メートルの4部を解除」, No. 208, pp. 4-6, 1997. 3
 - 135) 雲仙・普賢岳噴火から七年, No. 208, p. 7, 1997. 3

- 136) まちの動き, No.209, p.5, 1997.4
- 137) トロッコ列車発進, 島鉄4年ぶり全線開通, No.209, p.7, 1997.4
- 138) 平成新山ドームマラソン, 全国から1,500人力走, No.209, p.7, 1997.4
- 139) まちの動き, No.210, p.4, 1997.5
- 140) 復興フェスタ元気だ!しまばら, 貴乃花・曙土俵入りで激励, No.210, p.6, 1997.5
- 141) 桜パークに“山桜”の植樹, No.210, p.7, 1997.5
- 142) 平成新山採火, 現在も300度以上の噴気, No.211, p.2-3, 1997.6
- 143) まちの動き, No.211, pp.4-5, 1997.6
- 144) 復興の具体化へ第1歩(がまだず発進), がまだず計画推進委員会発足, No.211, p.7, 1997.6
- 145) まちの動き, No.212, p.4, 1997.7
- 146) がまだず火山観光化基本計画, 具体化をめざし検討, No.213, p.2, 1997.8
- 147) 水無川流域一帯の火山観光フィールドミュージアム構想とは, No.213, p.3, 1997.8
- 148) まちの動き, No.213, p.4, 1997.8
- 149) 第1回ろくべえどんまつり, H3.9.15から6年復興をアピール, No.214, pp.2-3, 1997.9
- 150) まちの動き, No.214, p.4, 1997.9
- 151) 第3セクター「みずなし本陣」を設立, No.215, p.2-3, 1997.10
- 152) まちの動き, No.215, p.4, 1997.10
- 153) まちの動き, No.216, p.4, 1997.11
- 154) 被災校舎を保存, No.216, p.7, 1997.11
- 155) まちの動き, No.217, p.4, 1997.12
- 156) 第11溶岩ドーム最大約10センチ動く!, No.217, p.7, 1997.12
- 157) 復旧から復興・振興 行政と町民一丸となった輝く町づくり, No.218, p.2, 1998.1
- 158) より豊かな住みよい町づくりを目指して, No.218, p.3, 1998.1
- 159) まちの動き, No.218, p.6, 1998.1
- 160) “ふかえ桜パーク”着工, 水無川右岸に憩いの場を整備, 12年度の完成を目指す, No.218, p.11, 1998.1
- 161) 長い間ありがとう, 大野木場小スクールバス廃止, No.218, p.11, 1998.1
- 162) まちの動き, No.219, p.4, 1998.2
- 163) 「ボタン山治山工事」が着工, 長さ100m・高さ13mの導流堤, 安全祈願と起工式, No.219, p.5, 1998.2
- 164) まちの動き, No.220, p.4, 1998.3
- 165) 土石流災害遺構保存公園が着工, 災害の「猛威」と「教訓」を後世に, 被災家屋11棟・うち3棟永久保存, No.220, p.6, 1998.3
- 166) 自衛隊の功績を後世に!, 桜パークに「博愛の塔」を建立, No.220, p.7, 1998.3
- 167) 美しい森蘇れ, 「どんぐり」3万粒の種まき, 高田知事も参加, No.220, p.7, 1998.3

- 168) 第52次「警戒区域」11年3月31日まで延長, No.220, p.9, 1998.3
- 169) 火山活動は落ちついた状態, 定期火山情報「第3号」気象庁雲仙岳測候所発表, No.220, p.9, 1998.3
- 170) 島原・深江道路は「自動車専用」道路です, No.220, p.10, 1998.3
- 171) 金子知事「甦るふかえ」を行政視察, No.221, p.1, 1998.4
- 172) まちの動き, No.221, p.4, 1998.4
- 173) 旧大野木場小保存最終案がまとまりました, No.221, p.6, 1998.4
- 174) 梅雨シーズン到来, 知ってますか? 「危険箇所」, 「6月1日-6月30日」土砂災害防止月間, No.222, p.2, 1998.5
- 175) まちの動き, No.222, p.4, 1998.5
- 176) 道の駅「みずなし本陣ふかえ」に登録証(県内で2カ所目), No.222, p.6, 1998.5
- 177) 「雲仙普賢岳」7年半登山解禁, No.222, p.7, 1998.5
- 178) まちの動き, No.223, p.5, 1998.6
- 179) 陸・海・空から防災大作戦, No.223, p.6, 1998.6
- 180) 水無川グリーンライン30本の桜を植樹, No.223, p.7, 1998.6
- 181) まちの動き, No.224, p.4, 1998.7
- 182) 赤松谷の“いま”, 火山れきがたい積!, No.224, pp.14-15, 1998.7
- 183) 第2回ろくべえどん祭, 8月23日「ふかえ」が楽しい!, No.224, p.16, 1998.7
- 184) まちの動き, No.225, p.4, 1998.8
- 185) 農業クラブ意見発表「最優秀賞」九州代表で全国大会に出場, “島原復興への1歩 緑よ甦れ!”, No.225, p.5, 1998.8
- 186) 災害が育んだ友情の輪「7年」, 三橋・深江子ども交流会, No.225, pp.6-7, 1998.8
- 187) 九州最大規模の「道の駅」みずなし本陣が着工, 「城下町風7棟を建設」, No.226, p.2, 1998.9
- 188) ろくべえどんも大喜び! 笑い・歓声 8000人の知恵者で大賑い!, No.226, p.3, 1998.9
- 189) まちの動き, No.226, p.4, 1998.9
- 190) 葉タバコの買い取り開始, No.226, p.7, 1998.9
- 191) 復興の決意を新たに—大野木場メモリアルデー'98, No.226, p.8, 1998.9
- 192) ろくべえどんまつり 楽しかったな—い!, No.226, pp.16, 1998.9
- 193) まちの動き, No.227, p.4, 1998.10
- 194) 第2次新水産業育成事業 豊かな漁場“甦れ”, No.227, p.6, 1998.10
- 195) 雲仙普賢岳フェスティバル98!, No.227, p.11, 1998.10
- 196) 深江町産業まつり, No.227, p.6, 1998.10
- 197) まちの動き, No.228, p.4, 1998.11
- 198) —モデル公民館事業—「普賢岳」へ登山, No.228, p.6, 1998.11
- 199) 保存記念碑を建立, No.228, p.6, 1998.11
- 200) 国へ要望, No.228, p.16, 1998.11

- 201) 1998ふかえちょう, あの話題・この話題, No.229, pp.2-3, 1998.12
- 202) まちの動き, No.229, p.4, 1998.12
- 203) ふれあい公園着工, 一道の駅の一角-, No.229, p.6, 1998.12
- 204) 復興から振興-飛躍する深江町-, No.229, p.16, 1998.12
- 205) 皆さんと共にもっとすてきな町豊かな町をつくりましょう, No.230, p.2, 1999.1
- 206) まちの動き, No.230, p.6, 1999.1
- 207) 島原深江町道路開通記念がまだすマラソン大会, 全国へ復興をアピール, No.231, pp.2-3, 1999.2
- 208) まちの動き, No.231, p.4, 1999.2
- 209) 災害農地復旧・復興事業竣工, 340haよみがえった“被災農地”-記念碑も建立-, No.231, p.5, 1999.2
- 210) 春はもうすぐ「葉たばこ」の種まき, No.231, p.7, 1999.2
- 211) (道の駅)みずなし本陣ふかえ 4月1日オープン, No.231, p.11, 1999.2
- 212) 防災と活性化の“みち”, No.232, p.1, 1999.3
- 213) まちの動き, No.232, p.4, 1999.3
- 214) 島原深江道路 水無大橋開通, No.232, p.5, 1999.3
- 215) 第8分団消防詰所完成-災害からまた1つ復興-, No.232, p.6, 1999.3
- 216) 道の駅「みずなし本陣ふかえ」オープン, 島原半島の活力-道の駅からスタート-, No.233, pp.2-3, 1999.4
- 217) まちの動き, No.233, p.4, 1999.4
- 218) 大野木場小新校舎建設に着工, No.233, p.6, 1999.4
- 219) まちの動き, No.234, p.4, 1999.5
- 220) 自然ウォッチング 普賢岳登山に挑戦, No.234, p.4, 1999.5
- 221) -火山・砂防学習の拠点-被災校舎を一般公開, 永遠の旧校舎, パネルディスカッション-21世紀につなぐふるさとの再生フォーラムを開催, No.234, p.6, 1999.5
- 222) 大雨・台風 災害は忘れた頃にやってくる, No.235, p.2, 1999.6
- 223) 戸別受信器の点検をお願いします, No.235, p.3, 1999.6
- 224) 民話・深江の知恵者ろくべえどんを発刊, No.235, p.6, 1999.6
- 225) まちの動き, No.235, p.8, 1999.6
- 226) まちの動き, No.236, p.5, 1999.7
- 227) ふるさと新鮮市オープン, No.236, p.7, 1999.7
- 228) 第3回ろくべえどん祭「ふかえ」が超楽しい, No.236, p.18, 1999.7
- 229) 上大野木場自主防災会コミュニティ助成事業で防災物品を整備, No.237, p.6, 1999.8
- 230) まちの動き, No.237, p.7, 1999.8
- 231) 「陳」駐日中国大使土石流被災家屋を視察, No.238, p.1, 1999.9
- 232) 第3回ろくべえどんまつり-歩行者天国にひと, ヒト, 人, No.238, p.2, 1999.9
- 233) 復興のつち音・誓い新たに-大野木場メモリアルデー99, No.238, p.5, 1999.9

- 234) まちの動き, No. 238, p. 10, 1999. 9
- 235) ー赤松谷地区ー治山ダム工事が着工, No. 239, p. 4, 1999. 10
- 236) 豊かな漁場を! 沈船漁礁を設置, No. 239, p. 5, 1999. 10
- 237) ー報告ー1999火山砂防フォーラムinフィリピン, No. 239, p. 6, 1999. 10
- 238) まちの動き, No. 239, p. 7, 1999. 10
- 239) まちの動き, No. 240, p. 3, 1999. 11
- 240) 'GGふかえちようーあの話題・この話題!', No. 241, pp. 2-4, 1999. 12
- 241) まちの動き, No. 241, p. 5, 1999. 12
- 242) 第16回産業まつり, No. 241, p. 6, 1999. 12
- 243) 李主席被災家屋を視察, No. 242, p. 9, 2000. 1
- 244) 新生大野木場小学校 大火砕流から8年5か月, 大野木場小学校の新校舎が完成,
No. 243, pp. 2-3, 2000. 2
- 245) 大野木場小学校の生い立ち, よろこびの“声”, No. 243, pp. 4-5, 2000. 2
- 246) “再生の森”づくりに800人が桜パークに植樹!, 葉たばこの種まき 今年も豊作を,
No. 243, p. 6, 2000. 2
- 247) がんばれ大野木場っ子! 歌手の寺井さんグランドピアノを寄贈, 長い間ありがとう!
仮設校舎にお別れを告げました, 桜パークに卒業記念の植樹, No. 244, p. 6, 2000. 3
- 248) 連合長崎桜パークの植栽完成, No. 245, p. 2, 2000. 4
- 249) 横田町長ら被災地を激励, No. 245, p. 4, 2000. 4
- 250) 阿弥陀三尊像を建立 みずなし本陣被災者のめい福を祈り, 大野木場情報センター
来場者5万人達成, No. 246, p. 4, 2000. 5
- 251) 戸別受信機の点検をお願いします, 災害に備える 防災連絡会議を開催, No. 247, p. 3,
2000. 6
- 252) 安全・安心なまちづくりを目指してー平成12年度建設省雲仙復興工事事務所事業概要
ー, No. 247, p. 4, 2000. 6
- 253) 国へ要望, No. 248, p. 4, 2000. 7
- 254) 深江町で写真展ー噴火災害10年を振り返るー, No. 249, p. 9, 2000. 8
- 255) 第4回ろくべえどんまつり 8000人の知恵者で大賑い, No. 250, p. 2, 2000. 9
- 256) みずなし本陣に“ふれあいショップ”オープン, No. 250, p. 4, 2000. 9
- 257) 葉たばこの買い取り, No. 250, p. 6, 2000. 9
- 258) 噴火のメカニズムを探る 科学掘削調査, 入場者100万人突破ーみずなし本陣ふかえ
ー, No. 251, p. 3, 2000. 10
- 259) 噴火から10年 復興・再生を全国にアピール, 上大野木場の「科学掘削」採取サン
プルを一般公開, No. 253, p. 4, 2000. 12
- 260) 今年も豊作を, No. 255, p. 6, 2001. 2
- 261) 島原中央道路杭打式, No. 256, p. 1, 2001. 3
- 262) 水無川導流堤完成, 大野木場監視所建設, No. 257, p. 7, 2001. 4

- 263) 「北海道議員」深江町を視察, No. 258, p. 6, 2001.5
- 264) 防災会議を開催, No. 259, p. 6, 2001.6
- 265) 第8回島原半島ツーデーマーチ, No. 259, p. 6, 2001.6
- 266) 9.15大火砕流から10年 大野木場メモリアルデー2001, No. 262, p. 2, 2001.9
- 267) 第5回「ろくべえどんまつり」1万人のひと・ヒト・人, No. 262, p. 4, 2001.9
- 268) 葉たばこ2年連続豊作, No. 263, p. 4, 2001.10
- 269) クルマエビ新養殖場着工, No. 264, p. 5, 2001.11
- 270) 第18回産業まつり!!, No. 265, p. 4, 2001.12
- 271) 県立島原病院いよいよ開院!!-平成14年1月24日から診療開始-, No. 265, p. 14, 2001.12
- 272) “みずなし本陣”入場者200万人突破!, No. 266, p. 7, 2002.1
- 273) 葉たばこ種まき, No. 267, p. 4, 2002.2
- 274) 被災地を結ぶ「希望りんご」深江町に, No. 268, p. 8, 2002.3
- 275) 町営住宅「大野木場団地」完成, アララクリーン会“桜パークに植樹”, No. 269, p. 8, 2002.4
- 276) 「寺井一通とナガサキの歌びとたちのコンサート」, No. 270, p. 2, 2002.5
- 277) 桜パークに八重桜150本を植樹, No. 270, p. 3, 2002.5
- 278) 九州・沖縄「道の駅」連絡会総会, 防災会議を開催, No. 271, p. 3, 2002.6
- 279) 雲仙岳災害記念館, 7月1日にオープンしました, No. 272, p. 1, 2002.7
- 280) 赤松谷治山ダム4基完成, No. 273, p. 4, 2002.8
- 281) H3.9.15の大火砕流から丸11年「大野木場監視所開所式」「雲仙・普賢岳子供塾」「大野木場メモリアルデー」開催, ふるさと伝承館着工, No. 274, p. 2-3, 2002.9
- 282) 第6回ろくべえどんまつり, No. 274, p. 4, 2002.9
- 283) 葉たばこの買い取り開始!, No. 274, p. 6, 2002.9
- 284) 葉たばこ種まき, No. 279, p. 4, 2003.2
- 285) 入場者300万人達成!, No. 280, p. 5, 2003.3
- 286) 防災会議を開催, No. 283, p. 5, 2003.6
- 287) 被災地へ見舞金, No. 285, p. 14, 2003.8
- 288) 9.15大野木場メモリアルデー2003, No. 286, p. 3, 2003.9
- 289) 第7回ろくべえどんまつり, No. 286, p. 4, 2003.9
- 290) 第10回島原半島ツーデーマーチ, No. 288, p. 3, 2003.11
- 291) 上大野木場仁田峠線登山遊歩道完成!!, No. 289, p. 3, 2003.12
- 292) 火砕流の脅威を後世にー旧大野木場小学校に発電表示装置ー, No. 292, p. 5, 2004.3
- 293) 「かどわき歴史災害記念館」完成, No. 292, p. 6, 2004.3
- 294) 入場者400万人突破!みずなし本陣ふかえ, No. 294, p. 3, 2004.5
- 295) 防災会議を開催, 深江町クルマエビ養殖場開門, No. 295, p. 3, 2004.6
- 296) クルマエビ養殖場種苗を放流「大きくなーれ!!」, No. 296, p. 3, 2004.7
- 297) “土砂災害”郵便局と協定締結, No. 297, p. 2, 2004.8

- 298) 第8回ろくべえどんまつり, No.298, p.1, 2004.9
- 299) 大野木場メモリアルデー9.15, No.298, p.2, 2004.9
- 300) クルマエビ初出荷, No.298, p.2, 2004.9
- 301) 桜パークで記念植樹, No.299, p.7, 2004.10
- 302) 第11回島原半島ツーデーマーチ, No.300, p.4, 2004.11
- 303) 第21回深江町産業まつり, No.301, p.2, 2004.12
- 304) まちの防災力を高めよう, 防災会議を開催, No.308, p.4, 2005.8

島原市災害復興・再建ニュース「ふっこう」

- 1) 第1号(平成4年1月25日)
発行にあたって, 復興対策の推進, 復興計画の作成にむけてー復興の中心は市民の皆さんー
- 2) 第2号(平成4年2月25日)
土石流対策ー今できることからー, 復興計画の準備ーまず個別調査からー, 住環境対策ー避難生活がんばってー
- 3) 第3号(平成4年3月25日)
砂防・治山施設計画の基本構想が発表されました, 被災者実態調査へのご協力ありがとうございました
- 4) 第4号(平成4年4月25日)
梅雨前に緊急連絡橋ー国道251号に迂回ルートを建設ー, 第2号遊砂地の造成工事に着手, 「いこいの部屋」を設置しました
- 5) 第5号(平成4年5月25日)
1号遊砂地が完成, 災害対策委員会が発足
- 6) 第6号(平成4年6月25日)
火砕流大惨事から一年ーこのような取り組みをしていますー, 国道251号の緊急連絡橋が完成, 仮設住宅に相談員を配置, 「いこいの集い」が開かれています, 島原市義援金基金の本年度の事業計画, 各種団体との懇談会終わる, シルバ人材センターの会員を募集しています, 不法入域やめて!ー新たな犠牲者とならないためにー, 乾燥機を設置
- 7) 第7号(平成4年7月25日)
安心して住めるまちづくりについて, 土石流災害の集合避難施設建設始まる, 土石流監視カメラを新設, 葉たばこ共同乾燥施設が完成, 2学期から本校で授業(三中, 五小), 水セットを各世帯へ配付しています
- 8) 第8号(平成4年8月25日)
自立復興に燃える人たち(吾妻町で営農再開, 新たにスポーツ用品店, 新工場で操業再開, 新名所が移転復活, 絆を大切に再出発, 三会の大地で花き園芸)
- 9) 第9号(平成4年9月25日)

今後の土石流対策は？仮設住宅は？導流堤構想は？－安中地区災害対策委員会との会議内容から－，災害復興基本計画の策定に取り掛かっています，住宅団地の建設動き出す，このように決めました－仮設住宅の今後－

10) 第10号（平成4年10月25日）

国道57号線通行再開－6.3大火砕流以来1年4ヵ月ぶり－，県の基金に30億円繰り入れ－追加事業が始まります－，基本構想を一部見直し－雲仙・普賢岳砂防計画，赤松谷の導流堤を砂防ダムに－倉庫等確保助成の希望者を募ります

11) 第11号（平成4年10月25日，臨時）

島原市復興基本方針決まる－大きな柱は→生活再建，防災都市づくり，地域の活性化－，島原市復興基本方針，次に進める作業及び予定

12) 第12号（平成4年11月25日）

住宅対策について－住宅団地，公営住宅の建設－，基金の増額・事業の追加－島原市義援金基金－

13) 第13号（平成4年12月25日）

吉岡新市長に聞く－復興にかける熱意や当面の課題について－（選挙について，基本構想について），各種団体からの提案・意見の集約結果を報告します

14) 第14号（平成5年1月25日）

島原市災害復興シンポジウム開催近まる，警戒区域等の設定が緩和・延長されました，被災者用住宅団地について，被災住宅再建時の一部助成事業について，「島原市の復興に関する提言」優秀賞決まる！

15) 第15号（平成5年2月25日）

島原市災害復興シンポジウム開催される，水無川改修工事が決まる，防災集団移転事業について，砂防施設の模型実験がありました，第3遊砂地完成間近

16) 第16号（平成5年3月25日）

雲仙・普賢岳砂防基本構想の導流堤詳細計画が発表される，復興関係の新年度予算のお知らせ，島原市義援金基金の状況，住宅再建時の一部助成事業，住宅確保に関する調査を実施

17) 第17号（平成5年4月25日）

被災者用住宅団地の造成工事始まる＝船泊団地＝，住宅再建等の意向調査にご協力を，どんな方法で移転されますか？警戒区域の設定はそのまま6月30日まで延長，雲仙復興工事事務所が設置されました，避難されている皆様へ各助成制度のお知らせ，緊急防災応急堤復旧工事終わる，火山情報の名称を変更

18) 第18号（平成5年5月25日）

雲仙復興シンポジウム開催される，土石流避難対象地区の皆様へ（お知らせ），雲仙岳災害・復興提案募集-長崎県-，住宅再建等の意向調査の結果をお知らせします，がけ地近接等危険住宅移転事業についてご紹介

19) 第19号（平成5年6月25日）

被災者用住宅団地の造成工事始まる，警戒区域等の設定・解除について，島原市義援金基金の5年度事業計画，ご存じですか？便利な電話の意外な弱み，緊急防災工事を実施(鋼矢板打ち)，災害記録ビデオ「しまばら新たなる日々」完成，集団移転 Q & A

20) 第20号 (平成5年7月25日)

こんなことをしています 被災者への救済・支援事業，島原温泉がんばる花火まつり，分譲申込受付=船泊団地=，警戒区域等の見直しについて，住宅団地の紹介，市内小・中学校の夏季休業日の時季変更について(お知らせ)

21) 第21号 (平成5年8月25日)

安中三角地帯嵩上げ総決起大会開催される，島原市義援金基金の状況，警戒区域設定期限の延長について，集合避難施設が完成

22) 第22号 (平成5年9月25日)

防災集団移転促進事業計画承認される=安中地区砂防区域の96世帯=，市営花の丘団地起工式，借上復興住宅建設急ピッチ，安徳海岸付近の埋立工事始まる，警戒区域の設定はそのまま9月30日まで延長，仮設校舎で授業 四小，五小

23) 第23号 (平成5年10月25日)

被災者の住宅対策について(公営住宅)，応急仮設住宅の供与期限延長について，警戒区域設定期限の第30次延長について，雲仙普賢岳災害復興提言募集状況報告，申請はお済ですか？生活安定再建資金，このような工事が進んでいます－仮設導流堤，中尾川緊急連絡橋，上折橋緊急堤防，水無川仮橋，青葉町・萩が丘地区緊急防災工事

24) 第24号 (平成5年11月25日)

意向調査へのご協力ありがとうございました=杉谷地区の7町内=，申請はお済ですか？生活安定再建資金，このようになってます雲仙岳噴火対策関係経費

25) 第25号 (平成5年12月25日)

噴火3周年行事 普賢岳噴火から4年目を迎えて 開催される，講演会，島原大変史跡めぐり，島原市災害復興懇話会が発足，住居確保助成金交付事業について，警戒区域設定期限の第31次延長について

26) 第26号 (平成6年1月25日)

中尾川流域砂防・治山計画の基本構想が発表されました，各助成事業のお知らせ，住宅被災者生活再建(家財道具購入)助成，船泊団地(被災者用住宅団地)が完成，応急堤防が完成=水無川流域=，災害関連資料をご存じありませんか？，警戒区域設定期限の第32次延長について，復興掲示板，復興へあなたもわたしも総参加

27) 第27号 (平成6年2月25日)

噴火災害被災者への職業紹介状況について，訓練生を募集しています，「代替地登録制度」にご協力を！，災害関連資料をご存知ありませんか？，船泊団地入居者の追加募集について，島原市義援金基金の状況，警戒区域設定期限の第33次延長につ

いて、復興掲示板

28) 第28号（平成6年3月25日）

復興関係の新年度予算について、「代替地登録制度」にご協力を！、災害関連資料をご存知ありませんか？、応急堤防を延長、「雲仙岳災害・島原半島復興振興計画」策定される！－新・しまばら創造へのみち－、災害復興対策委員会が発足、島原市杉谷地区災害復興対策委員会役員、警戒区域設定期限の第34次延長について、「ふっこうニュース」の発行について

29) 第29号（平成6年8月25日）臨時1号

仁田団地（被災者用住宅団地）の分譲申込みを受け付けます、災害関連資料をご存知ありませんか？、ご協力ありがとうございました 島原市復興計画改訂に関する提案・意見、島原市義援金基金の状況、「代替地登録制度」にご協力を！、

30) 第30号（平成6年10月25日）臨時2号

復興対策事業概要図、水無川流域、中尾川流域、眉山の治山事業

31) 第32号（平成7年8月25日）臨時4号

仁田団地宅地分譲の追加申しこみ受付中、災害記録ビデオを貸し出します、災害関連資料をご存知ありませんか？、住宅家賃補助事業、倉庫確保助成事業が終了いたします、仁田団地宅地価格表

32) 災害5周年記念事業「復興シンポジウム」開催、島原市災害復興課、1996.10.26

33) 災害5周年記念事業「史跡ウォークラリー」開催、島原市災害復興課、1996.11.9

34) 「寛政4年島原大変関連古絵地図展」開催、島原市災害復興課、1996.10.14-27

建設省雲仙復興工事事務所 雲仙復興だより

1) 第1号（平成7年6月）

水無川流域で行っている砂防事業について紹介します

2) 第2号（平成7年8月）

水無川で現地見学会を開催、暮らしに安心をもてる道づくり－国道57号島原深江道路について紹介します、平成7年梅雨期を終えて

3) 第3号（平成7年10月）

水無川1号砂防ダムについて紹介します、平成7年水無川に4号遊砂地を整備、水無川によみがえる“緑”

4) 第4号（平成8年3月）

雲仙普賢岳の防災情報システムについて紹介します、島原深江道路が水無川を横断

5) 第5号（平成8年6月）

水無川1号砂防ダム袖部が完成！、雲仙普賢岳資料館5万人達成

6) 臨時号（平成8年9月）

砂防指定地利活用構想の策定と説明会・意見募集のお知らせ

7) 第7号（平成8年11月）

「明日のわがまちの砂防空間を考える会（公聴会）を12月15日に開催！、水無川1号砂防ダム前庭保護工の工事が始まる！、光ファイバーケーブルについて、早期完成をめざし着々と進む島原深江町道路

8) 第8号（平成9年3月）

世界初第11溶岩ドームの挙動観測,平成10年3月の完成へ向け工事が進む水無川1号砂防ダム,水無川1号砂防ダムので記念植樹を行いました,早期完成を目指し着々と進む島原深江町道路（平成9年度末一部開通）,六ツ木橋の架け替え工事について

9) 臨時号（平成9年6月）

雲仙普賢岳砂防指定地利活用構想のお知らせ,水無川流域の将来利活用イメージ,雲仙普賢岳砂防パーク,中尾川流域の将来利活用イメージ,構想の実現に向けて

10) 第9号（平成9年8月）

8月は「道路をまもる月間」です,雲仙普賢岳資料館への入館者10万人を達成！,今年の梅雨期間の土石流等の発生状況

11) 第10号（平成9年11月）

中尾川千本木地区で砂防ダム建設工事が始まる,砂防指定地の利活用委員会(略称)開催される！,「雲仙普賢岳SPORTS FESTIVAL'97」開催

12) 第11号（平成10年6月）

梅雨期を迎えて,いざという時に備えて,心に防災マップを,土木学会賞技術賞を受賞無人化工法によるRCCコンクリートダムの施工 水無川1号ダム越流部建設工事

13) 第12号（平成10年10月）

水無川2号砂防ダム,千本木1号砂防ダムの越流部工事に着手,大野木場メモリアルイベント'98開催!!、「キャンプ砂防in雲仙」開催!!、「第2回ろくべえどんまつり」へ参加!!—無人化施工体験—,「雲仙普賢岳フェスティバル'98」開催!!、「島原半島みち・みらいフォーラム」開催!!

14) 第13号（平成11年3月）

工事着手から5年,島原深江道路ついに全線開通,復興への確かな足音,一般国道57号島原深江道路中安徳ONランプ閉鎖について,高校生による記念植樹開催

15) 第14号（平成11年7月）

「旧大野木場小学校被災校舎オープン記念式典」開催,水無川の現況について,梅雨末期の豪雨に注意,大野木場情報センター開設

16) 大野木場情報センター 火山噴火災害の脅威を知ろう,災害の記録,復興の記録をわかりやすく解説

17) 雲仙復興工事事務所1999年度事業概要

18) 第15号（平成11年10月）

水無川で土石流の発生,「はっと・ほっとチャンネル24」の開設,キャンプ砂防の開講,「大野木場メモリアルデー'99」を開催,雲仙普賢岳フェスティバル'99の開催について

19) 第16号（平成12年2月）

雲仙普賢岳フェスティバル'99開催，土木の日について，故郷の山をみどりに！「雲仙普賢岳みどりの復元連絡会」リーフレット発行

20) 第17号（平成12年3月）

卒業の森づくり，砂防指定地利活用構想－われん川整備計画－，雲仙普賢岳資料館20万人達成記念セレモニー，祝千本木1号砂防ダム・水無川2号砂防ダム・安中三角地帯嵩上事業竣工，記念フォーラムについて

21) 第18号（平成12年6月）

千本木1号砂防ダム等の竣工式及び竣工記念フォーラム，土砂災害に注意！合同現地調査、情報伝達避難訓練及び合同安全パトロール，いのりの日公開セミナー，一般国道57号島原深江道路中安徳IC（ONランプ）の開通について，大野木場情報センター5万人達成セレモニー

22) 第19号（平成12年10月）

メモリアルデー火山学習教室in大野木場，キャンプ砂防2000in雲仙，住民によるわれん川整備，平成12年度「道の日」イベント，土砂災害防止に関する郵便局との連携

国土交通省雲仙復興工事事務所 雲仙復興だより

23) 第21号（平成13年3月）

大きく育て…高校生，思い出づくりによる記念植樹，エイッ！エイッ！エイッ！と力強く願いを込めて「一般国道251号島原中央道路」の本格的な事業着手に向けて現地測量開始!!，待望の中尾川河原橋が開通

24) 第22号（平成13年6月）

土砂災害に注意!!「早めの避難」と「日ごろの備え」を大切に，さらなる復興への大きな一歩 水無川導流堤完成を地域とともに祝う，ふるさとの森復元への思い全国へ「雲仙百年の森づくりの会・全国みどりの愛護大臣表彰功労賞」受賞

25) 臨時号（平成13年11月）

雲仙・普賢岳の噴火災害を振り返って，新しい火山砂防計画はどんな計画ですか，安全の確保のために，みどりの復元のために，地域復興の支援のために，なぜ今，火山砂防計画を見直すのですか，皆さんの意見をお聞かせ下さい

26) 第24号（平成13年12月）

皆さんと一緒に砂防を考えます 土石流から安全で住み良いふるさとを創るために－「雲仙・普賢岳火山砂防シンポジウム」を開催，復興進む「元気な島原」を全国に発信 雲仙普賢岳フェスティバル2001開催，被災から10年さらなる復興への思いをのせて，メモリアルデー火山・砂防学習教室in大野木場，大野木場メモリアルデー2001，砂防事業の現場を遠足で－復興を体感，私達の手で復興－ふるさとの緑を取り戻そう，「がまだす」島原を全国へアピール！

27) 臨時号（平成14年1月）

土石流から安全で住み良いふるさとを創るために 雲仙・普賢岳火山砂防計画 なぜ

火山砂防計画を見直したのですか、新しい火山砂防計画はどんな計画ですか、地域住民からの意見をどのように反映させたのですか、火山砂防計画の策定にどのように取り組んだのですか

28) 第25号 (平成14年 5月)

梅雨は土砂災害に注意！「日頃の備え」と「防災情報のチェック」を心がけましょう
「地域とともに」「未来につなげる」「情報発信」を理念に未来のふるさとづくりを考える-「雲仙復興工事事務所10周年記念行事実行委員会」を開催-, 雲仙復興工事事務所10年のあゆみ

復興に向けて立ち上がったあの日から10年、卒業の森づくり-緑豊かなふるさとをわたしたちの手で、「ふるさとの再生」を祝う！安中三角地帯復興記念式典-ふるさとの森の復元に願いを込めて、安全で人にも環境にもやさしい道づくり「第1回眉山トンネル等技術検討委員会」を開催、特別寄稿)復興にかける人たち 私と島原の10年「私と国土交通省」安中地区まちづくり推進協議会会長 大町辰朗, 思い出の写真, 砂防施設名所案内-日本一の砂防堰堤

29) 第26号 (平成14年11月)

大野木場砂防みらい館がオープン！-地域のさらなる安全の確保と火山と共生した地域の復興に向けて、「雲仙復興工事事務所10周年記念行事実行計画」決定！-より安全で住みやすい未来のふるさとづくりを考える, 噴火災害の恐ろしさを知り, 伝えるために「雲仙・普賢岳子供塾」, 「大野木場メモリアルデー2002」を開催, 失われた緑を取り戻そう！10周年記念行事の一環で「緑の復元キャンペーン」を展開中, 「島原深江道路ウォッチング」を実施-10周年記念行事で完成した災害に強い道路を体感, 砂防と地域づくりを体感して学ぶ！「キャンプ砂防2002in雲仙」開催, 第10回島原温泉ガマダス花火大会-10周年記念行事パネルギャラリーなど広報活動を実施, 特別寄稿-復興にかける人たち-私と島原の10年 杉谷地区連絡協議会会長川村清二, 思い出の写真-幼き日の思い出がよみがえる千本木, 砂防施設名所案内-30基の堤防が地域を守る！, 雲仙復興工事事務所10周年記念行事シンボルマーク決定！

30) 第27号 (平成15年 3月)

「雲仙復興工事事務所10周年記念式典, シンポジウム及び懇談会」開催！-地域とともに10年を振り返り, 未来を担う子どもたちへ伝える, 「雲仙普賢岳フェスティバル2002」開催-復興の進む「元気な島原」を発信, 噴火災害からの復興をテーマに「雲仙復興俳句大会」を実施, 「地域とともに歩んできた雲仙復興工事事務所の10年」-島原新聞に15回掲載, 愛情を込めて！ふるさとの苗木で森づくり-雲仙復興工事事務所10周年記念植樹祭, 寄稿文「私と島原の10年」, 「雲仙・普賢岳無人化施工・砂防ソイルセメント現地講習会」を実施-新しい技術の全国への普及, 「島原大変」を全世界へ紹介-インタープリメント2002, 「しまばら温泉不知火まつり」市中パレード参加-砂防堰堤の効果と緑の復元をパフォーマンスによりPR, 思い出の写真-住民の手でよみがえった清流「われん川」, 砂防名所案内 大野木場砂防みらい館-火山・砂防の本物を見て体験/自

然の大パノラマを展望しよう

国土交通省雲仙復興事務所

31) 第28号 (平成15年5月)

土砂災害に気をつけましょう！、安全で住みよいふるさとづくりを目指して-水無川、中尾川、湯江川における砂防施設の整備状況、砂防事業の最新情報！-世界初の無人化施工による鋼製スリット砂防えん堤の建設、皆さんからのご意見をふまえ内容を充実しました！「わがまちの砂防」絵画・作文コンクール表彰式-砂防事業の大切さとふるさとへの思いを見事に表現、卒業の森づくり-「豊かなふるさとの緑を一日も早く」と願いを込めて、「花いっぱい・梅いっぱい・夢いっぱい」-小学生による卒業記念植樹及び在京しまばら会設立15周年記念植樹、火山砂防学習のための教材の作成-小学校で活用される教材を目指して、地域からの復興だより「まゆやまロードを結ぶさくら街道」(仮称)着工記念式典、「私と島原の10年」(株)テレビ長崎報道制作局報道部記者 樋田禎子さん、思い出の写真-地域住民の足として95年島原鉄道、砂防名所案内 千本木1号砂防えん堤-緑ゆたかなふるさとの森を復元しよう

32) 平成17年度 Vol. 1 (平成17年5月)

中尾川下流の導流工が完成に近づきました、島原中央道路の整備を促進しています、今回は眉山トンネル(仮称)の位置を空から見てみましょう、赤松谷川2号導流工が完成しました、山古志村の村長が視察に!!、雲仙普賢岳資料館

33) 平成17年度 Vol. 2 (平成17年9月)

平成17年度 道の絵コンクールを開催しました、眉山トンネル(仮称)付近における地下水の状況、赤松谷川(水無川流域)砂防えん堤群一部完成、地震防災訓練を実施、キャンプ砂防開催、お天気のなぜ?なぜ?不思議講座

34) 平成17年度 Vol. 3 (平成17年12月)

溶岩ドームの現況、島原半島のトンネルの効果と地下水のはなし、平成噴火の日 in われん川、お天気のなぜ?なぜ?不思議講座(part2) -雪はテンから送られた手紙-

35) 平成17年度 Vol. 4 (平成18年2月)

主要地方道愛野島原線来月下旬開通(予定)のお知らせ、道路事業の広報について、雲仙トピックス、中尾川河川敷の利用について、「雲仙岳資料館」がリニューアルから一周年、自然のなぜ?なぜ?不思議講座-木々の葉っぱは緑色がきれい?-

36) 国土交通省雲仙復興事務所 がまだず通信 平成18年度 Vol. 1 (平成18年9月)

平成19年春、中尾川(千本木地区)の砂防えん堤が出来上がります、平成新山登頂-そびえる溶岩尖岩 ドームのスケールを痛感-、平成18年度「道路ふれあい月間」-「道の絵」コンクール「道の日」標語の表彰式を開催-、キャンプ砂防開催、島原半島空中斜写真(西側から見た雲仙普賢岳)

37) 国土交通省雲仙復興事務所 がまだず通信 平成18年度 Vol. 2 (平成18年12月)

島の峰山火事 消火活動終了 山火事は鎮火状態、タイムカプセル開封式 災害の記憶 10年前に思いはせ、平成18年度の降雨と眉山の裾野の地下水位、千本木展望所をリニューアル

ル-千本木地区の暮らしと噴火災害のかかわりを紹介，出前講座の案内

事業概要

- 1) 建設省九州地方建設局雲仙復興工事事務所：雲仙1994事業概要，1994
- 2) 建設省九州地方建設局雲仙復興工事事務所：雲仙1995事業概要，1995
- 3) 建設省九州地方建設局雲仙復興工事事務所：雲仙1996事業概要，1996
- 4) 建設省九州地方建設省雲仙復興工事事務所：雲仙1997事業概要，1997
- 5) 建設省九州地方建設省雲仙復興工事事務所：雲仙復興工事事務所1998事業概要，1998
- 6) 国土交通省九州地方整備局雲仙復興工事事務所：2002年事業概要 水と緑ゆたかなふるさとの復興を目指して
- 7) 国土交通省九州地方整備局雲仙復興工事事務所：2003年事業概要 水と緑ゆたかなふるさとの復興をめざして
- 8) 国土交通省九州地方整備局雲仙復興事務所：平成16年度事業概要
- 9) 国土交通省九州地方整備局雲仙復興事務所：UNZEN2005 平成17年度事業概要 Project Outline
- 10) 国土交通省九州地方整備局雲仙復興事務所：UNZEN2006 平成18年度事業概要 Project OutlineE-mail takahasi@civil.nagasaki-u.ac.jp

復興ネットワーク

- 1) 宮崎和子：今こそ情報交換を一心と心をつなぐネットワークづくりー，第1号，p.1，1995.1
- 2) 鐘ヶ江菅一：今だから語ること「現行災対策に疑問」，第1号，pp.2-3，1995.1
- 3) 普賢日誌，1994年6月3日より，第1号，pp.8-9，1995.1
- 4) 菊池文喬：他とともに生きるー阪神大震災に普賢岳のノウハウをー，第2号，p.1，1995.4
- 5) 普賢日誌，1995年1月12日より，第2号，p.9，1995.4
- 6) 村越安男：噴火から5年！ー行政と住民の対話をー，第3号，p.1，1995.12
- 7) 災害は終わったか？ーネットワーク1周年座談会ー，第3号，pp.2-5，1995.12
- 8) 旭 芳郎：災害に強い島原半島をつくる！，pp.6-7，第3号，1995.12
- 9) 普賢日誌，1995年4月28日より，第3号，p.15，1995.12
- 10) 神戸金史：島原の知恵を全国に，第4号，p.1，1996.6
- 11) 普賢日誌，1995年12月16日より，第4号，p.13，1996.6

8. ビデオ, CD, 絵はがき

ビデオ

- 1) 島原市：まだ、終らぬ日々-平成雲仙岳噴火災害-, 1992.11
- 2) 建設省砂防部砂防課：雲仙普賢岳平成噴火-防災への道-, 1992.
- 3) 長崎県：雲仙普賢岳噴火（災害の記録）, 1992.
- 4) 建設省長崎工事事務所：通行止め 504日-雲仙普賢岳噴火災害と国道57号, 251号の記録-, 1993.3
- 5) 長崎県：噴火災害にとりくむ-雲仙普賢岳災害の記録-, 1993.
- 6) 島原市：しまばら新たなる日々 雲仙岳噴火災害・復興へ, 1993.
- 7) 島原市：雲仙・普賢岳災害-島原市災害記録- しまばら再生へ, 1995.3
- 8) 地質調査所：雲仙・普賢岳 1990年からの噴火と観測, 1995.3
- 9) 大河憲二：雲仙普賢岳大噴火総集編
- 10) 島原半島観光連盟：日本で一番新しい山平成新山

CD

- 1) 建設省九州地方建設局雲仙復興工事事務所：雲仙・普賢岳火山砂防事業の歩み, 2000.11

絵はがき

- 1) 普賢会：普賢岳十景, 1991.8
- 2) 長崎県：普賢岳噴火(12枚), ナガサキフォトサービス, 1992.
- 3) 西川清人・小松武和：200年の眠りから目覚めた雲仙岳'雲仙普賢岳, 福田商事, 1992.
- 4) 出田和信・広瀬健治・内野秀一・本多雅典・黒田一巳・古藤達也：平成の雲仙普賢岳噴火, 1992.
- 5) 大河憲二：大噴火記録写真集, 雲仙普賢岳, (株)風光社, 1992
- 6) カメラの城島島原店：平成の雲仙普賢岳噴火, 1993
- 7) 日本火山学会：雲仙普賢岳1991-93年噴火, 内外総合企画, 1994
- 8) 加藤幸穂：剪画 島原名所絵葉書, 郷土資料館, 1995
- 9) 地質調査所：雲仙・普賢岳 1990年からの噴火と観測, 1995.3
- 10) 大河憲二：雲仙普賢岳大噴火総集編
- 11) 島原半島観光連盟：日本で一番新しい山平成新山
- 12) 国土交通省九州地方整備局雲仙復興工事事務所：水無川導流堤 平成13年3月20日完成, 2001

9. 地図

- 1) 建設省国土地理院地図管理部：雲仙岳数値標商データ(島原，雲仙)，1991.5
- 2) 建設省国土地理院測図部：1:5,000雲仙岳火砕流災害現況図(応急版)，1991.6
- 3) 建設省国土地理院測図部：1:5,000雲仙岳火砕流・土石流現況図(応急版)，1991.8
- 4) 建設省国土地理院測図部：1:5,000雲仙岳火砕流・土石流現況図(応急版)，1991.10
- 5) 国土地理院地図調査部雲仙岳調査グループ：空中写真判読による雲仙火山の地形分類図，1991.
- 6) 防災都市計画研究所：雲仙・普賢岳噴火災害による被害地図(平成3年9月20日現在推定)，1991.
- 7) 国土地理院：1：5,000火山基本図，雲仙岳Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，1992.4
- 8) 島原市役所職員組合：しまばら普賢岳スタディマップ，1993.6
- 9) 島原市災害対策本部：島原市防災マップ，1993
- 10) 深江町災害対策本部：深江町防災マップ，1993
- 11) 渡辺一徳・星住英夫：雲仙火山地質図，1995.3
- 12) (財)雲仙岳災害記念財団：平成新山フィールドミュージアムマップ 雲仙火山地球探検

10. パンフレット

- 1) 建設省九州地方建設局雲仙復興工事事務所：雲仙，1993
- 2) 建設省河川局砂防部砂防課・建設省九州地方建設局・建設省雲仙復興工事事務所，長崎県土木部砂防課：雲仙・普賢岳噴火と火山噴火対策砂防事業，1993.8
- 3) 気象庁：火山ーその監視と防災ー，1994.2
- 4) 長崎県島原振興局：雲仙普賢岳噴火災害対策の概要，1994.3
- 5) 長崎県土木部：〔雲仙・普賢岳噴火〕火山噴火対策砂防事業，1994.3
- 6) 建設省九州地方建設局雲仙復興工事事務所：一般国道57号 島原深江道路，1994
- 7) 島原市：山が動く 雲仙・普賢岳噴火災害記録 ダイジェストVol.1
- 8) 建設省九州地方建設局雲仙復興工事事務所：雲仙・普賢岳火山砂防計画，1995
- 9) 建設省九州地方建設局雲仙復興工事事務所：地域の復興をめざして，建設省雲仙復興工事事務所事業紹介，1995
- 10) 建設省雲仙復興工事事務所：雲仙普賢岳資料館，1995
- 11) 建設省九州地方建設局・建設省雲仙復興工事事務所：雲仙普賢岳砂防工事のための安全対策，1995
- 12) 建設省九州地方建設局雲仙復興工事事務所：普賢岳を見はる，雲仙・普賢岳の防災情報システム，1995.3
- 13) 建設省九州地方建設局雲仙復興工事事務所：雲仙・普賢岳の防災情報システム，普賢岳を見はる，1995.3
- 14) 東京大学地震研究所火山噴火予知研究推進センター：火山の構造探査と噴火予知，1995.6
- 15) 建設省九州地方建設局河川部河川計画課：雲仙・普賢岳噴火対策砂防事業，1995.8
- 16) 建設省九州地方建設局雲仙復興工事事務所：災害につよい地域づくりをめざしてー地域の復興と新たな文化の創造ー，1996
- 17) 島原城観光復興記念館オープン，1996
- 18) 国土庁：雲仙岳噴火災害対策 21分野98項目の概要，1993.7
- 19) 長崎県河川課：中尾川中小河川改修事業，1994
- 20) 大本組：CSG工法による水無1号ダム左岸袖部建設工事
- 21) 長崎県：水無川災害復旧助成事業〔災害に強いまちづくりをめざして〕，1996.3
- 22) 建設省九州地方建設省雲仙復興工事事務所：水無川1号砂防ダム RCC工法とCSG工法の概要
- 23) 建設省九州地方建設省雲仙復興工事事務所：千本木1号砂防ダム 中尾川
- 24) 建設省九州地方建設省雲仙復興工事事務所：一般国道57号島原深江道路 災害に強い道路の整備，1996
- 25) 建設省九州地方建設省雲仙復興工事事務所：活火山に挑む 雲仙普賢岳の無人化施工

- 26) 長崎県土木部：S A B O 長崎県の砂防，1997.8
- 27) 建設省九州地方建設省雲仙復興工事事務所：水無川1号砂防ダム－着工から完成まで，1998.2
- 28) 国土交通省九州地方整備局雲仙復興工事事務所：地域高規格道路一般国道251号島原中央道路（島原市秩父が浦町-島原市下折橋町）地域連携を強化する道路の整備
- 29) 島原温泉観光協会・島原市市役所商工観光課：火山について学ぶ（火山学習体験ガイド）
- 30) 安中地区まちづくり推進協議会・島原市建設課・長崎県島原振興局建設管理課・国土交通省九州地方整備局雲仙復興工事事務所：ふるさとの再生 住民参加によるふるさとの「われん川」づくり
- 31) 建設省九州地方整備局雲仙復興工事事務所：水無川1号砂防ダム－着工から完成まで，利活用 雲仙・普賢岳砂防指定地利活用構想について，
- 32) 建設省九州地方建設省雲仙復興工事事務所：千本木1号砂防ダム等竣工記念フォーラム 雲仙復興10年のあゆみ
- 33) 建設省九州地方建設省雲仙復興工事事務所：大野木場情報センター 火山噴火災害の脅威を知ろう 災害の記録、復興記録をわかりやすく説明
- 34) 国土交通省九州地方整備局雲仙復興工事事務所：ふるさとの再生 住民参加による“われん川”整備第一工区“ふるさとの泉”完成記念
- 35) 国土交通省九州地方整備局雲仙復興工事事務所：雲仙・普賢岳火山砂防計画
- 36) 長崎県島原市災害対策課：雲仙・普賢岳噴火災害－復興の足取りと災害教訓－
- 37) 雲仙岳災害記念館：火山を見る・遊ぶ・学ぶ・憩う・・・全国初の火山体験学習施設 雲仙岳災害記念館（がまだすドーム）長崎県島原市に7月1日オープン
- 38) 長崎県：土石流被災家屋保存公園
- 39) (株)みずなし本陣：日本最大規模 道の駅みずなし本陣ふかえ
- 40) 国土交通省九州地方整備局雲仙復興工事事務所：大野木場砂防みらい館
- 41) 国土交通省九州地方整備局雲仙復興工事事務所：水と緑豊かなふるさとの復興を目指して
- 42) 国土交通省九州地方整備局雲仙復興工事事務所：地域高規格道路「島原道路」一般国道257号島原中央道路 人と人を結び、地域と地域をつなぐ発展の輪
- 43) 国土交通省九州地方整備局雲仙復興工事事務所：地域とともに歩んできた10年
- 44) 長崎県島原振興局：よみがえる農地！雲仙岳噴火災害農地復旧・復興事業概要書
- 45) 雲仙普賢岳噴火10年復興記念 安中三角地帯嵩上事業着工から竣工まで：島原市，平成12年3月
- 46) (財)雲仙岳災害記念財団：島原大変
- 47) (財)雲仙岳災害記念財団：平成新山フィールドミュージアムマップ 雲仙火山地球探検
- 48) (財)雲仙岳災害記念財団：平成新山フィールドミュージアム

- 49) 国土交通省雲仙復興事務所：雲仙岳学習 普賢さんとわたしたち（教師用）
- 50) 国土交通省雲仙復興事務所：雲仙岳学習 普賢さんとわたしたち
- 51) 国土交通省雲仙復興事務所：大野木場砂防みらい館パンフレット
- 52) 長崎県島原市：雲仙・普賢岳噴火災害－復興の足取りと災害教訓－
- 53) **The Unzen Eruption –Reconstruction and Lessons Learned from the Disaster– : Shimabara City , Nagasaki Prefecture**
- 54) 深江埋蔵文化財・噴火災害資料館：深江埋蔵文化財・噴火災害資料館
- 55) 国土交通省雲仙復興事務所：雲仙普賢岳資料館
- 56) 雲仙百年の森づくりの会：甦れふるさとの美しい森 雲仙普賢岳みどりの復元行動計画
- 57) 島原温泉観光協会・島原市役所商工観光課：火山について学ぶ〔火山学習体験ガイド〕
- 58) 雲仙普賢岳みどりの復元連絡会：ふるさとの山雲仙普賢岳にみどりを復元させよう
- 59) 島原市・(財)震災予防協会：マグマの火道を掘り抜く！！「科学掘削で何がわかったか？」
- 60) 雲仙散策 日本で最初の国立公園
- 61) 国土交通省九州地方整備局雲仙復興事務所：地域高規格道路「島原道路」一般国道 251 号島原中央道路 人と人を結び、地域と地域をつなぐ発展の輪，一般国道 251 号島原中央道路は地域高規格道路「島原道路」の一部です，島原道路は地域間の連携を強化し、活力ある地域づくりを支援します，島原道路は島原半島地域の緊急医療体制を支援します，安全な交通を確保し、交通渋滞を緩和し、地域間の交流を促進する。島原半島活性化の新たな原動力「島原中央道路」
- 62) 国土交通省九州地方整備局雲仙復興事務所：日本の歴史上最大の火山災害 島原大変寛政四年（1792 年）の普賢岳噴火と眉山山体崩壊
- 63) 国土交通省九州地方整備局雲仙復興事務所：THE WORST DISASTER IN JAPAN The 1791-92 eruption of Unzen –Fugendake and the sector collapse of Mayu-Yama

11. 新聞報道記事（製本）

- 1) 朝日新聞 平成3年(1991年)2月-平成3年(1991年)8月
- 2) " 平成3年(1991年)9月-平成3年(1991年)12月
- 3) " 平成4年(1992年)1月-平成4年(1992年)4月
- 4) " 平成4年(1992年)5月-平成4年(1992年)8月
- 5) " 平成4年(1992年)9月-平成4年(1992年)12月
- 6) " 平成5年(1993年)1月-平成5年(1993年)6月
- 7) " 平成5年(1993年)7月-平成5年(1993年)12月
- 8) " 平成6年(1994年)1月-平成6年(1994年)6月
- 9) " 平成6年(1994年)7月-平成6年(1994年)12月
- 10) " 平成7年(1995年)1月-平成7年(1995年)6月
- 11) " 平成7年(1995年)7月-平成7年(1995年)12月
- 12) " 平成8年(1996年)1月-平成8年(1996年)12月
- 13) " 平成9年(1997年)1月-平成9年(1997年)12月
- 14) " 平成10年(1998年)1月-平成10年(1998年)12月
- 15) " 平成11年(1999年)1月-平成11年(1999年)12月
- 16) " 平成12年(2000年)1月-平成12年(2000年)12月
- 17) " 平成13年(2001年)1月-平成13年(2001年)12月
- 18) " 平成14年(2002年)1月-平成14年(2002年)12月
- 19) " 平成15年(2003年)1月-平成15年(2003年)12月
- 20) " 平成16年(2004年)1月-平成16年(2004年)12月
- 21) " 平成17年(2005年)1月-平成17年(2005年)12月
- 22) " 平成18年(2006年)1月-平成18年(2006年)12月
- 23) 朝日新聞・西日本新聞・毎日新聞・読売新聞 平成19年(2007年)1月-平成19年(2007年)12月
- 24) 朝日新聞・西日本新聞・毎日新聞・読売新聞 平成20年(2008年)1月-平成20年(2008年)12月
- 25) 朝日新聞・西日本新聞・毎日新聞・読売新聞 平成21年(2009年)1月-平成21年(2009年)12月
- 26) 島原新聞 平成2年(1990年)11月-平成3年(1991年)3月
- 27) " 平成3年(1991年)4月-平成3年(1991年)6月
- 28) " 平成3年(1991年)7月-平成3年(1991年)9月
- 29) " 平成3年(1991年)10月-平成3年(1991年)12月
- 30) " 平成4年(1992年)1月-平成4年(1992年)3月
- 31) " 平成4年(1992年)4月-平成4年(1992年)7月
- 32) " 平成4年(1992年)8月-平成4年(1992年)10月

- 33) " 平成4年(1992年)11月-平成4年(1992年)12月
- 34) " 平成5年(1993年)1月-平成5年(1993年)4月
- 35) " 平成5年(1993年)5月-平成5年(1993年)8月
- 36) " 平成5年(1993年)9月-平成5年(1993年)12月
- 37) " 平成6年(1994年)1月-平成6年(1994年)4月
- 38) " 平成6年(1994年)5月-平成6年(1994年)8月
- 39) " 平成6年(1994年)9月-平成6年(1994年)12月
- 40) " 平成7年(1995年)1月-平成7年(1995年)6月
- 41) " 平成7年(1995年)7月-平成7年(1995年)12月
- 42) " 平成8年(1996年)1月-平成8年(1996年)6月
- 43) " 平成8年(1996年)7月-平成8年(1996年)12月
- 44) " 平成9年(1997年)1月-平成9年(1997年)12月
- 45) " 平成10年(1998年)1月-平成10年(1998年)12月
- 46) " 平成11年(1999年)1月-平成11年(1999年)12月
- 47) " 平成12年(2000年)1月-平成12年(2000年)12月
- 48) " 平成13年(2001年)1月-平成13年(2001年)12月
- 49) " 平成14年(2002年)1月-平成14年(2002年)12月
- 50) " 平成15年(2003年)1月-平成15年(2003年)12月
- 51) " 平成16年(2004年)1月-平成16年(2004年)12月
- 52) " 平成17年(2005年)1月-平成17年(2005年)12月
- 53) " 平成18年(2006年)1月-平成18年(2006年)12月
- 54) " 平成19年(2007年)1月-平成19年(2007年)12月
- 55) " 平成20年(2008年)1月-平成20年(2008年)12月
- 56) " 平成21年(2009年)1月-平成21年(2009年)12月
- 57) 長崎新聞 平成2年(1990年)11月-平成3年(1991年)6月
- 58) " 平成3年(1991年)7月-平成3年(1991年)8月
- 59) " 平成3年(1991年)9月-平成3年(1991年)10月
- 60) " 平成3年(1991年)11月-平成3年(1991年)12月
- 61) " 平成4年(1992年)1月-平成4年(1992年)3月
- 62) " 平成4年(1992年)4月-平成4年(1992年)6月
- 63) " 平成4年(1992年)7月-平成4年(1992年)9月
- 64) " 平成4年(1992年)10月-平成4年(1992年)12月
- 65) " 平成5年(1993年)1月-平成5年(1993年)3月
- 66) " 平成5年(1993年)4月-平成5年(1993年)6月
- 67) " 平成5年(1993年)7月-平成5年(1993年)9月
- 68) " 平成5年(1993年)10月-平成5年(1993年)12月
- 69) " 平成6年(1994年)1月-平成6年(1994年)4月

- 70) " 平成6年(1994年)5月-平成6年(1994年)8月
- 71) " 平成6年(1994年)9月-平成6年(1994年)12月
- 72) " 平成7年(1995年)1月-平成7年(1995年)6月
- 73) " 平成7年(1995年)7月-平成7年(1995年)12月
- 74) " 平成8年(1996年)1月-平成8年(1996年)12月
- 75) " 平成9年(1997年)1月-平成9年(1997年)12月
- 76) " 平成10年(1998年)1月-平成10年(1998年)12月
- 77) " 平成11年(1999年)1月-平成11年(1999年)12月
- 78) " 平成12年(2000年)1月-平成12年(2000年)12月
- 79) " 平成13年(2001年)1月-平成13年(2001年)12月
- 80) " 平成14年(2002年)1月-平成14年(2002年)12月
- 81) " 平成15年(2003年)1月-平成15年(2003年)12月
- 82) " 平成16年(2004年)1月-平成16年(2004年)12月
- 83) " 平成17年(2005年)1月-平成17年(2005年)12月
- 84) " 平成18年(2006年)1月-平成18年(2006年)12月
- 85) " 平成19年(2007年)1月-平成19年(2007年)12月
- 86) " 平成20年(2008年)1月-平成20年(2008年)12月
- 87) " 平成21年(2009年)1月-平成21年(2009年)12月
- 88) 西日本新聞 平成3年(1991年)2月-平成3年(1991年)6月
- 89) " 平成3年(1991年)7月-平成3年(1991年)9月
- 90) " 平成3年(1991年)10月-平成3年(1991年)12月
- 91) " 平成4年(1992年)1月-平成4年(1992年)4月
- 92) " 平成4年(1992年)5月-平成4年(1992年)8月
- 93) " 平成4年(1992年)9月-平成4年(1992年)12月
- 94) " 平成5年(1993年)1月-平成5年(1993年)4月
- 95) " 平成5年(1993年)5月-平成5年(1993年)8月
- 96) " 平成5年(1993年)9月-平成5年(1993年)12月
- 97) " 平成6年(1994年)1月-平成6年(1994年)6月
- 98) " 平成6年(1994年)7月-平成6年(1994年)12月
- 99) " 平成7年(1995年)1月-平成7年(1995年)6月
- 100) " 平成7年(1995年)7月-平成7年(1995年)12月
- 101) " 平成8年(1996年)1月-平成8年(1996年)12月
- 102) " 平成9年(1997年)1月-平成9年(1997年)12月
- 103) " 平成10年(1998年)1月-平成10年(1998年)12月
- 104) " 平成11年(1999年)1月-平成11年(1999年)12月
- 105) " 平成12年(2000年)1月-平成12年(2000年)12月
- 106) " 平成13年(2001年)1月-平成13年(2001年)12月

| | | |
|------|------|--------------------------------|
| 107) | 〃 | 平成14年(2002年)1月-平成14年(2002年)12月 |
| 108) | 〃 | 平成15年(2003年)1月-平成15年(2003年)12月 |
| 109) | 〃 | 平成16年(2004年)1月-平成16年(2004年)12月 |
| 110) | 〃 | 平成17年(2005年)1月-平成17年(2005年)12月 |
| 111) | 〃 | 平成18年(2006年)1月-平成18年(2006年)12月 |
| 112) | 毎日新聞 | 平成3年(1991年)2月-平成3年(1991年)7月 |
| 113) | 〃 | 平成3年(1991年)8月-平成3年(1991年)12月 |
| 114) | 〃 | 平成4年(1992年)1月-平成4年(1992年)4月 |
| 115) | 〃 | 平成4年(1992年)5月-平成4年(1992年)8月 |
| 116) | 〃 | 平成4年(1992年)9月-平成4年(1992年)12月 |
| 117) | 〃 | 平成5年(1993年)1月-平成5年(1993年)6月 |
| 118) | 〃 | 平成5年(1993年)7月-平成5年(1993年)12月 |
| 119) | 〃 | 平成6年(1994年)1月-平成6年(1994年)6月 |
| 120) | 〃 | 平成6年(1994年)7月-平成6年(1994年)12月 |
| 121) | 〃 | 平成7年(1995年)1月-平成7年(1995年)12月 |
| 122) | 〃 | 平成8年(1996年)1月-平成8年(1996年)12月 |
| 123) | 〃 | 平成9年(1997年)1月-平成9年(1997年)12月 |
| 124) | 〃 | 平成10年(1998年)1月-平成10年(1998年)12月 |
| 125) | 〃 | 平成11年(1999年)1月-平成11年(1999年)12月 |
| 126) | 〃 | 平成12年(2000年)1月-平成12年(2000年)12月 |
| 127) | 〃 | 平成13年(2001年)1月-平成13年(2001年)12月 |
| 128) | 〃 | 平成14年(2002年)1月-平成14年(2002年)12月 |
| 129) | 〃 | 平成15年(2003年)1月-平成15年(2003年)12月 |
| 130) | 〃 | 平成16年(2004年)1月-平成16年(2004年)12月 |
| 131) | 〃 | 平成17年(2005年)1月-平成17年(2005年)12月 |
| 132) | 〃 | 平成18年(2006年)1月-平成18年(2006年)12月 |
| 133) | 読売新聞 | 平成3年(1991年)2月-平成3年(1991年)8月 |
| 134) | 〃 | 平成3年(1991年)9月-平成3年(1991年)12月 |
| 135) | 〃 | 平成4年(1992年)1月-平成4年(1992年)4月 |
| 136) | 〃 | 平成4年(1992年)5月-平成4年(1992年)8月 |
| 137) | 〃 | 平成4年(1992年)9月-平成4年(1992年)12月 |
| 138) | 〃 | 平成5年(1993年)1月-平成5年(1993年)6月 |
| 139) | 〃 | 平成5年(1993年)7月-平成5年(1993年)12月 |
| 140) | 〃 | 平成6年(1994年)1月-平成6年(1994年)6月 |
| 141) | 〃 | 平成6年(1994年)7月-平成6年(1994年)12月 |
| 142) | 〃 | 平成7年(1995年)1月-平成7年(1995年)12月 |
| 143) | 〃 | 平成8年(1996年)1月-平成8年(1996年)12月 |

- 144) " 平成 9 年(1997年) 1 月-平成 9 年(1997年)12月
- 145) " 平成10年(1998年) 1 月-平成10年(1998年)12月
- 146) " 平成11年(1999年) 1 月-平成11年(1999年)12月
- 147) " 平成12年(2000年) 1 月-平成12年(2000年)12月
- 148) " 平成13年(2001年) 1 月-平成13年(2001年)12月
- 149) " 平成14年(2002年) 1 月-平成14年(2002年)12月
- 150) " 平成15年(2003年) 1 月-平成15年(2003年)12月
- 151) " 平成16年(2004年) 1 月-平成16年(2004年)12月
- 152) " 平成17年(2005年) 1 月-平成17年(2005年)12月
- 153) " 平成18年(2006年) 1 月-平成18年(2006年)12月

1990－1995年雲仙普賢岳の火山災害に関する文献目録

2010年9月 発行

発行者

長崎大学工学部

高 橋 和 雄

〒852-8521 長崎市文教町1-14

長崎大学工学部社会開発工学科

高 橋 和 雄

TEL (095)819-2610

FAX (095)819-2627

E-mail takahasi@civil.nagasaki-u.ac.jp